



創立 40 周年記念行事報告書

50 周年へ向けて

サンフランシスコ日本語補習校

理事会

40 周年記念行事実行委員会

2010 年 3 月



バナーコンテスト優勝作品（堂代卓利さん）



長嶺総領事より表彰状を受ける小西理事長（2009年8月22日）



シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」
（2009年8月22日パークレー・David Brower Center）

上：参加者一同；

左：パネルディスカッション



合同イベントにおける 40 周年記念人文字
(上：空から見た様子；右：地上で見た
人文字準備の様子)



10 人 11 脚

サンフランシスコ日本語補習校

創立40周年記念行事報告書

1	はじめに	1
1.1	巻頭言 一本校創立40周年記念行事に添えて一	1
1.2	「補習校への熱意」	2
1.3	実行委員長所感	2
2	準備と考え方	3
2.1	準備の経緯と考え方	3
2.1.1	委員会設置の経緯	3
2.1.2	記念行事の目的	4
2.1.3	合同イベント	4
2.1.4	シンポジウム	5
2.2	記念行事一覧	5
2.3	賛助・寄付	6
2.3.1	計画	6
2.3.2	活動	6
2.3.3	結果	6
2.4	広報	9
2.4.1	方法	9
2.4.2	SF校における周知	9
2.4.3	ウェブサイト sfjlc40.org	10
2.4.4	バナーの作成	11
3	記念シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」	15
3.1	主旨	15
3.2	プログラム	15
3.3	講演者・出席者	16
3.3.1	講演者	16
3.3.2	出席者リスト	18
3.4	講演内容	20
3.4.1	開会セッション	20
3.4.2	「補習校制度の歴史と基礎知識」セッション	24
3.4.3	「補習校の現状と課題」セッション	30
3.4.4	特別講演1	40
3.4.5	「各方面からの視点と提言」セッション	44
3.4.6	パネルディスカッション「これからの補習校に望むこと」	55
3.4.7	特別講演2	60
3.4.8	まとめ	66
3.5	反響・コメント	68
3.6	併催・写真展	78
3.7	準備・ロジスティックス	81
3.7.1	事前準備	81
3.7.2	当日	82
3.7.3	開催後の総括・整理	82

4	合同イベント	85
4.1	主旨	86
4.2	プログラム	86
4.3	実施状況	88
4.3.1	人員配置	88
4.3.2	記念式典	89
4.3.3	人文字作成と航空写真撮影	91
4.3.4	10人11脚	93
4.3.5	大カルタ競技	95
4.3.6	フラッグ鬼ごっこ	96
4.3.7	子供ゲームコーナー	97
4.3.8	ウルトラクイズ	98
4.3.9	フリーマーケット	99
4.3.10	サイレントオークション	99
4.4	運営の舞台裏	101
4.4.1	合同イベントの参加事前込みと予測	101
4.4.2	チケット販売	102
4.4.3	お弁当販売	105
4.4.4	場内放送とビデオ撮影	107
4.4.5	会場係	107
4.4.6	食品販売に関する許可証 (Permit) について	108
4.5	反響	113
5	そのほかの行事	115
5.1	落語会	115
5.2	コンサート	115
5.3	映画上映会	115
5.4	桜祭りパレード御輿参加	116
5.5	オーランドA's観戦	117
5.6	中高部SJ校弁論大会	117
5.7	見学会『ANAトリプルセブン出発前の飛行機をのぞいちゃえ』	118
6	収支報告	121
6.1	全体	121
6.2	イベント	122
6.3	シンポジウム	123
6.4	寄付者一覧 (敬称略)	124
7	編集後記・50周年へのメッセージ	127
8	付録	129
8.1	40周年記念行事実行委員会議事録	129
8.1.1	第1回	129
8.1.2	第2回	130
8.1.3	第3回	131
8.1.4	第4回	134
8.1.5	第5回	135
8.1.6	第6回	136
8.1.7	第7回	137

8.1.8	第8回	139
8.1.9	第9回	140
8.1.10	第10回	143
8.1.11	第11回	145
8.1.12	第12回	149
8.1.13	第13回	151
8.2	40周年ニュース	152
8.3	学校総会報告資料	162
8.4	会場等契約書	166

1 はじめに

1.1 巻頭言 ー本校創立 40 周年記念行事に添えてー

校長 植木 進策

本校の創立 40 周年記念行事実行委員会は、今から約 2 年前に理事会の委嘱を受け平成 21 年度の本校創立 40 周年記念行事を計画実施すべく立ち上がりました。浅尾委員長を中心としてプロフェッショナルな技能を持った委員の方々が熱意と粘り強さと実行力で様々な行事を成功に導かれました。特に平成 21 年度 8 月 22 日に実施されました創立 40 周年記念シンポジウムでは、在サンフランシスコ日本国総領事長嶺安政様、文子様ご夫妻に臨席していただき、また、文部科学省国際交流ディレクター井上恵司様にもご講話をいただき、現在の補習校の課題と将来像について討議するだけでなく、広くバイエリアの日本語教育のネットワーク化まで話しが及ぶ大変内容の濃い会となりました。さらに、10 月 18 日サンノゼ球場でのサンフランシスコ日本語補習校創立 40 周年記念イベントは、本校がサンフランシスコ地区とサンノゼ地区に学校が分かれてからの悲願であった両地区の子どもたちや保護者を一同に会したイベントとなり、1,800 人に及ぶ両地区の子どもや家族が集まり、これまた大成功のうちに終わりました。ここで改めまして、サンフランシスコ日本語補習校創立 40 周年記念実行委員会ならびに各催しのリーダー、サブリーダー、ボランティアの方々に篤くお礼を申し上げます。



さて、本校には他の大規模補習授業校にはない大きな特徴があります。それは本校の設置者である理事会が企業会員にお願いした専門知識をもつ人と共に保護者の中から選挙で選ばれるところにあります。従って、本校の理事の大部分は保護者（しかも現役の）でもあるのです。他の補習校の場合、多くは企業や日系商工会議所が学校の設置者であり、理事はそこから派遣されるのが普通です。私は 3 年前に本校に赴任してきましたが、理事会に出席して最初に思ったのは、理事会が、財務、人事、法務などの専門的知識と共に、まさに煮えたぎるような熱意と実行力をもった集団であることへの驚きでした。このような中で校長として学校を任されることへの喜びと共に緊張感を覚えました。また一方、理事が保護者の中から選ばれることへの一抹の不安がありました。それは他の補習校のようにしっかりとした経営母体があり一定の方針で運営されるのではなく、理事が選挙で選ばれるため、その時々で学校運営の軸がぶれるのではないかということでした。しかし、3 年たった今振り返ってみるとそのようなことはなく、理事会は常に学校の運営の中心として、情熱と実行力を持った人たちが方向をしっかりと定め動いていると感じています。これは私が初めに持った「ぶれやすいのではないか。」という心配を払拭させるものでした。その理由を今までいろいろと考えてきましたが、今回の創立 40 周年記念実行委員会に出させていただく中でその解答を得たと思っています。それは、保護者の中から選ばれた理事が専門的な知識を持った集団の中で保護者とは違った経営の面から学校運営の中核に入り強大な権限をもつと共に重大な責任をお互いに背負い、運営に当たってこられたこと。そして、その理事を経験してきた多くの人たちが保護者として学校の中におられ、ことあるごとに学校の運営に協力されていること。このことに尽きると感じています。ある時には「将来像検討委員会」のメンバーとして、また今回はサンフランシスコ日本語補習校創立 40 周年記念行事実行委員会の委員として、時間を惜しまず献身的に学校を支えていただいている姿にこそ、非常に厳しい環境の中にある本校が将来に向かってたくましく前進していく原動力があると確信しています。

今回、本校創立 40 周年記念実行委員会で、創立 40 周年諸行事のまとめをこの 1 冊に集約していただきました。保護者や関係者の皆様、並びにこれから本校の保護者になられるであろう皆様には、このまとめを参考にしていただきながら、次の 50 周年に向けバトンを引き継いでいかれることをお願いし感謝の言葉といたします。ありがとうございました。

1.2 「補習校への熱意」

理事長 小西 光洋

平成 21 年度に行われたサンフランシスコ日本語補習校の 40 周年を記念する数々の行事は、多くの方々のご協力、ご支援により成功裡に終了致しました。この場をお借りしまして、ドナーションを頂いた企業や個人の皆様、様々なご協力を頂いた保護者の皆様、ボランティアでご協力頂いた皆様、学校教職員の皆様、また補習校の児童・生徒、卒業生の皆さんなど、多くの方々へ厚く御礼申し上げます。特に 2 年間の長きに亘り計画の立案と実行においてご尽力頂いた 40 周年記念行事実行委員会の皆様に深く感謝申し上げます。



様々なイベントを通して、サンフランシスコ日本語補習校が多くの方々の熱意によって支えられていることが浮き彫りにされました。昨年 10 月、サンノゼ市営球場で 1800 人も参加者を迎えて挙行されたメイン・イベントの前夜には数百のメールが飛び交わされ、夜通して準備をされていた方々も多くいらっしゃいました。

補習校に対するこの熱意とは何でしょうか？それは、日本から遠く離れた地に在住する私達の日本人としてのアイデンティティや日本文化を子供達に継承したい、日本の教育を提供したいという強い思いです。それは、将来、世界を担うことになる「未来からの使者」としての子供達が逞しく育つようにとの願いです。それは、また、当校が 1969 年に創設されたときと同じ熱意です。その熱意は、多くの保護者の皆様と学校関係者、地元地域のご支援がひとつになり熱く 40 年間燃え続けてきました。この熱意がある限り、補習校の将来は安泰であると確信しております。今後もこの熱意が力強く燃え続けるよう、引き続き当校へのご支援ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

1.3 実行委員長所感

40 周年記念行事実行委員会委員長 浅尾 一郎

2008 年の夏に活動を始めた 40 周年記念行事実行委員会は、多くの皆様の献身的なご協力を得て、2010 年 3 月にその活動を閉じようとしています。まず、この場をお借りして、ご協力くださった皆様に心から御礼を申し上げます。この報告書に示しますように、本委員会の活動は多岐にわたりましたが、一番時間をかけて議論したのは、記念行事に関する「だれが、いつ、どこで、なにを、なぜ、どのように」、という 5W1H でした。議論は、リーマン・ショック後の厳しい経済情勢を背景にして、どのように資金を調達するのか、という課題とらせん状にからみ合って、補習校のあり方にまで及びました。その議論の中から、委員会は、シンポジウムの必要性とその主旨を強く認識しました。また、補習校コミュニティが自らの 40 周年を祝う、という、つまり、招く側、招かれる側、という区別なく、補習校に関わる関係者（理事会、教職員、保護者、児童・生徒、地元のサポーター、など）が一緒になって手作りしよう、という考え方から、合同イベントのアイデアが生まれました。本委員会は、そのような「草の根」の 40 周年記念行事の黒子としての役割に徹しようと心がけました。このような方向性が決まった後、多くの方々からいただいた献身的なご協力には目をみはるものがありました。今、この報告書をまとめるにあたり振り返ってみると、ボランティアの方々께서くださった膨大な仕事、緻密な作業・心配り、幅広く頂いた寄付こそが、この 40 周年の最大の成果であったと思います。最後になりましたが、2008 年度、2009 年度本校理事会、派遣教員の皆様、事務局の皆様にはいろいろな局面で、「無理難題」を聞いていただきました。委員会メンバーを代表して、これらのすべての皆様に深く感謝申し上げます。



2 準備と考え方

2.1 準備の経緯と考え方

2.1.1 委員会設置の経緯

本校が40周年を迎えるにあたり、それを記念する行事を行うことは、39年目の2008年度理事会で提案され、2008年8月に40周年記念行事実行委員会（以下、委員会）の初めての準備会合がもたれ、委員会の活動が始まった。以後毎月1回のペースでパークレー、サンノゼ交代で会合を重ね、各種行事の準備を行った。また、理事会、学校・事務局とも適宜会合を持ち緊密な連絡に務めた。小西理事長、植木校長先生と青柳事務総長にもほぼ毎回委員会会合に出席していただいた。シンポジウム、合同イベントの2大行事の直前には、緊急電話会議、会場における予行演習などを行い万全を記した。以下に、会合記録を示す。議事録要旨は巻末の付録を参照のこと。

- 2008年8月7日（木）午後7時～9時： 委員会準備会合、サンマテオ「喜作」
- 2008年9月6日（土）午前9時半～午後1時半： 第1回会合、小SF校110番教室
- 2008年9月27日（土）午前9時半～午後2時： 第2回会合、中高部サンノゼ校C教室
- 2008年10月13日（月）午後9時から11時： Skype
- 2008年10月26日（日）午前10時半～午後2時： 第3回会合、UCパークレーEtcheverry Hall 4101号室
- 2008年11月16日（日）午後1時～5時： 第4回会合、Reid Hillview Airport terminal building、Amelia Reid Conference Room
- 2008年12月14日（日）午後1時～5時： 第5回会合、UCパークレーEtcheverry Hall 4101号室
- 2009年1月16日（日）午後1時～6時： 第6回会合、Reid Hillview Airport terminal building、Amelia Reid Conference Room
- 2009年1月24日（土）午前11～午後2時： 第7回会合、中高部SJ校 C教室
- 2009年2月22日（日）午後1時～6時： 第8回会合、Union Bank of California サンノゼ支店3階会議室
- 2009年3月21日（土）午後9時～10時20分： 第9回会合、SKYPE
- 2009年3月28日（土）午後3時～6時： 第10回会合、Union Bank of California サンノゼ支店3階会議室
- 2009年4月26日（日）午前10時～午後7:30： 第11回会合、UCパークレーEtcheverry Hall 4101号室
- 2009年5月24日（日）10:00～15:00： 第12回会合、浅尾委員長宅
- 2009年6月7日（日）午前10時～午後4時： 第13回会合、UCパークレーEtcheverry Hall 4101号室
- 2009年7月12日（日）午前10時～午後4時： 第14回会合、Union Bank of California サンノゼ支店3階会議室
- 2009年7月15日（水）午後10時香ら11時： SKYPE
- 2009年7月18日（土）午後5時半から9時： San Jose Giants 球場において野球観戦（合同イベント会場下見）
- 2009年7月28日（火）午後10時～0時半： SKYPE
- 2009年8月16日（日）午後2時～5時： シンポジウム準備会合
- 2009年8月19日（水）午後7時～10時： シンポジウム準備会合、サンマテオ「喜作」
- 2009年8月22日（土）午前9時～午後9時： 40周年記念シンポジウム
- 2009年8月30日（日）午前10時～午後5時： 第14回会合、Union Bank of California サンノゼ支店3階会議室

- 2009年9月20日（日）午前10時～午後6時： 第15回会合、Union Bank of California サンノゼ支店3階会議室
- 2009年10月4日（日）午前11時～午後6時： San Jose Giants 球場において合同イベント予行演習
- 2009年10月18日（日）San Jose Giants 球場において記念式典、合同イベント
- 2009年11月22日（日）午前11時～午後3時： 第16回会合、UCバークレーEtcheverry Hall 4101号室
- 2010年3月14日（日）午前10時～午後2時： 第17回会合、i restaurant, 20007 Stevens Creek Boulevard Cupertino, CA 95014-2307

2.1.2 記念行事の目的

今回の40周年記念行事を企画遂行するに当たり、委員会では、まず、委員会のめざす方向について相当の時間をかけて議論を行った。

第1点は、理事会から委員会に託された委嘱内容に関して、行事の企画立案に留まるのか、あるいはさらに運営・実行までを含めるのか、に関して、理事会との相談の上、企画・立案、運営・実行までを含めた記念行事全般であることを確認した。

第2点は、記念行事を行う目的に関して、ファンドレイジングを含めて多角的に検討を行った。2008年のリーマン・ショックに端を発した世界的経済危機の中で、賛助企業からの寄付を期待することは難しいことが確認され、そのような中でどのような規模と内容とするのか、試行錯誤が繰り返された。その結果、

- 補習校財政に対し、最低でも中立、できればプラスになるように事業を計画・実行する。
- 近年の補習校経営が、日本から地元に進出した日系企業依存型から現地在住の個人により強く依存する形にシフトしていることを考慮し、草の根的な幅広い参加による行事を目指す。
- 卒業生ネットワークの基盤となるよう配慮する。
- 通常の教育活動に過度の負担をかけず、かつ記念の年であることを児童・生徒にも印象付けられるような行事とする。

2.1.3 合同イベント

この基本的考え方の元に、補習校創立以来、サンフランシスコ（以下、SF）校、サンノゼ（以下、SJ）校がともに集う機会がなかったことに着目し、記念行事のクライマックスとして、子どもたち、保護者など関係者一同が集まって40周年を祝う記念式典を行い同時に多くの参加者を得るため各種アトラクションを用意した合同イベントを2009年10月中旬に開催することで検討を進めていくこととなった。

財源の問題から入場を有料とする方針で当初検討していたが、2008年12月14日第5回会議において、運営費をサイレントオークションの売り上げなど寄付によってまかない、合同イベントの入場は無料としてより多くの参加者を募ることで意見がまとまった。

合同イベント会場選定にあたり、

- 多数の人が集合できる場所であること
- 運動会のような催しができ、昼食などをとることもできること
- 人文字航空写真の撮影に適していること
- レンタル費用が高額ではないこと
- SF/SJの中間点が望ましい

を条件として検討を進めた。候補として北から

- 1) Berkeley Football Stadium
- 2) SF Giants Stadium
- 3) San Mateo Central Park

- 4) Canada Collage Baseball Stadium
- 5) Palo Alto Horse Race Park
- 6) Fremont Ohlone College
- 7) SJ Giants Stadium

があがったが、1と2については費用の面で除外され、3は駐車場の面で除外された。5は場所としては申し分なかったが、においが鼻につくということで対象から除外された。4が最有力候補であったが、野球以外の目的での使用が許可されないことがわかり、また6についてもフィールド内での飲食が許可されないということから対象として除外された。7については早くから候補として上がっていたが、SFから遠方であること、人文字航空写真をとる際にサンノゼ国際空港の空域に近いことが懸念され一旦検討から外れたが、最終的にはレンタル料、柔軟な借用条件、駐車場の規模、対応してくださった関根氏の助力、参加者を球場内に囲い込めるという警備上の利点などにより、最終的に合同イベント会場はSJ Giants Stadiumと決定した（2009年2月22日 第8回議事録）。

2.1.4 シンポジウム

当初、過去の周年の例を踏襲して、記念式典をバンケット形式で行うことが検討された。しかし、バンケット形式では参加者数が限られることから、「草の根的な幅広い参加を目指す」とした本委員会の基本的考え方を満たすために合同イベントを開催することと決定した。合同イベントは、主に補習校関係者の「身内」のお祝いとして位置づけられたが、将来に目を向けて、補習校の周囲の関係者も交えて話しあうことの重要性に気づき、バンケットの代わりにシンポジウムを開催することとした。

2.2 記念行事一覧

日付	イベント
2008年8月21日	日本語補習校40周年記念行事実行委員会発足
2008年11月16日	40周年記念行事ウェブサイトオープン (2.4.3節参照)
2008年12月19日	Paypalを通じての寄付募集開始 (2.4.3節参照)
2008年12月29日	記念バナーの募集開始 (2.4.4節参照)
2009年2月15日	第6回シリコンバレー寄席、圓橋師匠よりご寄付 (5.1節参照)
2009年3月15日	平野孝榮さん、田山由美さんコンサート、ご寄付 (5.2節参照)
2009年3月23日	一般投票により記念バナー優秀賞の決定 (2.4.4節参照)
2009年4月6日	新学期開始、4校に記念バナー貼り出し開始
2009年4月9日	SF桜祭りの御神輿パレードで記念バナーとともに行進 (5.4節参照)
2009年4月11日	全日空のご協力で、SF校「ハッピーフライト」上映会を開催 (5.3節参照)
2009年4月25日	「ハッピーフライト」上映会をSJ校で開催 (5.3節参照)
2009年6月19日	40周年記念ニュースの配信開始、10月30日まで合計6号を発行 (8.2節参照)
2009年8月20日	小島浩美さん制作の合同イベントのポスター完成 (85ページ参照)
2009年8月22日	創立40周年記念シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」を開催 シンポジウムの場にて、長嶺安政・在サンフランシスコ日本国総領事より日本語補習校の長年の功績に対し表彰状をいただいた。(第3章参照)
2009年8月31日	合同イベント事前参加申し込み開始 前日までに合計509組、1680名の事前予約
2009年9月5日	記念行事へ寄付者を招待してオークランドA's vs. シアトルマリナーズの野球観戦 (5.5節参照)
2009年10月4日	SJジャイアンツスタジアムにて合同イベントリハーサル
2009年10月17日	岸本正次・百合子さんよりご寄付いただいた40周年記念Tシャツを配布
2009年10月17日	中高部SJ校にて弁論大会(学校行事) (5.6節参照)
2009年10月18日	合同イベント (第4章参照)

2.3 賛助・寄付

2.3.1 計画

40周年記念活動を実行するための経費を「補習校財政に対して最低でも中立、できるだけプラスとなる」原則に基づき捻出すべく、

- 補習校保護者、卒業生など補習校関係者、
- 北加日本商工会議所（JCCNC）会員を中心とした企業、
- 地元の商店、個人、など

より寄付を募りその財源に充てることとした。目標額は特に定めなかったが、おおよそ\$30,000程度の達成を期待した。これは過去の周年時の規模に比べるとかなり控えめな見積りであったが、それでも現実にはこれすら達成できないだろうという悲観的な見方が支配的であった。¹

2.3.2 活動

補習校保護者、卒業生など補習校関係者：40周年記念行事サイトから寄付を受けつけられるようにアイコンを設け、クレジットカード、PayPalで寄付を受け付けた（2.4.3節参照）。SF校保護者会は、毎年恒例のオリジナルウェア作成・販売に寄付金を上乗せして募金活動を行った（2.3.3節参照）。

JCCNC会員を中心とした企業：JCCNC事務局を通じて会員企業に向けて寄付依頼を出すことを依頼したが、特定の学校に寄付をするのではなく広くベイエリアの学校を対象とする方向で過去の慣例を見直すとのJCCNCの意向が示された。\$1,000の寄付がJCCNCから寄せられたが、JCCNC会員に対して寄付を募る活動までには到らなかった。

地元の商店、個人、など：委員会メンバー、保護者有志により個別に商店、レストラン、企業を訪問して食事券、野球チケット、など幅広い範囲を足で稼いだ。これにはSJ校保護者が多数協力して下さった（6.4節参照）。

2.3.3 結果

委員会が活動を開始した当初から経済環境は良くないと認識していたが、9月以降劇的な悪化が報道されベイエリアの企業の閉鎖、レイオフなども頻繁に伝えられるようになり、気持ちも萎縮して行く事になった。当初は金銭の提供は難しくても物品の寄付は可能だろうと楽観していたが、実際あたってみると、企業自身相当苦しんでいてなにも出せないという状況であることがわかった。更にJCCNCからの組織的な協賛も受けられない状況であることが明確となった。企業など大口の寄付を期待するよりも自分達の手で広く集める方法を探してゆく事になった。

その結果、保護者有志からの寄付やイベントへの無償参加協力が今回の特色となった。実際、これは金銭に現れない部分も含め、相当の収穫であった。また、レストランなどの個人経営、個人などに対して友人、ご近所のネットワークで稼いだ。つまり、40周年記念行事は草の根的な幅広いサポートで行なうことができたといえる。これは過去数年の理事会の構成が保護者中心になっていることにも対応していると考えられる。

例えば、2008年度SJ校保護者会は例年の寄付集めと同時に翌年の40周年の寄付を各方面にお願いし具体的に記念行事の方向性が見えた2009年度保護者会がそれを引継いだ。遊園地、科学館など各公共施設には郵便で寄付依頼状（次ページ参照）を送付し、メンバーシップカード、入場券やギフトカードなどの形で寄付を頂いた。また、地元レストランや個人商店、日系スーパーには直接お願いに歩き、日本往復航空券、ギフトカード、ゲームソフト、生活用品、食料品など、多様な寄付を頂いた。これら地元コミュニティの協力のお陰で合同イベントに於いてサイレントオークションが開催できた（4.3.10節参照）。

¹ 2000年のITバブル崩壊後、2005年から2007年にかけて低成長ながら回復しつつあった日米の経済は2008年9月にサブプライムローンの焦げ付きに端を発したリーマンショックにより、劇的に悪化する事態となった。その後は落ち込み幅は緩やかになるが、景気の悪化は企業、家庭まで厳しい影を落としていた。

SF 校保護者会では例年制作するオリジナルウェアに 40 周年の表示を入れた（下図参照）。オリジナルウェアの代金のうち 1 ドルは、40 周年記念行事への寄付とするキャンペーンを展開。販売した 340 枚よりでた売上から \$340 を寄付した。



また、

- Air Accord 社から、合同イベントにおける人文字航空写真撮影の飛行機と操縦の無償提供があった（4.3.3 節参照）。
- 岸本正次・百合子御夫妻から、40 周年を記念して全校児童・生徒・教職員に T シャツが贈呈された。
- 全日本空輸（ANA）サンフランシスコ支店から、保護者の 40 周年に対する盛り上げを醸成すべく企画した映画「ハッピーフライト」上映会で多大な援助をいただいた（5.3 節参照）。また、『出発前の飛行機を覗いちゃえ』というイベントを企画し、2 回に分けて、合計 12 名を招待してくださった（5.6 節参照）。

ことは特筆されるべきである。

第 6 章で詳細な収支報告を示すように、当初の活動をサポートするために学校より借入し後に返済した 5,000 ドルを差し引いた収入は 34,000 ドルあまり、支出は 19,000 ドルあまりで、差し引きおよそ 15,000 ドルの黒字となった。

収入のうちの主なものは、学校よりの拠出金 5,000 ドル、日系企業からの寄付約 2,500 ドル、諸団体からの寄付 8,400 ドル、個人からの寄付 5,400 ドル、合同イベントでの売り上げ（オークションなどを含む）12,900 ドルあまりとなっている。収入の内訳や上記の観察を見てもわかるように、日系企業から地元コミュニティへと重心が移っている。

支出の主なものは、合同イベント運営経費約 10,500 ドル、シンポジウム運営経費約 5,200 ドル、本委員会運営経費 3,000 ドルである。

このように、厳しい経済状況の中で、当初目標に近い額の寄付を達成し、15,000 ドルの黒字を出せたことは、大きな成果であったといえる。特に指摘しておくべきことは、多くのボランティアの無償労働奉仕があったことである。金額上のバランスシートには現れないが、今回の記念行事はこれ抜きには成立しなかったといっても過言ではない。今回の 40 周年記念行事事業は、過去の周年のときと比べると寄付総額と黒字額では小さくみえるが、「草の根」「手作り」という当初のコンセプトをよく実現し成功であったといえる。



April 29, 2009

Organizing Committee
for the Fortieth Anniversary Memorial Events,
San Francisco Japanese Language Class, Inc. (SFJLC)

Dear Sir/Madam,

San Francisco Japanese Language Class, Inc. is a non-profit organization providing Japanese language education to over 1,200 children in K-11 grades in San Francisco Bay Area on Saturdays. We are currently the third largest Japanese language school among more than 100 such schools in the world that are recognized and supported by the Japanese Government.

Celebrating the 40th anniversary, we are planning and organizing the following events:

- ① More than 100 children and parents successfully participated in the Sakura-Matsuri parade on April 18 by carrying portable shrines on their shoulders.
- ② A symposium will be held on August 22 to discuss and share views on the future of SFJLC, with participation of various stakeholders, supporters, parents, and alumni, and
- ③ A fun event will be held on October 18 at the San Jose Giants stadium, in which children and parents from all over the Bay area will meet and play together. The lines reading commemorative message of the 40th anniversary will be formed on the playground by children and parents. Aerial photographs will be taken.

We would like to ask your understanding and support. We are accepting your donations at the 40th anniversary event home page, <http://www.sfjlc40.org/> through the paypal system. If you would like to donate valuable goods, just let us know; necessary arrangement will be made to accept them. We would very much appreciate it if you kindly understand that we may sell those donated goods by internet auction and so on.

Please check our website at <http://www.sfjlc40.org/> for the development of the plans and contents of these events. For general information about SFJLC, please access the official homepage, <http://sfjlc.com/english.htm>

On behalf of the Organizing Committee, the Board of Directors, and all parents of SFJLC, I would like to express my sincere gratitude in advance for your kind consideration and support. If you have any questions or concerns, please feel free to contact us.

Sincerely,

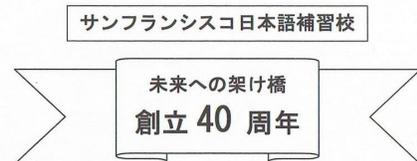
Mr. Ichiro Asao
Chair of the Organizing Committee

2.4 広報

40周年を保護者、児童・生徒、教職員に周知し各行事への活発な参加（特にクライマックスである合同イベントへの多数の参加）を促すことが、委員会活動の最大の課題であった。特に、合同イベントの会場をサンノゼジャイアンツ球場と決定した後は、SF校からの参加を確保し、名実ともに合同イベントとすることに腐心した。

2.4.1 方法

- 「未来への架け橋40周年」のレターヘッド（右図）を作成し。2009年4月より、学校事務局、保護者会などから保護者に配信される書類の上部に配置し使用した。
- 40周年の活動を紹介し、寄付を受け付けるウェブサイトを設置した（2.4.3節参照）。このサイトは、合同イベントの参加申込受付などにも利用された。
- バナーを作成し各校に掲示した（2.4.4節参照）。
- 落語会、映画上映会、野球観戦など（第5章参照）一連の行事を一定間隔で行い、関心を持ってもらうとともに、ファンレイジングの機会としても利用した。
- 6月20日から10月31日まで、補習校一斉同報通知システムを利用したメールマガジンを合計7号発行し、シンポジウムや合同イベントの広報に努めた（8.2節参照）。
- SF校では、例年保護者会で制作するオリジナルウエアに40周年の表示を入れた。また、保護者会役員は、販売期間の土曜日の朝に校門横にポスターを掲げ、登校してくる児童と保護者に宣伝活動を行い、春の総会、運動会、夏休み作品展、秋祭りには、役員全員でトレーナーを着用した。
- 10月18日の合同イベントで行われる小学部を対象の「大カルタ競技」、中高部、保護者を対象の「10人11脚」の宣伝を兼ねて、SF、SJ両校で同競技のデモンストレーションを行った（写真）。デモンストレーションは、保護者会一斉メールで2週間前から案内を開始し、小学部SF校では、登校時に保護者会担当役員がカルタの実物とポスターを掲示して校門横に立ち、直接宣伝活動も行った。



2.4.2 SF校における周知

SF校保護者会では上記のような努力を行ったが、残念ながら、殆どの保護者は関心が薄く、運営側との温度差が感じられた。例えば、10月18日の合同イベントで行った10人11脚競技（4.3.4節）に参加するチームをSF校から募るため、保護者会役員が知り合いに学校の廊下で声をかけたり、学校外でも参加を呼びかけ、また、中高部にも足を運んでお昼休みの校庭で生徒一人一人に声をかける等の努力も行ったが申し込みは低調で、保護者会役員など関係者の子供の中高部チームと、クラス委員を中心とした保護者チーム、小学部教員チームがぎりぎりになって登録した。春に各クラスより1名ずつ合同イベントのボランティアを募ったが、当日の作業内容がぎりぎりになるまで分からなかった為、ボランティア募集はかなり難航した。これに対しては、保護者会役員とクラス委員で密に連絡を取り合いながら、年間を通してボランティアに登録していない保護者に個別でコンタクトを取ったり、登録ゼロのクラスだけに保護者会から一斉メールを出すなど個別の努力を重ねた。

SF校保護者の関心の低さは、SJ校と比較した場合、SF校のカバーする領域が広く居住地が分散しているため同じ現地校に通う子供が少ないこと、保護者や児童・生徒同士の普段（平日）の交流が少ないこと

が一つの原因と思われる。また、10月18日にSJで開催された合同イベントの会場は、SF市内からでも車で約1時間の距離にあり、Marin郡、Napa Valley、Fairfieldなどさらに遠方に在住の家庭の足が遠のいたと考えられる。

2.4.3 ウェブサイト sfjlc40.org

記念サイト設置までの経緯

委員会では、特に合同イベントへの多数の参加をえるためにも、ウェブサイト（以下、サイト）を利用した広報活動が重要であるとの認識に至った。そこで次のような要件でサイト構築の検討を進めた。

- 安価であること
- 委員会専用のページ（パスワードガード）が設けられること
- サイトを通じて企業寄付の募集などが行えること

補習校事務局のサイト保守をしている Devicenet USA Inc. 社に見積もりを依頼したところ無償貸与の提案を受けたのでこれを利用した。サイトの基本仕様は次の通り。

- Plesk4による仮想マシン環境一式（root アカウントつき）、OSはCentOS4.2
- 1ドメイン（sfjlc40.org）、32メールアカウント
- 貸与期間は2010年4月末まで（後に2010年9月まで延長）

基本設計

root アカウント付サイトの利用が可能となったので、次のような要件でサイトの基本設計を検討した。

- 1) 複数の編集者によって記事の編集が可能なこと
- 2) バナーの選定など投票機能が利用可能なこと
- 3) スケジュール管理が可能であること
- 4) 議事録のアップと閲覧などファイルフォルダ機能を有すること
- 5) 合同イベントへの参加申し込み受付などができること
- 6) 寄付の募集と受付が可能であること

1から5項について個別にプログラムをセットアップすることも検討された（たとえば1についてはBlogシステムなど）が、サイトの表示制限などが容易で様々な機能がプラグインとして用意されているXOOPSを利用してサイトを構築することとした。パッケージとしてはXOOPSの日本語化がなされており必要最低限のAdd-inがプリインストールされているHordeパッケージを利用することにした²。6項については、個人情報サイトを保管することを避けるためPaypalを利用することにした。Paypalは、固定費のかからない“Website Payments Standard”を契約し、Paypal上に構築された補習校40周年記念寄付ページへのリンクを40周年記念サイトに設置した。

運用

- 1) 各委員が担当分野の記事の更新することを想定したが、残念ながらあまり協力を得られなかった。記事の作成・アップロードの方法について敷居が高かったようである。
- 2) XOOPSの投票機能を用いて行ったバナー・コンテストの一般投票は、サイトへのアクセス数増加に役立った。
- 3) 委員や理事のメールアドレスをログインアカウントとして利用するアクセス制限では、試験的に立ち上げた機能やページへのアクセスを委員会内に限定することができ、委員会活動の効率化に寄与した。

² ただし、HordeパッケージはPHPバージョンをチェックしてPHP5以上でない動作しないコードになっていたため、この部分にパッチを宛てた。利用できるWebサイトのPHPがバージョン4であったためである。

- 4) Eguide によるイベント事前受付では受付者への確認メールの自動応答が有効であった。これにより受付の確認ができるだけでなく、メールアドレスの入力ミスがチェックでき、更にイベント直前の案内をメール通知することができた。また確認メールをプリントアウトして受付に持ってきてもらうことで、入場者数の把握に役立った。
- 5) 単なるサイトではなくシステムを丸ごと借りたことで、次のような点の有効活用が可能になった。
 - イベント受付、シンポジウム受付、寄付受付など役割ごとに個別のメールアドレスを作成することができた。
 - バナー作成、40周年委員、寄付受付リスト作成などの担当ごとにFTPアカウントを作成し、それぞれの役割ごとのFTPサイトを構築することができた。
 - イベント受付システムを40周年記念サイトとは別に構築することができた。(しかし残念ながら現地のネットワーク事情により、受付システムが十分な機能を果たせなかった)



図 40周年記念サイトのホームページ

2.4.4 バナーの作成

バナーは40周年記念行事サイト(sfjlc40.org)、ベイスポ、Sports-J、Frontlineなどで広く募集し、一人による複数作品の応募を含め、合計7作品が集まった。この中から5作品を実行委員の投票により選出し、最後は一般投票により最優秀の1作品を選出した。

サンフランシスコ日本語補習校40周年記念
記念サイトバナーの募集について

サンフランシスコ日本語補習校は2009年度をもって40周年を迎えます。40周年の記念イベントの実施を広くみなさんに知っていただくために開設された本サイトでは、現在ゴールデンゲートブリッジの写真を使用している場所に表示するバナーを下記のとおり広く募集します。

現在使用されている画像は820 pixels x 200 pixels つまり横41に対し高さ10の比率の画像ですが、大きさについてはこれにこだわらず自由に描いてください。

バナーには「サンフランシスコ日本語補習校 40周年記念」の文字を入れていただければ、ベースはイラスト、写真、あるいは装飾文字、何であっても結構です。

また募集資格は問いません。どなたでも応募できます。奮ってご応募ください。

なお、利用用途としては、40周年記念サイトのバナーのほか、記念行事での利用（バナー、Tシャツ利用など）、記念行事の宣伝、広報活動への利用なども検討しております。Webサイト以外での具体的な利用方法は40周年委員会にて検討を進めており、2次利用については委員会に一任いただけるよう、よろしく申し上げます。また、作成していただいたものを、利用用途によって変更させていただく場合もあります。この点についてもあらかじめご了承ください。よろしく申し上げます。

記

- 1 募集期間 : 募集掲載日より3月14日(土) (延長しました)
- 2 応募方法 : サンフランシスコ日本語補習校事務局への郵送、または画像情報として eMail に添付し banner@sfjlc40.org まで送信 (期日必着)
郵送先:
San Francisco Japanese Language Class, Inc.
40th anniversary banner contest
760 Market Street, #816
San Francisco, CA 94102
- 3 選考方法 : 40周年記念行事実行委員会にて一次選考をし、最終選考5作品に絞らせていただきます。さらに最終選考5作品はWebサイト上で一般投票をさせていただき、得票数が最高のもを最優秀作品とします。
- 4 最優秀作品発表 : 3月29日(日) (予定)
- 5 備考 : 最終5作品に選出された作品には、40周年記念パーティーへご招待し(旅費、交通費含まず)、パーティーにて表彰させていただきます。

日付	内容
2008年12月29日	記念バナーの募集をSfjlc40.orgに告示。ベイスポ、Sports-J、Frontlineにも広告掲載(無料)
2009年2月24日	応募締め切りを2/12から3/14に延長。この時点では3作品の応募があり
2009年3月15日	応募締め切り。合計7作品の応募があった。直ちに実行委員会での一次選考開始
2009年3月16日	バナー制作会社の検討開始
2009年3月17日	最終選考作品の5作品決定、一般投票に移る
2009年3月20日	バナー制作会社の第一候補決定、詳細問い合わせを出す
2009年3月24日	Halfpricebannerと問い合わせ状況について電話で確認
2009年3月24日	バナーの掲示について現地校に確認
2009年3月25日	Halfpricebannerにオーダー発行
2009年3月26日	Halfpricebanner社の制作開始
2009年3月30日	Halfpricebanner社よりShippingの連絡あり
2009年4月2日	バナーが事務局に到着
2009年4月6日	4校にバナーの貼り出し
2009年10月18日	合同イベントにて優秀作品表彰



バナーコンテスト優勝作品（堂代卓利さん）



バナーコンテスト2位作品（中村睦恵さん）

以下の会社の価格を比較し、Halfpricebanners社に最終決定した。

- Fast Signs: 546-2 Lawrence (408) 245-8000、<http://www.fastsigns.com>
- Peninsula Digitals: 599 Fairchild Drive, MV (650) 967-1966、
<http://www.peninsuladigital.com/>
- officemax
- Halfpricebanners、http://www.halfpricebanners.com/premium_banners_0992903.php

最終的に1位作品と2位作品をそれぞれ2枚ずつ、合計4枚のバナーを作成した。かかった経費は、1位と2位の画像を2枚ずつ、合計4枚とロープ一本で合計\$249.00、これに送料\$9.00をあわせて合計\$258であった。2枚以上10枚までの注文にBulk Discountが適用されたこと、とはいえ、同じものを4枚作るのも面白みにかけること、画像によって出来が左右される懸念もあったことから、1位2位の2種類作った。

2009年4月の新学期初日に4校に掲示した。バナーの掲示については、小SJ校の借用校校長から壁画があるところを避けることと、壁が剥がれないマスキングテープ等を使用してほしい旨の注意があった。また、安全上の観点から外部から見えないよう校内側からのみ見えるよう掲示することとした。

3 記念シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」

3.1 主旨

以下のような主旨により講演者の賛同・協力を得て、出席者を募った。

今年40周年を迎えるサンフランシスコ日本語補習校(SFJLC)は、幼稚部、小学部、中高部からなり、現在、サンフランシスコ校、サンノゼ校で合計1200名余の児童・生徒が毎週土曜日勉強しています。本補習校はサンフランシスコ・ベイエリアにおいて、日本の公教育に準じた初等中等教育課程の教育を行う学校として教育機会を提供してきました。この40年の道のりは決して平坦ではなく、社会環境の変化に注意深く対応してきた関係者のたゆまぬ努力、児童・生徒たちの真摯な学習、保護者の切なる願い、そして各方面のご支援が結実した奇跡にも近い偉業といえるでしょう。

しかし、普段は、多忙な日常業務に忙殺され、また、それぞれの立場上のおもんばかりもあり、お互いのアイデアにじっくり耳を傾ける機会は意外と少ないものです。

この40周年の節目は、これまでの道のりを振り返り、今、われわれの置かれている状況を関係者全員で共有して、さらに将来のことを語り合うまことにより機会であると考えます。この機会にご関係の皆様が集い、夏休み最後の週末の一日がそのような意義深い時間となることを願って、シンポジウムを開催いたします。

3.2 プログラム

日 時：2009年8月22日(土) 午前8時30分開場

場 所：David Brower Center, 2150 Allston Way, Berkeley, CA 94704 www.browercenter.org

参 加：事前登録制。

言 語：日本語

服 装：カジュアル

○近隣の補習校を紹介するポスターなどが常時展示されています。

○補習校をテーマにした写真展が併催されています。

午前8:30~9:00: 開場・受付

午前9:00~9:20: 開会 (司会: 青柳伸之・SFJLC 事務総長)

* 開会の辞: 小西光洋 (SFJLC・理事長)

* ご挨拶: 植木進策 (SFJLC・校長)

* ご祝辞: 長嶺安政 (在サンフランシスコ日本国総領事館・総領事)

* 本シンポジウムの主旨・セッション構成の説明: 安俊弘 (SFJLC40周年記念行事実行委員会・副委員長)

午前9:20~10:10: 補習校制度の歴史と基礎知識 (座長: 小西光洋・SFJLC 理事長)

* 9:20-9:50: 補習校制度の概要と主旨: 井上恵嗣 (文部科学省初等中等教育局視学官・国際交流ディレクター)

* 9:50-10:10: サンフランシスコ日本語補習校の歴史: 青柳伸之 (SFJLC・事務総長)

午前10:10~10:25: コーヒーブレイク

午前10:25~11:30: 補習校の現状と課題 (座長: 井上理生・SFJLC 教頭)

* 10:25-10:50: サンフランシスコ日本語補習校での経験と提言: 植木進策 (SFJLC・校長)

* 10:50-11:10: 運営の現状と課題: 松波博之 (SFJLC・理事)

* 11:10-11:20: 補習校での経験: 唐橋良行 (SFJLC 高等部 SF 校 1987年3月修了)

* 11:20-11:30: 補習校での経験: 榎本才志郎 (SFJLC 高等部 SJ 校 2年)

午前 11:30~0:00: 特別講演 1 (座長: 植木進策・SFJLC 校長)

長嶺文子様 (総領事夫人) : 『補習校と私』

午後 0:00~0:40: 昼食 (記念写真撮影)

午後 0:40~2:30: 各方面からの視点と提言 (座長: 中川淳子・JCCNC 事務局長)

- * 0:40-1:00: 財界からの提言: 富樫正之 (北加日本商工会議所 (JCCNC) ・教育委員長)
- * 1:00-1:20: 総領事館からの提言: 小川康弘 (在サンフランシスコ日本国総領事館・領事)
- * 1:20-1:40: 保護者からの提言: 三宅孝明 (SFJLC 理事、保護者会代表会長)
- * 1:40-2:00: 教員研修受入校からの提言: 岩崎陽一 (福岡県篠栗町立北勢門小学校・校長)
- * 2:00-2:20: ベイエリアにおける日本語補習教育: 吉田栄一 (三育学院サンタクララ校・校長)
- * 2:20-2:30: 総括質疑

午後 2:30~2:45: コーヒーブレイク

午後 2:45~4:00: パネルディスカッション「これからの補習校に望むこと」

モデレータ: 浅尾一郎・SFJLC40 周年記念行事実行委員会・委員長

パネリスト: 井上恵嗣・文部科学省初等中等教育局視学官、
植木進策・SFJLC・校長、
小川康弘・在サンフランシスコ日本国総領事館・領事、
富樫正之・北加日本商工会議所 (JCCNC) ・教育委員長、
三宅孝明・SFJLC 保護者会・代表会長、
吉田栄一・三育学院サンタクララ校・校長。

午後 4:00~4:45: 特別講演 2 (座長: 井上恵嗣・文部科学省初等中等教育局視学官)

* 村山 斉 (カリフォルニア大学バークレー校教授、東京大学数物連携宇宙研究機構長・特任教授) : 『補習校と国際社会』

午後 4:45~5:00: まとめ (司会: 青柳伸之・SFJLC 事務総長)

- * 議論を振り返って: 安俊弘 (SFJLC40 周年記念行事実行委員会・副委員長)
- * まとめ: 浅尾一郎 (SFJLC40 周年記念行事実行委員会・委員長)

午後 5:00~5:40: レセプション

午後 5:40~6:20: 夕食

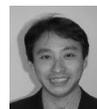
午後 6:20~7:00: 歓談と優秀写真表彰

- * (ご出席の方からお話をいただきます。)
- * 優秀写真の表彰 (保刈正行・SFJLC 理事、40 周年記念行事実行委員)
- * 閉会の挨拶: 浅尾一郎 (SFJLC40 周年記念行事実行委員会・委員長)

3.3 講演者・出席者

3.3.1 講演者

青柳 伸之 東京都出身。平成 13(2001)年、SFJLC 事務局長に就任。平成 19(2007)年度より事務総長兼理事に就任。小学部サンフランシスコ校に長男が在籍。妻は補習校卒業生。



浅尾 一郎 2004 年度 SFJLC 理事。2005 年度 SFJLC 理事長。2007 年度人事制度検討委員会委員長。40 周年記念行事実行委員会委員長。1990 年日本企業の駐在員として渡米し現在シリコンバレーハイテク企業の対日進出のコンサルタントをしている。滞米 19 年の間に、子供 4 人が SF 日本語補習校のお世話になった。



安 俊弘 2004・2005 年度 SFJLC 理事。40 周年記念行事実行委員会副委員長。1995 年渡米。長男は小 1 から 11 年 SFJLC で学び、今年の 3 月高等部を卒業、長女は SFJLC 中学部 SF 校 3 年生。現在、カリフォルニア大学バークレー校原子力工学科教授。



- 井上 惠嗣 1992年、文部省（現文部科学省）入省。2002-2005年、在ニューヨーク日本国総領事館で教育担当領事として同地における在外教育、留学生施策等を担当。2008年9月より、文部科学省初等中等教育局視学官として再びNYに赴任。ニューヨーク日本人学校等において、国際交流ディレクターとして勤務。
- 井上 理生 SFJLC 教頭。平成20年度に文部科学省より派遣され本校へ赴任する。長崎県教育委員会所属。公立小学校教諭歴21年。
- 岩崎 陽一 福岡県の小・中学校長を経験後、2005・2006年度、SFJLC 校長として文部科学省より派遣。帰国後、福岡県糟屋郡篠栗町立北勢門小学校・校長。帰国後も、全海研等で補習校の良さを啓発。以来、SFを中心に補習校の国内研修等の手伝いを展開中。
- 植木 進策 兵庫県出身、平成10年度文部省よりロスアンジェルス補習授業校（あさひ学園）に校長として派遣される。退職の後、文部科学省よりシニア派遣としてSFJLCに派遣される。
- 小川 康弘 在サンフランシスコ日本国総領事館領事。外務本省では、大臣官房文書課及び領事局に勤務。領事局政策課において、日本人学校及び補習授業校担当の課長補佐を務める。在外では、インド、フィリピン、ベトナム、南アフリカ共和国、インドネシアの各日本国大使館に勤務。2008年4月、ジャカルタから当地に転勤。
- 唐橋 良行 1987年3月高等部SF校修了。1992年UC Berkeley 卒。1994年Stanford 大学修士。1994～2008：General Electric 勤務、原子力関係の仕事に従事し日本にも駐在。現在AREVA NP, Inc. 勤務 Sr. Project Manager。少林寺拳法ペニンスラ支部長。現在幼稚部SF校の保護者でもある。
- 小西 光洋 2008年度SFJLC 保護者会会長/理事、2009年度理事長就任。長期的展望の基に補習校運営を目指す。小学部SF校4年生に双子の娘が在籍。在米20年、通訳/翻訳業に従事後、現在、Kirin Law Group, LLP 勤務。
- 富樫 正之 北加日本商工会議所教育委員長。1988年、三井物産株式会社入社、本店船舶海洋部に配属。2008年、米国三井物産株式会社サンフランシスコ店に異動、現在に至る。入社以来、一貫して船舶海洋分野を担当。一般商船、石油開発プラントの売買・リース。
- 中川 淳子 北加日本商工会議所事務局長。1973年渡米。サンマテオ警察署コミュニティリエゾン担当。その後東京テレビ・ニュース・キャスター、日本テレビレポーター、KTSF(Channel 26) アジアン・ジャーナル・ホスト、ラジオ毎日社長、北米毎日社長と報道分野を経て2008年より現職につく。日本で教職経験があり教育問題には特に強い関心をもつ。
- 長嶺 安政 1977年東京大学教養学部卒業。同年外務省入省。1980年オックスフォード大学卒業。外務本省では、アジア局、条約局、欧亜局、北米局、総合外交政策局等に勤務。在外では、ワシントンDC、ニューデリー、ロンドンに勤務。2007年9月、総合外交政策局審議官から在サンフランシスコ総領事として着任。
- 長嶺 文子 総領事夫人。外交官の父親の仕事の関係でロスアンゼルスに生まれ、娘時代は韓国、豪州、米国で現地校と日本語補習校に通う。数多くの転校を経験し、東京の聖心女子大学大学院英文科修士課程を修了。結婚後、在外では二人の娘も一緒にワシントンDC、インド、英国で生活し、母親の立場で海外の教育事情に関心を持ち、積極的にPTA活動に参加。2007年9月から夫の赴任に伴い当地で生活している。二人の娘は日本にいる。



- 保刈 正行 2009年度理事、40周年委員、保護者会副会長を兼任。ボランティアフォトグラファーも。日本語補習校には3人の子供が在籍中。渡米は1991年。仕事はソフトウェア開発。
- 榎本才志郎 SFJLC 高等部サンノゼ校2年。
- 松波 博之 2008・2009年度SFJLC理事。2008年度より法規委員長として、SFJLCのBylaws(定款)を始めとする諸制度/規定の改革、改善、整備に取り組中。次女がSFJLC 中学部サンノゼ校3年に在籍。NEC America 勤務。
- 三宅 孝明 在米22年。現在、長男が小学部サンフランシスコ校で6年生、次男は3年生として在籍し、三男は来年度から1年生として入学予定。40周年を迎える本年度、保護者会代表会長を務め、理事、及び40周年記念行事実行委員も兼任する。
- 村山 斉 2005年度SFJLC理事(将来像検討委員会委員長)・保護者会代表会長、2006年度理事長。40周年記念行事実行委員会委員。SFJLC高2と中1に在学中。カリフォルニア大学バークレー校物理学教授。2008年度より東京大学数物連携宇宙研究機構構長・特任教授を兼任。自身も帰国子女としての経験を持つ。
- 吉田 栄一 千葉県出身。日本三育学院カレッジキリスト教教育学科卒、パシフィックユニオン大学卒。東京アスレチッククラブ(東京体育研究所)を経て、2004年に渡米し、三育学院サニーバール校(現サンタクララ校)に赴任。キリスト教教育を通して、子ども達の人間力を更に高めたいという熱意を持って教育を行っている。



*所属・肩書は2009年8月当時のもの。

3.3.2 出席者リスト

氏名(50音順・敬称略、講演者を除く)	所属	Position	備考
雨川浩之	SFJLC	理事	
荒牧一也	SFJLC	保護者	ビデオ撮影
有林浩二	文部科学省	UC Berkeley	ご来賓
アルドリッチ和子	SFJLC	保護者	
安 正恵	SFJLC	小学部SF校教員	
Amy Ambrose	UC Berkeley	Associate Director International Relations	
池田貴志	SFJLC	40周年委	
池田浩子	SFJLC	中高部SJ校教員	
石原こずえ	日米タイムズ	記者	報道
岩田誠司	SFJLC	事務局	
岩田哲弥	在サンフランシスコ日本国総領事館	領事	ご来賓
植木久美子	SFJLC	校長夫人	
牛島宣仁	SFJLC	中高部SF校主幹	
太田 正	SFJLC	中高部SJ校主幹	
大谷滋子	南アラメダ郡仏教会日本語学園	校長	ご来賓
大山 ともこ	SFJLC	保護者	
カーク有子	SFJLC	中高部SJ校教員	
ガージー和美	SFJLC	保護者	
賀川正人	SFJLC	副理事長	

加藤郁子	SFJLC	小学部SJ校教員	
喜多俊幸	SFJLC	保護者	
久保田一清	SFJLC	理事	
小島眞志	SFJLC	40周年委	
小西光洋	SFJLC	理事長	
近藤眞知子	SFJLC	小学部SJ校教員	
西郷和義	SFJLC	保護者	
西郷リベカ	SFJLC	財務役・理事	
齋藤大貴	北米毎日新聞社	記者	
坂井利彰	SFJLC	理事・40周年委・保護者会S副会長	
柴田英希	SFJLC	理事・40周年委・保護者会SJ会長	
下田範幸	Squire, Sanders & Dempsey L. L. P.	Partner	ご来賓
白石伸子	三育学院サンタクララ校	理事長	ご来賓
城田たえ子	SFJLC	小学部SJ校主幹	
菅原路代	SFJLC	小学部SJ校教員	
田上智子	SFJLC	中高部SF校教員	
塚本三枝子	SFJLC	小学部SJ校教員	
デイシー洋子	SFJLC	小学部SF校主幹	
土井千景	ベイスポ	記者	報道
東門厚子	SFJLC	小学部SJ校教員	
中西理恵	日米タイムズ	記者	報道
ニューベリー圭美	SFJLC	小学部SF校教員	
萩原朋子	ベイスポ	記者	報道
長谷川清	PFU Systems	President, CEO	ご来賓
波並雅広	ベイスポ	Sales Manager	報道
林ヶ谷昭太郎	ポート オブ サクラメント補習授業校	校長	ご来賓
林ヶ谷弘子	ポート オブ サクラメント補習授業校	校長夫人	ご来賓
藤井グレン	SFJLC	理事	
藤井ひろみ	SFJLC	保護者	
益子明彦	SFJLC	教頭	
榎本千恵美	SFJLC	保護者	
松波千春	SFJLC	40周年委	
マラン裕子	SFJLC	保護者会	
森田昌代	SFJLC	小学部SJ校教員	
安武和子	SFJLC	中高部SJ校教員	
山真紀	SFJLC	保護者	
山口かおる	SFJLC	保護者	
Takashi Yamaguchi	スポーツJ	編集長	報道
山口高宏	SFJLC	40周年委	
脇田いづみ	SFJLC	理事・40周年委	

*所属・肩書は2009年8月当時のもの。

- ポート オブ サクラメント補習授業校
- 南アラメダ郡日本語補習校
- 三育学院サンタクララ校

からは、自校紹介の展示物などを用意頂いた。

3.4 講演内容

3.4.1 開会セッション

開会の辞 小西 光洋 サンフランシスコ日本語補習校・理事長



皆様、本日は、お忙しい中、サンフランシスコ日本語補習校の創立 40 周年記念シンポジウムにご参加頂き誠に有難うございます。当校の節目であるこのような日に、在サンフランシスコ日本国総領事、長嶺ご夫妻を始めとし、多くの皆様にご出席賜り、誠に光栄限りないことでございます。この場をお借りしまして、御礼を申し上げるとともに、これまで当校への御支援を頂きましたことを深く感謝申し上げます。

さて、今から 41 年前の 1968 年、当校は「サンフランシスコ日本語教室」として誕生しました。丁度、ゴールデンゲートパークの北側、リッチモンド地区にある日系人教会のご好意により、教会の部屋をお借りして、講師 5 人が 101 人の第一期入学生を迎えて、授業が始められました。

当時は、ベトナム戦争がエスカレートする中、世界中で反戦運動が繰り広げられ不安定な情勢を憂慮し、当時の日本政府が海外旅行の自粛を呼びかけた中のスタートでした。その翌年には、カリフォルニア州非営利団体の学校として正式に創立されました。

それから 40 年後の現在、当校は、サンノゼとサンフランシスコにある小学部、中高部の 4 つの校舎で、1200 人程の児童生徒が学ぶ、世界で 2 番目に大きな補習校に成長しました。その陰には、日本政府や商工会議所、地元地域の各方面からのご支援と学校関係者のご尽力がありました。更に、児童生徒のたゆまない努力とそれを暖かく見守る保護者の熱意によって支えて来られました。「日本語による日本の教育」をこの米国において実践するために、多くの方々による「手作りの学校」ができたのです。特に保護者の御協力無くしては、一日たりとも成り立たない当校は、理事会メンバーも選挙にて行われ、今年はずべての理事が保護者というまさに手作りの学校です。

30 年前に 10 周年記念を迎えた際、当校では、全日制の日本人学校に移行すべきか、週一日の補習校であり続けるべきかの議論が盛んに交わされました。これは、簡単に言えば、授業を週 5 日にするか、または 1 日にするか議論となります。しかし、それはまた、海外での子供達の教育は、将来帰国した時のための準備を最優先し、日本人学校で日本の教育のみを行うか、あるいは、現在居住している現地の環境を受け入れて、米国の現地校と週一回の補習校を両立させた、バランス良い教育を行うべきかの議論でもあります。いつ帰国するかはわからないが、その時のための将来を重んじるか、あるいは、今生きている環境を受け入れて、少しでも米国の子供達と交わり、文化を吸収することが大切かの選択でした。当時の学校関係者は、いろんな議論の結果、後者を選択し、現在の補習校が存在しております。当時の柴田校長のお言葉に次のような表現があります。「現在の環境を否定することは、子供達の人格形成を阻止することに繋がる。」これまでの 40 年間、このように、それぞれの時代で、関係者の方々が将来の補習校を模索し、一人一人の意見を出し合い、ぶつけ合って、丁度雨粒が集まって小さな流れになるように、またそれらが合流し大きな川の流れとなって今に続いております。

本日は、できるだけ多くの方々の貴重な御意見を拝聴させて頂き、今後の補習校の将来を見定め、この先 50 周年、100 周年を目指し、当校、ひいてはベイエリアの日本語教育環境が手をつなぎ、一人でも多くの子供達の元気な笑顔が見れるよう、皆さんの御意見を参考にさせて頂きたいと思っております。

ちなみにここパークレーは、フリースピーチ・ムーブメントの発祥の地ですので、皆さん、周りの目を一切気にせずにご自由に心おきなく御意見を頂きたいと思っております。

最後になりましたが、これまで多くの方々や企業、店舗の皆様にご寄付やボランティアという形で御協

力頂き誠に有り難うございました。また、このシンポジウムの企画から実行まで担当された40周年記念行事実行委員会の皆様に深く感謝申し上げます。以上で開会の辞とさせていただきます。

ご挨拶 植木 進策 サンフランシスコ日本語補習校・校長



みなさん、こんにちは。今日は朝早くから、サンフランシスコ日本語補習校40周年記念シンポジウムに多数お集まりいただきありがとうございます。最初に、在サンフランシスコ日本国総領事館・総領事、長嶺安政様ならびに総領事ご夫人長嶺文子様、また北加日本商工会議所教育委員長であり、また本校の理事会の顧問もいただいている富樫正之様、その他多くのご来賓の皆様、そして、そして今日ご講話あるいはご講演を頂く方々には厚く御礼を申し上げます。また、今日は本校の先生方もたくさん来ていらっしゃいます。ありがとうございます。一緒に勉強させていただきたいと思っております。

さて、この会は、本補習校を取り巻く多方面の皆様のご協力を頂き、この創立40周年の節目にこれまでの道のりを振り返り、今我々のおかれている状況を関係者全員で共有し、さらに地域の日本語教育について将来のことを語り合うたいへんよい機会であると考えています。今日は盛りだくさんのプログラムを用意していますが、これからの学校教育また地域の教育に活かしていただければ幸いですと思っています。どうぞよろしく申し上げます。

さらに、今日はお二方の特別講演をお願いしています。非常に私達期待しておるわけですが、午前中には「補習校と私」という演題で総領事ご夫人の長嶺文子様、そして午後には「補習校と国際社会」という演題で、この後ちょっと間違ったらいけないんですけども、カリフォルニア大学バークレー校教授で東京大学数物連携宇宙研究機構長・特任教授の村山 斉さんにご講演をいただきます。

最後になりましたが、この会を準備していただきました創立40周年記念行事実行委員会の皆様、そして関係者の皆様にはお礼を申し上げご挨拶と致します。どうぞよろしくお願いたします。

ご祝辞： 長嶺 安政 在サンフランシスコ日本国総領事



皆さん、おはようございます。ただいまご紹介を頂きました在サンフランシスコ日本国総領事の長嶺安政でございます。今日は私よりもなんか家内の方の話の方が期待されているようでございますので、簡単にご挨拶申し上げます。まず、サンフランシスコ日本語補習校が設立40周年を迎えられたということに対しまして、心よりお慶びを申し上げます。これまで学校を運営されてきた歴代の理事、理事長の皆様方、並びに補習校の運営をいろいろな形で支えていただいております北加日本商工会議所をはじめいろいろな関係者の皆様方に敬意を表したいと思います。また、本日は40周年記念シンポジウムということで、実行委員長、実行委員の方々が作られたこんな立派なシンポジウムがなされるということに対しましても心から敬意を表させていただきます。

私ども外務省の記録によりますと、サンフランシスコ日本語補習校は、日本政府が援助の対象とする補習授業校としては北米で5番目に古い歴史を有するというところでございます。この40年の間に色々な出来事が積み重ねられまして、同校の歴史を形づくってきているわけでございますけれども、なんといいましても第一に私どもとして御礼を申し上げたいのは、補習校で学ぶ子どもたちの幸せ、といいますか、もっと基本的には安全、そういったことがこの学校においてきちっと確保されて、大きな事故なくここまで来られたということに対しまして、先生方、事務職員の方々、それから本邦から派遣された校長先生、教頭先生のご尽力の本当に賜物であろうと思っております。本当に感謝を申し上げたいと思っております。

当館において補習授業校を担当しておりますのは、そこに立っておりますけれども、領事班長の小川で

ございます。私も、理事会に小川が参加しておりますので、学校の運営や授業のあり方などについて毎回非常に熱心に理事の方々の間で夜遅くまで議論がなされているということにつきまして報告を受けております。理事の皆様の間には、時には意見が対立することもあるかと思いますが、それを補習校で学ぶ児童・生徒にとって何が一番大切なのか、何が子どもたちにとっての最大の利益なのか、ということからなにをすべきかと、そういう議論がなされていることで、皆様の共通の熱い思いということがそこにあってそのうえでいろんな議論だろうと私としても拝察しているところでございます。

補習授業校といいますと以前は在留邦人の社会が日本人学校、補習授業校を設立するその目的というのは、日本からお子様方を連れてこられて安心して仕事が出来るといこと、また地方自治体にとりましては、海外に進出する事を計画する日本企業を誘致すると、こういう目的がありました。しかし、最近ですと、特に永住者のご子弟の方々には、むしろそういうことよりも、やはり日本の良き理解者となり、また世界をまたにかけてこれから活躍される、日本語を通じて勉強したということもひとつの資源として本当に世界で活躍していくというそういう人材を育てるといことも期待されているのだらうと思ひます。そういう意味では特にアメリカにある補習校については、やっぱり将来の日本とアメリカの架け橋となるような、そういう若い人材を育成するとい事にも比重がおかれていように思ひれます。

補習授業校は日本人学校に比べますと、たしかに授業時間数に圧倒的な違いがござひます。しかしながら、先生方の本当にご尽力によりまして、我が国の学習指導要領に基づき非常に質の高い授業が行われていると心強く感じております。私も着任以来、授業参観に行かせていただきましたし、また、卒業式あるいは運動会、それからときには先生方との懇親会という形の懇親も含めまして、いろんな場でお話も伺い、また直接体験してまいりまして、本当にサンフランシスコ補習校の充実ぶりというのを身を持って私も感じております。

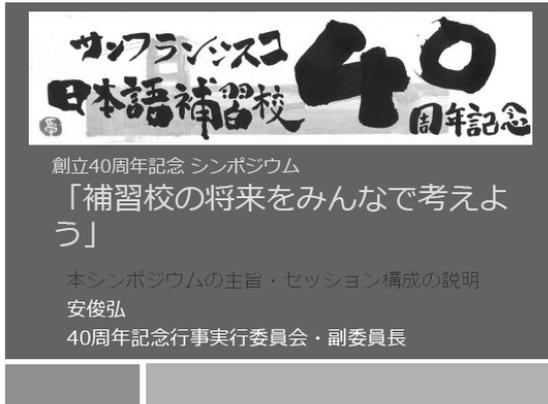
たしかに日本では少子化の傾向がござひますし、また、最近の世界経済の状況などからしましても、補習校に在籍する児童・生徒の数もやや減少する傾向があると思ひます。そういう意味で今後の学校経営を考へる場合にもいろいろ厳しい面もあるかと思ひます。また、厳しい予算事情にある中で、大変、これからの将来を考へて行く場合にいろいろな制約要因といこともあろうかと思ひますけれども、私自身、また総領事館といたしまして、この在外教育施設である補習授業校に対していろいろな援助をどういふふうにもたやっっていくことができるかとい点から、私どももよく検討してまいりたいと思ひます。

最後になりましたが、サンフランシスコ日本語補習校が設立されて以来、今日にいたるまでの歴代の理事あるいは理事長の皆様方、教職員の皆様方、保護者の皆様方に対しまして、心からお祝いと感謝を申し上げ、また補習校の一掃のご発展と子どもたちの健やかな成長を心から祈念をいたしたいと思ひます。



以上、来賓としてのご挨拶でござひますが、実は、今日は折角の機会がござひますので、総領事館は毎年、特に決まった日といことではござひませんが、この地にありまして、日米関係の増進ですとか、日系コミュニティへの貢献等の業績のあつた個人の方あるいは団体に対しまして総領事表彰といのを行つてきております。今年につきましては、補習校が設立40周年を迎えられたといことがござひますので、サンフランシスコ日本語補習校を総領事表彰といことで称えさせていただきたいと思ひます。

つきましては、この場をお借りしまして、わたくしから表彰状を小西理事長にお渡ししたいと思ひます。理事長、こちらまでよろしくお願ひします。ちょっと読ませていただきます。「表彰状、サンフランシスコ日本語補習校理事会殿、貴殿は我が国とカリフォルニア州との相互理解及び友好親善に寄与しその功績顕著なものがあひます。ここに深甚なる敬意を表するとともに表彰します。平成21年8月22日在サンフランシスコ日本国総領事 長嶺安政」(拍手)



開催主旨と目的

- ・ 多くの人々の力が結集した補習校
- ・ 平坦ではなかった40年の道のり
- ・ これまでの関係者の多大なご苦労とご支援に感謝し、
- ・ 40周年をともにお祝いし、
- ・ いつもはなかなか聞けない方々の声に耳を傾け、
- ・ 将来のことを語り合おう。

プログラム（午前）： 歴史・基礎・現在

- ・ 9：00～9：20： 開会
- ・ 9：20～10：10： 補習校制度の歴史と基礎知識
 - 補習校制度の概要と主旨：井上恵嗣（文部科学省初等中等教育局視学官・国際交流ディレクター）
 - サンフランシスコ日本語補習校の歴史：青柳伸之（SFJLC事務総長）
- ・ 10：25～11：30： 補習校の現状と課題
 - サンフランシスコ日本語補習校での経験と提言：榎木進策（SFJLC校長）
 - 運営の現状と課題：松波博之（SFJLC・理事）
 - 補習校での経験：唐橋良行（SFJLC高等部SF校1987年3月修了）
 - 補習校での経験：榎本才志郎（SFJLC高等部SJ校2年）
- ・ 11：30～12：00： 特別講演1 長嶺文子様：『補習校と私』
- ・ 12：00～12：40： 昼食（記念写真撮影）

プログラム（午後）： 提言・将来

- 12：40～14：30： 各方面からの視点と提言
 - 財界からの提言：富樫正之（JCCNC教育委員長）
 - 総領事館からの提言：小川康弘（在SF日本国総領事館・領事）
 - 保護者からの提言：三宅孝明（SFJLC理事、保護者会代表会長）
 - 教員研修受入校からの提言：岩崎陽一（福岡県篠栗町立北勢門小学校・校長）
 - ベイエリアにおける日本語補習教育：吉田栄一（三育学院サンタクララ校・校長）
 - 総括質疑
- 14：45～16：00： パネルディスカッション
「これからの補習校に望むこと」
- 16：00～16：45： 特別講演2 村山 斉教授：『補習校と国際社会』
- 16：45～17：00： まとめ

さらに．．．

- 17：00～17：40： レセプション
- 17：40～18：20： 夕食
- 18：20～19：00： 歓談と優秀写真表彰
- 近隣の補習校を紹介するポスターなどが展示されています。
- 補習校をテーマにした写真展が併催されています。

前口上はこれ位にして…

40年に1度の
「めぐり合わせ」
をお楽しみください。

40周年記念行事実行委員会一同

3.4.2 「補習校制度の歴史と基礎知識」セッション

補習校制度の概要と主旨：井上恵嗣（文部科学省初等中等教育局視学官・ニューヨーク国際交流ディレクター）

 <p>サンフランシスコ日本語補習校創立40周年記念シンポジウム</p> <p>「補習校制度の歴史と基礎知識」 「補習校制度の概要と趣旨」</p> <p>2009年8月22日</p> <p>文部科学省 初等中等教育局 視学官 NY国際交流ディレクター 井上恵嗣</p>	<h4>海外の子ども（学齢段階）の状況</h4> <ul style="list-style-type: none"> □ 海外で生活する義務教育段階の日本人の子どもは約6万1千人（平成20年度） （小学校段階：約4万6千人、中学校段階：約1万5千人） □ うち、北米地区では、その3分の1に当たる約2万1千人 □ 帰国する子どもの数は、年間約1万1千人
<h4>在外教育施設とは、</h4> <p>「海外に在留する日本人の子どものために、国内の学校教育に準じた教育を実施することを主たる目的として海外に設置された教育施設」</p> <p>行政的には以下の3分類</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 日本人学校 <ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和31年にバンコク日本人学校設立 ・ 現在、51カ国・地域に88校（米国にはNY、NJ、シカゴの3校） ② 補習授業校 <ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和33年にワシントン補習授業校設立 ・ 現在、56カ国に204校（米国には89校） ③ 私立在外教育施設 <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、10校（米国には3校） 	<h4>北米地区の在外教育施設</h4>  <p>日本人学校 477人 現地校・その他 8,789人 補習授業校・現地校等 11,779人 合計21,045人</p> <p>北米</p>
<h4>補習授業校とは、</h4> <p>「現地校、国際学校（インターナショナルスクール）等に通学している日本人の子どもに対し、土曜日や放課後等を利用して国内の小学校又は中学校の一部の教科について日本語で授業を行う教育施設」</p> <p>〔特徴〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語を中心に、場合によっては算数（数学）、理科、社会などを加えた教科について、基礎基本を学習 ・ 国内で使用されている教科書を用いて指導 ・ 年間授業日数は40～50日程度（教科書内容を精選して指導） ・ 日本の学校の学習習慣、生活習慣などを指導し、併せて、日本の学校文化に触れる場を提供 ・ 多様な子ども、多様なニーズに対応した教育 	<h4>日本人学校・補習授業校への国の支援</h4> <p>〔文部科学省〕</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 日本人学校、補習授業校への教員の派遣 □ 義務教育教科書の無償給与 □ 教材整備に対する補助 その他、通信教育の実施、国際交流ディレクターの派遣、海外子女教育研究協力校の指定等を実施。 <p>〔外務省〕</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 日本人学校及び補習授業校校舎借料援助 □ 日本人学校及び補習授業校現地採用教員・講師謝金援助 その他、現地採用講師研修会、在外公館を通じた日々の支援等を実施。

補習授業校の特色と意義 (1)

- 政府主導ではなく、保護者有志、地域の日本人会、商工会議所等が協力して設立、独自に発展
- 日本人学校、補習授業校の概念的整理は、政府の支援制度の整備とともに、整理され、実態と概念が寄り添ってきたもの
 - 各地域の実情に応じた独自性をもって発展しつつ、一定方向に収斂
 - したがって、支援制度の枠組みだけで補習授業校をとらえるのは困難

補習授業校の特色と意義 (2)

- 海外の日本人には、直接、憲法第26条（教育の権利・義務）の条文適用はない。
 - 在外教育施設は、学校教育法上の「学校」でもなく、
 - パブリックでも、プライベートでもない（両方でもある）
- 特に、補習授業校は、国内の進学に関連する認定制度もなく、ある意味、国内法的には不安定な存在
 - しかし、逆に、現地校や日本人学校、さらには日本の国内では得られない多くの可能性を秘めた存在ともいえる

補習授業校の特色と意義 (3)

- 補習授業校は、世界でも例を見ない、異国において「日本」を再現するヴァーチャルな教育環境で、いちばん質沢な「遠隔教育」（安先生の昨年度ご講演より）
 - 単なる語学学校ではなく、日本語によって、日本語とともに、日本の学習内容、日本の文化を学ぶ教育施設
- 補習授業校の「補」の示すところは、
 - 海外で暮らす子どもにとって、付録でも、欠けているところを補うものでもなく、家庭・現地校での充実した生活の上に、さらに「プラス」して日本を学ぶ場
 - 教師、関係者にとって、日本と異なる条件下で、そのように、がんばる子どもたちを様々な手段と工夫により、サポートするという意味

サンフランシスコ日本語補習校の歴史：青柳伸之（SFJLC・事務総長）

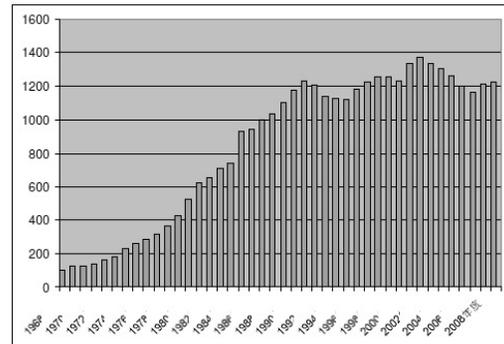
サンフランシスコ日本語補習校 創立40周年記念 シンポジウム

サンフランシスコ日本語補習校
40年の歩み

青柳伸之



児童・生徒数の変遷



サンフランシスコ日本語教室の発足

- 発足 1968(昭和43)年2月
日本語教育を必要とする声が高まり、北加商工会議所下の組織として、サンフランシスコ日本語教室が開校。
- バイン・メソディスト教会を校舎として借用
- 児童・生徒数101人、講師5人からスタート。
- 初代校長 堀 美恵子氏。
- 対象児童・生徒は、小学校1年生～中学校2年生まで。
- 国、算のみの3時間授業。
- 9月に公立のカプリロ小学校へ移転

教会
バイン・メソディスト



カリフォルニア州非営利団体として認可

- 翌年 1969(昭和44)年11月
 - 商工会議所から独立し、カリフォルニア州非営利団体として認可。
- 創立の年とする
 - 公立のアーゴン小学校を借用。
 - 夏期集中学習開始
- 1970(昭和45)年 理科、社会を導入し、4教科に。
 - 小1～小5 3時間、小6～中3 6時間授業。
- 1971(昭和46)年 ロートン小学校に移転。
- 1972(昭和47)年 高1の授業開始(古典を含む国語3時間のみ)

文部省からの派遣教員第一号

- 1975(昭和50)年10月 文部省から派遣教員が着任し、校長に就任(加瀬一郎校長)
 - 児童・生徒数263名、教員14名
- 1976(昭和51)年
 - 小1～小2 3時間、
 - 小3～高2 6時間

加瀬
一郎校長(最上段
中央)



A.P.ジアーニーニ中学校

- 1977(昭和52)年9月 A.P. ジアーニーニ中学校に移転
 - 現在も小学部サンフランシスコ校として借用
 - 今年で32年間のお付き合い
- 1978(昭和53)年
 - 学校便り「やまなみ」第一号発行



創立10周年

- 1979(昭和54)年 創立10周年
 - 記念行事として、
 - 1)運動会、2)日本文化紹介、3)バザーを実施。
 - バザーの収益金から800ドルを借用校等に寄付



10周年記念行事(運動会)



10周年記念行事(日本文化紹介)



10周年記念行事(日本文化紹介)



10周年記念行事(日本文化紹介)



中高部が校舎移転

- 1980(昭和55)年9月
事務局を商工会議所より分離・独立し、モナドノックビルディングに移転。
- 1983(昭和58)年
 - 中・高部がマーケットウェイン高校に移転。
 - 全児童・生徒数707名、教員39名
 - 理事会の諮問機関として評議会を設立。

マーケットウェイン高校



創立15周年

■ 1984(昭和59)年 創立15周年

- 記念行事として、
 - 1) 現地校教師を日本へ招待するプログラムへ参加
 - 2) 第1回オープンハウス実施。
 - 3) 第1回イヤーブック発行



創立15周年

- 中・高部がハーバートファーバー中学校に移転
 - 現在も中高部サンフランシスコ校校舎。
 - 今年で25年
- 事務局をSFダウンタウンにあるフェランビルディングに移転。
現在に至る(25年)

ハーバートファーバー中学校





ハーバートフーバー中学校

昼休み

図書棚

職員室

小学部サンノゼ校が開校

1986(昭和61)年 4月

- クパティーン中学校を借用してサンノゼ校開校
- サンフランシスコ校と合わせて3校舎に
全校児童・生徒数974名(小SF488、小SJ203、
中高283) 教員48名



創立20周年

- 1989(平成元年)年 創立20周年
- 記念行事として
- 1) 校歌の制定
「いつか世界の架け橋に」
作詞 本校生徒 作曲 中村八大
- 2) 記念誌発行
- 3) 現地校講師と本校教師の日本派遣の増員
- 4) サンフランシスコ大地震のため、記念式典を中止し、その費用の全額1万ドルを地震被害者救済のため赤十字に寄付。

企業からの物品寄付

富士通アメリカからワープロの寄付



NECからコンピュータ寄贈



中高部サンノゼ校が開校

1992(平成4)年

ケネディ中学校を借用して中高部サンノゼ校を開校。
児童・生徒数1206名(SF735名、SJ471名)
小SF497、小SJ309名、中高SF238名、中高SJ162名)
評議会が中心となって企業から支援金を募り30万ドル。

1994(平成6)年 創立25周年

記念行事として

- 1) 現地借用校への寄付。
- 2) 児童・生徒、保護者会より、阪神淡路大地震被害者救済のための寄付。

校章の制定

- 1997(平成9)年 校章の制定(公募及び展示投票で決定)
- ホームページの開設

■ 校章の意味

<橋>

ベイエリアを代表するだけでなく、日本とアメリカ、また世界への架け橋に子ども達がなってくれるようお願いを込めた。

<鳥(かもめ)>

ベイエリアでよく見かける鳥でもあるが、明日へまた未来へと飛躍する子ども達をあらわす。

<円>

人の輪、また世界の和を意味する。



サンフランシスコ日本語補習校と改名

- 1998(平成10)年 本校の日本語名をサンフランシスコ日本語補習校と改める。
- 1999(平成11)年 創立30周年記念行事として
 - 1) 現地借用校及びコミュニティセンターへ寄付
 - 2) 記念運動会、球技大会実施
 - 3) 校章入りTシャツの配布
 - 4) オープンハウスの実施
 - 5) 記念式典の実施
 - 6) 記念講演会として永六輔氏
 - 7) 記念誌及びリーフレットの発行。

創立30周年 記念式典



創立30周年

オープンハウス



創立30周年

運動会



創立30周年

球技・スポーツ大会



高等部運営問題

- 2002(平成14)年
 - 文部科学省から、派遣教員は幼稚部・高等部の校長等(委嘱を受けた職以外の職)の業務から外れるよう通知(平成14年10月11日付け)があった。通知を受けて今後の高等部の運営に關して、中高部保護者向けに説明会を実施。
- 2003(平成15)年
 - 高等部の今後のあり方について、全保護者を対象にアンケートを実施。保護者の意見は様々だが、高等部存続に対するニーズは高いことが分かった。
- 2004(平成16)年
 - 全保護者、教職員に高等部説明会を開催。高等部存続を決定。
 - 小学部低学年について4時間授業に延長。活動の時間にあてる。日課表を改定。昼休み90分から45分に。
- 2005(平成17)年
 - 高等部校長を理事長が兼任し、現地採用講師の中から教頭を配置。
 - ボランティアの学校医、学校歯科医が誕生。校歌CD制作。
 - 本校がめざす学校像を検討する「将来像検討委員会」を設置、答申を得る
 - 理事会として6項目のアクションプランを出す。
 - A.P.ジアニーニ校50周年に伴い2000ドルを寄付。

主幹制度のはじまり

- 2006(平成18)年
 - 4月、小学部両校に現地採用講師の管理職として、主幹を設置。また、後期から高等部教頭を廃止し、中高部の主幹を設置。一主幹制度が本格始動。
 - 主幹は派遣教員の指導の下、学校の管理・運営に当たる。
 - 派遣教員は本来業務である現地採用教員の研修に専念できる体制となった。
 - 主幹制度が始まった背景としては、派遣教員が減員となることが確実視されていたため、それまで4校それぞれ1名ずつ配置をお願いしていた派遣教頭に頼ることなく、現地採用講師の中から管理職を選出し、自力で学校運営をしていく必要があった。
 - 派遣教員が5名から4名に減員。

- 招聘教員(平成18年)と日本国内研修(平成19年)計画が始まる。
 - 補習校データベースシステム本格運用開始。
 - 評議会解散(理事会から評議会に諮問し、解散が決定)。

5時間授業体制に

- 2007(平成19)年
 - これまでの6時間授業から5時間授業体制へ移行。理科、社会を1時間枠とした。研修の充実化を図った。
 - 幼稚部開設を決定し、幼稚部開設準備委員会設置。
 - JCCNC教育委員長が本校の顧問に就任。
 - 派遣教員がさらに1名減員され3名に。
 - 後期からほうかごクラブ正式実施。
 - 高等部修了から卒業認定。

幼稚部の開設

- 2008(平成20)年
幼稚部を設置。
両校に2学級ずつ
- 2009年には
サンノゼ校が3学級に

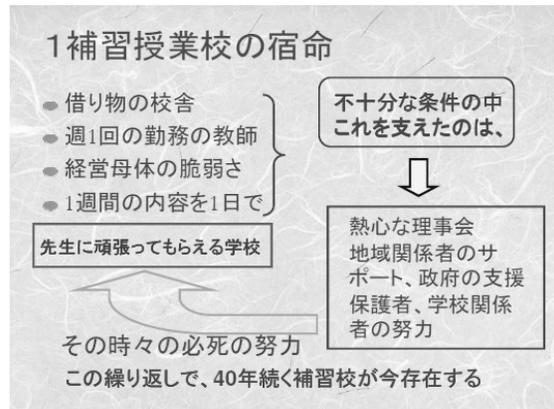


創立40周年 2009(平成21)年 記念行事

- 2月15日
第6回「シリコンバレー寄席」
- 映画「ハッピーフライト」上映会(ANA様ご提供)
- 8月22日
サンフランシスコ日本語補習校シンポジウム
開催
- 10月18日
サンノゼジャイアンツ球場で記念イベント開催

3.4.3 「補習校の現状と課題」セッション

サンフランシスコ日本語補習校での経験と提言： 植木進策 (SFJLC・校長)



2 SF日本語補習校に赴任して(状況)

- 情報の収集(今あること)
 - 補習校の一大変革期
 - ・ 生徒数の減少(1300→1100)
 - ・ 派遣教員の減少(5人→3人に減員)
 - ・ 児童生徒の多様化(国語力、多目的)
 - 手は打たれていた
 - ・ 将来像検討委員会の12の提言(2005)
 - ・ 理事会のアクションプラン作成
 - ・ 現地教員の管理職、主幹制度の実施
 - ・ 5時間授業の実施 (2007)
 - ・ 集中できる授業・研修の充実

先行きに対する期待と不安

2 SF日本語補習校に赴任して(方向)

- 今しなければならぬこと(方向を示す)
 - 改革の方向は新校長も全面的に支持、継続
 - 補習校関係者はすべて支援者、理解いただく説明の努力を。
 - 教員に前向き思考を
 - ・ ピンチはチャンス(クレームは話し合える場)
 - ・ 山よりでっかいシシは出ん(どっしり構えて)
 - ・ 思うところは同じ(子どものより良い成長を願って)

信頼を得る

これからの方向を教職員、保護者に理解してもらおう

2 SF日本語補習校に赴任して(実践)

- 組織としての目標をみんなで共有
 - 分かりやすい目標を共有
 - ・ 日本語を話そう
 - ・ 学習意欲を高める(小中の連携)
 - ・ 本校のフラッグシップは高等部
 - 今の状況を把握(評価)
 - ・ 登リスパイル
 - ・ 研修の充実
 - ・ 歯車が一つ回った



学校としての組織体にて目的を共有することの大切さを実感

3 SF日本語補習校に望むこと(継続)

- 継続した学校運営
 - 将来像検討委員会(2005年度)
 - 理事会アクションプランへの対応(2006年度)
 - 主幹制度の実施(2007年度)
 - 幼稚園開設(2008年度)
 - 創立40周年記念教育シンポジウム(2009年度)

継続した流れ

今後とも

3 SF日本語補習校に望むこと(選択)

- これからの取り組み
 - 継続したプランの実行
 - 新しい課題
 - ・ バラ色の世界
 - ・ 情報の山
 - ・ 多くの要望
- すべては出来ない
地域と共に
メリットとデメリットは表裏一体
今のメリットは

何を検討し、実行し、何をしないかの選択・決断

提言

- 引き継ぐ姿勢を
- 未来に託す勇気を
- 地域と共に子どもを育てて
(それぞれの特色を活かした教育を！)



バトンを繋げて

運営の現状と課題：松波博之（SFJLC・理事）



サンフランシスコ日本語補習校
運営の現状と課題

Aug. 22, 2009
サンフランシスコ日本語補習校・理事
松波 博之

SFJLC 創立40周年シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」

1

Topics

1. 設置目的、教育目標、運営体制
2. 運営環境の分析、現状認識
 - 1) 児童・生徒数の推移
 - 2) 取り巻く環境
 - 3) ベイエリア日本語教育の中での位置づけ
 - 4) SWOT分析
3. 課題と対策案
 - 1) 多様化する児童・生徒への対応
 - 2) 現地スタッフによる補習校経営の確立
 - 3) 保護者・地域とのより良い関係の構築
 - 4) 学校運営の一貫性と柔軟性
4. まとめ

SFJLC 創立40周年シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」

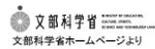
2

補習授業校の設置目的

補習授業校は、

現地校に通学する児童生徒が、【対象】
再び日本国内の学校に編入した際にスムーズに対応できるよう、【目標】
基幹教科の基礎的・基本的知識・技能および日本の学校文化を、【内容】
日本語によって学習する【方法】

教育施設である。



SFJLC 創立40周年シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」

3

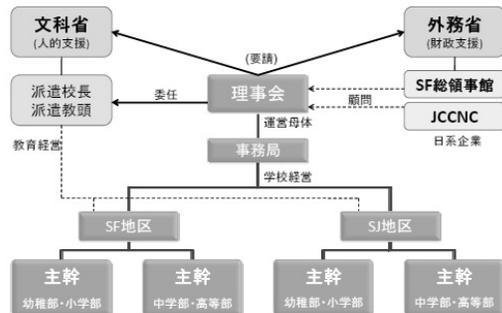
SFJLCの教育目標



SFJLC 創立40周年シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」

(サンフランシスコ日本語補習校学校使節(2009年度より))

SFJLC 運営体制



SFJLC 創立40周年シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」

5

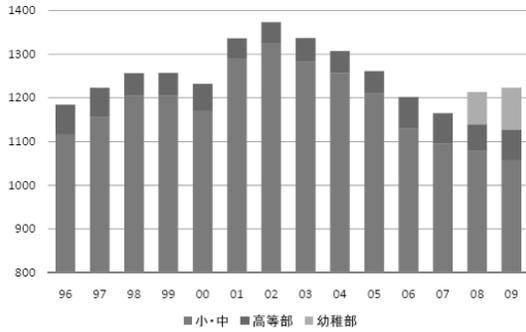
Topics

1. 設置目的、教育目標、運営体制
2. 運営環境の分析、現状認識
 - 1) 児童・生徒数の推移
 - 2) 取り巻く環境
 - 3) ベイエリア日本語教育の中での位置づけ
 - 4) SWOT分析
3. 課題と対策案
 - 1) 多様化する児童・生徒への対応
 - 2) 現地スタッフによる補習校経営の確立
 - 3) 保護者・地域とのより良い関係の構築
 - 4) 学校運営の一貫性と柔軟性
4. まとめ

SFJLC 創立40周年シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」

6

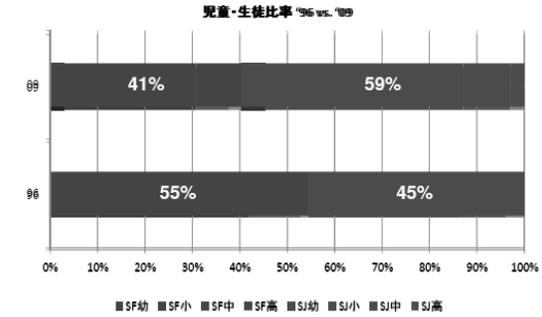
SFJLC児童・生徒数の推移



SFJLC 創立40周年シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」

7

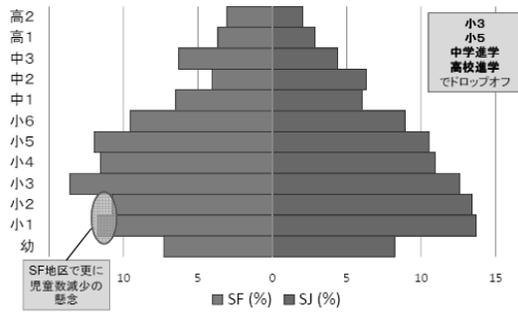
SFJLC児童・生徒比率の推移



SFJLC 創立40周年シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」

8

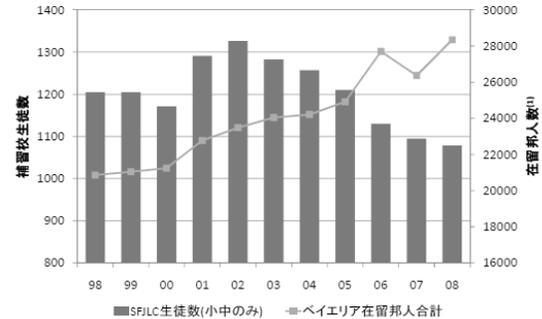
'09年度 学年別ピラミッド



SFJLC 創立40周年シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」

9

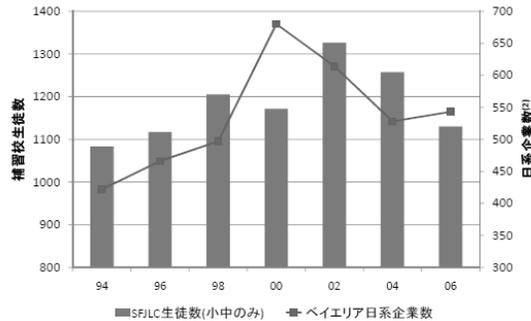
在留邦人数との相関関係



SFJLC 創立40周年シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」

10

日系企業数との相関関係



SFJLC 創立40周年シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」

11

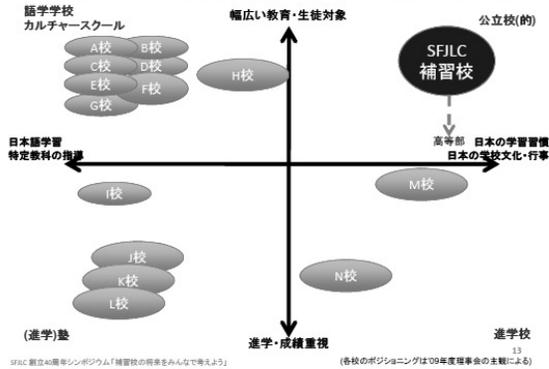
SFJLCを取り巻く環境



SFJLC 創立40周年シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」

12

バイエリア日本語教育の中での位置づけ



バイエリア日本語教育の中でのSWOT分析

Strength	Weakness
<ul style="list-style-type: none"> ●バイエリア最大の日本語学校 ●文科省認定校、派遣教員、外務省からの支援 ●学習指導要領に準じた教育提供 ●様々な仲間と協働し、助け合う環境 ●幼、小、中、高までの一貫教育プログラム ●日本的な学習習慣、学校文化の提供 ●創立40年の歴史と実績 ●熱心な保護者ボランティア ●JCCNC他、日系企業のバックアップ ●Bay Area 全体をカバー ●比較的安価な授業料 	<ul style="list-style-type: none"> ●クラスの中の国語力の格差が大きい ●教員は、SFJLCの給与だけで生計を立てるのは困難 ●クラス担任が途中で変わるリスクが他校に比べ高い ●少人数、個別レッスンなどにやや限界あり ●自前の校舎がない為、授業内容に制限 <ul style="list-style-type: none"> ○他校校舎、調理実習、音楽実習などが難しい ●週末を使った現地校の活動との両立が困難 ●保護者のボランティア負担が比較的大きい ○3、4歳児を対象とした幼稚園クラスがない ●国際学級、日本語専科プログラムがない
Opportunity	Threat
<ul style="list-style-type: none"> ●創立40周年を記念した広報、知名度アップ ●高等部をフラッグシップとする魅力度向上 ●幼稚園・二年保育の検討 ●バイエリアの日本語教育ネットワークを形成する上で、リーディング校を築く ●在外日本語教育施設 → 教育先地校 ●ITを活用した教育プログラム、他校との交流 ●East Bay地区への対応 ●奨学金制度 	<ul style="list-style-type: none"> ●他補習校、塾などの選択肢の広がり ●SFJLCは教育水準が低いといった誤解の広がり ●短期組: 日本帰国前に、補習校を結末進学を目的とした他校(塾)へ転校 ●長期組: 授業スピードや勉強量についていけず退学 ●在校生、派遣社員、保護者の減少、生徒数の減少 ●教員の「教と育」の確保 ●校舎が確保できない心配 ●現地校、地域住民からの苦情の恐れ

SFJLC 創立40周年シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」

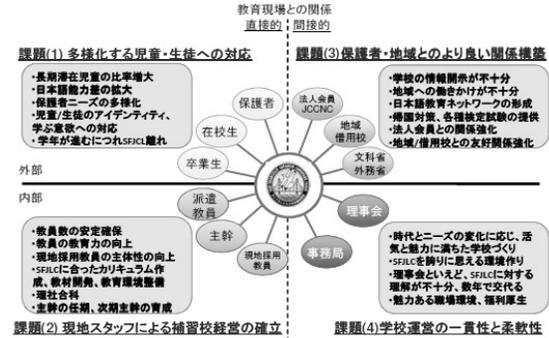
Topics

1. 設置目的、教育目標、運営体制
2. 運営環境の分析、現状認識
 - 1) 児童・生徒数の推移
 - 2) 取り巻く環境
 - 3) バイエリア日本語教育の中での位置づけ
 - 4) SWOT分析
3. 課題と対策案
 - 1) 多様化する児童・生徒への対応
 - 2) 現地スタッフによる補習校経営の確立
 - 3) 保護者・地域とのより良い関係の構築
 - 4) 学校運営の一貫性と柔軟性
4. まとめ

SFJLC 創立40周年シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」

15

ステークホルダーから見たSFJLCの課題



SFJLC 創立40周年シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」

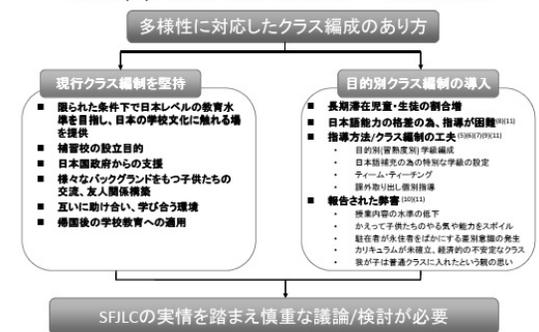
16

課題(1) 児童・生徒の多様化への対応

	短期滞在	長期滞在
主たる目的	現地校では学べない国語、社会を学び、帰国/進学に備える	日本語の保持、日本文化を身につける
期待される授業科目	国、算(数)、理、社	国語を中心
期待されるレベル	日本の公立校とほぼ同レベル	基礎、基本に限定
子どものアイデンティティ	自分は「日本人」	世界の中の「日本人」
補習校での学習意欲	必然/当然	「日本人/アメリカ人」の狭間で葛藤
日本語能力	問題無し	学習言語能力あり、または付ける努力
		目的意識が薄い
		学習言語能力に疑問

SFJLC 創立40周年シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」

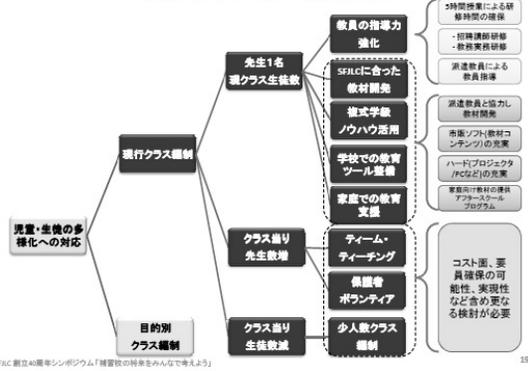
課題(1): 補習校が目指すべき方向性



SFJLC 創立40周年シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」

18

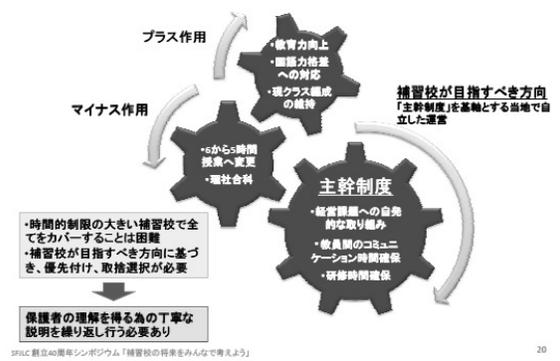
課題(1):対応・解決案



SFJLC 創立40周年シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」

19

課題(2):現地スタッフによる補習校経営の確立



SFJLC 創立40周年シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」

20

課題(3):保護者・地域とのより良い関係の構築 課題(4):学校運営の一貫性と柔軟性



⁽¹⁾全国海外子女教育国際理解教育研究協議会 ⁽²⁾ 補習校校長連会研究協議会
在外教育国際理解教育研究協議会
北米海外児童補習校校長連会
海外子女教育国際理解教育研究協議会への参画

SFJLC 創立40周年シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」

21

まとめ

- ・「SFJLC関係者のたゆまぬ努力と支援」「児童・生徒たちの真摯な学習」「保護者の切なる願いとボランティア」に支えられ、創立40周年を迎える
- ・一方、時代/社会環境の変化に応じて、課題もあり
 - 1) 多様化する児童・生徒への対応
 - 2) 現地スタッフによる補習校経営の確立
 - 3) 保護者・地域とのより良い関係の構築
 - 4) 学校運営の一貫性と柔軟性

’09年度理事会で、引き続き検討/対応して参ります！

SFJLC 創立40周年シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」

22

参考文献

- 1) 在サンフランシスコ日本国総領事館轄内の在留邦人数、外務省
- 2) ベイエリア日系企業実態調査、JCCNC (2006年8月)
- 3) 文科省告示第114号「在外教育施設の認定等に関する規定」
- 4) California Nonprofit Corporation Law
- 5) 海外子女教育だより「気球船」第165号(H15 9月)
- 6) 現地補習授業校の現状と課題、柴田孝之氏、元マドリッド補習授業校教諭
- 7) 日本語補習授業校の教育、森宏介氏、元シンガポール日本語補習授業校校長
- 8) 補習授業校における教育と経営の在り方、山下久一氏、元ダービー補習授業校校長
- 9) 「補習校の将来像を検討する委員会」報告書、村山齊氏、元SFJLC理事長
- 10) 補習授業校の目的と役割、栗原裕司氏、元NY国際交流ディレクター
- 11) バイリンガル・フォーラム設立背景と実践報告、岸本俊子氏、クレムソン大学

SFJLC 創立40周年シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」

23

補習校での経験：唐橋良行 (SFJLC 高等部 SF 校 1987 年 3 月修了)



ただいまご紹介いただいた唐橋良行です。こういう事には不慣れなもので、話がうまくまとまるかどうか分かりませんが、少し私の思い出話などを交えながら話をさせていただきたいと思います。

実は私は親の転勤でサンフランシスコ・ベイエリアに2回来ております。最初は生まれてすぐから小学校入学した直後まで、ですので、小学校入学はサンフランシスコなんです。当時、日本語教室ですね。修了した時も日本語教室でしたけれども。その入学した直後に日本に帰りまして、小学校時代をほぼ日本で過ごしまして、小学5年が終わる頃に、小学6年が始まる直前ですね、また再び来ました。そこでまた再び、このサンフランシスコ補習校に編入したわけです。ですので日本で学校に入学していない、卒業していない。で、今度娘が幼稚園にお世話になる事になって、三度補習校にお世話になる機会に恵まれております。小学校入学した時というのはかなり昔なので記憶が非常に薄いんですけども、その時の入学の写真が家のどっかにあるはずなんです。それを一生懸命さがしたんですけども、見つかりませんでした。カラー写真で良く写っていたな、と思っているんですけども、皆様にお見せできなくて申し訳ありません。ほっとしているところもあります。その後二回目、小学五年の時にこちらにまたきまして、それからその後1987年3月に高校を終了するまで補習校にお世話になったわけですが、その22年の間にいろいろありました。いろいろ話すと延々と話すことができるんですけども。

実は私の兄と弟、3人兄弟なんですけれども、彼らも日本語補習校の修了生です。彼らの話、本当は聞いてきてここで話をしたいなと思っていたんですけども、考えてみますと、我々兄弟3人の補習校時代を振り返りますと、補習校がどんどん変わっていった、変革があった時期なんですね。例えば、わたしが中学校に上がる時、中高部がAP Giannini から隣の今はなくなってしまいました Mark Twain 校に移ったときでした。その次の年には Hoover 校です。15周年の1984年、これは私が中学3年の時でイヤブックスが初めて発行されたときですね。今回持ってきて皆様にお見せしようと思ったんですけど、受付のところに1984年というのがありましたね。これには当時同級生に書いてもらったメッセージなどいろいろあります。もしご興味があれば、恥ずかしいところもありますけれども、御覧下さい。ちなみに、これの前に、私が小学6年が終わるとき、昭和56年ですから1981年、小学校卒業アルバムというのがありまして、本当にアルバムで手製の昔の糊のところに写真を貼ってその上に透明のプラスチックをというやつなんですけれども、これも持ってきました。受付のところにありますので、もしご興味があれば、どうぞ見てください。かなりぼろぼろになっています。無事に帰ってくることを信じています。それを考えながら、なんで1983年とか82年のイヤブックスがないのかな、と思って84年を読み返して、あ、そうか、これが初めてなんだ、そのときにいたんだな、と。

兄の話になるんですけども、学年としてはひとつ上なんですけれども、兄が高校に上がる直前まで、サンフランシスコの高等部の人数は非常に少なかった記憶があります。生徒の元気がなかったような、ちょっとおまけっぽい感じ。で、その頃ちょうど日本企業がどっと増えた時期だったと思うんですけども、補習校自体の生徒数もどンドン増えていって高等部の数もどっと増えた。イヤブックスなど見ると兄の学年の人数が非常に多くなっております。それで高等部に元気が出て、自分が行く時には高等部は元気いっぱい。弟は学年が3つ下なんですけれども、高等部、高校2年を修了するときは20周年の年でした。私の母が何故か保護者会の会長をやっております、20周年の記念の本を見ますと唐橋あきえなる人物の挨拶が載っています。

先程いろいろ話がありましたけれども、私の時代というのは日本の帰国子女への帰国子女枠がまだまだ

未熟であった時代、どんどん確立されていった時代ですので、本当に中学校時代にどんどん帰国していった同級生が数多くいます。中学2年もしくはは3年はじめの時に帰って日本の中学に編入する、そして高校入試にそなえるという組が一つ、それとこちら現地校で9年生、ハイスクールフレッシュマンを終えて、9年間の教育を終えて日本の高校に入る。その頃には日本の大学の帰国子女枠というのが確立されていて、こちらの高校出て日本の大学に進むのもありかな、という話が出てて、みんなSATで何点取ればどこに大学でも行けるらしいぞ、という噂が広まって、こちらで補習校高校2年を修了して現地校の高校を卒業してそれから日本の大学に行くということもありました。私はその中で例外的にこちらに居残って、大学、大学院と進んだわけなんです。それでも私の時代4、5人は居残った同級生がいたと思います。最近連絡もなくて、みんなどうしているのかな、と思っていますが。

さて、最近になって思い出したんですけれども、ついこないだですが、私が中学3年だったか高校1年だったか、夏に一時帰国していたんですね。その時に、何故か東京でサンフランシスコ補習校の私の学年の同窓会をやるという話が出たんです。当時FacebookだとかMixiなどないですし、E-mail、携帯電話すらない時代でみんなどうやって連絡とりあったか憶えていないんですね。どうやって連絡先を探し当てたのかも不思議なんですけれども、連絡が取れて東京で30人ちょっと集まったと思います。みんなやっぱり親の転勤で来ていたりとか、必ずしも知らないんですね。忘れてる場合もありますけれども、補習校というキーワードで、ああ、あの先生知っているか、ああ、知ってる知ってる、その先生は忘れたけれど同じ学年にいたはずだよ、どうしたんだろう、忘れちゃった、わっはっは。。。それで盛り上がるんですね。

ちょっと話が飛ぶんですけれども、私、年1回ロスアンジェルスで日本のアニメのコンベンション、アニメ・エキスポというのがあるんですけれども、そこで長年通訳のボランティアをやっています、そうするとこっちにいる日本の方もいろいろ会うんですけれども。現地で生まれ育った日本人、それこそ補習校で入学卒業したという人達もいろいろ会うんです。たしか2年前だったかな、私たちサンフランシスコ補習校の卒業生です、という女の子二人に会いました。え！サンフランシスコなの？場所柄ロスアンジェルスで補習校の卒業生にはよく会うんですが、サンフランシスコというのは初めてだったんですね。それで話が盛り上がったんです。

さらに話は変わるんですけれども、私、少林寺拳法というものをやっています、中高部主幹の牛島先生とも付き合いが長いんですが、サンフランシスコの少林寺拳法の支部恒例の行事としまして、桜まつりフードブースを手伝うというのがあります。そこで、今年だったかな、牛島先生と私、手伝っていたんですけれども、かわいい女の子二人が来まして、牛島先生、お久しぶりです、というんですね。私もそばにいたので振り返ると、そのコンベンションであった二人だったんです。あれ、なんでここにいるの？私は少林寺拳法で牛島先生とつながっている、少林寺拳法、補習校、牛島先生。話が盛り上がったんです。

こういう小さい出来事なんですけれども、人の輪というのは確実に存在するもんだと思います。公だったつながりを少しずつでも大きくして強くしていけば、必ず良いものになるのではないかなと思っています。そういった観点からひとつの提案なんですけれども、補習校の同窓会というようなものがあるのではないかなと。本当に40年間に卒業した人達も多いですし、数年間在籍したという人も多と思います。そういった人達が今や私のように大人になって子どもができて補習校にお世話になっているという人もなかにはいるかも知れません。そういった今の在校生の保護者会だけでなく、OBの集まりというのがあれば補習校のお手伝いができるのではないかなと。自分も自分の娘が入るまで22年間、なんにもしてきていなかったの偉そうなことは言えないんですけれども、お手伝いできることはしていきたいなと思っています。身勝手なところなんですけれども、娘の教育ということもありますので。

40周年、おめでとうございます。ご清聴ありがとうございます。

補習校での経験：榎本才志郎 (SFJLC 高等部SJ校 2年)



本日はこのような場でお話しする機会を頂き有難うございます。11年間通ってきた補習校生活の区切りを付けるという意味でも、今日このように私の経験をお話できるという機会をととても嬉しく思います。

思い起こせば、私が入学した年が丁度30周年記念の年で、揃いのTシャツを着て運動会に臨んだことが思い出されます。そして卒業を迎える高校2年生の今年、このような記念行事に臨めることはとても感慨深いことです。

来年3月に私は卒業します。中学部に入ってから現地校のマーチングバンド部に所属するようになり、両立が厳しくなりました。しかしながら、支えあう仲間や信頼の出来る教職員の方々のおかげで、なんとかここまでやってくることが出来ました。あと半年残っているのですが、これからどうなるかは分かりませんが、今私の胸の中には一つのことをやり遂げようという、期待と緊張でいっぱいです。おそらくこの気持ちは、何年か前の私では考えられなかった気持ちだろうと思います。

さて、私の補習校生活の始まりは、わけもわからずある土曜日どこかの学校に連れて行かれて入学したことでした。最初は新しいことが習える、家の外でも日本語が話せると喜んでいたように記憶していますが、数年たって「なんで土曜日にまで学校に行かなきゃいけないんだ」という考えが先行していくようになりました。3年に進級したときに児童会というものを知りました。元々活発でなく、昼休みも何をするでもないような子供だったので、私の気持ちとしては、自分が学校に登校する理由の一つとこじつけ、児童会委員になりました。当時は少しでも学校のために自分が頑張っているのだと鼻が高かったのですが、今になって振り返れば、もう少し出来ることがあったのではないかと度々思うことがあります。

私にとって児童会はある意味自分の居場所みたいなものとして自分の中にありました。しかし、自分の居場所を探せずに辞めていく児童が少なからずいると聞きます。補習校では国語、算数・数学、社会と理科しかないため、普通の学校にはいる「臆病のくせに絵がうまい奴」「勉強は出来ないけど運動神経抜群の奴」「普段無口なくせに音楽が出来る奴」のような子供が居場所を失うことがあるからかもしれません。それを防ぐために、クラブ活動等の課外活動のような場を学校に設けるなどして、私のように、補習校を「勉強だけの場」とは思わず、それ以外でも楽しめるような学校であれたらいいなと思います。

アメリカに14年住んできて、色々な友人と出会いました。日本人の数だけでも幼い頃から合計すると百五十人は優に超えるだろうと思います。小学一年生のイヤブックでの顔ぶれと今の高校二年生のクラスを比べてみると、私の学年で11年間通ってきた人は私を含み八人しかいません。ちなみに、小学一年生当時の私の学年には92人、今の私のクラスは15人です。そのうちに転入してきたもの、辞めていったものの数は計り知れません。成長途中の私にとって最も辛かったのが友達の引越しでした。小学校のころから仲良かった友達が次々と日本へ引っ越したりした日等は、今もはっきり覚えています。当時の小学生は携帯電話などもっていなかったし、インターネットの普及率も今と比べればずいぶんと低かったので今では当たり前になっているメールやチャットなどの方法もなく、連絡の取りようがありませんでした。小学校のとき、そんな経験が自分を驚かせてしまったことがあります。普段から一緒に遊んでいる友達はいつもそこにいると思込んでいたため、いざ居なくなると心に穴が開いた気持ちになった、ということです。私は子供のころは案外冷めていた嫌な子供で、良く同級生と喧嘩していたことがありました。「どうせ仲直り出来るだろう」と思っていたら夏休みに入ってしまう、二学期目にはいると彼の姿はクラスにありませんでした。急な帰国だったそうです。仲直りする間もなく急に帰ってしまい、それ以来連絡は取れていません。私はそのときになって初めて自分の性格難に気づき、後悔しました。移り変わりが激しい補習校なだけに、そのようなケースが二度とおきないとは限らないので、その日を境に私が変わってみようと思いました。小学4年の秋でした。

小学部を無事卒業し、中学部に進学して、一つ気づいたことがありました。小学校では学校というよりは塾に近い雰囲気、児童一人一人の学業が最も重要視されていました。児童も先生に言い渡された課題をこなすだけの一方通行の教育になっている気もしました。中学部に入ると、そのような堅苦しいイメージのようなものが薄くなり、自分の意見を主張できる場が増えたり、クラスや学年ごとの団結力が生徒一人一人にとって大切なものになったりとしてきました。よく、「転校生はクラスに慣れるのに時間がかかって、その後友達を作るのにさらに時間がかかる」ということを聞きますが、中学入学以降ではあまりそういうことは見かけなくなりました。日本のあらゆる所から集まっているのでカルチャーショックのようなものも少ないから、と言うのが少し前までの私の考えでした。しかし、理由はそれだけにとどまりません。というのも、お互いを尊重できるようになっていき、人間性も育成されていくようになっていったからです。そのため「規律や規則が厳しい」という生徒も増えていますが、スケールは違えどちゃんとした日本語を学ぶ学校ですので、私としてはこのように日本の学校に近い境遇があってもよいと思います。

日本の中学や高校では文化祭等の行事で学校としての団結が図られたりします。残念ながら補習校の中高部ではそのような大掛かりな行事を実行することは出来ませんが、その代わりにスポーツ大会や特別授業などにクラスごとが力を入れている行事があります。そこでは生徒が主役です。個人の勉強のみの塾には無い、学級の団結力をさらしだせる場、そして普段あまり関わりを持つ機会が少ない他の学年の生徒との交流もあるのでとても面白いです。不思議なことに学年ごとの大まかな性格の違いから、ほかの学年が演じる劇でも私達とは根本的に表現の仕方が違ったりすることがあり、そこがまた面白いです。機会が少ないからこそ、一つ一つの行事の重要性を実感出来ることを、私は今後忘れることは無いでしょう。

私は運良く11年間とてもいい先生方に担当してもらいました。その中でも印象に残る出来事があります。先ほど述べた「お互いを尊重する」という私達の考えは、元をたざせば中学時代のある先生から教えていただいたことでした。その先生は、私達を教え子としてだけでなく、一人一人の人間性を理解してくださっていました。ただの担当科目を教えるだけの形みの先生ではなく、私達と向き合い、意見を決して頭ごなしに却下せず、それぞれの考えを尊重してくださった先生でした。残念ながらその先生はお辞めになりましたが、今でもあの先生に感謝しているというクラスメートは多く、私達の今のクラスのモットー「一致団結してお互いを高めあおう」というのも、少なからずその先生の考えが入っていると思います。

今私は中学部、高等部と進学してきて本当に良かったな、と感じています。しかし中学部に進学しなかった人達や二・三年周期で帰国してしまった人達は、補習校をどう感じていたのだろうか、と思うことがあります。補習校には他に胸を張って自慢できることが沢山あると思いますが、色々な問題のみが着眼されて全体のイメージが下がっているようにも思います。児童や生徒達が純粋に学校生活を楽しめるような環境になってほしいと思います。

補習校では生徒が一人一人個性を持ちつつ全体のクラスが結束しているのが強みです。よく言われる「永住組」がクラスの核を担い、新しい息を吹き込んでくれる転入生は、もう一つの強みとなります。日本人は良く没個性だと言われがちですが、カリフォルニアで育ってきた私達にとって個性は無くしてはならない物だと教育を受けてきました。まさしく補習校とは日本の良さ、アメリカの良さを持ち合わせた場所だと信じています。私はそこで学べたことは一生の宝だと感じていますが、全ての補習校の在校生の皆さんにもそう感じて貰いたいと願います。

来たる10月18日にサンフランシスコ日本語補習40周年記念行事が行われます。私達サンノゼ校在校生は、これまでサンフランシスコ校の皆さんとの交流を持つ機会がありませんでしたので、そのような交流の場が出来ることを心から嬉しく思い、素晴らしい行事となることを期待しています。

最後となりましたが、補習校創立50周年、はたまたそれ以降の記念行事が後に続くような本校の更なる発展を心よりお祈り申し上げます。

3.4.4 特別講演 1

長嶺文子様（総領事夫人）：『補習校と私』



サンフランシスコ日本語補習校創立 40 周年おめでとうございます。

この度は、40 周年記念シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」に参加させていただきまして、ありがとうございます。このような立派な企画の講演者として参加すること、恐縮でございますが、私といたしましては、子供のころ日本語補習校と日本人学校で学ばせていただき、その恩返しのつもりで本日参りました。「補習校の将来をみんなで考えよう」というテーマの中で、私の経験談、つまり過去のお話をするこ

となりますが、未来へも受け継いでほしい補習校の素晴らしさを語らせていただきたいと思います。

実は、このお話をいただきまして、ひとつ悩んだ事は、私の年がわからないようにお話を進めることができないかということでした。でも、潔く告白いたしますと私は、今年、半世紀を迎えます。ですから、私が通った頃と言いますのは、日本語補習校または補習教室ができて間もないころということになります。サンフランシスコ日本語補習校は創立 40 年ですが、私は 40 年以上前に、韓国とオーストラリアで日本語補習授業を経験しております。ソウルでは、まだ日本人がほとんどいなかったときでした。シドニーでは、補習校から全日制に移行し、日本人学校は初代 4 年生として入学しました。そしてニューヨークの補習校は、私が通い始めたころの 1972 年には、すでにマンモス校として大変活気がありました。中学終了時に学んだテキサスのヒューストン補習教室は、できて 2 年目でした。このように、私は補習校の始まりを体験し、補習校の原点を経験したと申しても過言ではないのです。なお、このように父の仕事の関係で引っ越しが多かったので、現地校も何回も転校しましたが、私の場合は、在外および日本でも、現地校は一貫して聖心女子学院の姉妹校でした。従って現地校への溶け込みは、比較的スムーズにできたと思っています。

さて、初めに簡単に、私が在籍した補習校の思い出を少し述べさせていただきます。実は、記憶だけでは心もとない所もあったものですからインターネットで調べてみたところ、残念ながら私が通っていたと思われる補習校については、ほとんど記載されていません。今ある補習校の前身であるか、まだきちんと補習校として認定されていなかったためだと思います。

韓国には、父が大使館を設立する初代メンバーとして赴任し、しばらくして母と一緒に小学校 1 年生の時、参りました。現在、ソウルには日本人学校がありますが、日本語補習校の存在についてはインターネット上では確認することができませんでした。今から思えば、正式な補習校ではなく、土曜日にボランティアのお母様が補習授業を教えて下さったのではと推測します。学校としての体制も設備も整っていない簡易なものでした。もちろん、これがのちの日本語補習校、または日本人学校の原型だったのでしょうか。私の記憶には、ひとつの部屋の中に上級生と一緒に女性の先生が国語を教えて下さっているシーンが残っています。そして、まりちゃんと佳代子ちゃんという二人のお友達がいたこと、大変希少だったマンガや本を交換することが何よりうれしかったことなど断片的に覚えています。当時の韓国は、日本と国交が開かれたばかりで、不穏な空気もあり、子供心に不安もありましたが、保護者が協力してなるべく良い環境を作ってくれたのだと思います。補習校としてではなかったですが、日本人コミュニティーの皆様とピクニックのようなものに行き、補習授業で一緒にの皆様と思い出深い一時を過ごしたことを覚えています。日本では小学校に上がらずに参りましたので、ここが私にとりまして初めて日本語を教えていただく場となり、単純に楽しかったことを記憶しています。

約一年半後、ソウルからシドニーに転勤になりました。すでに、英語はある程度習得しておりましたので、現地校の勉強は問題なく、補習校の授業も余裕を持って受けることができました。ですから、この時

期、補習校で大変多くを学び吸収したように思います。シドニーは環境も良く、自由に遊びに行くことができたので、補習校の友達と授業の後、海に泳ぎに行くなど楽しい思い出がたくさんあります。途中で、全日制が開校することになり、補習校の仲間がそのまま全日制日本人学校に移って、教会の講堂を借りて校舎とした新しい場所での立派な入学式が行われました。1969年5月に全校生徒33名で始まったと学校のホームページに書いてあります。校長先生以下、何名か日本から新しく先生がいらっしゃり、全教科、週5日間勉強しました。短い間でしたが、この後すぐ日本に帰国することとなった私にとっては、補習校から全日制に移ったことで、日本の学校に編入するための準備段階を踏むことができよかったですと思います。

その後3年強ほど東京にいて、中学1年生の冬休みにニューヨークに参りました。ニューヨークの補習校には、専任の校長先生もいらっしゃり、とにかく人数が多く、1学年に3、4クラスはあったと思います。当時は、マンハッタンのウェストサイドで公立学校を間借りして行われていたため、郊外に住む友達は、チャーターバスで毎週、遠足のように楽しそうに通ってきていたことをうらやましく思いました。ここでは、お弁当を持参して国語、算数、理科、社会4教科を学びました。ほぼ日本の学校と同じように文化祭があったり、テストをしてクラスで対抗意識を燃やしたりと私が通った他の補習校とは違って、本当の学校らしい雰囲気がありました。金曜日の放課後はベビーシッターをしていたのですが、子供が寝静まると翌日の補習校のための宿題をせせせとするのが毎週の過ごし方でした。

ニューヨークからヒューストンに引っ越したのが、74年でしたが、ホームページで見た学校便りには、「ヒューストン日本語補習教室は、幼稚園部、小学部、中学部まで6学級を設置。児童数50名、教員数4名で昭和47年[1972年]3月に初めて授業を行った」と書いてありました。ですから私が通い始めたのは、開校後2年ほどたってからということになります。ホームページにあったヒューストンの学校便り、バックナンバー98号から3回ほどに渡って、学校の歴史が連載されていて、それを見つけたときはうれしくなりました。中学生ともなりますと各々自分の意見をはっきり言うようになります。教室に使っていた小さな部屋には、2つの小さなテーブルをつけ、その周りを囲むように座り、先生も生徒も一緒になっている論じ合ったことが思い出されます。先生と生徒合わせても6人ほどだったと思います。ヒューストンで中学三年生を終了して、義務教育が終わり、私の補習校との御縁はここまでとなりました。名前も補習校、補習教室などまちまちで、普通の学校と同規模のニューヨーク以外はクラスメートも一握りしかいない所でしたが、私にとって、今日、日本語でお話ができるのは、これらの補習校のおかげだと感謝しています。

では、具体的なお話をいたしましょう。

私にとっての補習校はもちろん基本的には、国語と算数、ニューヨークでは理科と社会もですが、これらの教科を土曜日に勉強するところでした。そして、現地校と補習校に通う二重生活をしているという同じ経験を共有する友達がいるところ、すなわち、ホッとするオアシスのようなところでもありました。私が通っていた頃の補習校では、その在校生のほとんどが駐在員の子弟だったので、日本に帰国して困らないように日本語をしっかり勉強し、日本の学校の雰囲気を味わい、日本人のお友達を作ることを目的としていました。韓国でマンガの交換を楽しみにしていたという話をしましたが、中学3年生まで補習校の大きな役割は、友達とマンガや本を交換できる所ということでした。先生にはちょっと申し訳ありませんが、やはり、現地校と補習校と二重生活をしている子供にとって、それなりのプレッシャーがあるのです。現地校では、どうしてもなれない英語で勉強し、友達と遊ばなければなりません。また、英語ができるようになって、やはり、習慣や感覚が違うことから、自分が溶け込んでいないように思うこともあります。私のころは、ほとんど、日本人が現地校にいなかったので、何かにつけ、私のことを称して「日本人は」というように見られることが多かったです。たとえば「日本人は起用ね」とか「日本人は算数が好きね」とかです。そこで、子供心に日本人を代表しているような感覚になり、往々にして海外で育つと愛国心が強まると言われますが、日本のために頑張らなければとといった思い入れも生まれてきました。さすがに、良い印象を与えられるよう、弱みを見せないようにと肩ひじ張って生きているような気疲れもありました。そのような時、日本語補習校で同じような思いをしている友達と日本語で遊べるということ、気分転換のマンガを貸してもらえらるということは大きな支えになっていました。大げさかもしれませんが、楽しく補習校に通う理由の一つに、マンガは必要不可欠でした。そして、いつも補習校に行きたいという気持ちを

持っていたので、勉強もおのずと励みました。もちろんマンガだけでなく、少年少女文庫のような本も人気でした。ちなみに母は、いつもやたらに本をたくさん持って引っ越しをしました。補習校の授業と併用して、家庭で本をたくさん読むことの重要性を母は教えてくれました。

当たり前ですが補習校に通っている生徒は、必然的に現地校と補習校の両方に通うということになります。補習校の強みは、現地校での異文化経験の中で日本人としての自覚を相対的に味わうことができることです。現地校で週5日過ごし、その体験と比較して補習校で学ぶことは、日本と外国の両方の世界をそれぞれ確固たるものにしてくれます。国際社会に生きる日本人として、子供のころに自然に現地校と補習校を行き来することにより、両方の長所と短所を知るひととなり、それは、その地と日本との長所と短所を垣間見ることにもつながります。例えば、欧米諸国では、個性、自立心などが尊重され、日本では、集団行動ができる協調性や相手を慮る気持ちなどが美德とされます。どちらもバランスが崩れれば短所になりますが、適度にこれらを発揮することは長所です。現地校と補習校に通う生徒は、簡単にいえば、この両方の世界を経験しているので、どちらも大切で、かつ、どちらも過ぎたるは及ばざるがごとしということを実に理解し、身につけることができるのだと思います。一般論化はしたくはありませんが、日本に戻りますと、帰国子女は自己主張が強く、目立つ存在になると思われがちですが、実は、しっかり日本的な和を尊とぶ心を持って上手に溶け込む子供も多いのです。もうひとつの言い方をすれば補習校に通う子供たちは、適応性に優れるということです。もちろん性格にもよりますので一概には言えませんが、器用に二つの世界を行き来することは、順応性、適応性がなくてはできません。臨機応変にそれぞれの環境にあった対応ができるようになります。

シドニーの日本語補習校には、双子の姉弟がいて、この二人も海外から移ってきたので、英語の方が得意でした。他の生徒は日本から直接来た子供でした。確か5~6人のクラスだったと思いますが、異なったバックグラウンドの子供たちがいて、お互いにそれぞれの違いを認識し、その上で仲良くなりました。このように、自分とは違うと認識する友達は、現地校にたくさんいましたが、補習校でも一律同じではなかったのです。

実はこの一月にこちらパークレー大学で客員教授をしていた劇作家の Philip Kan Gotanda 氏のお手伝いで、英語で書かれた夫婦の会話劇を実験的に日本語と英語のセリフで読み合わせをするという舞台に出演させていただきました。簡単に説明しますと、アメリカ人の夫と日本女性の夫婦が感情的に言い合う場面を、英語の夫のセリフに英語から日本語に訳した妻のセリフを組み合わせて会話をするというものでした。リハーサルの時は、これは実験的な演出なので実際にはあり得ない状況だと思っていました。ところが、本番では違和感はありませんでした。今、考えてみますと、この状況は補習校でのケンカによく似ているのです。先ほどの双子の姉弟は、転校した頃の頃、ケンカになると英語になりましたが、他の子は、日本語で言い返すのです。つまり、どちらも自分の得意とする言語でまくし立てているのですが、そして、お互い相手が言っていることが分かっている場合とそうでない場合がありますが、なぜか、つじつまが合い、第三者として見てもそのケンカの内容はわかるのです。まるで言語が3Dになったような不思議なコミュニケーションが行われているのです。

補習校という小さな凝縮した社会では、入れ替わり立ち替わり異なった経験を持った子供たちが集まり、日本語を聞いて英語で答えるなどケースバイケースで応用した言語コミュニケーション能力が備わり、子どもたちは、どんな転校生もすぐに同じ仲間として受け入れるのです。この許容範囲が広いといえますか、何でも受け入れられるという適応性こそが、自分とは違う人々を除外するのではなく、また、一面だけを見るのではなく、いろいろな可能性も含めて認め合うことができるのです。もちろん補習校に長期在籍すると皆日本語でケンカもできるようになりました。ちなみに、ケンカの時、日本語が出てくるかどうか、日本語が上達したかのバロメーターになります。

私が通った補習校は、ほとんどが出来て間もないものばかりでした。きっと、先生方も専門家ではなく大変ご苦労もあったことと今になって思います。でも、手作りの温かい雰囲気があり、少人数だったので先生が一人一人に注意を注いでくださいましたことは、生徒として恵まれた環境だったと思います。2学年合同授業などもあり、授業の内容としては、日本の学校の半分もできなかったかもしれませんが、ノル

マを達成するというよりは、生徒が少しずつでも、その子なりに上達することに目標を置いてくださっていたのではと思います。

先生方は、一生懸命、レベルの違う生徒たちの皆が興味をそらさないように勉強を教えてくださいました。これは大変なことだと思います。また、ニューヨークほどの大きな補習校でも、先生方は、生徒一人一人と接して下さり、文化祭などは、一緒になって楽しんでくださいました。文化祭がどういうものかわからない生徒も多く、また準備の時間も限られていたのですが、皆、率先してアイデアを出して結構本格的なものができるように記憶しています。でも 現地の公立校を間借りしていたので、汚さないように、傷つけないようにと先生方が気を配っていらっしゃったことも覚えています。

さて、私の大切な宝物として今日までもっているものがこの「昭和 49 年度全国作文・詩コンクールに対するヒューストン日本語補習教室児童・生徒応募作品集」です。今回、このお話があったので一時帰国したとき日本から持ってきました。引っ越しが多かった私は、あまり思い出の品を持っていませんが、この文集は、先生が在校生徒の作品を丁寧に書き写し、ガリ版刷りで作り配ってくださったもので、先生の努力と熱意に感激しました。40 ページにわたるこの文集をおひとりで写されたのです。幼稚園から中学 3 年生まで 37 名の作品が載っています。これを見るたびに補習校の先生たちへ感謝の気持ちでいっぱいになります。

私は、今お話をいたしましたように、父の転勤に伴い、補習校を渡り歩きました。振り返ってみて、どの補習校も私にとっては感謝しなければならない学び舎です。確かに、子供ながらに学校を変わって、お友達と別れて、新しい友達を作るということの繰り返しでしたので大変でなかったはずはありませんが、私は、海外で生活することを親の仕事のために苦勞を強いられたという感覚ではなく、現地校と補習校と普通の 2 倍も楽しさが味わえる、日本と外国の両方に親しみ、国際人としての感覚を身につけるといふ、貴重な経験ができたことと喜んでます。日本語補習校は、日本人の子供たちにとっては、オアシスのようなところ、日本に帰るまで英気を養い、心穏やかに、健やかに学ぶところでありながら、こちらに永住して補習校に通っている子供たちとともに新しい未来に向かって日米両国の相互理解ができる貴重な担い手を育てるところだと強く思います。

最後になりましたが、去年はサンフランシスコ校、今年はサンノゼ校の運動会に夫とともにお招きいただきました。ありがとうございました。



サンフランシスコ補習校の行事に出席させていただき、その素晴らしさに、先生方のみなみならぬ努力と熱意を感じるしだいです。生徒たちが生き生きと競技に参加し、先生と一緒に父兄の皆様もボランティアとして汗を流している姿を拝見して、先生、父兄、生徒が一丸となって望んだ運動会は、印象的でした。去年は、卒業式にもお邪魔いたしました。立派なお式に心が熱くなりました。良く、サンフランシスコ補習校の卒業生の父兄にお話を伺うことがあるのですが、その時、皆様、異口同音に現地校との両立は大変でしたが、卒業まで途中で断念しないでしっかり通ったことは本当によかったという声

を聞きます。確かに、たとえ週一回でも継続することは何よりも代えがたいものです。卒業式に臨んだ生徒たちが誇らしげに達成感を味わっている様子を 拝見してうれしかったです。

このサンフランシスコ補習校は、世界の補習校の中でも規模の大きい補習校として、大勢の生徒を育て、世に送り出しています。先生の心のこもった細やかなご指導、父兄の熱心な応援と協力、生徒達の前向きな姿勢と努力のおかげで素晴らしい補習校として、40年後も思い出すことでしょう。40周年という節目の年から、ますますのご発展をお祈りいたします。

3.4.5 「各方面からの視点と提言」セッション

財界からの提言： 富樫正之（北加日本商工会議所（JCCNC）・教育委員長）



ただいまご紹介にあずかりました富樫と申します。北加日本商工会議所で教育委員長を担当しています。このたびは補習校創立40周年記念、関係者の皆さん大変おめでとうございます。午後一番、特に午前中素晴らしい講演が続いたあとで、非常に困ったなあ、と。しかもいろいろと内容が重なってくるものですから、だんだん自分の話すことが減ってきているなあ、と。20分時間を戴いているんですが、この遅れた10分、回収出来るかな。

私の紹介をさせていただきたいと思います。去年の10月にこちらサンフランシスコの方に転勤してまいりました。過去の海外勤務という意味では、10年ほど前にヒューストンの方に1995年から2000年にかけておりまして、補習校に直接関わったわけではないんですが、自分と補習校との関わりということでは、当時のヒューストンの補習校、そしてこちらに来てこの4月から教育委員を任されまして、この半年足らず、この間での関わりになってきます。自分の中では、ヒューストンの補習校と今ご一緒させていただいているこの補習校、なんとなく比較しがちになって、また皆さんも御存知のように、アメリカも州を違えますと全く別の国、と。カリフォルニア州とテキサス州は前回の選挙を見てもお分かりのように全く違ったりしまして、なにか面白い比較が出来るのかな、と思ったりしています。

その中で、財界からの提言、という大変硬いお題をいただいております、なかなか、財界というのも固い言葉ですし、あくまで補習校の皆さんと関わりあるということで、私からは商工会から、ということです。また、提言、というのも非常に固い、と思いますので、この半年弱関わってきまして商工会の立場から補習校を見させていただいた、感じていること、あるいは商工会の方から関わっている中で紹介の中で補習校をどのように見ているか、どのようなことが課題になっているか、このようなお話をさせていただければと思っております。

この4月から教育委員を拝命して、補習校の皆様、特に理事会の皆様、私も顧問という形で商工会から理事会の方に参加させていただいております。先程からも話に出ておりますが、保護者の方の非常に熱心な運営及び管理、ここが特徴になっていると思います。大体夜6時くらいから皆さん集まられて、時間何時までということではなくてですね、非常にエンドレスな熱い討論を皆さんされていまして、やはり教育というのは世の中で一番大切な事なのかな。特に皆さん保護者の立場として熱の入ったいい議論、良い議論というのはそうですね、議論を出し尽くす。それを顧問の立場で覗いている商工会からの自分がいまして、また、一方で商工会と補習校という関わりの中では、なかなかお金の話というのはしたくないんですが、寄付金ということも大きな話になっています。

午前中の中の話の中でも、松波さんの説明もあったと思いますが、法人会員との関係強化ですとか、そのへんが絡んでくるとおもうんですが、皆さん、昨今ご存知のように、この経済環境下でなかなか商工会の方でも財源が厳しくなっている折、補習校に限らずなんですけど、いろいろ商工会から支援させていただいている団体あるいはイベントに対する見直しを行っています。皆さん、商工会の人は本職が別であって、その中から時間を割いてやっているものですから、なかなか紛糾したりなかなか熱い議論が、中川事務局長

には苦勞いただいているんですが、その中で商工会事務局の方から会員のみなさんに、果たして、この長い商工会と補習校のお付き合いの中で、現在どれだけの商工会関連企業のご子弟が補習校に通っているのだろうか、というアンケートをとらせていただきました。商工会の方に集まったデータでは90数名、一方先日小西さんの方からご連絡いただいた、独自に補習校で調べていただいたのが152名という結果だったとお聞きしております。今補習校の総生徒数1000名位のなかで、果たしてこの152名というのは多いのかというと、予想以上に少なかったかなあというのが正直な実感です。

これは先程の松波さんのプレゼンにもあったんですが、原因の一つとして、商工会というのはどうしても中心になるのが我々転勤族ですね。転勤族を中心とした組織になっている。もちろん、そのこちらの企業とかみなさん入っていただいているんですけども、その中で転勤族、松波さんのスライドの中では短期的な教育ということでしたけれども、どちらかというとそちらの方に目が行っている。一方で、だんだん補習校が歴史を重ねていく中で現地の学校化の色が強くなってきて、だんだん補習校と商工会の接点というのが非常に薄れてきているのが昨今の状況である。これがひとつの課題であり、今後どのように考えていくかという部分になっていくと私自身は、お聞きしながら思っておりました。

例えばの話ですが、さきほど私が前回アメリカに赴任したヒューストンの同僚に現状を聞いてみました。カリフォルニアの方はご存知かどうか、ヒューストンは田舎といわれますが、日本人の数は最近が増えていますが非常に少ない。オイルインダストリー、いわゆるエネルギー関連の街なんですね。フットボールチームはオイラーズ、日本人が言うと笑っちゃうような名前なんですが、そういった当にエネルギー関係の街なんですね。アメリカで人口ベースでいうと4番目の大きな街なんです。ただ、エネルギーと言う産業が日本人からは大変遠いものですから、日本人が少ない。私がいました10年くらい前は、商工会と補習校の関わりが密接で、理事も重なっており、当時の記憶ですけど、生徒の10人に9人は商工会に参加している企業の子弟だった。最近はどうなっているのか、ということで先日ヒューストンの同僚に聞いてみたところ、7割くらいですね、という話でした。こちらでは約15%、こちらが如何に日本人としての歴史が長いのか、文化がMatureしてきたかということの違いかと思いますが、一方で私も驚いたのは、ヒューストンでも70%に落ちた。日本人の生活にイヤ気がさしたというわけではないんでしょうが、あの暑くて暮らしにくいヒューストンでさえも以前は90%あったシェアが70%まで落ちていると。で、むしろヒューストンでの生活を選ばれている日本人が増えている。ですから、おいおい米国各地の補習校でも同じような現象が起きてくるのかなと。いかに日本が住みにくくてアメリカでの生活を選ぶようになってきたかということを感じるんですが、その中で感じましたのが、ここサンフランシスコは日本人が多い、日本文化が根づいている、これだけの補習校を抱えている地域、それに続いてアメリカ各地もそのようになってくるのではないだろうか。その意味で今後このサンフランシスコ補習校及び商工会の関わり方というのはモデルになってくるのかなと感じている次第です。

まさに今日私も、朝から参加させていただいて、あ、そういう歴史だったのか、実は今日知ったところなんです。例えば1968年に商工会の一部として設立されて1969年に独立して創立。今年40周年を迎えている。そういう中で商工会と補習校というのはもともとはひとつの団体・組織から育っていった。各地でも同じような状況だと思います。先程申し上げたサンフランシスコの成熟したこのエリアでだんだんお互い巣立っていく、親子の関係といいますか、40周年を迎えて、もう補習校として独自の道、親離れ、巣立ち、という時期を迎えている、というのが最近の商工会内部での議論を踏まえながら、今日午前中感じていた次第です。

提言という提言は、先程申し上げたとおり、なかなかできないんですが、補習校がだんだん成熟してきた、および大きくなってきて商工会との関係がなかなかパイプが見つけにくい中、今後どうやってお互い協調して、ですね。これは離れるということはないと思います。今後どうやってお互い協調してやっていくかというのが今後の課題だと思います。特に提言というわけではないんですが、午前中の話もお聞きして、私の感じたこと、今後の課題とっておきことを述べさせていただきました。

今日はどうもありがとうございました。40周年おめでとうございます。

総領事館からの提言： 小川康弘（在サンフランシスコ日本国総領事館・領事）

在サンフランシスコ日本国総領事館で補習授業校に関する事務を担当している領事の小川康弘です。本日は「総領事館からの提言」というテーマをいただいておりますが、この場では、長年、在外教育施設に対する政府援助の仕事に携わってきた一（いち）領事としてのお願いを三つ述べさせていただきます。

第一に、国語の授業をおろそかにしないでいただきたいということです。保護者にとっては、日本人学校や補習授業校という在外教育施設があるというのは大変ありがたいことですが、駐在などのために日本から転居してきて間もない方の中には、在外教育施設は、日本国内の公立小学校、中学校のように、そこに存在していることが当たり前のように感じる、錯覚する方がおられます。そもそも、在外教育施設は、日本政府が設置した国立の学校ではないし、東京都が設置した公立の学校でもない。ここにお集まりの皆様方はよく御理解されていると存じますが、在留邦人社会の総意に基づいて在留邦人の方々が設立し、入学金や授業料収入を主たる財源として運営する、いわば私立（わたくしりつ）の学校です。

私は、過去に、日本から転居してきたばかりの保護者から、「小学生と中学生は義務教育課程にあるにもかかわらず、なぜ、日本人学校や補習授業校は入学金や授業料を徴収するのか」という質問を受けたことがあります。日本国憲法第26条は「義務教育は、これを無償とする」と定めているが、この規定は属地的な規定であり、海外に在住する邦人の子弟には直接適用されないと解釈されています。確かに、米国や中国のような広大な国土を有する国の片田舎に邦人の子弟がポツンと一人いたとしても、我が国政府がその一人に義務教育課程の全教科の授業を行うことは物理的に不可能です（属人的な規定で在留邦人の方々に身近なもの、在外選挙です。）。

しかしながら、我が国政府は、在留邦人の子弟が、少なくとも義務教育を安く受けることができるように手だてを取ることが憲法第26条の精神に沿うと判断しており、具体的には、外務省及び文部科学省が在外教育施設に対し、財務省や会計検査院などの理解を得て、人的・財政的な援助を実施している次第であり、日本人学校や補習授業校に通学していない学齢期の子どもに対しても教科書を配付しています。だからといって、外務省や文部科学省が在留邦人の方々に対して、日本人学校なり補習授業校を「設立せよ」とか、児童・生徒数が減少したから「閉校せよ」と命じることはありません。

また、授業については、我が国の教科書を使用し、学習指導要領に基づいた授業を実施することは当然のことですが、国語以外の教科を教えるか否か、教える場合はいずれの教科を教えるか、あるいは、幼稚部や高等部を併設するか否かについては、それぞれの運営理事会の判断に任せています。しかしながら、やはり、国語の授業はおろそかにしないでいただきたい。それこそが補習授業校設立の目的であり、我が国政府が期待していることだからです。

アジア地域のある補習授業校では、国語の授業を行うに当たり、一つの学年を三つのクラスに分けて、能力別のクラス編成を実施しています。具体的には、父親の駐在任期の終了に伴い日本に帰国する子どもで一クラス、永住者のうち家庭で日本語を使用している子どもと使用していない子どもとでそれぞれ一クラスです。

能力別のクラス編成は、それだけたくさんの教師を確保する必要があり、人件費がかかる訳ですが、その補習授業校は、運営理事会の判断で、あえてそうしている次第です（能力別クラス編成の実施は、保護者の理解が必要です。）。

次に、在外教育施設に対する我が国の政府援助について補足しておきます。日本人学校とは異なり、在留邦人社会が補習授業校を設立することは自由であり、我が国政府に設立を申請して承認を受ける必要はありません。しかし、我が国政府からの支援を受けたいと要望する場合は、次の条件を満たした上で、在外公館を通じて我が国政府に申請し、予算措置を講ずる必要があります。

- (1) 申請の時点で、在留邦人社会の総意により既に設立されており、授業を実施している。

- (2) 永住者及び外国籍者を除き、長期に滞在する児童・生徒数が5人以上在籍しており、今後も増加が見込まれる。
- (3) 運営主体や児童・生徒が一企業だけの構成でなく、公共性が保たれている。
- (4) 国語を中心とした年間授業日数がおおむね35日以上あり、授業実施に必要な講師が確保されている。
- (5) 学校の運営に係る理事会規則、学校規則等が整備されている。

第二に、現地校での授業についていけない子どもの相談にのってあげてほしい。米国には補習授業校が多数ありますが、日本人学校は、シカゴ、ニューヨーク、グアムの3都市しかないのは特徴的といえます。これは、米国で生活する日本人の保護者の多くが、自分の子どもは現地校に通学させたいと希望しているからでしょう。この関係で一つ注意しなければならないことは、中学生の場合、補習授業校を皆勤賞で卒業しても、現地校を卒業していなければ、日本の高等学校に進学する資格が得られないということです（補習授業校は「認定」制度の対象外）。特に、父親の駐在などに伴われて日本からきた生徒の中には、現地校での授業になじめないか、ついていくことができなくなった場合は要注意であり、もし、このような生徒が補習授業校に通学していれば、あるいは、一步踏み込んで、補習校以外でもそのような子どもがいれば、補習授業校の先生方におかれては、その生徒と保護者に対し、アドバイスなりフォローをしてあげていただければありがたいです。

第三は、安全対策です。私が過去に勤務した南アフリカ共和国では、自宅の外周には高圧電流が流れている上、窓には鉄格子が入っている環境で生活しており、ヨハネスブルグ日本人学校の敷地や校舎も同様です。これに対し、米国では、隣の住宅との間に壁はないし、学校の出入りもかなり自由ですので、不審者の侵入もあり得ます。財政的に学校運営が厳しい状況にあり、政府援助も増えない中であっても、安全対策にかかる経費は維持していただきたいです。



熱心に聞き入る聴衆

保護者からの提言： 三宅孝明（SFJLC 理事、保護者会代表会長）

保護者からの提言

サンフランシスコ日本語補習校保護者会代表会長
三宅 孝明

サンフランシスコ日本語補習校
創立40周年記念シンポジウム

2009年8月22日

1

現状

サンフランシスコ日本語補習校が創立から40年を経たことは賞賛に値する。一方、補習校を取り巻く環境は変化し続け、常に新しい問題、ニーズが発生する。現在の状況も完璧とは言えず、よく保護者から耳にする問題の例としては、以下のものがあげられる。

- 長期滞在者（5年以上）とそうでない子供の日本語力、学力に格差があり、保護者に不安を与えている。
- 社会と理科の時間配分が少なく、日本帰国後、子供が直ぐに日本のカリキュラムについていけるか不安を持つ保護者がいる。
- 教師の指導能力に差があり、その年の担任で子供のやる気、学力が左右される部分がある。

2

保護者からの提言

上述の問題は、短期滞在者の保護者からよく聞くものであり、その対応は、補習校の運営方針の軌道修正にもかかわる。ここでは、事務局、理事会の方々に認識していただくことと、長期、短期滞在両グループが対象となる以下の2つの問題について述べてみたい。

- 子供の補習校離れへの対応
- 学校と保護者間におけるコミュニケーションの不足

3

。子供の補習校離れへの対応

- ☆ 授業の工夫
 - 独自の教材開発
 - 社会見学の実施
 - 外部の専門家、父兄による特別授業
- ☆ 授業外での対応
 - インターネットの利用
 - モニタリング
 - 検定の設置

4

■ 学校と保護者間におけるコミュニケーションの不足

- ☆ コミュニケーションの不足から生じる問題
 - 学校運営
 - 保護者会
- ☆ 対策
 - 情報の開示
 - 定期ミーティングの実施

5

■ まとめ

- ☆ 問題の解決に向けて
 - モチベーション向上
 - コミュニケーション
- ☆ 今後の補習校のあり方

6

日本の教員研修受入校からの報告

福岡県篠栗町立北勢門小学校
校長 岩崎陽一
(前SF日本語補習校長)

1 日本国内での研修の目的

- ① 主たる理由
- ② 国内研修の具体的目標

2 研修の内容

◎ 研修の実際

- ① 第一次研修(07年7月) 4主幹の実務研修
- ② 第二次研修(08年7月) 小学部主任の研修
(※LA補習校 主幹4名も参加)
- ③ 第三次研修(09年7月) 中高部関係研修

3 研修の感想と課題及び期待するSF補習校像

1 日本国内での研修目的

「茹で蛙的な状況からの脱却と将来展望」

- 派遣教員とのSF教員との授業実践や学級経営や教務運営等の認識のズレが……
- 派遣教員の「日本の教員気質」とCaの法律のカベが……
- OSFの教員の思いと派遣教員の気負いの不一致が……
- 日本語力と学力向上が……
- 派遣教員の削減が……



① 主たる理由

将来像検討委員会の答申と補習校システムの改善案を受けて

- SF教員の日本の教育現場の直接体験による学校運営や授業、生徒指導法の工夫改善
- 自立する補習校づくりのための意識の改革
- SF教員の特性や専門分野の活用

② 国内研修の具体的目標

- i 補習校の教育目標のめざす児童・生徒像を具現化するための教員の力量の向上を図る。
(組織力・経営参画意欲の向上)
- ii 補習校のプロの先生達に、日本国内教員と同等の指導力を併せて身につけて貰う。
(教科指導方法、道徳・生徒指導の方法)
- iii 帰国後の児童・生徒のスムーズな適応のために、日本の学校文化を補習校で実践する。
(学校文化や社会的風潮・風習)

2 研修の内容

◎ 国内研修の実際

年度	研修名	幼・小学部	中・高部
07 (一次)	実務の現場研修	SF デーシー主幹 SJ 城田主幹	SF 牛島主幹 SJ 太田主幹
08 (二次)	幼・小主任等研修	SF 宇井先生	SJ 塚本先生
09 (三次)	中・高主任等研修		SJ 池田先生 SJ 安武先生

① 第一次研修(07年7月)

主幹を対象とした実務研修

期日	デイシー主幹	城田主幹	牛島主幹	太田主幹
7月5日	北勢門幼稚園	篠栗幼稚園	篠栗中学校	篠栗北中学校
7月6日	北勢門幼稚園 教育大附属小	篠栗幼稚園 教育大附属小	篠栗中学校 教育大附属小	篠栗北中学校 教育大附属小
7月7日	須恵第二小	須恵第二小	須恵第二小	須恵第二小
7月9日	北勢門小学校	篠栗小学校	福岡魁誠高校	福岡魁誠高校
7月10日	"	篠栗小学校 篠小(坂尾分校)	篠栗北中学校	篠栗中学校
7月11日	"	篠栗小学校	"	"

07 ‘主幹の研修直後の感想から

「目からウロコが何枚も落ちました」

- ①研修先の先生方の講話や研修を受け、疑問や不安が払拭された。
- ②主幹としての具体的なビジョンを持つことができた。
- ③体験し学んだことを最大限活かせるように頑張る意欲が向上した。
- ④日本での実務体験で、補習校の運営に勇気と自信が湧いた。

②第二次研修(08年7月)

小学部主任等研修

※LA補習校主事4名も参加

期日	時間帯	SF 宇井	SJ 塚本
7/6(日)	夜	センター内研修	センター内研修
7日(月)	午前 午後	北勢門小で合同研 北勢門幼稚園	北勢門小で合同研 北勢門幼稚園
8日(火)	全日	北勢門小	北勢門小
9日(水)	全日	北勢門小	北勢門小
10日(木)	全日	北勢門小	北勢門小
11日(金)	午前 午後	北勢門小 粕屋中	北勢門小 粕屋中
	夜	地教委・SF&LA補習校・北勢門小合同交流会	

08 ‘小学部主任等の感想から

- ①補習校の、教務・研修主任としての仕事・果たすべき役割の明確化
- ②指導部(主幹、教務主任、生徒指導主任)の仕事、役割、協力体制の大切さを確認
- ③今後は、指導部がさらに連携して、補習校の教育目標の実現に向けた円滑な学校経営・運営ができるよう、努力を重ねたい

③第三次研修(09年7月)

中高部主任等研修

期日	時間帯	研修内容
7月6日(月)	就業前 全日	北勢門小学校にてミーティング(毎日) 篠栗北中学校で実務研修・授業参加
7月7日(火)	全日 夜	篠栗北中学校で実務研修・授業参加 北勢門小学校の学校関係者評価委員会参加
7月8日(水)	全日 夜	篠栗北中学校で実務研修・授業参加 篠栗町人権講演会参加
7月9日(木)	全日 夜	北勢門小学校にて実務研修・授業参加 北勢門小学校英語担当者への指導助言
7月10日(金)	全日 夜	福岡県立須恵高校での研修(参観・講話) 指授指導主事・北勢門小管理職からの講話
7月11日(土)	午後 夜	篠栗町内の児童・生徒活動の見学(夏祭) 夏祭巡回指導の北小教諭に同行

3 研修の感想と課題及びお願い

① 研修の感想

- 受け入れ先学校長より、とても熱心である
- 積極的に教育情報の収集を行っている
- ノート指導や板書計画等細やかな観察
- 生徒指導や道徳指導への研修意欲が旺盛
- 日本の現場の行事参加で有意義体験
- 組織としての研修意欲、崇高な子ども像

② 課題

- 指導案作成と教科の体験授業の確保
(指導方法改善の方法研修の充実)
- 受け身型研修から参加型研修へ
(各校各校の課題解決策の重点研修)
- 研修地域や保護者との交流
(国内の社会情勢、地域の流行と不易)

③ 期待するSF補習校像

自立する補習校の創造

- 日本の教育現場体験者の拡大と組織の定着
- 研修体験者(先生方)を主とした授業改善
- 研修経験者と派遣教員が連携した学校改善
- 研修を生かしたSF補習校文化の創造
- 設置目的とニーズを大切にす学校づくり

研修先学校紹介1



研修先学校紹介2



研修先学校紹介3



研修先学校紹介4



研修先学校紹介5



研修先幼稚園1



篠栗町立北勢門幼稚園

研修先幼稚園2



篠栗町立篠栗幼稚園

研修先幼稚園3



篠栗町立勢門幼稚園

ご静聴有り難うございました

SFJLCの子ども達が世界の架け橋になる事を祈っている岩崎でした

受入先教育委員会・学校長名

①篠栗町教育委員会

前教育長 井口 満 先生 現教育長 郡嶋 正弘 先生

指導主事 山邊 孝之 先生

篠栗中学校 今泉 成人 校長(現粕屋東中学校)

篠栗北中学校 木森 信登 前校長 有田 八郎 現校長

篠栗小学校 石倉 一隆 校長 北勢門小学校 秦 道隆 前校長

篠栗町立幼稚園(篠栗、勢門、北勢門各幼稚園) 榎本 淑子 園長

②粕屋町教育委員会

粕屋中学校 米倉 彰 校長

③須恵町教育委員会

教育長 平松 秀一 先生

須恵第二小学校 羽原 晋夫 校長

④福岡県立福岡慰誠高校、福岡県立須恵高校

⑤福岡県立社会教育総合センター

⑥福岡教育大学附属福岡小学校

バイエリアにおける日本語補習教育： 吉田栄一（三育学院サンタクララ校・校長）

バイエリアにおける日本語補習教育

目指せ！こんな日本語補習教育

目指せ！こんな日本語補習教育

- 外国に住んでいる、住むことになった、子ども達の明るい未来、幸せな将来のために・・・
- こんな日本語補習教育(日本語補習校)があったら、どんなに素晴らしいだろうか。

目指せ！こんな日本語補習教育

- サンフランシスコ日本語補習校の教育目標：
 - 確かな力を身につけ、国際社会に活躍する児童・生徒の育成
- 三育学院の教育目標(三育教育)
 - 信仰教育(徳育)、知的教育(知育)、健康教育(体育)のバランスある全人的な教育を実践し、神と人を愛し、社会に奉仕できる人物を育成する

目指せ！こんな日本語補習教育

- サンフランシスコ日本語補習校の教育目標：
 - 確かな力を身につけ、国際社会に活躍する児童・生徒の育成
- 三育学院の教育目標(三育教育)
 - 信仰教育(徳育)、知的教育(知育)、健康教育(体育)のバランスある全人的な教育を実践し、神と人を愛し、社会に奉仕できる人物を育成する

目指せ！こんな日本語補習教育

- このコンセプトを短い言葉で表すと

国際人

目指せ！こんな日本語補習教育

国際人の条件とは？

- 外国の言葉を習得し使いこなすこと。
 - 語学が堪能なことのみ ≠ 国際人である
- 外国の文化を理解し造詣が深いこと。
 - 文化の理解と知識のみ ≠ 国際人である

目指せ！こんな日本語補習教育

国際人 → 鳥にたとえると・・・

目指せ！こんな日本語補習教育

外国の言葉を習得し
使いこなすこと

外国の文化を理解し
造詣が深いこと

これらのツールを支えている
これらのツールを生かすための
人間力(豊かな心)
を持っていること

目指せ！こんな日本語補習教育

言葉の習得、文化の習得も国際人育成のためにはとても重要

でも、忘れてはならないのは・・・

人間力(豊かな心) = 幸せに生きていく力
多様なものに対応できる心

言語や文化を超越した力

目指せ！こんな日本語補習教育

- 自己受容(I'm OK) → 自分自身の価値が認められ受け入れられている環境でしか育たない
- 自己開示
- 他者認識 → 自分自身の価値が認められ受け入れられた経験なければ育たない
- 他者受容(You are OK)

価値を認めること、受け入れること = 愛

目指せ！こんな日本語補習教育

- ありのままの自分が受け入れられる場所。
- 自分の価値が認められている場所。
- 自分の居場所が確かにあると感じてもらえる場所。
- 安心して自分を出せる場所。
- 他人のありのままの姿を安心して認められる場所。
- 失敗が許される場所。
- ごめんねという言葉が受け入れられる場所。
- 何度もやり直しがきく場所。
- 悩みや苦しみや痛みが分かち合える場所。
- 喜びやうれしさ楽しさが分かち合える場所。

目指せ！こんな日本語補習教育

- そんな日本語補習教育(日本語補習校)づくりを子ども達の明るい未来、幸せな将来のために・・・

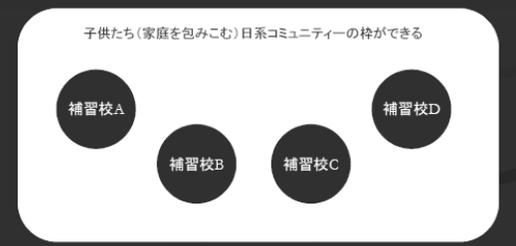
目指せ！こんな日本語補習教育

- 補習校は子供たち(家庭)を包むコミュニティ



目指せ！こんな日本語補習教育

- コミュニティー間のネットワークを構築する



3.4.6 パネルディスカッション「これからの補習校に望むこと」

モデレーター： 浅尾一郎・SFJLC40周年記念行事実行委員会・委員長

パネリスト： 井上恵嗣・文部科学省初等中等教育局視学官、
植木進策・SFJLC・校長、
小川康弘・在サンフランシスコ日本国総領事館・領事、
富樫正之・北加日本商工会議所（JCCNC）・教育委員長、
三宅孝明・SFJLC保護者会・代表会長、
吉田栄一・三育学院サンタクララ校・校長。



議論の要旨

司会：バイエリアで日本語教育をどうすればいいのか　まずこれをテーマにしたい。めりはりをつけて、自分にあった教育といった話もあったが

植木：本校の状況を踏まえてお話をします。補習校なので軸足は日本。日本に帰国する子供たちのために、帰国しても対応できる子供たちの育成が必要だ。また、講演の中でも義務教育ではないという話もあったが、一方で政府からの援助も受けているのでそれも考えていく必要がある。できるだけ多くの人に補習校に入ってもらいながら、日本に帰ったときの準備もしてもらおう。そのためには先生の力をつけることが大切だ。多くの人を受け入れたいけれど、日本語の学校ではない。塾のような受験勉強をする場でもない。ネットワークを構築し利用しながら、目的意識を高めて行きたい。

司会：文科省として、外国においてどのような日本語教育が望ましいというものはあるのか

井上：海外だからこういう目的、目標があるというわけではない。おかれている環境に応じた、どこに目的意識をもっていくのか、が大切。アメリカ西海岸は日本人が多く歴史が古いという上で、日系社会が抱える問題は早くに表れている。その社会のなかで、どのような足場を持って教育を施していくのか、これはどこにも共通の問題であると考えます。

司会：帰国してからも、日本で教育にスムーズに順応していけるということが望ましいといった考えはないのか

井上：海外にいても、憲法 26 条は受けられないけれど、その精神を尊重して国として支援していく必要があるだろうということでサポートしている。その地域で必要な教育はこれなんだというのは、文科省として示すことはできないし示す必要はないと考えている

小川：バイエリアに住んでいる子供たちは恵まれている。世界には補習授業校に行きたくても行けない子供たちがたくさんいる。あっても手作りで、寺子屋のような学校がほとんどといった中、地域によってはそうした学校すらない。海外における教育の基本は保護者だ。義務教育は海外では適用されないが、その精神に従って教科書を配布している。それを使って保護者が子供に教える形態が基本。たまたま補習校があるからそれに通っている。そうした意識をもってほしい。家庭での教育の時間をきちんと確保して欲しい。

司会：耳の痛い話だ。補習校からも保護者の方に、一緒に勉強して欲しいというお願いがいつていると思う。企業の立場として、補習校への望ましい姿というのはないのか？

富樫：商工会としては、いかにフェアにかつ厚くサポートしていけるかというのが立場だが、バイエリアは地域的に難しい、いろいろと考えていかななくてはならない環境にある。たとえば補習校だけが商工会メンバーの子弟が通っている日本語学校ではない。

司会：補習校は現地にいる生徒が日本に帰った後のことをサポートすることが目標の一つだが、もうひとつとして将来のリソースの育成という目標もあると思っている。JCCNC としてそうした議論はないか？

富樫：今のところそうした議論はない

司会：聞くところでは、最近企業がいわゆる帰国子女枠を持っているという。吉田校長としては、望ましい補習授業校の姿に何かご意見はないか。

吉田：バイエリアは恵まれていると思う。補習校とは特殊な、いかなればおいしいところをたっぷり取れる学校といえる。このエリアは治安もいいし、現地の教育設けられ、帰国したときのことも考えて補習校にも通える。お茶大の先生が言うには、あるところにいた生徒は帰国子女の匂いがしないという。「どこにいたか」といってひろいところ、高い木がある。日本のビデオを借りてみていた、そういうことしか言わない」。そんな環境の子供たちもいる。保護者のトッププライオリティは教育だ。地域性とプライオリティの両面で考えていく必要があるので考える。

司会：さまざまな補習授業校がメリハリを持った教育をし、子供の得手不得手を考えて伸ばしていくべきといった意見もあったが。

三宅：それぞれの学校の位置づけが違うと思う。今後棲み分けができてくるのだろう。そして、日本語補習校は何が目的かを明確にするべきだろう。ただ理想があっても、文科省のガイドラインがあってそれからは外れられないだろうと思うが。

司会：ガイドラインはあっても、この地域として必要な教育はそれを推し進めてほしいという講演もあった。

井上：その地域において当然必要と考えるものはその地域としてやってもらえるべき。それを文科省として支持できるかは別だが。ただ、今のものを広げて支援していくということは財政事情からも難しいとおもう。

司会：つねに枠組みというのはあって、一方それをうまく利用していけばよいのでは。

井上：NYのほうでオブザーバーとして参加している。近年、日本人が少なくなって来ており、派遣教員の減少、授業料収入がの減少、このままでは維持できないので学校移転という状況にあって、それを進めている最中。まずは生徒数を増加させることで検討も進めている。しかし、増やす議論ばかりが先行しがちになる。そのときに足場をどうするのか、それを見つめなおす時期にきている。

司会：会場から、これまでの話で質問はないか。

長谷川：日系企業の責任者としてこちらにいる。講演では学校の理念のお話を伺った。しかし、新駐在員としては、どこの学校が何をしているのかがわからない。そこで、前の駐在員が行っていたところに行ってみようということになる。ベイエリアのなかでどんな教育があり、どんなことをしているのか、そうしたことを知る機会を設けて欲しい。そうすることで、今落ちこぼれている子供たちも拾えるのではないか？

司会：PRをとということか。PR不足は否めないかも知れない。

植木：1200人もいるので、補習校というのは皆さんよく知っているんじゃないかと。しかし、他の方と話した機会に、「補習授業校はどんなことをしているのですか」と聞かれた。意外に知られていない部分もあるようだ。広報は確かにしていけないといけない。そうすることで、今知られていない同時に学校も支えていけるのではないかと考えている。

司会：三育ではどうか。よくコマーシャルはやられているようだが。

吉田：長谷川さんとは先ほどもその話をしたが、それを聞いてショックを受けた。夢を語りながら自分の学校のことばかりだった。受け入れているのは駐在員の方であり、その子供たちだ。そういう視点を持つ必要を感じた。学校の保護者の中からは、ぜんぜんPRしないのに生徒数が増えないと言っていると、そんなことを言われている。ベイエリアの補習校全体での説明会というものもあるといいかも知れない。

司会：たとえば日本語教育のポータルサイトといったものを設けるということもある。

小川：自分の宿題として受け止めたい。駐在員がその地域に行った場合、その教育環境がどうなっているのかが一番の関心事だ。外務省にも領事館にもウェブに簡単な紹介はある。

井上：どういう教育を行っているのかを広報するというのは、官僚にとっては慣れていないため難しいテーマだ。NYでもどのように知らせるかが課題になっている。公立学校の先生としては入学希望があればそのまま受け入れているが、どのような教育がなされているのか、保護者にしっかりと理解させることが大切。保護者会の役員に選ばれたら転校したとか、選挙が終わったら復興していたなどという話も聞くが、そういうことではいけない。

司会：多様なニーズに対応するのはひとつの学校だけでは難しい。目的を特化した教育環境の提供ということでみなさんのご同意がいただけるものと思う。協力し合ってニーズにこたえることが必要だが、実際の運営という点では相互のコミュニケーションが大切だ。コミュニケーションの重要性について、三宅さんは講演の中で話されたが。

三宅：理事会の熱意をみなさんに伝えていきたい。印刷物では限界があるので、小さなミーティングやウェブの活用を考えて生きたい。また、まず現状を把握する必要があると考えている。どのくらいの保護者が補習校の実像を理解しているのか。

司会：配布物が生徒から保護者に渡らない、同報メールを受け取らない、そうした実状もあるようだ。三育ではどうされているのか。

吉田：三育は理事会が閉じた環境になっている。その点が違う点であり、補習校の保護者会のパワーに

感心している。補習校にはお父さんパワーを感じる。三育の課題としてはどのくらいお父さんを巻き込めるかだ。

司会：会場にいる先生としては、コミュニケーションの確保についてなにか意見はあるか。

アルドリッチ：昨年の理事長として校長会に参加した。シンガポールでは、まず保護者を集めてしっかりした説明会をしていると聞いた。それが効果があるのだという話を伺った。保護者が関わらないといけないということをきちんと認識してもらおうということが大切だ。Face-to-Face に説明をするということが大事なのだと感じた。

司会：先生と保護者の間には授業などを通じてコミュニケーションはあると思うが。ほかにはどうか。

林ヶ谷：朝会には保護者も集まってもらっている。校長の挨拶時にも保護者にも集まってもらう。保護者の教育が大切。特にまず父親に集まってもらい、父親に責任を持ってもらう。

松波：理事会として、今のコミュニケーションの方法では理事会、学校と保護者の間にギャップがあると感じている。今はあまりお金をかけなくてもできるツールもたくさんある。そのひとつとしてウェブページがある。Web2009 のプロジェクトでは3つの強化ポイントを検討している。ひとつは学校の中でどんなことをやっているのかをもっとさらけ出す。もうひとつはインタラクティブなページを作る。掲示板のようなものも設ける。最後は、もっと子供たちの生き生きとした姿を伝える。こうすることで、保護者への関心、信頼、より関与を持っていていただけるのではと考えている。

司会：次に、授業方法についてとりあげたい。IT 技術やネットワーク技術が発達しているなかで、そうしたものを利用していけないか。補習校としては、図書システムの PC 化、会員管理システムを構築した。これを他の補習校にも展開しているが、そうした取り組みは補習校授業校として始めてだと思う。

井上：国内での教育では IT 化について研究が進んでいる。補習授業校ではそうした活用の例などは聞いていない。どんな活用方法を考えているのか。

司会：たとえば研修。インターネットを使った研修などもありうるかと考えている。

植木：日本でも IT 化ということで、PC 一台一クラスということになっていっているようだ。しかし、それはあくまでツール。基本は先生と生徒とのつながりだ。それをなしに、TV や PC が入ってきて、それはうまくはいかないだろう。一対一の関係があり、そのもとに IT 化の議論がある。一番は先生たちの技量を上げることだ。

司会：日本での研修を、IT を使ってより広く受けてもらうという案もあるが

岩崎：研修をインターネットを使うという例も実際ある。私が思うには、授業は生ものだ。授業を通じて生徒が成長している姿を見ながら対応することが大切。

小川：近くに補習授業校がなくて、インターネットを使って授業をするという会社もあるらしい。それを PR したいかどうかという話があった。補習授業校に行く目的は教科書を勉強するだけでなく、友達とも会うことだ。

吉田：宮城教育大学、NTT が共同で開発した、総合科のインターネット授業に参加した。その印象として、やけに中途半端に人間くささがある、コンピュータをつかわないところがあった。なぜかと聞くと、教育は生ものだから、ということだから。すべてコンピュータでよければ Wii 算数とか DS 国語でいいじゃないか。授業は、その場にいる子供たちとの影響が大きい。IT 化はツールとして OK だが、一緒に学ぶというのが大きい。

司会：最後の話題として、バイエリアのネットワークを作るという話があったが、企業としてはどう考えるか。

富樫：商工会として、こういう教育機会があるということをご赴任会員に提供できればいいが、難しいかと思っていた。そういうことができればいいと感じた。

司会：ネットワークが大事か

富樫：商工会会員子弟は、いろいろな日本語の学校に通っている。企業人にベネフィットがあるので協力したい。ネットワークは重要だと考える。

小川：西海岸では、年に一回、派遣がいる学校もない学校も集まる機会がある。そうしたところに参加してもらえれば、おのおのの学校の様子がわかると思う。

長谷川：各企業にはHRがいるが、HRと各学校との連携も必要なのではないか。学校も企業と積極的に交流をもっていくことも大切なのではないか。

司会：シンポジウムをスタートとして、そうした関係に持っていければよいと考えている

小西：日本語教育コミュニティーは大切だと思う。これは将来補習校などに入ってくる保護者の方へのアピールとして大切。また日本語教育機関同士、同じような問題点を抱えているはずだ。それをお互いに話し合い、お互いで解決できることもあるのではないか。現在海外で6万人が補習授業校に通っていて、毎年1万人が帰国していると聞いている。1万人の中には外国子女も含まれていて、それが近年増えているとも聞いている。多様化する生徒の問題点はおそらく日本でも始まっているのではないか。それを海外から一緒に考える機会を設けられるものと思う

司会：本日はみなさん、ありがとうございました。



熱心な質疑応答

3.4.7 特別講演2

村山 齊（カリフォルニア大学バークレー校教授、東京大学数物連携宇宙研究機構長・特任教授）：
『補習校と国際社会』

補習校と国際社会

—「帰国生」の生の声

村山 齊
SFJLC 40周年シンポジウム

Monday, August 24, 2009



SFJLCとの関わり

- 3児の父（高2、高1（現在ICUHS）、中1）
- 1996年から保護者
- 2005年度 保護者会代表会長、将来像検討委員長
- 2006年度 理事長



Monday, August 24, 2009



関わり



Monday, August 24, 2009

帰国生徒

- 西ドイツ（当時）デュッセルドルフに小6から中3まで
- 日本人学校



• Japanese Internationale Schule in Düsseldorf, Bundesrepublik Deutschland

Monday, August 24, 2009



Monday, August 24, 2009

狭いヨーロッパ

- 車でオランダまで1時間、パリまで5時間
- いろんな言葉、文化
- お菓子の箱に普通10カ国語くらいで説明
- 簡単に渡れる国境、共存の難しさ
- 長い歴史、戦争の惨禍



Monday, August 24, 2009

印象に残る経験

- ・ イタリア北部のサマーキャンプ (中一)
- ・ ベルリンへの修学旅行 (中三)
- ・ アジアについての差別・無知
- ・ 日本赤軍で運動会中止



Monday, August 24, 2009

中3で日本に帰って

- ・ いろんなことで日本で育った人と違う
- ・ 知らないことが一杯



Monday, August 24, 2009

中3で日本に帰って

- ・ システムの間に挟まる問題
- ・ 中3の12月に日本に帰る
- ・ 日本の中学に転校すると「内申書で損」
- ・ 日本に住民票を入れず、自宅で隠れている
- ・ デュッセルドルフから直接受験した形

Monday, August 24, 2009

日本でびっくりしたこと

- ・ 何もかも小さい、狭い
- ・ 町に電柱がある
- ・ みんな髪が黒い
- ・ みんな同じことを知らないといけない、同じように振る舞わないといけない
- ・ 先輩 (学校で一年上の人) に敬語を使う



Monday, August 24, 2009



ICU高校



- ・ ほとんど帰国生徒、余り違和感無い
- ・ 2期生、先生もほとんど20代、平和な署名運動
- ・ 1年生の学園祭のクラス劇：「私はいかに日本の中学校でいじめられたか」
- ・ 卒業後外国の大学へ出る生徒も

Monday, August 24, 2009



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

東大



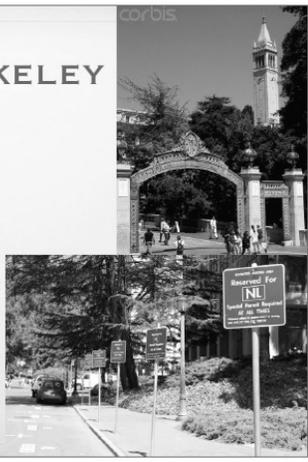
- ・ 高校の自由な明るい雰囲気から、打って変わって暗い感じ、既に疲れている
- ・ 先輩・先生もいばった感じ
- ・ 授業はろくに出ない、同期も知らない
- ・ 上下関係のない実力社会に憧れ
- ・ 特に大学院に入っても「はやり」の分野に興味がなく、孤立

Monday, August 24, 2009



BERKELEY

- 世界の30ヶ所程応募
- Berkeleyに決める
- 緊張して出発
- エンジン故障で成田へ戻る
- 却って落ち着く「緊張つてもなるようにしかならない」

Monday, August 24, 2009



アメリカでびっくり



- ポスドクも自由に研究、上下関係気にしない
- 最初の国際会議
 - 偉い人が無名の若輩をもり立ててくれる
 - むしろ偉い人がたたかれる
- 興味が動くと分野を変える人が多い
- しかし、到着後2ヶ月でSSCがキャンセル
- 政治と直結した大学・研究所の不安定感

Monday, August 24, 2009



アメリカでびっくり



- 会うとすぐ訊かれるのが
 - “What are you working on?”
- 1分くらいでざっと面白く説明する必要
- 刺激が一杯、質問しても恥ずかしくない、活発な議論、アイデアがわき易い
- 一方流行・競争が激しい
- 「自分を売る」文化

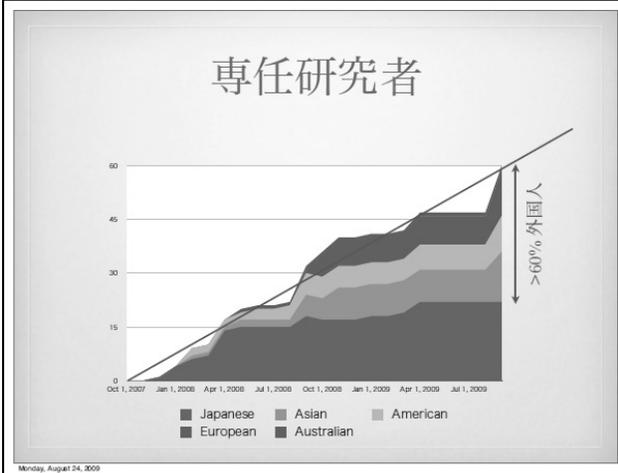
Monday, August 24, 2009



「帰国生」もう一度

- 2007年に新しい研究所の提案に誘われる
- 以前の日本の経験から「絶対通らない」確信
 - 年14億円の機構の長にするには若すぎる
 - 直接の産業応用の無い分野
 - 日本のbusinessのやり方を知らない
- 6倍以上の中で採択されてびっくり
- 日本も「国際化」、システム改革に本気
- 2008/1から単身赴任

Monday, August 24, 2009





補習校の児童生徒へ

- みなさんは世界で一番ラッキー
- アメリカ、日本のいいところを両方身につけられる
- 一つの考え方にしばられないでもっと広い物の見方ができる
- これから世界で活躍するのに役立つ
- どこへいってもこわくない

Monday, August 24, 2009

● 日本の良くないところ

- みんなと同じでないといけない
- 他の人の目をとても気にする
- 「上」と「下」の区別がはっきり
- 「正しい」かどうかよりも「右へならえ」
- 新しいことがやりにくい
- 責任を取りたくない
- 大学入学試験
- 何となく「暗い」(日本人学校の先生談)

Monday, August 24, 2009

● 日本のいいところ

- 思いやり
- みんなでうまく仲良くしようとする
- おいしい食べ物
- 安全
- 便利な乗り物
- 長い歴史と文化
- 安定した長い目で見た考え方

Monday, August 24, 2009



アメリカの良くないところ

- よその国のことがよくわからない：「島国」
- 何でもあり、自分勝手
- 思い込みが強すぎる
- 単純
- 銃や麻薬があつて危ない
- すぐ爆弾を落とす
- ヒステリック (テロ対策)

Monday, August 24, 2009



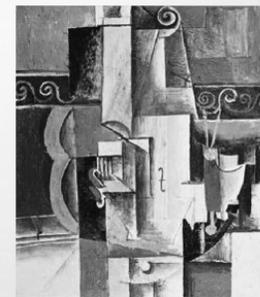
アメリカのいいところ

- 世界一豊か、強い国
- 「自分」をととても大事にする
- 上と下の区別がなく自由にもものが言える
- 何が「正しい」かを大事にする
- 失敗してもやり直せる
- 助け合いの精神
- 前向き、ポジティブ、「明るい」

Monday, August 24, 2009

文化の狭間で育つメリット

- 文化の「相対化」
- 物事の見方、考え方は一通りではない
- double standardでなく、多角的な視野
- 「変」な行動も知識があれば理解できる
- コミュニケーション能力が伸びる



Monday, August 24, 2009

将来像検討委員会 2006.1

- (1) 学校基本方針、生徒募集要項、広報活動
増進する子供たち日本の学校に適切なよう教育を施すが第一だが、「帰国対応」を広く考え、当前日本の学校に入る予定のない児童生徒も受け入れ、様々な背景を持つ子供たちの交流を図ることも補習校の目的とする。
- (2) 目的別クラス編成
目的別クラス編成を導入し教育効果の向上を目指す、一方すべての科目を分けることは避け子供たちの幅広い交流を図る。
- (3) 科目選択制
国語以外の科目を選択にする意見もあるが、国語力の向上は国語の時間だけでなく色々な科目・活動から学ぶこと、また選択を導入して授業を早く終わるようには教員の数を増やすなどはないこと、今までの通り4教科を原則とする。
- (4) 補習校で単位をもらえるための認定を受けること
子供たちに強い動機を与えるため、また現地校でも教えている教員の助けになるため、School DistrictからのIndependent Studyの認定、またWASCからの認定を目指す。まずは現地校でも教えている教員を中心に委員会を組織し、認定の手続きを詳しく調査する。
- (5) 幼稚園の学費
国語力の早期教育、また児童数の確保のため幼稚園の併設を積極的に考える。
- (6) 下校時間短縮
高学年の帰宅を待つ低学年のために右科で宿題を見たり課外活動をするAfter School Programを設ける。
- (7) 生徒数増加の見込み
5名の派遣教員を維持するの基準である1600名の児童生徒数を確保する見込みは薄い、少ない派遣教員で学校運営できる体制作りが必要。
- (8) 帰国対策
帰国前の二ヶ月に応えるため、派遣教員による進路指導、帰国子女受け入れ校についての説明会、全国標準学力テスト、漢字検定試験の実施、英語検定試験の紹介などを行う。
- (9) 欠席対策
現地校、スポーツなどの活動との両立を可能にするため、欠席した場合に授業内容に追いつけるようカリキュラムをウェブなどで公開し、補助教材も使用する。
- (10) その他の保護者の要望
アセスメント等を行うことで保護者間の連絡を助け、保護者による課外活動、カープール、バスの手配などを容易にす。学校区も個別に柔軟に対応することを明記する。また、児童会、生徒会、保護者会の活動の促進のため休みの時間の配分などの見直しも考える。
- (11) 地域対策
積極的に保護者の助けを借りて地域との関係改善努力をする。
- (12) 経営
有料のAfter School Program、幼稚園の併設による児童数確保、WASC認定・修学旅行などによる高校生生徒数の増加を通じて経営改善を期待する。

Monday, August 24, 2009



補習校の役割

- 日本人を育てるのではなく、地球人を育てる
- 子供本人にとって一番よい形を
- そのための日本の学校の疑似体験
- 「日本人のアイデンティティー」
 - 押し付けるのはいけなく、理解を促す
- 日本語力
 - 「日本語を」でなく「日本語で」学ぶ
 - かけ算の順番、住所の順番、名前の順番

Monday, August 24, 2009

学校基本方針改定 2006.3

改定前	改定後
<p>日本語による日本語を中心とした学習を通して、帰国後、日本の学校や社会に適應できる素地を養う。</p> <p>週1日同じような環境の下に学習し、生活することによって日本人としての共通の物の見方、考え方、行動様式等を確認し合い帰属感を深める。</p> <p>彼我の国の文化や文明に対して、偏見や独断にとらわれずに、それぞれの良さを摂取したり、その発展のために貢献しようとする広い視野を身につけさせる。また、異なった環境にあっても力強く生き抜く意志と力を培う。</p>	<p>本校は、日本語による教科学習や日本的な学校行事を行い、日本の学校や社会に適應できる素地を養うことを通して、日本に対する理解と啓発を推進する。</p> <p>また、様々な環境で育ってきた子どもたちに対して日本の学校教育を実践し、「日本語で学ぶ力」と「異なる環境を受け入れる資質」として「個性を伸ばし自己の生き方の実現に向けて力強く生きる力」を培い、日本人のアイデンティティを理解する力を育てる。さらに、在外教育施設の特徴を活かして、国際社会に生きる力を育てる。</p>

Monday, August 24, 2009

私はラッキー！

- 今は「日本人らしくない日本人」の役割
- 文部科学省の担当官：ハンブルク補習校のサッカーチームのキャプテン、デュッセルドルフへ遠征で来た
- 私は運がよかった
- 企業、官庁でもこうした役割は必ずあるはず
- SEJLCの児童生徒の活躍の場は多い！

Monday, August 24, 2009

いつか世界の架け橋に



サンフランシスコ日本語補習校

Monday, August 24, 2009

3.4.8 まとめ

議論を振り返って： 安俊弘 (SFJLC40周年記念行事実行委員会・副委員長)



補習校制度とベイエリアの教育環境：本シンポジウムにおいては、まず、午前中、「補習校制度の基礎と歴史」に関する講演があった。井上視学官より、補習校は「保護者のニーズにより地域コミュニティの総意に基づいて設立される学校を日本政府がサポートする」ものであり、「パブリックでもない、プライベートでもない、しかしその両面を備えた」学校であること、地域の実情に合わせてさまざまな形態がありうることが示された。

サンフランシスコ・ベイエリアの特徴・実情として、午前・午後のセッションを通じてさまざまな点が指摘された。松波 SFJLC 理事からは、SFJLC の小中での児童生徒数が減少傾向にあること、しかし地域における日本人の数は減っていないこと、ベイエリアには SFJLC に限らず複数の多様な日本語教育機関が存在すること、が指摘された。小川領事からも同様の指摘があり、近隣に補習校もなく苦勞している日本人が存在することを考えると、ベイエリアの状況は大変恵まれた状況であることが指摘された。そのような状況の中で各補習校・日本語学校がメリハリのある特色を出しつつ、くもの巣のような人的ネットワークを構築して、地域のコミュニティ全体で子供たちを包み込む環境を目指すことの大切さが指摘された(吉田・三育学院校長)。また、富樫 JCCNC 教育委員長からは複数ある教育の選択肢に対して、駐在企業の中に戸惑いのあることが紹介された。同様の点はパネルディスカッション時にフロアからのコメント(長谷川 PFU・CEO)でも述べられ、広報の重要性が指摘された。空間的な人的ネットワークに加えて、卒業生の唐橋氏からは、卒業後に会った同窓の人々とのかかわりの重要性が指摘された。

補習校で学ぶ子供たちと教育：そのような環境で学ぶ子供たちがどのように感じ、考えているか、について、現在 SFJLC 高2の榎本君から、補習校が子供たちのかけがえのない「居場所」になっていること、人間成長の場となっていること(補習校という特殊性から起きる頻繁な友との別れという実例を引きながら)が話され、一同大いに感動した。

また、特別講演の長峰文子氏は、補習校の原点とも言える「手作り」「少人数」「あたたかさ」について自らの体験を語られた。不自由な教育環境の中での先生の熱意、こまやかな心遣いが子供たちの「オアシス」となり、人間への信頼感を醸成したことが紹介された。

井上視学官からは、補習校の「補」は、足らずを補うネガティブな意味ではなく、子供たちをサポートする「補」であることが指摘された。小川領事は、補習校の基本として「国語」「海外に暮らす子供のサポート」「安全」の3点を指摘された。

子供たちの「オアシス」は先生の力量：子供たちにとっての「オアシス」として、「居場所」として、補習校の存在意義があることが確認されたが、それを実現する教員の重要性が再確認された。植木 SFJLC 校長からは、学校を構成する人々間の「信頼」が根幹であること、そのためには粘り強く信頼醸成のための努力を継続し「登りスパイラル」を作り出すことが大切であることが指摘された。また、限られた資源の中で、何をしないか、という選択の重要性が指摘された。三宅 SFJLC 保護者会代表会長は、保護者と学校とのコミュニケーションの問題を指摘した。

教員の力量向上、自立した補習校を実現するため、岩崎・北勢門小学校長から SFJLC 幹部教員の受け入れ研修の実情と成果についての報告があった。参加した教員が熱心に取り組み受け入れ先にもよい効果をもたらしていることが紹介された。

吉田・三育学院校長、村山教授は、多文化環境に生きる子供たちが異文化の存在に対するバランスの取れた見方ができるようになること（自分自身の価値が認められること、他者の違いに対する思慮）の大切さを指摘した。

将来に向けて：このような認識に基づき、将来に向けての議論も熱心になされた。ここでは、今後の取り組みとして示された「宿題」を列挙しておく。

- 同窓会の構築（唐橋氏）
- バイエリアの補習校ネットワーク（吉田氏）
- バイエリアに存在する教育機会をよりよく伝える広報（長谷川氏）
- 教材開発と子供たちのモニタリング（三宅氏）
- 主幹制度の持続的運営（松波氏、岩崎氏）

松波 SFJLC 理事は、これらを包括的に検討するべく、「目指す補習校像」検討委員会を設置して、今期理事会において集中的な審議・検討を行うことを提言した。

まとめ： 浅尾一郎（SFJLC40周年記念行事実行委員会・委員長）



この実行委員会、検討をはじめ一年以上たちます。大体月に一度、土曜日は補習校があるので、委員のみなさんどうしても子供の面倒を見なきゃいけない、貴重な日曜日を利用して、ほぼ毎回丸一日、ああでもないこうでもない、議論をしてきました。最初はレセプション、いわゆる先生方に集まっていたいただいて感謝祭をやるかという話も出ていたんですが、やはりもう少し固い、といいますか、今補習校が抱えている問題点をみんなで議論して、そこから将来に向けて何をしようか、取っ掛かりでも見つけられたら、ということが発端でこのシンポジウムを企画させていただきました。ここまでに至る経緯はいろいろありましたが、実行委員のメンバー及び保護者のボランティアの方、特に今日遠方から、日本から、ニューヨーク

から、この我々の企画に賛同していただいて馳せ参じていただいた皆様に厚く御礼申し上げます。今日この話のために、いろいろとご準備頂き、なおかつ、悩みあれを話しようか、ということでご苦労いただいたと思います。そういうご苦労を我々としては是非身にしみて受けとめて、今後の補習校ないしはバイエリア全体の日本語教育をどうしようか、を考える大きな基礎がまずできたのではないかと思います。そういう意味では、一日参加していただいた方、ご講演をいただいた方に再度お礼を込めて拍手をしたいと思います。ありがとうございました。

あとレセプションを含めて夕食ということで準備しています。今日の昼食に関しては、日本食レストランの「三船」さんをご寄付いただいています。それから、夜の部に関しては、飲み物に関して、お酒を「大関」さんから、ご寄付をいただいています。実際にそれ以外にも沢山の方が労働奉仕、ボランティアで協力いただいています。

一点だけPRなのですが、ここに貼ってあるポスター、これは10月18日にサンノゼジャイアンツ球場で一日借りきりまして、そこでSF、SJの生徒が一堂に会して、いろいろな楽しい催し物をしよう。メインイベントは、全員集まったので、40周年の記念の人文字を作って飛行機からその人文字を撮ろうという企画をしています。単に、走って、食べて、ということではなくて、SJ、SFが途中から分かれて一堂に会するという事は非常に少なかったんですが、それができる、ということでたくさんの方が参加し

てほしい。これも、ポスターも保護者の方が描いてくれました。できるだけ全体で何をするのかがわかるように描いてください、という無理なお願いをして描いていただきました。たくさんのご協力の下に進行中です。

ということで、あと、夕食、少しは口が滑らかになるお酒もありますので、議論も深まるだろうと思います。言い足りなかったことはそこで議論していただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

3.5 反響・コメント

北米毎日新聞 2009年8月26日 No. 17291

コミュニティー

Wednesday, August 26, 2009 J-PAGE 2



22日、長嶺総領事（左）から総領事表彰を受ける小西理事長

40年間教育に尽力 SF補習校に総領事表彰

長嶺安政在サンフランシスコ日本国総領事は22日、40年にわたり在留邦人子弟の教育に力を注いできたSF日本語補習校(SFJLC)の理事会に対し、総領事表彰を行った。

SFJLCは1968年2月、日系コミュニティー内で日本語教育の必要性を訴える声が高まる中、北加商工会議所下の組織として開校した。当初児童・生徒数101人、講師5人という少数でスタートした同校は、翌69年11月、加州非

営利団体として認可を受け、創立の年とした。現在は幼・小・中・高合わせて1200人以上が在籍している。

長嶺総領事は「まずは補習校関係者の皆さんに、40周年という節目を迎えたことに対し、敬意を表したい」と厳かにあいさつ。「日本語を通して人材を育てることが重要。それが日本の『資源』になります。そして、日本とアメリカの架け橋になつてくれれば」と祝辞を贈った。

総領事夫人の文子さん

も、「日本と米国の両方の長所・短所を垣間見ることができ、順応性、適応性を育て、お互いを理解し合うことを学べた」と韓国、豪州、米国の補習校に通った自身の体験を切に語った。

SFJLC理事長の小西光洋氏は「学校関係者、地元住民、保護者、そしてなによりも毎週土曜日に休まず通い続けた子どもたち全員がいてこそ、ただけた表彰。これまで補習校に関わってきたすべての人たちに知らせたい」と笑顔を見せた。

この日は同校の40周年を記念し、「補習校の未来をみんなで考えよう」と題してシンポジウムが開かれ、会場には50人以上が集まり、互いに意見や情報を交換する場となった。

(齋藤大貴)



バイエリア・コミュニティーニュース

SF日本語補習校・創立40周年記念シンポジウム開催される

「補習校の将来を考えよう」

今年で創立40周年を迎えるサンフランシスコ日本語補習校が、22日にバークレーで「補習校の将来をみんなで考えよう」をテーマに記念シンポジウムを開催した。教師をはじめ保護者や他補習校からの学校関係者など約50名が参加したシンポジウムでは、補習校の「歴史と基礎知識」「現状と課題」といったトピックが話し合われ、在外教育施設は「学校教育法上の『学校』」でもなく、パブリックでも、プライベートでもない（両方でもある）ことから、現地校や日本人学校、日本国内では得られない多くの可能性を秘めた存在であること、地域で個性を生かしながら発展させていく必要があることなどが再認識された。また、長嶺安政在サンフランシスコ総領事は、「補習校で学ぶ子どもたちが日本の良き理解者となり、世界で活躍できる人材に育っていくことを期待している」と述べ、同校がカリフォルニア州との相互理解及び友好親善に寄与した功績を称えて総領事表彰を行った。

特別講演では、総領事夫人である長嶺文子氏が、「現地校との二重生活をする同じ境遇の友



特別講演では、長嶺安政在サンフランシスコ総領事夫人である長嶺文子氏と、UCバークレー校教授で東大数物連携宇宙研究機構長・特任教授である村山齊氏が実体験を交えながら補習校の意義について語った。

達と会えるほっとできる場所だった」と自身の補習校体験も紹介し、日米両方の感覚を確固たるものにしてくれたと感謝の気持ちを述べた。また、カリフォルニア大学バークレー校教授で、東京大学数物連携宇宙研究機構長・特任教授である村山齊氏も講演し、「補習校に通う生徒は、文化を相対化する力、多角的な視野が身に付けられて、世界一ラッキーな子どもたち」と自身の帰国子女としての経験を交えながら語った。

同校は10月18日にサンノゼ・ジャイアンツ球場にて生徒や保護者が多数参加しての人文字や10人11脚などの記念イベントを予定している。

補習校の将来をみんなで考えよう」開催

今年40周年を迎えたサンフランシスコ日本語補習校 (SELIC) は、22日パークレーで「補習校の将来をみんなで考えよう」と題するシンポジウムを開催した。長い歴史をもち、幼稚園から中等部まで1200名余の児童・生徒を擁するサンフランシスコ日本語補習校は、世界各地にある日本語補習校の中でもモデル的な位置づけがされているが、学校をとりまく社会経済状況の



長嶺文子総領事夫人

変化や生徒、保護者の意識の変化などによって様々な課題に直面している。今回のシンポジウムは40周年を機に関係者が集まり、補習校の歩みをふり返り、それぞれの立場からアイデアを出し合い補習校の新たな歴史への1ページを開くものとなった。松波博之補習校理事は様々なデータを駆使し、補習校の外的・内的現状を分析、「多様化する児童・生徒への対応」「現地スタッフによる補習校経営の確立」「保護者・地域とのより良い関係の構築」「学校運営の一貫性と柔軟性」という4つの課題を洗い出し、それに対する

る対策を提言した。日本の公教育に準ずる教育を提供することが主旨の補習校も実際の運営は保護者のボランティアなど関係者の熱意に依存するところが大きい。その点では補習校をサポートするネットワークの構築も重要となるが、自身もSELICの卒業生である唐橋良行氏は同窓会の組織化を提案した。また、時間的な制約もある補習校はその教育内容の充実化や児童生徒のモチベーションの維持、向上も教職員の悩みの種であるが、現在SELIC高等部2年に在籍する榎本才志郎さんは、自身の経験も踏まえ「補習校を児童・

生徒の居場所に」と訴え、その真摯な姿勢はシンポジウムの参加者に深い感銘を与えた。そのほか、自身も韓国、豪州、米国などで補習校に通った経験のある長嶺文子総領事夫人が「補習校と私」と題する特別講演を行うなど、各方面の補習校関係者が提言や講演を行った。



長嶺総領事夫妻 (左) と談笑する榎本才志郎さん (右から2人目)



シンポジウム参加者の皆さん

井上恵嗣（NY国際交流ディレクター）：先日のシンポジウムでは大変お世話になり、ありがとうございました。シンポジウム出席後、サンディエゴでの補習授業校連絡協議会に出席し、昨日無事NYに帰還いたしました。実行委員会の委員の皆様をはじめ、サンフランシスコ日本語補習校の関係者の熱意と団結力を改めて感じさせていただいた1日となりました。私自身、これからの補習授業校を考えていく上で、課題の整理と貴重な示唆を得ることができたと感謝しております。

現在、補習授業校は様々な課題に取り囲まれている状況であり、サンフランシスコのような大規模校では、大規模校故の課題も山積していることと思います。様々な見方や立場が存在して当然ですが、補習授業校の保護者、関係者の方々は、最終的には「子供たちのために」という大きな目的を共有しているはずであり、教育現場での「充実した授業」の実現が最も重要で、その実現のために熱心な理事会のメンバーや校長先生をはじめ教職員の方々の考えをどのように多数の保護者の方々に正確に発信し、多くの理解を得ていくかが大切になってくると思います。この度は、このような素晴らしいシンポジウムにお招き頂き、改めて感謝申し上げます。貴校の益々の御発展をお祈りしております。

林ヶ谷昭太郎（ポート・オブ・サクラメント補習校校長）：ご依頼の e-mail をいただきました。意見、感想、または発表できなかったことなどを書いてほしいとのことですが、学校の方は、ポート・オブ・サクラメント補習校が準備した「S・F40周年シンポジウム—ポート・オブ・サクラメント補習校の諸問題」に一応まとめておりますので、当日参加して、私と妻が感じたことを書きまとめます。

1) シンポジウムは大変収穫の多い立派なもので、目が不自由で、体力的にも弱い私でも、ブレークの休み以外は休むことなく発表者の話を聞いて勉強したこと（9時から4時50分までも）。

2) 盛り沢山のプログラムでも、発表者の多くは、理論にとらわれず、体験や長年の経験にもとづき、具体的な例を挙げて話されたこと。

3) 特別講演者の長嶺幸子夫人、榎本才志郎（学生）、村山斉教授三人の講演はハイライトであり、三人から「アイデンティティ」、「居場所」、「ものの観方」を復習させてもらった。

4) 補習校教員研修受け入れ制度の実態と提言では、我が校のように派遣できない学校にとってうらやましい。毎年行われる現地採用講師研修会に、サンフランシスコから教員が参加されないのは、日本からの教頭派遣制度の他に、このような特別研修制度があるからだと直感した。1994年夏に、東京学芸大学主催の研修会に参加しているのでよく分かり、日本での特別研修会の必要性を感じ、参加枠をサクラメント校まで広げてほしい。

5) 補習校の将来の展望では各団体の代表者の提言、或いは要望が発表され、その後、パネル・ディスカッションでまとめられたのですが、もう一つ突っ込みが足りない印象を受けた。然し、これは発表者やパネリストの問題ではない。補習校教育の根本問題に関わるもので、40年の節目を踏まえてもう一步前進する問題を投げかけてくれた。

6) 大規模（生徒数1200人）で校舎が三つに分かれ、幼稚園から高校まで教育しなければならないサンフランシスコ補習校の悩みは、長い間恵まれすぎた肥大児の印象であったが、この悪いイメージを解消してくれた。教員、保護者、理事、職員を一つの目的にまとめあげ、40周年記念を成功に導いた企画者を初め、発表者、参加者に心から感謝申し上げ、長嶺総領事の（40周年感謝状）は、高い意義があり、よい勉強になりありがとうございました。

吉田栄一（三育学院サンタクララ校 校長）：シンポジウム当日には、大変温かなおもてなしを頂き、また、これからの日本語補習校の姿に夢を持つ元気な皆さんにお会いできて、本当に嬉しい一時を過ごさせていただきました。改めて、御礼申し上げます。あれだけの企画をそつなくこなすためには、一体どれほどの準備、段取り、連絡、心遣いが有ったことでしょう。想像するだけで、本当に頭が下がる思いです。皆さん方の苦勞のおかげで、何かが少しずつですが動き出そうとしているような産みの苦しみの一步を勇

気を持って踏み出してくださった皆さんに心から感謝いたします。今後とも、立場、組織は違いますが、子ども達のよりよい教育のために細い糸（個人のネットワーク）を張り巡らして、皆さんとの交流等に努めたいと思っておりますので、今後とも、よろしく願いいたします。心から感謝いたします。

大谷滋子（南アラメダ郡仏教会日本語学園校長）：昨日は、ご招待ありがとうございました。ベイエリアには、他にも日本語学校があると思いますが、皆さんとお会いできなかったのが残念であり、また、このような機会があればと思います。補習校ではない日本語学校という意味で、San Leandro 日本語学校さん、Pleasanton の桜学園さんとは、SF のスピーチコンテストなどで、顔をあわせることがあります。

11月に、中高部のスピーチコンテストがあるのですが、補習校からは、参加されないのでしょうか？私どもからコンテストの本部に働きかけるなどして、その際に、ベイエリアの日本語教育機関の集まりというのが実現できるかもしれないと思いました。安先生が、こういった趣旨のことのご担当でなければ、ご担当の理事の方でも、お取次ぎいただければと思います。スピーチコンテストは、領事館も深くかかわっておられますので、領事も含めて、ネットワークをさせていただくには、いい機会かと思えます。昨日は、ポート・ブ・サクラメント様と、三育学園様、私共だけでしたので、多少残念でもあり、反面、一歩先んじて、得した気分でもありましたが、ぜひ、こういう機会ですから、私でお役にたてれば、ネットワーク作りのご協力をしたく思いました。これを機に、学校間の壁を取り払って、交流を深めていけたらと、切に願います。これらの学校の中でも、一番新参者の校長で、（しかも父兄のボランティアです。）教育畑の人間でもありませんので、皆様の足を引っ張ることも多々あるかとおもいますが、子供達の将来への思いは同じだと自負しています。今後ともよろしく願いいたしました。

最後になりますが、補習校さまの、Daddy Power がとてもうらやましく思えた昨日でした。East Bay は、国際結婚、永住組が多く、こちらは、Mama Power が強いです。が、親である以上、子供に羽ばたいてもらいたいという願いは一緒なので、父兄をもっと巻き込んで、頑張っていこうと決心させていただいた一日でした。

デイシー洋子（小学部 SF 校主幹）：40周年記念シンポジウムでのご計画から、昨日の本番、そしてその後の整理まで実行委員会とお手伝いの皆様の並々ならないご尽力に心から感謝申し上げます。様々なご講話、経験談、パネルディスカッション、そしてまとめと、最後の歓談まで、アツと驚きの本当に素晴らしいシンポジウムでした。長い一日の筈が、興味深いお話しと楽しい雰囲気が益々盛り上がり、もっともっと続けられたらと願いながら帰宅の途につきました。

今回勉強させていただいたことを、落ち着いてもう一度考えてみます。学校教育の実践にあたり、貴重なヒントをたくさんいただきました。これからどのように活かしていくか沢山の宿題をいただきました。それを進めて行く中で、質問等いろいろ出てくると思いますので、そのときにはまたご相談をさせていただければ幸いです。今日はこれからサンディエゴに出張しますので、取り急ぎシンポジウムのお礼とさせていただきます。本当にありがとうございました。

城田たえ子（幼稚部、小学部 SJ 校主幹）：この度は、補習校を考える上で大変内容の濃いシンポジウムに参加させていただき、ありがとうございました。係のみなさまのご尽力に心より感謝申し上げます。勉強させていただきました内容に関しましては、機会をみつけながら効果的に、子ども達、保護者そして教職員に伝え、還元させたいだけますよう努力して参ります。また、10月の会もたくさんの児童、教職員が参加できますよう働きかけていく気力をいただきました。ありがとうございました。今後とも、どうぞ、よろしく願いいたします。

ニューベリー圭美（小学部 SF 校）：土曜日のシンポジウムはとても貴重なお話しを沢山聞くことができました。大変勉強になりました。どのお話しも素晴らしく、でも最後にはどなたがどの話をされたのか、わからなくなっていたところで、安さんにより、きれいに整理してまとめていただいたことで、再度理解を深めることができました。今回のシンポジウムがとても良いものとなったのは、企画・準備から当日の進行、そして後片付けまで、実行委員会の皆様、ボランティアの皆様、理事会や保護者会の皆様のご尽力、

そしてお話いただいた全ての方々への熱意や補習校に対する思いであったと思います。私はただ座って皆様の貴重なお話を聞く（しかも無料で！）だけの、一番いいところ取りでした。。。でも、参加された皆様と一緒に、本当に楽しい一日を過ごすことができました。レセプションと夕食に参加できませんでしたが、盛大に盛り上がり、更なる勉強会が行われたことと思います！？

僭越ながら、私が感じたことは2点を書かせていただきます。

1つは、イーストベイの日本語を教えている学校間の繋がりを作り、協力して子ども達を教育をしていることのお話がありましたが、私も賛成です。今はそれぞれがライバル校のように、牽制しあっているように感じます。同じ日本語を教えるという立場から、より協力し合う必要があると思います。そして、確か長谷川さんから要望として意見が出ましたが、保護者や子ども達にとって、どの学校が子どもに合っているのか、そして子ども自身がどの学校が自分に合っているのかがわかる資料ができれば良いなと思いました。

2つめは、同窓会を作ることですが、こちら私も賛成です。私自身は卒業生ではありませんが、将来子供たちが羽ばたいて行った世界のどこかで、補習校という共通の話題でつながることが必ずあると思います。

また、同窓会とは少し違いますが、学校を離れて行く子ども達が多い、小学校3年生・5年生になる児童、中学から高校へ進学する生徒を対象に、榊本君の様な現役の上級生が自分たちの経験を話したり、自分たちのした勉強方を伝授したりする機会があれば良いのではと思います。私達教師がいくら「将来のためだよ。」と話しても伝わりにくいと思いますが、実際に同じように辛い時期を乗り越えたお兄さん・お姉さんたちから話を聞き、質問することができれば、「私も僕も、もう少し続けてみよう。」と思う子ども・生徒が増えるのではないかなと期待します。毎月1回、あるいは年に何回か、学校が終わってからの1時間を上級生との交流の時間にし、自分の思いや悩みや質問を発表し合える場があっても良いのかなと思います。

以上、あまりにも稚拙な意見かもしれませんが、述べさせていただきました。私自身は、補習校より少しお姉さんですが、土曜日にお話してくださった皆様の意見や考え方・経験などを聞くと、まだまだ子どものような気分になります。撮影いただいたビデオで、再度勉強させていただきたいと思います。

今回は40周年という記念の年であり、立派なシンポジウムとなりましたが、今後、もし可能であれば、もう少し小さくて、お弁当持ち寄りで、半日でもよいので、他の学校の取り組み、理事会で出ている議題、保護者会からの意見などを聞くことが出来る場などがあればよいなと思いました。

最後に、改めて土曜日の素晴らしいシンポジウムを企画・運営していただきました、実行委員会の皆様・ボランティアの皆様にお礼を申し上げます。有難うございました。

菅原路代（小学部 SJ 校）：SJ 小学部教員の菅原と申します。昨日は、シンポジウムに参加させていただき、充実した一日を過ごすことができました。ありがとうございました。講演者、パネラーの方々、みなさん素晴らしく、私も、お話を伺いながらたくさんメモをとって、私の教育の課題にしていこう、また、今後の指導に役立てていこうなどと考えておりました。保護者会の方々とは、直接、また間接的に接する機会が多いので、普段より、補習校にご理解、ご尽力、ご協力いただいていることは実感しておりましたが、理事の皆様について、また、理事会については、ぼんやりと知るのみでした。しかし、昨日のシンポジウムで、理事の皆様が、如何に補習校のこと、子ども達のことを真剣に考えてくださっているのかを伺い知ることができました。そして、もっともっと素晴らしい補習校に発展していくと確信しました。とても素晴らしいシンポジウムで感激しました。

ただ、実際に子ども達と直接関わる現場の教員が数人参加させていただいていたのですが、本当に立派な方々を前にして、誰も意見を述べることができず、申し訳なく思っています。今、こうしてメールで考

えをお伝えする機会を与えていただき、とても嬉しく、未熟な考え、表現ではありますが、ひとつだけ、お伝えさせていただきたく存じます。

それは、やはり、現場の教員の意見、指導の実態を知っていただきたい、ということです。昨日も、色々なご意見、ご提言が出るごとに、我々教員の頭の中には、子ども達の顔、学習指導計画や指導要領、毎週の日課表が駆け巡っておりました。主幹制度になり、主幹から教員の实態は詳しく聞いていただいていることと思います。私達も現場の風通しがよくなり、本音で意見が言え、指導も充実し、やりやすくなりました。しかし、子ども達（保護者も含めて）も子ども達を取り巻く環境も、毎年、変化しています。実際に日々接している教員に、指導の実態を聞いていただくことができると、嬉しく思います。これまでも、理事視察、理事の方との懇談会などがありました。しかし、形式的な気がしておりました。

理事の方々、保護者の方々の熱意が空回りすることなく現実化するには、現場の実態、さらには教員の意見も聞いていただくことが必要なのではないかと思います。色々なご意見、ご提言が今の現場で実施できていないのは、何が足りないのか、どうしてできないのか、を現場の意見として具体的に聞いていただくことで、また、実践に即した解決策、代替案などが、新たに出てくる可能性もあるのではないかと、また、何が補習校の教育現場にとって必要なのか、大切なのか、などが、浮かび上がってくる可能性もあるのではないかと思います。

私は補習校の子ども達が大好きで、教員を続けさせていただいております。昨日のシンポジウムに参加し、この補習校を支えて、発展させてくださっている大勢の方々のご尽力、熱意を子どもたちにも伝え、補習校、日本語、日本そして、自分に誇りのもてる子ども達に育てていきたいと、改めて思いました。昨日は、本当にありがとうございました。そして、これからも、どうぞよろしく願いいたします。

東門厚子（小学部 SJ 校）：先日は、心に残るすばらしい会を立案・企画・実行を遂げられ、参加者として、感謝いたします。ご苦労様でした。そして、ありがとうございました。私は、教員として、また、一保護者としても補習校に並みならぬ思いがございます。アメリカでの日本語の維持と、そして何よりも日本を身近に感じさせてくれ補習校の存在は、子どもにとって大きな影響があると、信じております。そんな思いの中、それを確かめられるようなシンポジウムでした。よいお話がたくさん聞けました。さて、その後、少し課題を持ち帰りまして、思うままに提案をさせていただきます。

①理事や保護者会、学校側の熱意と一般保護者の意識差について：理事の方々の子どもたちへの熱き思いや、保護者会の方々の努力が伝わらず、クラス委員になると「貧乏くじ」というぐらいに、保護者の学校への不参加についてです。この点は、以前おりました、補習校のシステムをご紹介します。まず、補習校に子どもを入れた時点で、親のボランティアは義務となります。それには、各委員会がありまして、必ずその委員会に登録することになっております。たとえば、「運動会・学芸会」などを統括する総務。「図書館の整理貸し出し業務」の図書部。など、いくつかの部に分かれてその業務を分担しています。その部の部会で方針や予定を決め、部長が保護者会の役員になります。このことは、確かに保護者の負担とささやかれているところが多いのですが、結局、補習校に何らかの形で参加しているので、補習校への意識がとても高まり、保護者同士の輪もこれでよくまとまるようになります。課題もみんなで考えることができます。今の保護者会の方は、仕事が多すぎて、だからこそ、保護者会の役員になりたいという方が少ないのでは？と思うのです。こうすることによって、保護者会役員・クラス委員さんだけが「貧乏くじ」にならないと思います。めざせ「全員参加の学校づくり。」ですね。授業でも全員参加の授業作りの手法の一つ「全員参加せざるを得ない状況作り」（「この時間は全員必ず当たります。だから、答えられる！と、思ったら、手を上げて答えてしまいましょう。」と、言う強制）をします。以外にみんな、自分の答えるところを選んで手を上げるので参加意識と集中が増す楽しい方法です。（話がそれました。すみません）親も子も参加の補習校になればいいですね。

②学校と家庭の連携：補習校は学校だけでも成り立たず、家庭の支援によって子どもたちは日本語を身につけることができます。この「家庭の支援」ですが、宿題をさせるにも、各保護者の意識の差が大ききものを言います。また、実際、宿題の意図がわかっていない保護者もあつたり、家庭でどう指導してよい

のかわからない保護者もいたりします。保護者向けのガイダンスや、家庭学習の方法をシェアしあえるセミナーなどを実施してはいかがでしょうか？たとえば「作文指導の方法」これは、保護者みんなが悩む指導ですよ。セミナーやガイダンスがあればいいな、と、保護者としても教員としても思います。以上、今回のシンポジウムで考えた一案です。また、皆さんで多くの案に声を傾け、よいものを取り入れていただければと思います。

長くなりましたが、大所帯の補習校を変えることは多難なこととお察いたします。一步一步、前進するすばらしい補習校へという願いを持ち続けて、今後もご尽力お願いいたします。皆さんの熱意に打たれ、私も教師として、（ネックの3年生担任です！）高等部までいけるような子に育てる指導をしたいと思いました。ありがとうございました。

森田 昌代（小学部 SJ 校）：シンポジウム、大盛況で終了し、おめでとうございます。スタッフの皆様のごここにくるまでのご尽力に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。参加させていただき、補習校のことをこんなにも熱心に考えて下さる方がたがいてることをひしひしと感じ、そんな補習校で勤めさせていただいていることを改めて大変誇りに思いました。そして、「また頑張ってやってみようぞ〜！」という気合も入りました。補習校で過ごす子ども達は、本当にラッキーな環境にいるということクラスでももっともっと伝えて、彼らの居場所（オアシス）の一つになるように私自身も研鑽しないと感じました。

どの方も専門分野をいかした深く興味深いお話で 補習校の将来のことを考えるよい機会にもなりました。何より教え子である 榎本くんの素晴らしいスピーチを聞き、立派にすくすくと育った彼と会い、話ができ私事ですが この仕事をやっていて本当に良かったと思いました。

このシンポジウム、これだけの人数だけで聞くのはもったいないぐらい有意義なものでありました。全保護者に聞いていただきたいくらい素晴らしいものだったと思います。補習校のために 子ども達のために 力を合わせ 知恵を出し合い 夢に向かって進んでいきたいですね。

最後にもう一度、この企画運営をしてくださったスタッフの皆様、お疲れ様でした。そして ありがとうございました。次は、10月の記念イベントですね。今から楽しみです。

塚本三枝子（小学部 SJ 校）：昨日は、すばらしい企画のシンポジウムに参加させていただきありがとうございました。これからの補習校を考える上でのよいスタートになる、有意義なものであったと満ちた思いで帰途につきました。特に、教壇に立たせていただいている者としては、特別講演も含めて卒業生や在校生としてお話下さった方々から感動や多くの示唆を得ることができました。

前から考えていたことではあるのですが、今回シンポジウムに参加して、卒業生や途中で日本に帰国した子供たちからのフィードバック（補習校で学んでここ良かった、とかもっとこういう点に力を入れてほしかったとか）が日常的に聞けるようなシステムがあったら先生方の励みになるのではないかな、という思いを強くいたしました。同窓会の充実に加えて、こうした点を視野に入れていただくことができましたら幸いに思いました。

このようなシンポジウムを企画実行してくださいました関係者の皆様に感謝とともにお礼を申し上げます。ありがとうございました。

加藤郁子（小学部 SJ 校）：素晴らしいシンポジウムを企画くださり、また、当日は朝早くから準備をしていただき、ありがとうございました。たのしく有意義な一日をすごすことができました。いろいろな方のご意見を聞くことができまして、とても勉強させていただきました。すばしかったのは、榎本君のスピーチでした。感激で胸がいっぱいになる思いでした。

補習校以外のかたがたの考えなどを聞く機会のありませんでしたが、三育の吉田校長先生のお話は、教

えるものとしてだれもがそうありたいと願うものだったとおもいました。言葉や知識だけでは国際人や、人間としての思いやり、心があってこそ教育だということ。豊かな心を育てる。自分は、教えるだけで、そこまで教育できているだろうか・・・と改めて自分に問いかけました。

保護者会代表の三宅さんのお話の中にでてきたコンピュータを使う、楽しい教材を使っの指導・・・私自身も模索しコンピュータを使ってみたり、動画を使ってみたりしましたが、制約のある補習校では、とても大変でした。大変だからやらないということは進歩がありませんが、いかに今の借用校とうまく共存して問題なく行うのは、どうしたらいいのかと思ってしまう。

総領事夫人の子供時代の海外での体験、村山様の楽しいお話は、ぜひ、高学年以上の児童、生徒たちに聞かせたいと思います。補習校を実際に体験したお話は、貴重です。あのお話を聞くことで、補習校にたいする考えもかわる子供もいるのではないかとおもいました。ぜひ、機会をもうけていただきたいと思ひます。本当に有意義なシンポジウムをありがとうございました。

カーク有子（中高部 SJ 校）：昨日のシンポジウムに参加させていただき、ありがとうございました。準備委員会の皆様のご尽力に感謝の気持ちでいっぱいです。朝早くから日が暮れるまでの一日がかりのシンポジウムでしたが、あっと言う間に時間が過ぎてしまったと思えるほど、充実した一日でした。まずは、それぞれのお立場からのすばらしいお話をたくさん伺うことができ、大変有意義なものでした。それと同時に、いかに多くの方々に支えられて補習校が運営されているかということに改めて実感するとともに、微力ではありますが、今現在補習校職員としてその任に携われることに大変嬉しく思いました。

どの方の講演も大変考えさせられる内容の濃いものでしたが、補習校で学んだ経験について話された3人の方のスピーチには感動するばかりでした。中でも、榎本君は彼が小学1年生のときに担任したために、その当時の彼の思い出が去来して、ただただ彼の立派に成長した姿に胸があつく思いで聴かせていただきました。村山さんの楽しいエピソードが織り込まれた講演内容などもとても心に残るものでした。そのような現在各界でご活躍の帰国子女や補習校卒業生の方々の貴重な体験談を、是非今の補習校（特に中高部）の生徒たちにも聴いてもらえる機会（講演会？）があつたらよいと思ひます。生徒たちの励み・目標になること間違いないと思ひます。現場でできる小さなことかもしれませんが、早速職員間で話し合いたい課題になるのではないかと考えています。また、保護者との一体感が不可欠・重要なものであるということを確認しました。学校と保護者との信頼関係を築くためにも、学校側（担任サイド）からできる情報の発信の手段をもっと多様に考えていけるのではないかと思ひました。例えば、SJ 中高部では昨年度から始まった学校だよりは、保護者のみなさんから好評をいただいています。あるいは、昨年度担任した学級では、クラス委員さんが自主的に取り組んでくださった毎週のクラスメール連絡なども、そのヒントになりそうな気がします。一方、学校側から発信するばかりではなく、生徒や保護者の声をモニターして、現況を把握することが問題解決に有効であるというご意見にも課題意識を持たされました。

今回のシンポジウムで一番心に残ったことは、補習校には学校と保護者の連携が何よりも大切だということです。まずは教職員としてできることを考え、ひとつずつ取り組んでいきたいと考えます。以上、思いつくままのまとまらない文章ですが、シンポジウムへの感想とさせていただきます。

山口かおる（中高部 SJ 校保護者）：あれだけのご準備、ご企画、大変なご苦勞があつたと思ひます。裏方で支えていた沢山のボランティアの方々にも頭が下がりました。歴史に残る日に、補習校を10年間見守っていた1保護者として参加させて頂き、沢山の学びがありました。途中で失礼させて頂いてしまったのが心残りではありません。心から感謝申し上げます。

一番感動したのは、この40周年を、補習校だけのものに留まらず、バイエリア全体のコミュニティとして価値あるものにしよう、としていた視点です。タイトル通りの「みんなで考えよう」でした。支援を受けている省庁、財界からの提言、学校側からは理事会、保護者会、そして生徒さんからの提言。コミュニティとして、卒業生や補習校経験者、他校の校長先生からの提言。私個人的には、これに、子供を直接預かってきている SF 日本語補習校の現地教員の方達から、現場からの視点発表や提言があれば、

もっとバランスが取れてよかったですのでは、と思います。4名の主幹先生を頭とする現地教員は、一番教育現場を理解し、子供の現状も把握している方達です。校長、教頭職につく文部科学省派遣の先生方は3年で交代。教育現場や文化の違いもあり、校長、教頭先生には、したくても、長期的、かつ現実的に現場を把握できない実情があると思います。

今回のシンポジウムで学びましたが、主幹制度が2007年に始まってから、文部科学省派遣の先生方は、現地教員指導にお仕事の中心が移動した、とのこと。これを受けて、教育現場は、ますます現地教員にまかされるようになってきているはずですが、しかし、子供の教育に直接関わる部分を担っている主幹に代表される現地教員のみなさんは、組織的には、今、どこにも属していないような印象を受けます。シンポジウムの内容を拝見して、その印象が深まりました。

保護者会からの、子供の教育自体に関わる部分の提言（授業の工夫など）は、とても前向き、具体的だと思います。これにつきましては、現地教員の方々と協議して頂くと、より子供達に利益がある、現実的なものになるのでは、と思います。

榎本君のスピーチ、長嶺文子さんのスピーチは、素晴らしかったです。榎本君のスピーチは在校生のみならず、各補習校に通うバイエリアの子供達の思いを集約したものと言えましょう。そして長嶺文子さんのスピーチとお持ち頂いた担任の先生手書きの文集は、日本語教育に携わる全教員の方々に大きな元気と感動を与えてくれると思います。

何かの形でお二人のスピーチをシェアして頂けたら、SF日本語補習校の生徒、教員にとって、40周年の思い出に残るものになるばかりではなく、日本語教育に携わるバイエリア全体のコミュニティの財産になる、と思います。

40周年という節目に、補習校の将来をこれだけ熱く語り合う貴重な機会が生まれましたことは、実行委員会のみなさまのおかげです。1保護者として、バイエリアの日本語教育界をリードする補習校をとっても誇りに思えました。ご参加の皆様も同感だったと思います。厚くお礼申し上げます。ゆっくりお疲れを取り、この素晴らしいチームワークで、また次のイベントへ繋げてください。シンポジウム、本当にありがとうございました。

西郷和義、リベカ(中高部 SJ 校保護者) : 昨日は本当に素晴らしいシンポジウムを開いていただきありがとうございました。ご講演いただいたお一人お一人のお話に深い内容がありまた笑いもあって、感動いたしました。家に帰ってきてからもまだ感動が心に残っています。各地からこられた皆様も喜んで帰られたとおもいます。お昼に退席された長嶺総領事ご夫妻を、お見送りいたしましたがお二人も喜んでおられました。サンフランシスコ総領事館からいただいた表彰状も嬉しかったです。今年は補習校だけに送られると小川領事からお聞きしました。こんな嬉しいサプライズがあったのも、実行委員の皆様がシンポジウムを企画してくださったからだだと思います。心から感謝申し上げます。

三宅孝明 (SFJLC 保護者会・代表会長) : 大変お疲れ様でした。正直何もかも行き届いていたと思います。シンポジウムで得た情報の質と量は想像を超えるものでした。安さんの企画、準備、リーダーシップ、又、浅尾委員長、実行委員会の皆さん一人一人のご尽力のお陰だと思います。有り難うございました。

この後、シンポジウムで得た情報、意見が学校運営側で公式にフォローアップされるよう手を打っておく必要があるかと思います。もう既にお考えでしたら、失礼いたしました。又、公開する記録とは別に、数ヶ月先でも構いませんので、出席者の方々全員に、学校運営側の対応に関するフィードバックを与えられると今回のシンポジウムがより完成されたものになるのではと考えています。継続的には難しい為、フィードバックは一回きりで十分と思います。実行委員会としては、そこまで必要はないかもしれませんが、私見ですのでご了承下さい。ロジスティックスについても一部の方々に甘えてしまったところがありましたが、問題もなく手配は完璧でした。しばらくまとめの仕事でお忙しいと思いますが、宜しく願いいたします。

3.6 併催・写真展

シンポジウムでは写真展を同時に開催した。公募をしたが時期的に夏休み直前～夏休み明けのということで実際の公募は2名のみだった。そこで委員会内部からも写真を出した。当初は優秀者を発表することを考えていたが、公募の状況を鑑みて作品の講評のみ（シンポジウム後の夕食会にて）にした。それでも全作品数は23点、シンポジウムの部屋の一角を飾るには十分な量にはなった。公募はすべてデジタルファイルで受付、それを担当（保刈）がCostcoの印刷サービスを使って印刷した。写真は一点ずつ簡単なフレームに入れ、タイトルをつけた。フレーム作りは手作業だったため、切り取り・貼付けなど手間を要した。講評では、森田昌代先生のスイミーや、西郷和義様のキャンプの集合写真、小島ひろみ様の綱引き、三宅孝明様のポスター写真などをとりあげ紹介した。以下参加作品の一部を示す。



『みんなで作ったスイミー』
撮影 森田昌代
(実際はカラー)



『サンノゼ小学校6年生、最後の夏』
撮影 西郷和義
(実際はカラー)



『補習校運動会』
撮影 小島ひろみ
(実際はカラー)



SF校保護者会ポスター
作成 三宅孝明
(実際はカラー)



『2007年運動会 大城道場』
撮影 山口高宏
(実際はカラー)



展示の様子



発行者: 40周年記念行事実行委員会

webmaster@sfjlc40.org

2009年7月7日

補習校の写真募集

40周年委員会では8月22日(土曜日)開催予定のシンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」にて同時に補習校写真展を開催いたします。みなさまからの写真を募集いたします。シンポジウムには補習校だけではなく、ほかの日本語学校や政府の方なども招かれています。我々補習校のすばらしさをお見せするよいチャンスです。またシンポジウム参加者による人気投票を行い、優勝者を表彰いたします。

いままで撮りためた写真から「これだ!」と思うものを投稿ください。

- 参加資格者はサンフランシスコ日本語補習校(サンフランシスコ校・サンノゼ校・幼稚部・小学部・中高部を問いません)の保護者または在籍している児童・生徒です。
- 写真内容は補習校と関連するものに限り、できれば補習校のすばらしさが伝わるものにしてください。公序良俗に反するものは不可です。
- 白黒、カラーは問いません。デジタルの静止画のみです。
- ファイルをメールに添付して8月8日までに symposium@sfjlc40.org に送付してください。お名前、クラス名を明記ください。写真にタイトルがあればそれもどうぞ。
- 写真展に応募するにあたり、シンポジウム自体に参加・来場される必要はありませんが、シンポジウム後の夕食の場において表彰式を行います。
- 印刷と簡易なフレームへの貼り付けは当方にて行います。一般の印刷業者を利用しますので、詳細なカラーコレクションやトリミングなどをご容赦ください。なおフレームの色は黒を予定しています。もしご自分で用意される場合は、シンポジウム当日で自分で会場まで搬入してください。その場合もかならず当方まで事前にご連絡ください。
- 後日、印刷したお写真を差し上げます。
- そのほかの注意事項
 - 被写体に人物が含まれている場合は、肖像権の侵害等が生じないように応募者本人の責任においてご確認ください。
 - 応募作品に関して、著作権侵害や肖像権侵害など法律上の問題が発生した場合は、応募者にて対処願います。サンフランシスコ日本語補習校(理事会、40周年記念行事実行委員会含む)は、応募作品に対する著作権侵害や肖像権侵害に関する責任は負いません。
 - 入賞作品は40周年シンポジウム会場での掲載のほか、サンフランシスコ日本語補習校 Web サイト、40周年記念 Web サイトに掲載させていただく場合があります。
 - 入賞作品の掲載・利用にあたっては、トリミングで写真の周囲を切り取ったり、縁取りなどの装飾を付けるなど、当方で必要と判断する加工を施す場合があります。
 - 応募作品の取扱には十分注意いたしますが、万一の事故に関する責任は負いかねますのでご了承のうえご応募ください。

ご質問があれば写真担当 保刈正行 masa.hokari@hotmail.com までご連絡ください。

3.7 準備・ロジスティックス

3.7.1 事前準備

1. 1 プログラム・会場契約

- プログラム策定（2/23開始、4/26委員会決定、6/11理事会承認）。
- 会場探し（4/27開始、DBC下見：6/5）
- 契約（DBC見積り・契約書原案：6/10、契約・手付金：6/29、残金支払：7/22）。
- シンポジウム用ウェブサイトの立ち上げ（www.sfjlc40.org/symposium/）。

1. 2 講演者・出席者

- 外部講演者への出講依頼（4/27開始、6/12確定）。
- シンポジウム関係の連絡用メールアドレスの設置（5/28）。
- 講演者の出欠（6/12確定）。
- 理事会、保護者会、教職員、40周年委員会関係者への出欠調査（5/29開始、6/11確定）。
- 報道関係、有識者関係、他校関係者への招待状発送（6/8開始、6/30確定）。
- 講演者のプロフィール（プログラム・座長紹介用）。
- 講演者配布資料・スライドの有無の確認
- 一般参加者への案内（メルマガ1号：6/20、2号：7/24）（8.2節参照）。
- 一般参加確定者への電子メール案内状発送（7/25）

1. 3 ロジスティックス

- 来賓への駐車場問い合わせ。
- 茶菓の手配（開場時、午前コーヒープレイク、午後コーヒープレイク）
 - TeaBag・ダイエットシュガー
 - コーヒを入れてもいいような保温ポット
 - 青柳――\$1.99のワイン 赤3本 白3本
 - 保刈――\$1.99のワイン 赤6本
 - 山口――500mlWaterBottle24本入り 5ケース
 - 池田――500mlWaterBottle24本入り 5ケース
 - 小西――2GallonWater 8個
 - 柴田――2GallonWater 5個
 - 西郷――ソフトドリンク 2literBottle（コーク1 スプライト2 オレンジソーダ1 シンジャエール
- 1) お茶または紅茶 2liter（現地のスーパーで手に入るものでOK） 3
 - 藤井――36本入り ビール 1ケース
 - 坂井――36本入り ビール 1ケース
 - 松波――ケーキ皿とフォーク
 - 安正恵――ケーキ
 - 安――飲み物を冷やすバケツの件、DBCで最終打ち合わせするときに確認
- 昼食（寄付、脇田から三輪さんに依頼）当日の受け取りと配達：山口
- 夕食（見積り：喜多さんに依頼6/11、DBCとの相談6/29、BtEとの契約7/30）
- 受付用出席者リスト： 安
- プログラム100部： 安
- バッジ（講演者用ギフトのしるし）： 安
- ビデオ撮影許諾書80部： 安
- 配布資料50部ずつ： 安
- 招待者用スウェット：11着：三宅
- 校旗、バナー、Podium用SFJLCロゴ、報道関係配布用学校説明資料：青柳、校長先生
- 寄付領収書（blank）30部： 松波さん
- 寄付箱（松波）、寄付受付用コンピュータ3台（西郷、松波、三宅）
- パネリスト名札、 安
- プログラム投影用のコンピュータとパワーポイントスライド。 安
- 本校紹介パネルの作成： 青柳
- レーザーポインタ、バックアップ用プロジェクタ、講演用コンピュータ： 安
- 3分前、1分前の紙、ストップウォッチ： 柴田
- 延長コード（持って来られる人、自分の名前を書いておく）
- 台車2台： 青柳
- イベントのポスターは現物を会場で掲示し、今回はチラシは作らない。担当は浅尾。

- 受付用プリンタ (HP Deskjet F4400 series) : 安
- ビデオ撮影の件、柴田さんが窓口、詳細は荒牧さんと。40周年委員会・理事会が最終的に成果物として必要なのは各講演ごとのビデオファイルを収めたDVDディスク
- 当日配布される資料をまとめたい人は、3穴バインダーを各自持ってきてください。

1. 4 写真展

- 応募要項の確定 (保刈)
- 募集広告の配布 (メルマガ2号)
- 出展者の確認
- 出席者の投票用紙、掲示するためのピンなど。
- 賞品、表彰状

3.7.2 当日

2. 1 会場設営

- スタッフは午前8時集合。準備開始
 - 受付テーブル用意。(受付係: 山口、ガージーさんお手伝い)
 - * 出席者リスト、バッジ(50音順に並べる)、ビデオ許諾書、プログラム、
 - * 寄付箱、寄付受付用コンピュータ3台、プリンタ
 - 会場設営(安、三宅、西郷)
 - * 講演用コンピュータ、プログラム表示用コンピュータ、講演台設置
 - * 他校の展示スペース、SFJLC展示スペースの用意と展示
 - 記録用ビデオカメラ・マイクロフォン設置(ビデオ係・荒牧さん)
 - 茶菓・リフレッシュメント(松波、脇田、大山とも子さんお手伝い)
 - 写真展設営(保刈、安正恵さんお手伝い)
- 午前8時半開場、受付開始(受付係)。
 - それぞれの配布物、バッジを手交。出欠リストにチェック。
 - リストに載っていない飛び込み出席者にバッジを手書きしてもらう。
 - 他校関係者到着時にポスターを受け取り掲示を手伝う(会場係に展示依頼)。
 - 寄付希望に対して、PayPalでの寄付を補助する。

2. 2 進行

- 8:55開始予鈴。出席者に着席を促す(安)。
- 進行係(柴田、山口かおるさん)は座長、講演者に適宜マイクを付ける。3分前、1分前の紙を見せてタイムキーパー役をする。
- ビデオ係(柴田、荒牧さん)
- 会場係(西郷、安)は午後のコーヒープレイクの間に、パネルディスカッションの設定をする。
- 昼食係(山口さん手配)は時刻を見計らって昼食を受け取りに出向く。
- 記録係(坂井、池田)は全体の会合を通してノートテイクし、村山先生の講演の間にサマリーを用意する。
- 茶菓係(松波、大山さん、ほか、お手すきの方)
- 写真係(保刈)昼食時の集合記念写真、そのほかスナップ写真。

2. 3 レセプション・夕食

- バー、Buffetの用意はBtEが担当。飲み物は松波さんが用意。
- 食後にお問い合わせのお話の候補者(林ヶ谷校長先生、大谷校長先生、中川淳子さん、長嶺総領事)
- 写真展表彰(保刈)
- 写真係(保刈さんが忙しいので、どなたか?)

3.7.3 開催後の総括・整理

3. 1 まとめ・決算

- 会計処理。
- 委員会・理事会への会計報告。

3. 2 お礼状

- 招待講演者へのお礼状送付。
- 寄付者へのお礼状送付。

3. 3 ウェブサイト・出版(プロシーディング)

- 記録したビデオをSFJLC40.ORGに掲載。
- 配布資料などをまとめレポートとしてSFJLC40.ORGに掲載。(ビデオから原稿おこしをするか?)

San Francisco Japanese Language Class, Inc.

760 Market Street, #816
San Francisco, CA 94102
TEL 415-989-4535
FAX 415-989-2542



Consent and Release

I am a presenter/speaker/attendee for the 40-th Anniversary Symposium (hereafter the "Event") organized and hosted on August 22, 2009 by San Francisco Japanese Language Class, Inc., a California Nonprofit Public Benefit Corporation (hereafter "SFJLC"). I understand the Event will be videotaped and recorded for the purpose of being used and distributed in any formats by SFJLC for educational purposes, including, but not limited to, the classroom, television, the Internet (including webcasts, YouTube and podcasts), and any other communication medium currently existing or later created.

I give my permission to and authorize SFJLC to videotape, audiotape, photograph, record, edit or otherwise reproduce my presentation and/or remarks, including any written hand-outs or digital information I present, and to use them in the formats and for the purposes stated above. SFJLC retains the right not to use the footage for other than educational purposes.

I agree to indemnify and hold harmless SFJLC, its employees, and representatives against any and all claims arising out of my presentation and/or remark, including, but not limited to, claims of copyright infringement, defamation, and misrepresentation.

I declare I have read the above, fully understand its meaning and effect, and agree to be bound by it.

Signed _____ Date: _____

Print Name _____

Address _____

City/State/Zip _____

4 合同イベント



小島浩美さん制作

4.1 主旨

1969年にサンフランシスコ日本語教室として始まった本補習校は、1986年に小学部SJ校が、1992年中高部SJ校が開校して以来、サンフランシスコ地区、サンノゼ地区で運営されてきた。理事会、事務局では「1つの学校」として運営が行われてきたが、児童・生徒、保護者がお互い交流する機会はほとんどなかった。共同作業を通じて、この40周年を全校一緒に祝う機会となることを目指してこの合同イベントを企画した。位置的に会場がサンノゼ地区にあり、当初サンフランシスコ地区からの参加数が伸び悩むことが懸念されたが、在校生だけでなく多くの卒業生も参加・お手伝いに駆けつけ、名実ともに合同イベントとなった。

4.2 プログラム

日 時 : 2009年10月18日(日) 10:00~14:00 (9:30開場)
場 所 : San Jose Municipal Stadium, 588 East Alma Avenue, San Jose, CA
当日連絡先 : 408-507-1255

会場マップ



午前9:30 : 開場・受付

全時間開催

- 子供のためのゲームコーナー (3 塁側)
小さな子供たちのために、缶倒し・ヨーヨー釣り・ジャンピングハウス・スピードピッチボールバック投げなどご用意しています。
- フリーマーケット (1 塁側)

保護者の方々が、家に眠っている“良いもの”を皆様にお届けします。掘り出し物があるかも？是非覗いてみて下さい。

- サイレントオークション(本部席後方)
日本往復航空券など、大物オークションが目白押しです。
10:00～12:40 ビットタイム、2:00以降引渡しとなります。
チェックか現金をご用意ください。

午前 10:00～11:00 (グラウンドにて)

- 幼稚部向け：フラッグ鬼ごっこ (外野 3 塁側)
枠の中で、大人がお尻につけたフラッグを追いかけて取ってもらいます。参加者には、小さなプレゼントがあります。
 - 小学生向け：大型カルタ取り (内野)
大きなカルタを、二人一組で取っていくゲームです。短い時間で、取ったチームの勝ちになります。参加は登録制です。
 - 中高生・保護者向け：10人11脚(外野 1 塁側)
2人3脚の拡大版で、10人以上が一組になって走ります。40周年にちなんで、40メートルをより早く走り抜けたチームが優勝です。参加は登録制です。
 - 全学年・保護者向け：じゃんけん列車(外野)
小さなお子様から保護者まで、一緒に気軽にご参加頂けるゲームコーナーです。優勝者には、小さなプレゼントがあります。
- *小学生以上のゲームの優勝者は、式典にて表彰予定。

午前 11:00～11:30 (内野にて)

- 40周年記念式典
参加者は、スタンドに座ります。
- 鏡開き

午前 11:30～ (内野にて)

- 鏡会 お餅つき
希望者には、もちつき体験や、つきたてのお餅の試食もあります。

お昼休み

- たくさんのメニューが、目白押しです。食券を御購入ください。
- 和風お楽しみ弁当やキッズメニューを、お弁当券(\$5)で販売いたします。
有名レストランの味をご賞味ください。
- デザート/飲み物は、\$1券・50円券を組み合わせでお楽しみください。
- ゲームは、50円券をお使いください。
- 購入していただいた券の返金はできませんが、球場内共通となりますので、どのブースでもお使いいただけます。

午後 12:45～ 1:15: (内野にて)

- 補習校 ウルトラクイズ

午後 1:15～2:00 (外野にて)

- 人文字作成後、航空写真撮影
全員で人文字を作成し、セスナから写真を撮影します。
たくさんの方の参加者をお待ちしています。

午後 2:00 閉会の挨拶

4.3 実施状況

4.3.1 人員配置

ボラン
ティア 在学生 卒業生

委員会 担当者	担当部署	サブリーダー	業務内容	時間と集合場所	SF	SJ	SF	SJ	SF	SJ
三宅	大カルタ競技 (小学部)	平原 荏原	整列/進行/審判	9:30~11:30 (9:30 マウンド集合)	5	2				
柴田	10人11脚 (中高部、 教職員、保護者)	榎本 荏原	スタート	9:30~11:30 (9:30 外野集合)	1	1				
			ゴール		1	1				
浅尾	保護者ゲーム		チーム編成のサポート		2	2				2
松波	フラッグ鬼ごっこ (幼稚部)	中谷		10:00~10:50 (3 塁側外野集合)		3				
	ジャンケン列車 (全員)	松波理事	景品配り・手伝い	10:00~10:50 (9:45 外野中央集合)		3				1
保刈 坂井	人文字	守屋	線引き 形作りなど、お手伝い	12:00~2:00 (12:00 外野集合)	3	7				
山口	式典		マイク・国旗の用意 表彰状などの受け渡し	10:45~11:45 (10:40 バッターボックス集合)	1	1				
		賀川	校歌斉唱							
安	ウルトラクイズ	益子教頭、 井上教頭	正解・不正解のグループ分け 人文字の手伝い	12:45~2:00 (12:30 マウンド集合)	1	1				
松波	フリーマーケット									
脇田	オークション	小林 山 山口	手伝い (5分前、本部席後方集合)	(9:30~11:45)	1					
				(10:45~12:00)	1					
				(12:00~13:15)	1	1				
				(13:15~14:00)	1	1				
	食事	グリフィン 高橋智美 池上かおり	食事の販売	9:00~11:30	1	1				
				11:30~12:30 (11:20 スナックスタンド集合)	2					
松波	子供ゲーム	独古/ 小山(奥)	バウンズハウス	①9:00~11:00	1					
				②11:00~13:00		1				
				③13:00~15:00		1				
				④9:00~11:00		1				
松波	子供ゲーム	独古/ 小山(奥)	缶倒し	②11:00~13:00					1	
				③13:00~15:00						
				⑤9:00~11:00		1				
				⑥11:00~13:00		1				
松波	子供ゲーム	独古/ 小山(奥)	ビーンバック投げ	①9:00~11:00		1				
				②11:00~13:00					1	
				③13:00~15:00		1				
				⑦9:00~11:00					1	
松波	子供ゲーム	9-12 杉野 12-3 馬越	ヨーヨー釣り	②11:00~13:00	1					
				③13:00~15:00						
				⑧9:00~12:00					1	
				⑨12:00~13:00		2				
松波	子供ゲーム	9-12 杉野 12-3 馬越	スピードピッチ	③13:00~15:00						
				⑩9:00~12:00						
				⑪12:00~13:00						
柴田	音響・放送	高田 /中高生徒 荒牧	放送係(学生)	8:30~ (放送室に集合)						
			ビデオ							

							2						
		八木	写真										
池田	会場	西郷 齒黒	設営 ゲーム備品搬入、 本部席設営、会場設営 (ゲーム、オークションな ど)	8:30~10:00 (5分前に正面入り口集合)			3	8					
			受付、チケットブース設営 受付設営、 チケットブース設営、 PCセットアップ	8:30~9:30 (5分前に正面入り口集合)			2	4					
			受付 PCによる受付、 ラッフルチケット配布	9:30~11:10 (5分前に正面入り口集合)			2	2					
			チケット販売 チケット販売 (食券、ゲーム券)	9:30~11:10 (5分前に正面入り口集合)			1	4					
			駐車場 入場してくる車の 空きスペースへの誘導	9:10~10:50 (5分前に駐車場料金所集合)			1	3					
			午前・会場案内・警備	10:00~12:00			1						
			会場案内 立ち入り禁止区域のチェック 不審者チェック	(5分前、本部集合)					1				
			午後・会場案内・警備 会場案内 立ち入り禁止区域のチェック 不審者チェック	12:00~2:00 (5分前、本部集合)			1	2					
			退場誘導 搬入口の見張り1名、 ゲートのまでの誘導1名	13:50~14:45 (5分前に各ゲート集合)									
			駐車場退場 駐車場内誘導1名 駐車場出口1名	13:50~14:45 (5分前に駐車場料金所集合)									
						人数トータル			40	65	0	0	1

4.3.2 記念式典

事前準備

- 式典の構成案：植木校長が用意、実行委員の意見を参考にして完成
- 来賓の招待：理事長、学校長、事務局が手配
- 鏡会の餅つき：脇田委員の手配
- 大関酒造から酒樽の提供：脇田委員の手配
- 会場の用意と設備：10月4日の下見に植木校長が参加。マイク、スピーカーなど設備の有無を確認
- タイムカプセルのダミーを用意
- 日本国歌独唱者は柴田委員より榎本博之さんが、米国国歌独唱者は久保田理事より森祐美子さんが、それぞれ推薦された。

当日の準備

- 司会：牛島・中高部 SF 校主幹
- 司会のマイク、来賓用椅子位置の確認
- マイクの音だし、2名の国歌斉唱者のマイクテスト
- 司会者と進行の打ち合わせ（表彰の手順、名前の確認など）
- 2名の保護者ボランティアと打ち合わせ。ボランティアにお願いしたのは来賓のエスコート、鏡開きの時の来賓への半被の手伝い、賞品の受け渡し、後片付け。

式典本番

- 君が代独唱（榊本博之さん）
- 米国国歌独唱（森祐美子さん）
- 理事長挨拶
- 来賓の紹介
 - 在サンフランシスコ日本国総領事 長嶺安政（やすまさ） 様
 - 在サンフランシスコ日本国総領事夫人 長嶺文子（あやこ） 様
 - 在サンフランシスコ日本国領事 小川 康弘（やすひろ） 様
 - 北加商工会議所事務局長 中川 淳子（じゅんこ） 様
- ゲストボランティアの紹介
 - 医療ボランティア 岡井 健（たけし） 様
- 総領事挨拶
- 北加商工会議所事務局長挨拶
- 校長挨拶
- 各表彰
 - 大型カルタとり、10人11脚、じゃんけん列車の優勝者表彰（記念品としてメダルを授与）
 - パナーコンテストの入賞者の表彰
 - 40周年記念Tシャツの提供、Tシャツのデザイン、ポスター図案をしていただいた方の紹介とお礼を述べる。
- タイムカプセルセレモニー（代表生徒より、40周年記念行事実行委員会委員長へ）
- 鏡開き（鏡開きの意味を説明し、当日はお酒の代わりに水を入れたものを用意して来賓、校長、理事長、委員長に半被を着てもらい、小槌で樽を開く。）
- 鏡会による餅つきの実演。つき上がったもちは児童など参加者に振る舞われた。



反省

- 前のイベントのずれ込みにより、予定より遅れて開始
- 式典は特にアクシデントも無くつつがなく終了。時間は予定より多少オーバーした
- 式典開始当初はスタンドに座る参加者も多少落ち着きがなかったが、日本国国歌、米国国歌独唱後は大きな拍手。その後は皆の注目を集めて式典が進行。
- 式典開始時間に表彰者全員があつまっておらず、式の開始にもたつきが出てしまった。（ボランティアを用意してイベントの優勝者などエスコートしてもらえば避けられたはず）
- 米国国歌斉唱の森さんが式典開始時間になっても姿がみつからず、ボランティアに頼んで探してもらった。（本人はバックネット裏にいて、お互いに集合場所の明確な確認不足が原因）
- 式典に際して日本国旗、米国国旗があればもっと式典らしくなったと思う。
- イベント優勝者の名前を集めるのに誰に聞けば良いかわからず、慌てた。（事前に名前を集める打ち合わせをしておくべきであった）
- イベントの優勝者が複数いて、用意してもらった表彰状では足りず、暫定的に一枚の表彰状に複数の名前を入れてしのいだ。正式な表彰状は後日、事務局で作ってあらためて渡してもらった。
- 表彰状に名前をいれるときに誰が表彰状に名前を書くか決めていなく、通りかかったデイシー主幹にお願いして書いてもらった。

4.3.3 人文字作成と航空写真撮影

事前準備

- 文字パターン作成： 保刈委員がコンピュータ処理により文字をシミュレーションした。Google Map, Photoshop, Visio などを使用した。この準備には多くの試行錯誤が必要で、相当な時間を費やした。(数十時間のオーダー)
- 物品購入： 文字パターンに従い、おもに保刈委員が Party City, OSH, Staples などが必要物品を購入した。とくに風船は数が多いため、店舗ごとの在庫個数を確認したり、割引クーポン、非営利団体割引などを利用した。
- 紐とカウンター準備： 文字パターンは紐でガイドする方式をとったため、紐に事前にマーキングする必要があった。保刈委員がサンプルを1時間ほどで作成、残り全ては一週間ほど前に守屋サブリーダーと SJ 保護者会役員でマーキング作業をした。またカウンターを小さな紙片にリングと留めるということで作成する作業も同時に行なった。作業には2時間ほど必要であった。

前日の準備

前日 10/17 (土曜日) 夕方 6 時に球場に担当委員の坂井、保刈、守屋サブリーダーそして SJ 保護者会役員数名が集まり、ガイド用紐の展開と石灰のマーキングを行なった。束ねてあった紐がうまくほどけず、からまってしまったため作業は困難であった。また現場は暗くて寒くなってきてたが、球場のライトを点灯してもらえた。最終的にはいったん紐を切断して絡まりをほどき、その後再びつなげた。作業には2時間ほど費やした。一番外枠の大きな四角だけが展開できた。

当日の準備

人文字の現場準備は早朝からはじまった。その場では霧が発生していた。担当委員の保刈と守屋サブリーダーそれに SJ 保護者会役員で文字の展開を始めた。また現場にいた生徒にも手伝ってもらった。前日の紐が絡まった経験から、展開は注意して行なったので紐の展開自体はスムーズであった。白線によるマーキングも行なった。準備にはおおむね1時間30分ほど費やした。

当日の行事

- 実際の行事中は暑すぎもなく寒すぎもなくちょうどよい天候に恵まれた。
- 現場指揮は、守屋サブリーダーが担当した。保刈委員は、手伝いをしながら写真撮影を担当した。
- 計画通りにボランティアに集ってもらったが、その数では足りないように思われたため、急遽理事、教職員や一般参加者からボランティアを10名ほど募った。
- 参加者は計画通り、ウルトラクイズ敗者を順次誘導する方法で行なわれた。ウルトラクイズは15分ほど遅れて始まったため、時間を短縮して行なわれた。
- 守屋がボランティアへの説明を行なった。また守屋と坂井で全体を見て回った。
- ボランティアが参加者の誘導、風船の配布を行なった。文字カウンタ担当が10名、風船係が10名ほどであった。
- 飛行機との連絡が若干とりにくかった。飛行機は Air Accord 提供で脇田祐三さんが操縦、写真撮影は伴秀行さん、ビデオ・通信は独古哲さんが行った。この3名の紹介スライドをオーロラビジョンから流した。
- 最終的な人文字参加者はおよそ1,200名であった。行事の参加者は1,800名なので600名ほどは時間までいなかった、いたが参加しなかった、またはなんからかのボランティアの担当をしていた者であると考えられる。

よかった点

- 文字の大きさは計算通りだった。時間的にも予定内で収まった。
- 低コストに実行することができた。
- 風船による色のりが良かった。
- 白線の使用量は最低限で手間・コスト削減になった
- 準備や現場での緊急のボランティア応募でも、多くの人から手伝ってもらえた

完成予想図



実際の撮影結果



反省点

- 今回使用した紐は絡まり易く、収納は注意を要した。
- 予定していた当時ボランティアの数が足りなかった。その場で募集しなければならなかった。
- プランニングに非常に多くの時間を費やした。これはまったくの経験のない者達が行ったため不可避ではあった。もし同様な行事をするのであれば、ずっと少ない時間で計画やシミュレーションができるであろう。

4.3.4 10人11脚

計画立案

- 「多くの参加者と思い出に残る競技」を念頭に置き立案した。委員会からは白紙の状態での依頼でサブリーダで細部をつめたが、結果としてはよかったと思う。
- 足を縛るサポーターを日本から取り寄せた点も大変よかった。
- 練習時の注意点、競技上の注意点、チームメイトとの体の組み方なども十分に説明がある競技説明書の内容もよかった。（最初のパワーポイントの資料はよく構成されていた。）
- 競技の資料集めから実際に競技するためのチーム編成人数など、SJ校で十分に下準備されており、SF校が加わった段階では、競技のイメージがつかめるレベルまで計画されていた。



募集

- 再三呼びかけたが、全体に浸透させるのは困難だった。保護者向けには、最初は参加者の募集をメールで行ったが、応募者は0だった。その後、土曜日実際に学校に行き顔見知りになら声掛け、そこから参加者を募ってもらった。最終的に予想以上に参加グループが集まった。
- 40周年記念イベントの情報より早く動き出したため、なかなか理解してもらえなかったり、混乱させてしまった。（10人11脚に出なければイベントに参加できない、等）
- 10人11脚には登録はしたが、イベント参加には登録はしていない人が沢山いた。
- 榎本サブリーダが情報を流す手段がなかった。サブリーダとしてアサインされていたが、DBのアクセス権などはなく、保護者会を通して全体にメールを送るざるを得なかった。
- SF校・SJ校と別々に進行したことによって、募集状況に開きがあった。
- SF校：
 - 保護者会役員から中高部の先生方・生徒会への協力を呼びかけたがSJ校同様に明確な反応は得られなかった。
 - 保護者会の連絡メールやフライヤーの配布、昼休みの生徒たちへの呼びかけを行った。
 - 直前までボランティアに参加する家族や、友人のつながりで電話やメールで呼び掛けて2-3人ずつ集める募集活動だった。
 - 保護者の参加者募集では卒業年の保護者の中から有志数人が集まったので、その数人をベースに、先生方の有志にお願いしてチーム編成にこぎつけた。
 - 全体的に記念行事そのものへの関心を高めること、行事の基礎情報を浸透させることも難しかった。

グループ編成

- 中高部の場合：
 - 生徒会の協力を期待・要請したが、結局は無理だった。
 - 学校に対し協力要請は難しく、昼休みを利用しての地道な作業となった。

- 保護者の場合：
 - 登録はスローペースだったが、グループ毎の登録だったので比較的スムーズに進んだ。
- SF校：
 - グループ編成を参加者にゆだねることはできず、保護者会でアレンジする結果になった。
 - 個人またはグループから10人のチームを作ってもらおうという構想は実現不可能だった。

練習

- 公開練習は、SJで一回、SFではできなかった。（除：グループ練習）
- 多くの人を集めてまとめていく作業は、10人11脚担当者だけでは無理があった。
- SF校：
 - 借用校の近くでの練習場所の設定が困難だった。
 - 忙しい中高部の生徒に練習を呼び掛けるところまで、競技や行事への関心を高めることができなかった。

当日

- スタート・ゴールラインの白線がひけなかったので、スタートで手間取った。白線は引いてもらえろと思いついていた。確認不足。
- ウォーキー・トーカーの割り当てがなかった。（ミーティングでは有りとして聞いていた）
- 放送室
 - 本部とのやり取りができず、周囲の状況が把握できなかった。
 - 時間通りに終わることを第一に考えていたが、本部とやり取りができ、もし余裕があったのなら、決勝戦をもう少し時間をかけてやりたかった。
 - 参加者については、実際にチーム編成にかかわった担当者が、当日は別の種目担当になっており、編成したてのチームの集合補助などができなかった。前日夜までチーム名などの連絡に追われ、実際の競技に際し何も手伝うことができず、結果として参加できなかった人や参加しないで終わったチームがあった。
 - いずれも即席チームで事前の顔合わせなどの機会が作れなかった
 - 事前に当日の詳細な競技計画立案や、参加者に競技プランを伝える時間があればもう少し参加しやすい競技になったかもしれない。
 - 練習と本番のメリハリをつけることができなかった。（人手不足・限られた時間）
 - ボランティアが全員集まってくれなかった。
 - 練習を先に始めていたので、ボランティアと細部の打ち合わせをする時間がなかった。
 - サブリーダー一人では、全体を掌握しきれなかった。
 - 競技中グループ以外のグループに注意を注ぐ事ができなかった。（競技終了後の指示ができなかった。待機場所・水分補給等）
 - SFとSJ、お互いのチームとの交流・エール合戦などを考えていたができなかった。
- SF校：
 - ボランティアにどう動いてもらうのかまでの計画は困難だったと思われる。
 - 入場受付で多くの人が足止めを食らい、ボランティアにも競技にも遅刻していたのでは。
- ボランティア
 - 当初の予定ではボランティアはサブリーダーを除いて4名であったが倍の8名ぐらい必要。

感想

- 大きな怪我もなく、時間通りに終了できた。
- 中高生・保護者の多数参加が実現でき、参加する側・見る側共に楽しめる競技になったと思う。
- 構想していた通りには行かなかったが、参加者の多くの方々から喜んでいただけた旨の言葉をいただき、「ぶっつけ本番」としては成功したと思われる。
- ビデオボードを使って記録の途中経過発表をする予定であったが、現場と放送室との間でのコミュニケーションがうまく取れなかったため行うことが出来なかった。
- 表彰

- 優勝チームの表書式はしたが、準優勝、3位ぐらいまで表彰が出来れば尚良かったと思う。
- 次回は優勝商品のアップグレードを検討したい。
- SF校
 - 参加者は楽しんでくださったと思う。「やってよかった～」という感想をいただいた。
 - 中高生や保護者へのデモンストレーションがもっとできていたら参加者も増えたと思う。
 - 短時間の競技時間の中で、ほぼすべてのチームの競技を消化できたことは素晴らしい。

4.3.5 大カルタ競技

開始前

出場選手は、9:45に集合。点呼の後、全員にルールの説明があり、参加賞兼、目隠し用のバンダナが手渡される。それぞれのチーム（2名）は、競技開始前にSF校が「青」と「黄」、SJ校が「紅」「白」のチームカラーが与えられ、ヒートの順番が伝えられる。係員の指示に従って、ホームベース/3塁間のラインに沿って内野に向かって整列。各列2チーム、計4名が縦に並ぶ。



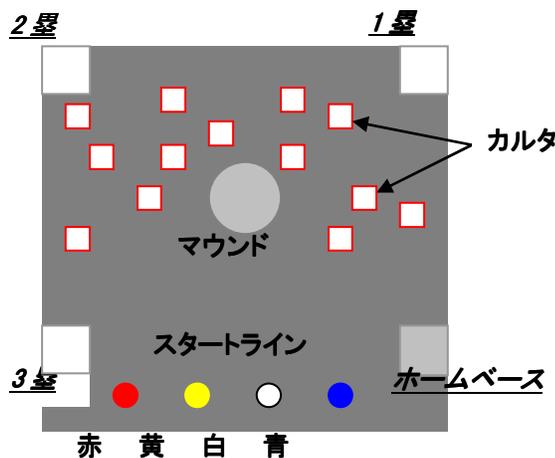
使用するカルタ

- 大カルタは40周年行事の為に特別に製作。36インチ四方、重さ1.701bsのダンボール製を使用。

競技参加人数

- 1ヒートは3分で4チーム（8名）が競い、ヒート終了後のチーム入れ替え時間も3分とする。1時間で10ヒート、計80名が競技を行う。選手の数各校同じで、SF校40名、SJ校40名とする。

競技中のフィールド見取り図



勝敗の決定方法

- 進行係がカルタ「文」を2回読み上げる。読み終わられた瞬間に競技はスタート。1名の選手はカルタを見つけて、その位置をチームメイトに指示し、もう1名の目隠しをした選手がその指示に従って大カルタを取る。他の3チームより速く大カルタにたどり着き、両手で大カルタを触ったところで、「取った」とみなす。
- スタートと同時に担当の係が時間の計測を開始し、「取った」ところで一旦時計を止める。

- もし、時間が残っていれば、進行係は2枚目のカルタ「文」を2回読み上げる。読み終えた後、4チームは、再びカルタ取りを競い、担当の係もまた時間の計測を行う。
- こうして3分が終了するまで、大カルタ取りが続けられ、多く取ったチームが「勝者」となる。
- もし3分で複数のチームが同じ数の大カルタを取った場合、大カルタを取るまでにかかった時間の短いチームが「勝者」となる。各ヒートで勝者チームを決め、更にその勝者の中で最短タイムを記録したチームを優勝チームとして行事の式典で表彰する。
- 大カルタを1枚も取れなかったヒートは、「勝者」なしとする。

4.3.6 フラッグ鬼ごっこ

概要

このゲームは、SJ校「アンパンの会」で「ひらがなが読めない幼稚園の子供たちができるゲームはあるのか？」という質問から端を発し、保護者自身が提案・実施した。景品のお菓子だけ委員会が準備し、後はすべて中谷サブリーダーが準備した。

鬼はズボンの両側に長いスカーフを1つずつ付け走り、子供達はそれを取りに追いかける。ある意味普通の鬼ごっこは逆。このゲームは鬼に柔軟性があるので、幼稚園児から小学生まで遊べる。1ゲーム、子供4人で1-2分位。1時間120人遊べる。次の鬼はスタンバイしておき、ゲームが終わり次第、次のゲームをすぐ始める。

お金をできるだけ掛けないで目立つテーマの物を中心に置きたかったので、インディアンのテーマを選び、棒と布を使ってテントを作った。テントの上には「おにごっこ」とバナーを付けた。鬼は分かりやすい様に羽根の付いたバンダナを着用した。



内容

- スタッフ：計4人
 - 鬼2人+ヘルプ1人。2人交互に鬼として走り、疲れたらもう一人と入れ替わる。休んでいる鬼は他人が枠内に入ってこないように誘導。
 - 受付/景品配り：1、2人。
- アイテム
 - 景品のお菓子
 - 羽根の付いたバンダナ2つ。
 - スカーフ4枚。鬼は2つずつ付ける。
 - インディアンのテント。ここにバナーを付ける。

上手く行った点

- このゲームは効率が良く大勢で遊べるので、満足度は高いと思う。20人以上の列もあったが、10分位待てばまた1-2分遊べる。
- 準備は殆ど必要ない。
- インディアンのテーマは分かりやすく、インパクトがあり、安上がり。

修正点

- 遊んでいる枠にはコーンを立てて置いたが分かりづらく、枠内を横切る人達がいた。白線が必要。

- 思っていた以上鬼は体力が必要。1人の鬼は筋肉を痛めた。
- 同じ子供が何回も勝っている可能性があるので、勝つと顔に線を付ける等して、鬼はその子供に捕まらない様にした方が良い。
- 最後時間が無かったので8人づつに増やしてやってみたが、何回か子供達がぶつかり合って危なかった。

結論

- これは簡単に準備ができ、子供達も汗をかいて楽しく遊べる。

費用

- 参加者に配る参加賞のキャンディーのみ。準備にかかったものは、担当者から寄付していただいた。

4.3.7 子供ゲームコーナー

ボランティア

以上はボランティア登録の割り当てで子供コーナーを担当したが 予想以上の盛況で数名の方々は割り当ての2～3時間だけでなく一日中お手伝いしていただいた。この他にも沢山のボランティアの方に急遽手伝っていただくという結果になった。特に多くの卒業生（長岡さん、西郷さん、森君、岡野君、鈴木君、尾上さん）が助けてくれた。

ゲームの種類

- スピードピッチ、バウンスハウス、ヨーヨーつり、缶倒し、輪投げ、ビーンバッグ投げ、 お話しコーナー

実施するまでの準備

- 5か月前 : ゲームの種類案
- 4か月前 : ゲームに種類決定、ボランティア人数決定

当日の実施状況

- 予想以上の人気でどのゲームも長い列ができた。ヨーヨーつり、バウンスハウスにいたっては30分待ちという状況だった。
- ヨーヨーつりは風船を作るのが追い付かないほどだった。途中からは遊びで風船作りをはじめの子供たちもでてきてボランティアコーナーが混雑。他のゲームより少し早い打ち切りをせざるを得ない状況だった。
- SF, SJ 両お話し会による 合同お話しコーナーでは紙芝居、絵本読み聞かせ、手遊びが行われました。

反省点

- 式典の間のゲーム休止を考えに入れていなかったので整理券の発行ができず、30分以上待ったのにゲームをあきらめないといけないという状況を作ってしまったことが、なんといっても一番の反省点。風船ヨーヨーももう少し離れた場所で作るべきだった。風船作りのボランティアに交じって子供たちが遊び始めてしまい 作業が困難になった。
- バウンスハウスは 靴を脱いで入るので 朝の芝生が濡れている間は横の滑り台から出てくる子供たちを係員が抱き上げてハウスに入れてあげないといけなかったのも想定外だった。そのためボランティアの人数を2名にしないと回らない状況だった。
- お話しコーナーは野外でしかも隣りでゲームがにぎやかに行われている中で、集まった子供たちは聞き入り、ゲームの列を作っている子供たちも並びながら聞いていた。

- ゲームの値段設定は大きなゲーム1回50¢、小さいゲームは2回連続で50¢で問題はなかった。ボランティア同志でルールの申し送りをしてくださっていたのでスムーズに事が運んだ。いろいろ気付かない点も沢山のかたに補っていただいた。
- 小学5、6年生の子供達とちょっと話したが、この子供達は退屈していた。10人11脚に参加しなかった場合、ウルトラクイズ以外殆どやる事が無かった。この子供達はウルトラクイズに参加したが、一問目でアウト。もっと色々なアクティビティがあってもよかった。

費用

- スピードピッチ、バウンスハウスのレンタル ビーンバック投げゲームの購入 景品購入など
\$184.74

4.3.8 ウルトラクイズ

準備:

安委員、青柳事務総長、井上教頭、益子教頭の4名で隠密の設問委員会を構成し、問題を作成した。問題は当日まで委員会内部でも秘密にされた。

実施状況

直前にグラウンドで行われていた鏡会の餅つきが予定時刻を超えたため、中止も検討されたが、ウルトラクイズで敗退した人を順次人文字作成にまわすという段取りが予定されていたため、航空写真撮影の飛行機の飛来時刻を睨んで、綱渡りとなった。目視でおよそ半数を超える来場者がクイズに参加した。クイズ出題後の回答者の移動を制御するのに手間取ったが、植木校長先生、井上教頭先生が「強力な」指導を発揮されて事なきを得た。用意した30問のうち13問を出題したところで、勝ち残りが3名となったため、3名全員に2009年度イヤブックスを賞品として贈呈することとした。結果として、全体のプログラム進行の遅れを取り戻し、飛行機の飛来時刻に十分間に合うよう人文字作成班に効率良く誘導できた。

使用したクイズ (順不同)

- これから校長先生とわたし(安)が、じゃんけんをします。勝つのは、どちらでしょうか。(正解はわたし、でした。)
- 補習校の校歌「いつか世界の架け橋に」の歌詞の中には「橋」という漢字が3度使われている。(正解:4回)
- 補習校のロゴマークに描かれているのは、カモメとベイブリッジと海である。(正解:金門橋なので間違い。)
- 二人の教頭先生のアメリカにいる家族をすべて合計すると10人である。(正解:11人)
- 今年の学校便覧の色は黄色である。(正解:グリーン)
- 初代校長は女性である。(正解:ただし)
- 小学部の蔵書数、サンフランシスコとサンノゼを合わせると1万冊以上ある。(正解:およそ5000冊)
- 校長先生は中学の国語の先生であった。(正解:数学の先生)
- 校歌「いつか世界の架け橋に」の作詞は本校生徒である。(正解:正しい)
- 補習校の校歌「いつか世界の架け橋に」の作曲者は坂本九さんである。(正解:中村八大)
- 補習校のホームページは1995年に開設された。(正解:2002年(小野教頭?))
- 小学部の朝の集合時間は9時である。(正解:8時40分から50分)
- これまでの理事長はすべて男性であった。(正解:昨年度アルドリッチ理事長は初の女性。)

使用しなかったクイズ

- 幼稚園から高校までの学級数を合わせると、4校で60学級を超える。(正解:56学級)
- 文部科学省から世界の日本人学校や補習授業校に派遣されている教員の数は、1000名を超えている。(正解:1,289名(2008年9月現在))

- 夏期集中学習授業は、40年前の創立当初（1969年）から行われている。（正解：1969年8月から）
- 補習校の校歌「いつか世界の架け橋に」には英語バージョンがある。（正解：まちがい）
- 中高部の午後の開始時刻、サンフランシスコとサンノゼは同じである。（正解：正しい）
- 井上教頭は、実はギターを弾くことができる。（正解：正しい）
- 事務局にいる職員の人数は、7人より多い。（正解：正しい）
- 世界には、補習校より日本人学校の数のほうが多い。（正解：2008年度4月現在で日本人学校数86校、補習授業校201校）
- 補習校のロゴマークは30周年の時から使われている。（正解：1997年から）
- 事務局では毎朝ラジオ体操を行っている。（正解：正しい）
- 補習校の幼稚部には、キリン組とウサギ組とラッコ組がある。（正解：うさぎ、きりん、りす（サンノゼのみ））
- 中高部サンノゼ校が誕生したのは、小学部サンノゼ校ができてから9年後である。（正解：6年後）
- 校歌には、運動会用のマーチングバージョンがある。（正解：正しい）
- 本校が外務省から受けている補助金は20万ドルを超えている。（正解：正しい）
- 本校の小学部3年生以上の学級定員は、25名である。（正解：30名）
- 校長先生は兵庫県出身である。（正解：正しい）
- サンフランシスコ日本語補習校は世界最大の補習校である。（正解：LA）

4.3.9 フリーマーケット

計画：

補習校保護者の方を対象とし、参加者を募集。保護者会のメールやチラシで告知する。大体10組を予定する。

準備：

- 食べ物と一般の売り場を分けるよう準備。当日までは、メールでコミュニケーションを取る。
- 1週間前に、搬入時間、場所、パーキングについてなど、メールでお知らせする。
- 参加者名簿を作成し、受付に渡す。

当日：

- 受付後、各自持参した物を利用して、セットアップする。
- 10時より、販売開始。2時終了、撤収
- すべて参加者が実施したため、特に人員は配置しなかった。

費用：なし

反省：

- 場所が1塁側しかなかったとはいえ、人が流れて行かず、せっかくの企画だったがあまり売れなかったようだった。
- 食品は、すべてチケットでの清算としたため、最後の換金が面倒だった。

4.3.10 サイレントオークション

準備

- 7月； 2008年度のSJ校保護者会サイレントオークションでお願いし寄付をいただけた主にアメリカの企業や団体を中心にドネーションレターを郵送。
- 8月～イベント開催前； 地元企業やレストランに寄付を依頼しに訪問し、イベント当日に合わせて商品を受け取りに行く。

- 9月末～イベント前日；昨年のSJ校のオークションリストを元に、40周年イベントにおけるサイレントオークションのリストを作成。
- 10月4日；San Jose Municipal Stadiumを下見した結果、人通りが多いと見込まれる本部席斜め後方の壁面を横を晴天時のオークション開催場所と決定。（雨天時は球場内通路壁面）
- イベント2週間前～当日；以下の目的で、台紙として表の白い厚紙（3.4ft×3.9ft）を15枚と、入札用紙をカテゴリー毎に分けるコンストラクションペーパー（赤、オレンジ、緑）を用意。入札用紙を1枚ずつ色分けしたコンストラクションペーパーに貼ったものを用意し、当日、会場でカテゴリー別に台紙に8枚ずつ貼る。
 - ・ 目的
 - ◇ 会場（壁面）の保護
 - ◇ 貼り出しと回収を容易にする
 - ◇ オークション会場である事とカテゴリー別になっている事を判りやすく目立たせる
 - ◇ 壁面の凹凸を無くし、入札時に記入しやすくする
- カテゴリー毎にセクションを分けて開場に間に合うように壁面に貼り出す。
- イベント1週間前～当日； 出品リスト、入札用紙、落札者リスト、要綱、放送用原稿、読み仮名用ローマ字つき名簿、オーロラビジョン用原稿、引き渡し用メモ、作業マニュアルの作成、必要な用紙の印刷。
- 出品リストと要綱はサイトに載せて保護者会のお知らせにより事前に紹介してもらった。
- おつりとして\$10、\$5、\$1札を各15～30枚用意。（当日の現金収入より清算）

当日の様子

- 晴天に恵まれ、予定通りの場所で開催できた。会場準備の担当の方々の協力も得て、一般会場時間前にオークションの準備は終了。
- 10時から入札開始となったが、当初から懸念していた通り、式典終了までは入札者が少なかった。
- 式典開始が遅れさらに延びたことを反映して、急遽入札終了時間をはじめ、サイレントオークションの予定も30分繰り下げることに決定、場内放送とその場で拡声器を使って会場にアナウンスすると同時に、入札会場に書いておいた終了時間を30分後に書き換えて、変更の周知に努めた。
- 12時50分から10分おきに、各カテゴリー毎に入札終了とし集計した。一部のボランティアの方には、変更に伴い、担当の時間をずらしてもらった。集計を急いだが、午後のプログラムが遅れを取り戻してほぼ予定通りで終了したこともあり、2時に来た落札者を待たせる結果となり、後日引渡しの方も出た。落札者を場内放送で読み上げる予定だったが、実際は、集計に時間が必要であったことや、他のプログラムの放送も立て込んでいたことから、断念。壁面への貼り出しのみの落札者発表とした。
- 日本往復航空券からレストランのギフトカードまで、どの商品も人気だったが、中でもANAの航空教室は1番人気となった。
- 寄付協賛会社・個人総数は56社、オークション件数は140件、売り上げは、\$3429（追加分も含む）となった。普段交流のないSF・SJの保護者が一致団結し、良い結果が残せたと思う。

感想・反省点

- 寄付関連
 - 経済情勢の影響からか、昨年度お願いした際よりもドネーションの量や内容は厳しかったが、それでも多くの方々のご協力を得られた。
 - ドネーションレターの中にウェブでのオークションの可能性を示唆する一文があったことで、寄付を見合わせる企業や団体があった。
 - 出品の詳細がギリギリになるまで判らないところが多く、オークションリストの公開が遅くなった。集まった分からでも、早めにウェブで紹介すれば宣伝効果があがったかもしれない。
 - 寄付をお願いに行ったなかで、地元の店長の思いとは裏腹に、本社から1つの学校と言う事でご寄付が頂けなかったところもあり、ご寄付いただいた企業の中でも、内々で「同じ学校なのに…」という声があがっているところもあると聞いた。これは、1) 同じ時期に各校で秋祭りやバザー、オークションが重なったこと、2) SJ校保護者会とSF校保護者会との情報交換が不足していた為、同時期に寄付の依頼が重複したところが出てしまったことが原因と考えられる。

→今後も各企業、団体から気持ちよくご寄付いただくためには、SF、SJ 両校合わせて、充分その担当や分配の仕方、守備範囲などを早い時期から相談し、依頼が重複しないよう窓口をひとつにするなどの配慮が必要と思われる。

- 準備
 - 作業手順が複雑な落札後の作業に対してのみマニュアルを作成し、他の時間帯は簡単な作業割り振り表を当日各ボランティアに読んでもらい、不明な点は口頭で説明を行った。事前にメールでボランティアの方に配布できていたら、安心して当日参加してもらえただろう。
 - できるだけ当日に引渡しを完了させたいと考え、場内放送で落札者を呼び出す予定であったが、放送の混雑や他のプログラムとの兼ね合いからも、計画に無理があった。また、人文字撮影終了後、どっと押し寄せた引き換えや落札確認希望者の対応で、放送室との連絡もままならない状況だった。
 - オークション要綱を準備しウェブでも紹介し、入札単位も入札用紙に明記したが、当日間違えて入札額を記入している人が少なくなかった。当日、各セッション毎又は台紙毎に、要綱と注意点を書き入れた入札の記入例を貼るなどの工夫が必要だったかもしれない。
- 当日
 - 場所は広さは充分確保でき、わかりやすかったと思う。通りすがりに足を止めてもらいやすい場所だったことで、お昼休みに沢山の方に参加してもらえたのではないかな。
 - 30分時間を延長したことで入札してもらう時間が確保できた。
 - 入札終了時間の延長は場内放送のほかにも周知に努めたが、引渡し時間の変更は十分に周知できていなかった。そのため、人文字撮影終了後すぐに引渡し会場には長蛇の列が出来てしまい、対応が間に合わず待たせることになった。
 - 当日の現金での支払いが4割程度あり、チェックのみではなく、現金でも対応したことで、参加者を増やすことはできたと考えられる。今回ボランティアの方々がしっかり確認してくださったおかげで間違いは無かったが、誤差が生じた場合、後で確認できる点ではチェックの方が安全ではある。
- その他
 - 早く帰る必要が有る、時間の変更により当日引き取りできなくなったなどの理由で、当日引渡しが出来ない件が生じた。SJ校はサブリーダーが、SF校は坂井委員、三宅委員が、落札者との連絡及び引渡しを後日行った。
 - オークションに間に合わなかった寄付や、当日入札が無かった品のほとんども、後日40周年メモリングリストでの再オークション等で売り上げに追加できた。

4.4 運営の舞台裏

4.4.1 合同イベントの参加事前込みと予測

合同イベントでは人文字やお弁当販売を含め、事前にどの程度の参加者があるかを知っておく必要があった。このため、池田委員により、40周年記念サイトを使っての事前予約受付け、参加者数の予測が行われた。ある程度イベント参加者の規模が予測でき、お弁当の発注数などの判断に利用することができた。

事前予約受付はX00PSのeguideモジュールを利用して行った。事前予約を促すためにはずれなしのラップルを実施することとし、40周年記念ニュースなどで広報した。また、オンラインの事前予約のみでは不徹底と考えられたので、申込用紙を各家庭に配布し4校で回収した。申込用紙での申し込みもeguideに入力し、確認メールが申込者に送られるようにした。ただし、この数値は参加者予測のデータから除外するようにした。以下に事前予約についての経過を示す。

日時	状況
2009年8月31日	事前申し込み受付開始
2009年9月19日	申込数40、参加者数150名、参加者数を700名から1200名の範囲と推測
2009年9月20日	紙による参加申し込み開始

2009年9月27日	申込数 187、参加者数 644 名
2009年10月4日	申込数 275、参加者数 927 名、参加者数を 1400 名から 1900 名の範囲と推測
2009年10月6日	申込数 301、参加者数 1018 名
2009年10月9日	申込数 364、参加者数 1213 名
2009年10月12日	申込数 401、参加者数 1348 名
2009年10月15日	申込数 439、参加者数 1477 名
2009年10月16日	イベント当日

9月19日までの申し込み状況から、成長曲線（ゴンペルツ曲線）を使って推計してみた。³ これによると、イベント参加者推計は、上の表にあるように700人から1200人ということになった。ただし、この推計には

- 時間は無限大にとっているため、イベント当日のタイムリミットで切ると、もう少し小さい数字になる可能性もある。
- 実際の推移状態は2段の段々畑になっていて、単純にゴンペルツ曲線で推計できないケース（人の体重で言えば、生活パターンが一個目の段で変わったケース）だが、ここではそういう細かいことを無視する。

ということで、この時点では保守的に（つまり、控えめに）見積もって来場者は500人から1000人の間と推測した。しかし、その後の申し込み数は急速な立ち上がりを見せ、10月4日の時点での集計値をもとに同様に入場者数を予測すると、1400人から1900人となった。これは実際の入場者数約1800名とよく一致しており、弁当など仕入れ数見積の基礎となって今回の合同イベント運営成功の基礎となった。

4.4.2 チケット販売

お弁当・飲み物・デザートなど、販売時の煩雑さを解消するためあらかじめチケットを購入してもらうことにした。お弁当券は\$5とし、\$1と50¢のチケットを販売することにした。

準備

チケットは、独古さんと柴田委員より、ラッフルチケットの残りを寄付していただいた。また、1巻のみ50¢券を購入した。おつりとして\$5札100枚・\$10札50枚、25¢硬貨1200枚、\$1札500枚を用意した。

当日

販売所係の到着前から販売が開始する直前まで、手際よく設営準備が進められた。

- 担当 販売係4人、列の整理係1人、チケットを切り離す係2人（前半のみ）

³成長曲線による推計」というのは作ったソフトウェアに問題がどの程度あり、発見されていないものが残りどの程度あるのかを推測するのによく使われる手法で、簡単に言うと、例えば「ソフトウェアのバグの数」とか「人の体重」などは、横軸が日数、縦軸を「累積問題数」とか「体重」とかにすると、概ねS字型のカーブを描くので、得られている値から、もっともマッチするS字型カーブを描いてみて、将来の値を推測するという手法。（人の体重の場合、生活パターンを変えなかった場合に、どの程度どんな風に太っていくのかが推計されるわけで、生活パターンが変わると推計手法も変わる）。具体的には

1) 各日にちごとの登録者数を表にする

2) 以下の曲線の式で、A, B, Cの値を適当に決めてそれぞれの日にちごとの数値を計算する

対数曲線： $A / (1 + B \exp(-Cn))$

ゴンペルツ曲線： $A \exp(-BC^n)$

3) 実際の数値との二乗差を取り、その総和を計算する

4) Excelのソルバーを使い、二乗差の総和が一番小さくなるようなA, B, Cの組み合わせを算出する

5) そのA, B, Cを使って、10月18日の推定値を計算する

実際には、紙での申込数を予測計算から除外したほか、申し込み開始から数日間特に申し込みがあつてグラフを描いてみると一つ山ができていたので、これも除外して計算した。

- 9:10 集合
- 9:30 販売開始
- 11:00 式典開始（式典出席者は少し前に場内へ移動、お金保管は黒川さん）
- 11:10 販売終了予定（松波委員にお金を渡して本部へ引継ぎ）
- 11:10～ 本部にて販売継続（11:30～ウィルソンさん）

販売チケットの種類と販売方法

1. お弁当引換券（一律5ドル）：

券の番号	お弁当の種類	引換開始時刻
1～50	ご来賓&鏡会用 リザーブ	
51～100	ミニ牛丼弁当（50食）	11:30
101～200	ホットドック弁当（100食）	11:30
201～300	巻きすしセット（100食）	11:30
301～1600	和風お楽しみ弁当	11:30

2. 50セント券（下記に共通、使用目的に応じて必要枚数が違う）

使用目的	値段	開始時刻
ゲーム	1回50セント	10時から適宜
飲み物	50セント～\$1	10:00
デザート	\$1～\$3	10:00

販売手順：

- ・ 購入者から「注文票（ご購入チケット明細）」（希望チケット枚数と金額が記入されている）を受取る。
- ・ 計算が正しいか確認する。
- ・ チケットを渡し、お金を受け取る。
- ・ お弁当購入者には、整理券を渡す（原則的に1グループに1枚）。
- ・ 売切れたお弁当券については、速やかに皆に声を掛けるとともに、ウィルソンさんに知らせる。
- ・ お金の出し入れは金庫のみ。
- ・ おつりがなくなったらウィルソンさんに知らせる。
- ・ 支払いはできる限り現金で。小切手は宛名欄に所定のスタンプを使う。記入内容を厳密に確認する。クレジットカード不可。

配置

1	黒川さん	販売窓口 A-1	チケットの販売、式典直前からの金庫の管理、11:10に松波さんに引渡し
2		販売窓口 A-2	チケットの販売
3		販売窓口 B-1	チケットの販売
4		販売窓口 B-2	チケットの販売
5		列の整理 C	受付を済ませた人にチケット販売所を案内、注文票記入を促す（注文票はテーブルに配置すると共に、担当者も手に持つ）
6		列の整理 D	受付を済ませた人にチケット販売所を案内、注文票記入を促す（注文票はテーブルに配置すると共に、担当者も手に持つ）
7		列の整理 E	注文票記入が済んだ人を空いている窓口に誘導
8	ウィルソンさん	フローター	全体的な準備と説明、販売と列の整理適宜サポート、お金回収とおつり補充、売切れ弁当の表示、本部移動後の販売、等
9	松波委員	金庫回収	11:10に黒川さんから金庫の受取、本部に移動

反省

- 準備の時間が短かすぎた
- 進行をもっと早く決め、事前にマニュアルに目を通してもらったり、説明をしておいたりするほうがよかった
 - 集合時間に遅れる人もいて、一斉に説明ができなかった
 - ボランティアの受付をせずに販売所に来る人が何人かいて、余計に開始が遅れた
 - 食券が販売所に届くのがぎりぎり、販売係に分配したりするのに困難があった
 - ボランティアの弁当予約でとても混乱した
 - 「ボランティア受付で予約は販売所と言われたので、販売所に来たが受付してもらえない」、という状況の人が多数出てしまった。販売所では、ボランティア弁当用の引換券もなく食券もなかったのも、何もできず断るしかなかった。最終的には、ボランティアのシフトが始まる時間ぎりぎりに（並んでいる人より優先して）食券を先に販売した人もいた。この件に関しては、食券係と販売所相互の事前のツメが足りなかった。
 - 10人11脚が終わったあと、喉が渇いた子が大勢いた。でも、販売開始の10時前だった、ということで、飲み物が買えない、という悲劇が。水を持参するように指示がなかったので、お水が飲めない子がいた、という健康上、心配なことが起きていた。お水の販売だけは常時あった方がよかった。
- 券の種類について
 - 販売するのは50セント券と食券で、注文表やマニュアルに1ドル券の記載がなかった
 - 実際には、50セント券一本で運営したほうがスムーズであった
 - 事前に金券と食券の現物をあらかじめ担当が見ておくべきだった。ルールはとても扱いにくく、切っておくべきだった。実際には金券は5枚ずつカット、食券もカットして販売にそなえた
 - 券の種類が一目瞭然と分かるほうが販売が楽である（番号は無意味）
- ボランティアの数について
 - 今回の人員は最低人数か。この時間内（9:30～11時）と販売内容、動員数であれば、もう少しいてもよいと思われる
- 注文表について
 - 買う人が事前に何にするか考えておく上では役立ったと思われる
 - 食券については、個数が少ないものはあっという間になくなったので、注文表の意義は薄かった
 - 時間的な余裕があり、券種の絞込みと区別が整えば、注文表は不要であると思われる
- プログラムの把握について
 - 券を買い求める人の中で、どのようなゲームがあるのか、どんなスナックや飲み物があるのか聞く人が多くいた。販売所では中で何があるのか理解していなかった
 - 本来は、集合時間を早めてでも中の下見をするか、プログラム内容や販売内容を何らかの形で理解しておくべきであった
- 列について
 - 実際には9時すぎから列ができた
 - ボランティア弁当予約のまとめに時間がかかり、食券が販売所に届くのが遅くなってお客様を待たせることになった（販売側でもその事情をよく把握していなかった。ヨコのつながりが大切）
 - 列を乱すような行為は見受けられず、みなさん並んでくれた
 - 一般の入場時間には販売が始まっているようにすべきであった
 - 列は式典開始のかなり前になくなった
- 集計について
 - 実際には、イベント終了時間が近くなってから始め、イベントの搬出中も数えていた。とりあえず退去の前に勘定だけは終了した。
 - おつりは多めに用意したが、やはりかなり多すぎた。計画では途中でおつりの補充をする予定であったが、まったく必要がなかった

費用: チケット購入費 \$25

4.4.3 お弁当販売

合同イベントでの飲食についての考え方

合同イベントの実施に当たっては、当初より会場内でピクニックのようにお弁当が広げられることが会場選定の条件であり、このため会場選定に苦労した（2.1.3 節）。サンノゼジャイアンツ球場の利用については、契約上 100 食以上のホットドックまたはハンバーガーを買い上げる必要があったため、これらの販売方法を思案していたところ、ベイエリアのレストランから、入れ物代（一個 2 ドル）の当方負担によりお弁当を寄付いただけることとなり、ファンドレージングの一環として活用させてもらうこととなった。一方、合同イベント会場内で調理をし飲食を提供することもイベントの計画の初期にはあったが、サンノゼ球場を含め、検討したいずれの会場にても、現場での調理や飲料に耐えられる水の供給などに難があり、これは断念せざるを得なかった。

準備

寄付されるお弁当の中身については、直前までわからなかったが、「ベイエリアの有名レストランご提供のお弁当」「補習校のファンドレージング」をキーワードに 40 周年記念ニュースなどで宣伝を図った。また、飲み物、スナックについてもミツワスーパーなどから寄付をうけ、

- かっぱエビセン 36 袋×3 箱=108 袋
- カルピスウォーター 24 本×5 ケース=120 本
- ソイミルク 24 本×10 ケース=240 本
- ポッカのウーロン茶、24 本×10 ケース=240 本
- メロン、レモンソーダ 24 本×20 ケース=480 本
- カルピコ、ラムネ、ソイミルク = 200 本

を事前に準備できた。水はシンポジウムの残りや委員からの寄付、追加購入でまかなった。

発注数

委員会でも最も苦心した点であった。まずお弁当の販売については高くなく安くなくということで 1 個 5 ドルでの販売というめやすが委員会内にあった。しかし、買い上げのホットドックは単価が 8 ドルのため、その個数が増えればその分赤字となる。また、弁当の入物代（単価 2 ドル）も持ち出しのため、お弁当が売れ残った場合、その分が赤字となってしまう。一方で、お弁当の個数が足りずに昼食がとれない参加者が出ることも避ける必要があった。そこで 4.4.1 節で述べる手法により参加者総数を予測し、合計 1600 食の寄付を頂けるように各レストランに手配した。この決定はイベント直前の週の月曜に行った。

運営

お弁当販売の次の課題はいかに混乱なくお弁当を販売できるかであった。式典を 12:00 から 12:30 の枠で予定しており、その 30 分を外した 1:00 までにお弁当を販売してしまう必要があったが、寄付頂けるレストランの都合で、お弁当の搬入が可能なのが 10:30 から 11:00 であった。非常に短時間の間に 1600 食以上の食事の販売をする必要があった。このため、チケットブースとお弁当ブースを分ける、食券を作るなどの工夫を施した（4.4.2 節参照）。

フリーマーケットとの関係

会場内ではフリーマーケットも実施していた（4.3.9 節参照）が、事前に手作りお菓子などを販売してよいか、との問い合わせがあった。合同イベントではいくつかの企業からお菓子やスナックなどの寄付をうけてこれを補習校のファンドレージングとして販売することとしており、寄付を頂いた企業にもその主旨を了解していただいていた。そこで、整合性を取るために、お菓子などの販売の問い合わせのあった出品希望者には、フリーマーケットとは切り離してファンドレージングに協力いただく形での参加をお願いし了承を得た。また、販売場所もお弁当ブースの近くに移した。

食品販売に伴う許可・法令

現地で調理するようなケースについては食品衛生についての掲示が必要である点について事前に調査し把握していたが、既に調理済みのお弁当販売のようなケースにおいて事前許可が必要である点は理解して

おらず、合同イベント前日になって球場側からの問い合わせを受け、急遽書類をそろえる慌ただしさであった。これについての詳細は「4.4.6 食品販売に関する許可証 (Permit) について」を参照のこと。

すべて5ドル おべんとう おべんとう

*受付にてそれぞれのチケットをお求め下さい

注：当日の仕入れにより内容は予告なしに変更される事があります



* 和風お楽しみ弁当

チキン照り焼き&あと一品はお楽しみ (コロッケ、海老フライなど揚げ物いずれか一品のお楽しみです)



* 手作り巻き寿司セット

限定100食 巻き寿司、いなり寿司などのセット



* ホットドックセット

限定100食 飲み物、チップス付き



* ミニ牛丼セット キッズミール

限定50食 飲み物、チップス付き



* ウォーターボトル

50セント

* その他飲み物 (お茶、カルピコなど)

1ドル



* スナック (チップス類)

50セント

反省点

- 「有名レストランのお弁当」の宣伝は合同イベントへの参加を促すうえで効果があった。実際、これについての問い合わせを何件も受けた。昼食を当日会場内で調達できるという気安さもまた、イベントへの参加を促すうえで効果があったものと思われる。
- 飲み物について、折角寄付を頂いたが、缶や瓶の容器のものは球場内での利用が不可と当日になって球場側から指摘を受け、やむなく COSTCO からカプリサンなどを購入して対応した。
- 販売箇所が3塁側バーベキュースタンドで、一般搬入口が1塁側であった。このためお弁当の搬入に際しては正面ゲートからピックアップトラックを中に入れて行うことにしたが、一回目の搬入を行った際に会場警備の警官よりそれは許可できないと申し受けた。このため近くの参加者などに声をかけ、正面ゲートからお弁当ブースまで、手による搬入を行うことになった。
- 上記のような状況であったため、どこのレストランから何が何個搬入されたかを正確に把握することができなかった。
- 搬入開始が予定より早く始められ、またお弁当の販売の列が 9:30 にできてしまった (案内では 11:30) ため、お弁当販売が予定より早く開始されることになってしまった。初期の計画にはなかった動きであったが、大きな混乱もなくおかげでスムーズに販売を終了した。

- イベントの終了直前にはお弁当の売れ残りが若干あったが、これらも「夕食用」として声をかけて販売したところ、完売した。
- 販売できなかった缶や瓶の飲み物も、イベント終了時の正面ゲートで販売し、ファンドレージングに活用した。

4.4.4 場内放送とビデオ撮影

- アナウンスに関して、原稿の準備は良くできたので、ほとんどの原稿をそのまま使用し、ウグイス嬢（SF・SJ 両校中高部生徒）も問題無く放送できた。一方、突発的に入ってきた緊急のアナウンスを口頭で伝えることは中々難しかった。必ず紙に書く、あるいは放送席に PC を用意しておいて、その場で PPT 原稿を編集するなどの対策が考えられるが、PPT を編集する時間があるかは、疑問。
- ビデオボード（オーロラビジョン）に関して、表示のタイミングなどは、球場スタッフとのコミュニケーションもうまくいき、うまくいったと思う。ただし、実際の画面では字が小さすぎ見にくいものもあった。事前にテストできれば良かったと思われるが、原稿は直前まで更新されるので全ての表示に関してテストするのは不可能であった（実際にはリハーサル以降に全ての原稿を集めた）。文字の大きさや色の見え具合などを、適当なスライドで試してみることはできたと思われる。
- PC からの音声、ワイアレスマイクからの音声、放送席のマイクの音声など、外野まで届いてないという声をいくつか聞いた。機材を触ることが出来ないで、その都度現地スタッフに指示をださなくてはいけなかった。実際の音のテストをそれぞれの入力から行い、その適正なボリュームレベルを記録しておくべきだったと思われる。
- ホームベース付近のワイアレスマイクを、突発的にアナウンスに使用されることが何度かあったので、こちらで予定していたアナウンスを入れるタイミングが難しかった。
- 放送席とグラウンドのボランティア間のコミュニケーションをトーキーで行ったが、通じない時や、聞こえない時があった。
- 空撮隊との連絡はトーキーで旨く行った。
- 迷子や、落し物のお知らせの対応を考えておくべきだった。
- ボランティアのビデオ撮影担当には、『撮影係』と目立つよう腕章等があればよかったと思う。

4.4.5 会場係

当日はカウントできている入場者だけでも 1760 名の方の参加をいただき、大盛況の中でイベントを終了することができたが、いくつか至らなかった点もあった。

会場設営

- 救急箱：運動会では用具の中に入っていて、日通の倉庫と一緒に保管されている。イベントでは何も用意していなかったため、岡井先生に必要なものだけ調達していただいた。イベントの終了後に外野フィールドで蜂に指された子供がいたようだが、岡井先生もお帰りの後で対応ができなかったとの報告があった。せめて救急箱は事前に用意できればよかった。
- マジックとサインボード用の紙：コーションテープが当日の 10 時ごろ来たので、立ち入り禁止場所をつくるのが遅れた。立ち入り禁止と書く紙やマジックの用意もあったのだが、朝の混乱時に遺失してしまった（後で出てきた）。
- 電池：ハンドマイクの電池がすぐになくなり、予備を用意していなかったため使えなくなった。
- ウォークーキー用のイヤークラス：当日は人が多すぎて、胸に下げているとほとんど聞こえないが多かった。イヤークラスがあればもっとスムーズに連絡が取り合えたと思う。

受付

- 混雑時は小学部図書で起こっているような「遅延」が発生した。
- 入力後「次へ」を押さずに次に進んでしまったり、入力されていなかった可能性もあり。
- 明るくて PC の画面が見にくかった。
- システム使用不可のときに、紙に書き込んで後で入力したが、全部入力できたかどうか確認する手段がなかった。

会場を開けてもらってから、ボランティア受付、10人11脚練習を含む一般受付、会場整備、開場までの流れで1000人を超す入場者をさばくには想像以上の無理があった点が反省点としてあげられる。この規模だと、まず本部を仮設営し、ボランティアの受付と会場の準備が整ってから一般受付を受け入れるべきだった。

生徒入場の際、保護者の確認が必要との事でボランティア受付&生徒受付の2箇所での受付を余儀なくされた。スムーズにいけば問題なかったが、ラッフルの関係もあり、パソコンが使えない状態では入場できず、担当者も困っている状態だった。途中、一般受付のパソコンが使えるようになり一般者の入場が可能になった後でもボランティア担当の家族受付は止められたままで長蛇の列だった。ボランティアにも時間別担当があるので、早い時間の担当ボランティアを最優先する必要があった。(せっかく早く現場に到着しても、遅刻状態を余儀なくされた気持ちでした…。)

その他

- 入り口付近にカートが止まっていたが、どうもそれに乗って遊んでしまった子供がいて、何かの電源プラグに衝突してプラグを曲げてしまったようだ。ほかにも何かの損害が出ている可能性もあるが、何かあれば球場のほうから報告と請求書が回ってくることになっている。他にも立ち入り禁止の縄張りとか、少々手の回っていないところがあった。
- 外野スタンドは立ち入り禁止区域だったが、入り込んでしまった方が多数いた。レフト側についてはあきらめたが、ライト側は鏡会の方の準備作業もされている場所だったので、立ち入らないように注意することにした。しかし、レフト側スタンドの上のほうでコーラのボトルを投げて遊んでいる子がいて、その蓋が取れてコーラが撒き散らされるという出来事があった。
- 駐車場では2台ほどの車がガラスを割られて、車内のものの盗難被害にあわれた。GPSを盗まれたと聞いている。
- 卒業生ボランティアは貴重だった。特に男の子は重いものを持ってくれたり、高いところに登ってくれたり、大活躍だった。救急の心得もあるので、在校生や卒業生のボーイスカウト/ガールスカウトを使うと良いかも。現地校におけるボランティア・アワーにもなる。
- 救護所が目立たなかった。10人11脚で足を痛めた、と言って氷をもらいに来た子が2、3人いた。また、気持ちが悪くなった、と水をもらいに来た方もいた。

用意して良かった物：

カッターナイフ3個、はさみ2個、プライヤー、ペンチ、金槌、ハンマータッカー (Hammer Tacker) 2個 — 板に金槌のようにたたいてサインや絵、大きな紙などを打ち付ける道具。(これらの道具は沢山の方から貸して欲しいと言われた。) 雑巾10枚、バケツ(5ガロン)、ビニールテープ、紙テープ、ひも各種、針金、テープメジャー、Cable Ties 8インチ 50本

4.4.6 食品販売に関する許可証 (Permit) について

サンフランシスコ日本語補習校のような非営利法人がファンドレイジングの目的で食品販売を行う場合、少なくとも2種類のパーミットが必要か否かを考慮しなければならない。一方は、食品の衛生管理面でのライセンスであり、他方は、セールス・パーミットである。

食品衛生面での許可証

1) 州法について：CA州では、食品販売の衛生面を規制する「California Health and Safety Code (カリフォルニア州健康安全法)」があり、この膨大な法令に食品販売を規定する規定が「Part 7: California Retail Food Code (カリフォルニア州小売食品法)」にある。

これは、CA州内で食品の小売販売を行う際、食品の準備や仕入れ、調理、保管、調理場所、洗浄等の細かな衛生規定が Chapter 1. から Chapter 13. に細かく明記されており、レストランやビュッフェを含む、食品の小売販売一般を規定している。その中の「Chapter 11. Temporary Food Facilities (一時的食品販売施設)」は、のみの市や、コミュニティ・イベント、教会や学校のイベント等での一時的な食品

販売施設について規定しており、特に例外として認められていない限り、カリフォルニア州小売食品法の Chapter 1 から Chapter 8 までの規定並びに、Chapter 13 の規定を遵守する必要がある、例え一時的食品販売施設であっても適切な許可証を取得し、一般の小売食品販売と同レベルの衛生基準に従う義務が発生する（例：スタッフ 15 人毎に一つのトイレを施設の 60 メートル以内に設置する事）。

許可証を取得した場合でも、家庭で調理した食品については、以下の規定が適用される。

第 114339 (a) 条：一時的食品販売施設では、家庭で缶詰したものや調理した食品は、一切認められない。
第 114339 (b) 条：但し (a) の規定にかかわらず、身体に害を与えないような飲料や焼き菓子 (Baked goods) は、慈善目的である非営利団体、または学校や教育施設の監督下にあるクラブや団体によって企画されるファンドレージング目的のコミュニティ・イベントにおいては、販売や提供しても良い。

2) 例外規定について：この「カリフォルニア州小売食品法」の対象となる「Food Facilities (食品施設)」の定義は、「人的消費のために小売販売を目的として、食品を保管、調理、梱包、給仕、販売、または提供する運営施設 (第 113789 (a) 条)」とあり永久的な施設や一時的な施設も含まれ、代金を徴収しない場合も含まれる。しかし、これには例外規定があり、その内の一つとして以下の場合がある。

第 113789 (c) (3) 条：教会、プライベートなクラブ、または、その他の非営利団体が、90 日の期間で 3 日間以内しか開催されないイベントにおいて、一般公衆対象ではなく、その団体の会員や招待者に食品を提供したり販売したりする場合は、この限りではない。

従ってこの例外規定に該当する場合は、特にカリフォルニア州小売食品法の対象から外れ、特に許可証の取得も必要ないことになる。

3) 法規の解釈と法執行：これらの規定は州法であるが、当該法規の実際の解釈や法執行に関しては、各地方の郡政府の自由裁量に任されている。また各郡によって、これらの州法規を更に規定することも可能であるため、実際にイベントを開催する郡政府の衛生管理を行う部署に問い合わせる必要がある。

<サンフランシスコ郡・市、公衆衛生局 (Dept. of Public Health) >

サンフランシスコ郡・市の条例では独自の法規を設け、通常、イベントでの食品販売はパーミットが必要になると規定しているが、学校の生徒や両親のみを対象として一般広告を行い公衆を対象としない限り、プライベートのイベントと見なされ、特に規制を受けないようである。

<サンタクララ郡 (Environmental Health Dept.) >

クーパーティノ市やサニーバール市を管轄するサンタクララ郡でもサンフランシスコ郡と同様に一般の公衆を対象としない場合のみ例外と見なされるとのことである。

4) 判断：前述の法規とイベント開催地を管轄する郡政府の実際の法解釈とを照らし合わせ、かつ、その他のリスクを考慮した上で主催者側が判断する事になる。

その 1) 当校の開催する学校行事が、一般公衆を対象とした公的性格を持つ行事でなく、当校職員、児童生徒と保護者、招待者などの当校関係者のみを対象とする Private なイベントで、90 日の期間で 3 日間を超えない限り「カリフォルニア州小売食品法」は適用されず、特に許可証を取得する必要はない。従って、家庭で調理した食品や一般業者からの弁当販売なども特に制限なく行うことが可能である。今回は、このような判断で業者から調達した弁当や家庭で調理した焼き菓子等の販売を実施した。(家庭で調理したものについては、食品アレルギー等も考慮し、材料を明記するよう保護者の方々に要請した。)

その 2) 食品を自由に販売することは、予測し得ない食品衛生上の事故等を考えると得策ではないと判断した場合、CA 州小売食品法第 114339 (b) 条に準じて家庭で準備した焼き菓子のみを認めるという判断も可能である。(前述同様、食品アレルギーを考慮し材料を明記するよう要請すべきである。)

「California Health and Safety Code (カリフォルニア州健康安全法)」 <http://leginfo.ca.gov/cgi-bin/calawquery?codesection=hsc&codebody=&hits=20>

セラーズ・パーミットについて

カリフォルニア州では、州内で事業を行い、実体のある物品を小売販売、またはリースを行う場合、州政府の Board of Equalization に申請を行い「販売者許可証 (Seller's Permit)」を取得し、販売額に応じた納税を行う義務がある。

今回のメインイベントのように会場を所有者から借りて、会場敷地内で実体のある物品を小売販売する場合、会場所有者は、借用者に対して前述の販売者許可証の提示を求める権利がある。もし、借用者が販売者許可証を取得する義務の無い場合は、その旨を記した手紙を要請する権利がある。

メインイベントの会場所有者であるサンノゼ市営球場は、イベントの直前になってこの販売者許可証の提示を求め、販売者許可証が無い場合には、物品の販売は禁止する旨を伝えてきた。これに対して、当校は、非課税待遇を受けている非営利法人であり、今回の物品の販売は、ファンドレージングの目的であり販売者許可証を取得する義務の無い旨を記した手紙 (添付資料1) を提出し、サンノゼ市営球場の担当者にはご理解を得ることができた。

<注意事項>

この他にもイベントの内容、場所、その他の要因で他の許可証やライセンス等が必要になる可能性もあるので、それぞれの状況に応じて専門家に相談するべきである。

<添付資料>

- サンノゼ市営球場への手紙
- 子供を現地にドロップオフした場合の Consent/Waiver Form (中高部生徒のみ)

San Francisco Japanese Language Class, Inc.

School Office

at

760 Market St. No.816, San Francisco, CA 94102

Phone: (415) 989-4535 Fax: (415) 989-2542

http://www.sfjlc.org

K-6 School Program

at

A.P. Giannini Middle School

3151 Ortega St., San Francisco, CA 94122

7-11 School Program

at

Herbert Hoover Middle School

2290 14th Ave., St., San Francisco, CA 94116

October 17, 2009

San Jose Municipal Stadium
588 East Alma Avenue
San Jose, CA 95112-6402

Re: Exemption From Obtaining Sales Permit

Dear Sir or Madam:

In regards to the above-referenced matter, San Francisco Japanese Language Class, Inc. ("SFJLC"), a California non-profit corporation with 501 (c) 3 Tax Exempt Status, makes the following statement in accordance with the California Revenue and Taxation Code, Section 6073. (a) (1):

SFJLC believes that our non-profit activities for the 40th anniversary event (the "event") to be held for a half day on October 18, 2009 at the San Jose Municipal Stadium are exempt from obtaining a seller' s permit or "re-sales" permit from the California Board of Equalization.

California Revenue and Taxation Code, Section 6073. (a) (1) states:

6073. (a) (1) When the board determines it is necessary for the efficient administration of this part, the board may require the operator of a swap meet, flea market, or special event as a prerequisite to renting or leasing space on the premises owned or controlled by that operator to a person desiring to engage in or conduct business as a seller, to obtain written evidence that the seller is the holder of a valid seller's permit issued pursuant to Section 6067, or a written statement from the seller that he or she is not offering for sale any item that is taxable under this part or is otherwise not required to hold a valid seller's permit.

The event will be private in nature and not open to general public. The access to the event will be limited to the students, parents, alumni, and school officials only, who made advance on-line registration prior to admittance. Admission is free.

SFJLC will be providing food items donated from individuals to the visitors in exchange for a minimum fee as part of our fundraising purposes. This activity is limited in its scope and occurs one time only. Therefore, it is not characterized as a perpetual business activity of sales of taxable tangible items.

SFJLC, celebrating its 40th anniversary this year, is funded by the Japanese Ministry of Education and the Ministry of Foreign Affairs to provide Japanese education overseas. Our school is in session every Saturday throughout the academic year and serves children in K through 11th. We are committed to providing excellent Japanese education to children with diverse backgrounds in the bay area.

We thank you for your understanding and providing us the excellent venue for our historical 40th anniversary.

Sincerely,

Koyo Konishi
President

**SAN FRANCISCO JAPANESE LANGUAGE CLASS
40TH ANNIVERSARY EVENT
CONSENT/WAIVER FORM**

In consideration of the 40th anniversary event (the "event") for the San Francisco Japanese Language Class ("SFJLC") to be held from 10:00 am until 2:00 pm on Sunday, October 18, 2009 at the San Jose Municipal Stadium at the address of 588 East Alma Avenue, San Jose, California (the "venue"), I knowingly choose to leave my child at the event without my supervision. I understand that my child must be currently enrolled in SFJLC's Middle/High School Program and must abide by all rules and instructions by the staff and chaperons. I further understand that SFJLC cannot assume any responsibility for the safety and welfare of my child while participating in the event. I understand that SFJLC staff and chaperones may not prevent injuries because they cannot always control the conditions present or be present with my child at all times. I also understand that the transportation to and from the venue must be provided or arranged by me. I understand that my child must be picked up by 2:00 pm without any exception. My signature below constitutes and is evidence of my agreement to said terms and general liability for the participation of my child in the event identified above.

WAIVER OF CLAIM: I hereby waive all claims against SFJLC and its officers, employees, agents, and/or chaperons for injury, illness, or death occurring during or by reason of the event. I therefore acknowledge that as a condition of my son/daughter participating in said activity, I hold SFJLC harmless and waive any and all claims against SFJLC and its officers, employees, agents, and/or chaperons including, but not limited to, claims arising out of any negligence of any officers, employees, agents, and/or chaperons of SFJLC, for any injury, accident, illness, death, or any loss or damage to personal property occurring during or by reason of my child's participation in said activity.

AUTHORIZATION TO TREAT MINOR: In the event that I, or the other parent/guardian, cannot be reached in an emergency, I hereby give my permission to the school staff and/or chaperons to secure proper treatment for my child. I do hereby consent to whatever x-ray, examination, anesthetic, medical, surgical, or dental diagnosis or treatment, and hospital care are considered necessary in the best judgment of the attending licensed physician, surgeon, and/or dentist and performed by or under the supervision of a member of the medical staff of the hospital or facility furnishing medical or dental services.

PERSONAL INFORMATION: MUST BE COMPLETED BY PARENT/GUARDIAN

Student Name: _____ Student Grade/Class: _____ / _____
Print Name(s) of Parent/Guardian: _____
Parent/Guardian Cell Phone(s): _____
Physician/Health Insurance Name: _____
Policy Number: _____
Phone: _____
Student's Critical Medical Needs/Allergies/Conditions: _____

I acknowledge that I have carefully read this document and understand the information therein. I hereby agree to each of the terms and acknowledgements above, and agree to permit my child to participate in the event described above.

Date: _____ Parent/Guardian Signature: _____

競技や式典で両校交流 S F日本語補習校40周年

サンノゼで記念イベント

サンフランシスコ日本語補習校(SFJLC)の開校40周年を記念する、S F校・サンノゼ校合同イベントが18日、サンノゼの市営スタジアムで開催された。2校に分かれてからの合同行事で、児童生徒保護者、卒業生など1400人以上が参加した。(高木瑞穂)



「40SFJLC」と書かれた人文字 撮影：伴秀祐さん

「いつか合同イベントが、米国歌を卒業生の一生懸命取り組んでくれた」という生徒、保護者、森裕美子さんが独唱。小の希望を実現するため、西光洋理事長が「多く保護者有志が2年前に40の人たちの熱意が一本、周年記念行事実行委員会」の年輪になって、補習校を発足した。この日は関係者、校はこんなに大きな本に来賓を迎えた式典のほか「なりました」とあいさつに、趣向をこらした各種。祝辞では、長瀬安政・在S F日本国総領事、が「良い校風と伝統の記念式典では君が代」あるS F日本語補習校で、を保護者の榎本博之さん、学んでいることを誇りに

思つて、これからさらに一生涯取り組んでくれた、北加日本商工会議所(JC CNC)の中川淳子事務局長は、これらどんな支援ができるのか、補習校と互いに何ができるか考えているとし、「皆り勉強して、日本とアメリカ力の掛け橋になる人に育ってほしい」と激励した。



また、40周年記念行事の一環として、各校独自のアイデアでそれぞれ児童生徒が書いたメッセージや写真などを入れたタイムカプセルが、植木進策校長に手渡された。カプセルは同校事務局倉庫に保管し、10年後の50周年記念時に開封される予定。水の入った酒樽での競開き、サンノゼ保護者合唱隊による校歌斉唱、鏡会によるもちつきと続き、多数の希望者がもちつきを体験に体験した。

大型カルタ取りに80人、10人11脚には24組が出場するなど多くの生徒や保護者、教職員が参加し、球場中に歓声が飛び交った。同校にまつわるクイズを〇×式で答えていく「補習校ウルトラクイズ」で頭も使った後、最後は来場者全員参加で「40SFJLC」の人文字を作成し、脇田祐三さん操縦のセスナ機から伴秀祐さんが写真撮影、独結祐さんがビデオ撮影を行った。終了後、植木校長は

「ほっとしています。本当に楽しい会をしていた。卒業生もたくさん来てよかった。50周年は大変だな、ハードルがだいぶ高くなったのでは」と、うれしい悲鳴を上げていますと笑顔で話して、実行委員会やボランティア

10人11脚に出場したS F校中高生の「プリンセスチーム」ア、寄付を寄せた企業・個人へ感謝を表した。実行委員長の浅尾一郎さんは「合同行事を一度やりたいとみんな言っていました。場所がなかった。今回は探さなかった。今年探さなかった。毎年とはいかないが、合同の運動会も企画できるとは」と手応えを感じた様子。S F校からは約400人が参加し、両校の保護者が準備に駆け付けた。浅尾さんは保護者の協力に「頭の下がる思い。子供さんの喜ぶ顔が見たい」ということだと思えます」と謝意を述べ、「週に1回だけでも完全に日本語環境で文化を学べて、子供たちが友達を作る非常に大事な場」と補習校存続の意義を力強く述べた。

参加した生徒や保護者からは「人文字に感激した。胸が熱くなった(山真紀さん/保護者)、「活気があり、皆さんの笑顔が見られ、素晴らしい催しものだった(東原美保子さん/保護者)、「S F校とサンノゼ校が一緒にひとつのイベントができて、とても楽しかった(島内いずみさん/サンノゼ校中学1年)、「みんなのチームワークが心に残った(有富暖菜さん/サンノゼ校中学1年)などの声が集まった。

ursday, Oct. 29, 2009

新聞



交流
周年
監視
発表
策で合意
化へ協力
再び?
れも
星発進

北米毎日新聞
The Hokubei Mainichi News
Thursday, October 29, 2009
No. 17326

毎週金曜日発行 2009年10月23日
 The Japanese Weekly Entertainment Paper

週刊ベイスポ BaySpo

読者登録特典 No.1093
FREE

ALLIANCE

サンフランシスコ日本国総領事館創立40周年を記念したイベントで集まった千入組の参加者が作った文字「40 SFJLC San Francisco Japanese Language Class」=18日、サンフランシスコ、アッパッチ球場撮影会

発行: Inter-Pacific Publications, Inc. ■ TEL: 650-548-0720 ■ FAX: 650-548-0721 ■ 1350 Old Bayshore Hwy., Suite 760, Burlingame, CA 94010 ■ www.bayspo.com

バイエリア・コミュニティーニュース

サンノゼ球場で記念イベント開催される

日本語補習校 40周年



このような日系コミュニティの一大イベントを催すことができた。みなさん、感謝しながら、盛りだくさんのプログラムを楽しみました。多くの人は、千人以上が風船を手につくり、記念の航空撮影が行われた。

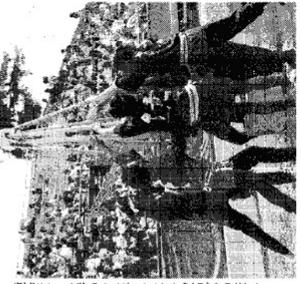


記念式典で挨拶をする長瀬安政在サンフランシスコ日本国総領事

今年で創立40周年を迎えたサンフランシスコ日本語補習校が、10月18日、サンノゼジャイアンツ球場にて記念イベントを開催した。

当日は、サンフランシスコ校とサンノゼ校の生徒、その保護者など1500名以上が集まり、10人11脚や大カルタどり、抽会による餅つきデモンストレーション、ウルトラクイズ、ヨーヨー釣りをはじめとした各種ゲームなど、40周年記念実行委員会が中心となって計画してきた盛りだくさんの内容を楽しんだ。

イベントに参加した長瀬安政在サンフランシスコ日本国総領事は式典で挨拶をし、「40年前は小さく、生徒数も少なかったこの学校がここまで立派に発展した。今日は40年という時間の長さを実感してみたい。そして、伝統ある、良い校風のサンフランシスコ日本語補習校で学んでいることを誇りに思っている。これからもさらに一生懸命に取り組んでほしい」と生徒に語りかけた。また、同校の楠木進策校長は「実行委員会、ボランティア、北加前工芸会などの方々から協力を得て、



風船による航空撮影などをはじめ、多くの思い出に残る行事のメインストーリーも進行された。

5 そのほかの行事

5.1 落語会

- 実施日時 2009年2月15日
- 実施場所 Miraido Dance Studio、550 North 6th Street, San Jose, CA 95113
- 概要
 - 日本から落語の圓橋師匠をお招きし「第6回シリコンバレー寄席」が行われた。補習校の子どもたちに日本文化に触れる機会をいただいた。
 - 参加者から圓橋師匠に寄付参加費を差し上げたところ、圓橋師匠から全額40周年行事に使ってくださいと寄付返しをいただいた。
- 行事責任者：北村たかお 松波千春
- 最終収支 \$450

5.2 コンサート

- 実施日時 2009年3月15日
- 概要
 - 補習校保護者の平野孝榮さんと田山由美さんのコンサートにて、お二人より40周年記念行事のための寄付を呼び掛けていただいた。



Afternoon Concert

Takae Hirano (Soprano)

Yumi Tayama (Piano)

Music introduction by Mr. Hide Hattori

Sunday, March 15th, 2009

3:00 PM

Otsuka Residence
(Cupertino)

Music from Japanese pieces and
Japanese Children's lyric songs

Donations to 40th anniversary event of
San Francisco Japanese Language Class welcome
<http://www.sjlc40.org/>

Reception to follow
courtesy of Mr. and Mrs. Otsuka

Concert is free and open to the public.
Seating is limited. Please send an email to
htakae@hotmail.com
or
my_tayama@yahoo.co.jp
to reserve your seat and for directions.

5.3 映画上映会

- 行事名 映画『ハッピーフライト』
上映会
- 実施日時
 - SF校：2009年4月15日土曜日
 - SJ校：2009年4月25日土曜日
- 実施場所
 - SF校：小学部講堂
 - SJ校：中高部講堂
- 概要
 - 全日空からまだDVDになっていない映画をお借りして、上映会をした。
- 行事責任者：脇田いづみ
 - SF校：三宅孝明
 - SJ校：脇田いづみ
- 最終収支 \$0

全日空の森支店長（2008年度補習校理事）のご配慮で、全日空協賛映画『ハッピーフライト』上映会をSF、SJ両校にて放課後行い、延べ300名の児童、生徒、保護者が参加した。『ハッピーフライト』はこの企画の当時はまだDVDになっておらず、貴重な機会となった。上映会宣伝のための大きなポスターを40周年委員の三宅委員が作成した。SF校は事前申込に当日の飛び込みを合わせ約100名、サンノゼでは児童、生徒、保護者、212名の参加があった。

映画終了後に、SF校では花束を、SJ校では森様を壇上にお呼びして、浅尾委員長から感謝を伝えお礼にワインを差しあげた。

来賓の全日空森支店長の挨拶にあった「チームワークの大切さとあきらめずに力を合わせればどんな苦境も乗り越えられる」と言う事その場にいた大人も子どもも、一緒に泣いたり笑ったりしながら共有できた良い上映会だった。コメディが教育的な映画で子供の大人も楽しめ、大成功であった。企画時点では上映時に40周年行事のために寄付を募る予定であったが、ANA様より、この映画の上映を使ってお金を集めることはできないので控えて欲しいとの申し出があったため、上映会に関連しての寄付集めは行わなかった。



5.4 桜祭りパレード御輿参加

- 実施日時 2009年4月19日（日曜日）午前10時30分集合
- 実施場所 San Francisco Japan Town, CA
- 概要
 - 創立40周年を広めるために、補習校有志による桜祭りパレード・御輿に補習校バナーを掲げて参加した。40周年のバナーを先頭に、男御輿、女御輿、子供御輿と小学部から高等部まで保護者と一緒にハッピー姿やうちわを持って沿道をパレード、その勇姿はバイエリアの日系各誌にも掲載された。40周年を祝う雰囲気作りをし、補習校や40周年の宣伝になったと思う。
- 行事責任者脇田いづみ
 - 事前申込受付：SF校：坂井、SJ校：脇田
 - 当日：浅尾、安、池田、脇田

毎年サンフランシスコ日本街で行われている桜祭りのお神輿担ぎに日本語補習校から参加しているが、今年は40周年という事もあり、両校から参加者を募り、記念行事の一環として、児童、生徒、保護者を合わせて約200名で参加した。

創立40周年を広めるために補習校有志による、桜祭りパレード・御輿に補習校バナーを掲げて参加した。また、桜祭り御輿グループの皆様のご理解により、40周年のバナーを先頭に、男御輿、女御輿、子供御輿と小学部から高等部まで保護者と一緒にハッピーを着たり、うちわを持って沿道をパレード、その勇姿はバイエリアの日系各誌にも掲載された。



参加者全員のお弁当は桜祭り御輿実行委員会よりいただいた。

桜祭りパレードの子供御輿に参加した事がバイエリアの日系各誌に掲載され、事補習校40周年記念をバイエリアに広げるための宣伝活動になったと思う。両校の児童、生徒、保護者の親睦になり、かつ日本文化に実際に拘る事が出来て子供達の日本語教育にもつながった。両校共通のイベント等同時に計画出来ればなお良かったと思う。

5.5 オークランド A's 観戦

- 実施日時 2009年9月5日 午後6時5分試合開始
- 実施場所 Oakland Coliseum、66th Avenue, Oakland, CA
- 概要
 - 40周年記念行事への寄付者を招待して、Oakland Athletics 対 Seattle Mariners の試合を観戦した。
- 行事責任者：脇田いづみ
 - チケット配布・集金：松波、脇田
 - 撮影班：保刈、八木

Oakland A's よりチケット 300 枚の寄付を受けた。チケットは 40 周年行事への寄付者に配るとともに、これを保護者の 40 周年行事への関心を盛り上げる（ひいてはいっそう寄付を引き出す）てこととして利用した。このときはイチロー 大リーグ通算 2,000 本安打間近で、その意味でも盛り上がった。総領事館、JCCNC の方々も招待した。



補習校 40 周年を祝うため、「San Francisco Japanese Language Class 40th Anniversary」とスコアボードに点灯させた。また、記念バナーを掲げて子供達の記念撮影をした。普段補習校外で集う機会のない子供の親睦も兼ね良い機会となった。その際、NHK の取材を受け、子供達がイチローを応援する様子が NHK ニュース（テレビ）で放映された。

40 周年バナーを持参し、祝 40 周年のスコアボード点灯もあって、40 周年記念行事を盛り上げるのに寄与した。このイベントは 40 周年のお祝いをみんなでやろうという景気付けになったと思う。また、これがきっかけで保護者からの寄付が集まった。

5.6 中高部 SJ 校弁論大会

※本行事は、中高部 SJ 校が行った学校行事の一つであり、40 周年記念行事実行委員会が企画・運営したものではない。

- 日時 2009年10月17日（土） 1時15分～2時15分
- 会場 中高部 SJ 校（ケネディーミドルスクール オーディトリウム）
- 出場者：各クラス代表 1 名

1) 事前指導

- ① テーマに対して、真剣に考えさせる。
- ② 希望者は原稿用紙 2 枚程度の原案を書く。（聞きやすい話すスピードは、300 字／1 分）
- ③ 担任と国語科の先生で、内容を検討して 1 名を選ぶ。（当日確実に出席できること）
- ④ 読む練習をさせる。（話すスピードに注意）
- ⑤ 学級内で練習させる。

2) 審査員

小西理事長 久保田理事 西郷元理事長 太田主幹

- 3) 表彰
 賞状と賞品をもって表彰する。(小西理事長)
- 4) 当日の流れ
- | | |
|-----------------------|---------------|
| ① 入場開始 | 1時10分 |
| ② はじめのあいさつ | 主幹 1時15分 |
| ③ 弁士登壇(全員ステージ上で椅子に座る) | |
| ④ 弁論開始(順番は事前にくじ引き) | 1時20分 |
| ⑤ 弁論終了 | 1時50分 |
| ⑥ 集計 | 1時55分終了 |
| ⑦ 講評と表彰 | 小西理事長 2時05分終了 |
| ⑧ 退場 | 2時10分 |
- 5) その他
 保護者の希望者には、参観可とする。

サンフランシスコ日本語補習校創立40周年

今年も、食卓に柿が並ぶ季節となりました。私は、小学生の頃、信州の生家にあつた柿の木に登って、手に収まらない程大きな柿の実を、おやつ代わりに食べていたことを思い出します。みなさんのご家庭でも、折節の食べ物をいただくことが、お子さんのいい思い出作りになるのではないでしょうか。

英語で書く数字で最後の四つのアルファベットが、Teen となる年齢をティーンエイジャーと呼ぶそうです。急激な環境の変化は、親の歩んできた道の延長線上に子どもを置くことは出来なくなっています。補習校では、特に「個」の成長に応じた指導や支援をしておりますが、ご家庭におかれましては、お子さんが現地校の様子や友だちのことなどを、ご両親と話しやすいような環境を是非作っていただきたいと思ひます。さて、補習校創立四十周年の記念の年にあたり、去る十月十七日、あらためて生徒たちに補習校に通う意味を考えてもらおうべく、弁論大会を実施いたしました。学級代表として、八名ともすばらしい個性溢れる弁論を展開してくれました。公正な審査の結果、次のような結果となりましたのでお知らせいたします。弁論を真剣に聴いている生徒たちの姿勢もすばらしく、中高部サンノゼ校の生徒全員の力が結集され、大成功に終わった弁論大会でした。

太田 正

学校便り 十一月

中高部 SJ 校
 第 17 号
 平成 21 年 11 月 7 日
 発行者 太田

弁論大会各学級代表弁士

中一・一	水野 優樹	
中一・二	青野 蛍子	
中二・一	平澤 侑未	優秀賞
中二・二	脇田 雄介	敢闘賞
中三・一	小山 まつり	
中三・二	ビラセノール 大和	
高一	奥野 寛明	
高二	鶴下 健	最優秀賞

審査員

小西 光洋	当校理事長
久保田一清	当校理事
西郷 和義	当校元理事長
太田 正	主幹

来賓

浅尾 一郎

四十周年記念行事実行委員長

中学一年一組より

先日は、お忙しい中を授業参観・個別懇談にご出席いただきありがとうございました。ご来校いただき、誠にありがとうございました。

5.7 見学会『ANAトリプルセブン出発前の飛行機をのぞいちゃえ』

- 実施日時 2009年11月8日・22日の2回実施、10:50分ごろに終了
- 実施場所 ANA サンフランシスコ国際空港
- 行事責任者：山口

■対象者：親子3人1組を前提に各2組(各回最大6名)

■見学コース：

- ・SFO ANAチェックインカウンター(Island7)前集合

- ・座学（航空機システム・飛行計画）
- ・パイロットブリーフィング見学
- ・パイロットとCAとのブリーフィング見学
- ・実機見学（コックピット・機内・機体周辺）
- ・「あんしん」「あったか」「あかるく元気」のプロモーションビデオ鑑賞
- ・修了証書授与式の流れて、10:50分ごろ終了。



6 収支報告

6.1 全体

	Budget	Actual	Difference
INCOME			
学校からの借り入れ	\$5,000.00	\$5,000.00	\$0.00
学校拠出金	\$0.00	\$5,000.00	\$5,000.00
会社寄付	\$10,000.00	\$2,480.00	-\$7,520.00
団体寄付	\$5,000.00	\$8,440.00	\$3,440.00
個人寄付	\$10,000.00	\$5,442.75	-\$4,557.25
イベントオークション	\$0.00	\$3,429.00	\$3,429.00
イベント食事	\$0.00	\$7,500.00	\$7,500.00
イベント飲み物+スナック	\$0.00	\$1,000.00	\$1,000.00
イベントゲーム	\$0.00	\$971.85	\$971.85
TOTAL INCOME	\$30,000.00	\$39,263.60	\$9,263.60
EXPENSES			
委員会経費	\$3,000.00	\$3,000.00	\$0.00
バーナー作成費	\$500.00	\$258.00	\$242.00
プライベート実施雑費	\$1,000.00	\$99.01	\$900.99
イベント会場借用料	\$3,500.00	\$5,600.00	-\$2,100.00
イベント実施雑費	\$2,500.00	\$4,880.36	-\$2,380.36
シンポジウム会場借用料	\$1,500.00	\$1,450.00	\$50.00
シンポジウム実施雑費	\$1,500.00	\$994.59	\$505.41
シンポジウム夕食 (70人・ピュッフエスタイル)	\$2,100.00	\$2,671.33	-\$571.33
雑費	\$1,000.00	\$214.14	\$785.86
剰余金	\$8,300.00	\$0.00	\$8,300.00
借り入れ返還	\$5,000.00	\$5,000.00	\$0.00
Paypal 手数料	\$100.00	\$46.78	\$53.22
TOTAL EXPENSES	\$30,000.00	\$24,214.21	\$5,785.79
BALANCE		\$15,049.39	

6.2 イベント

ドネーション

	弁当	\$	7,975.00
	飲み物+スナック	\$	1,096.00
	オークション	\$	6,818.15
		\$	15,889.15
収入	オークション収入	\$	3,341.00
	その他収入	\$	9,471.85
		\$	12,812.85

支出詳細		予算		決算	
イベント会場借用料	\$	5,500.00	\$	5,600.00	
イベント実施雑費					
幼稚部ゲーム	\$	50.00	\$	16.98	
小学部ゲーム	\$	500.00	\$	617.53	
中高・大人ゲーム	\$	800.00	\$	528.28	
人文字	\$	300.00	\$	329.47	
子供用ゲーム	\$	250.00	\$	184.74	
オークション			\$	17.43	
食事・飲み物					
お弁当	\$	2,100.00	\$	2,182.02	
飲み物	\$	300.00	\$	110.07	
スナック・その他			\$	73.44	
備品	\$	500.00	\$	54.31	
その他			\$	766.09	
		\$	10,300.00	\$	10,480.36

支出詳細

6/1910人11脚バンド	\$	520.00	中高・大人ゲーム
9/21Bean Bag Game	\$	37.00	子供ゲーム
9/22SJ municipal Stadium(Boooking)	\$	2,750.00	会場費
10/4rehearsal snack & coffee	\$	46.47	その他
10/4rehearsal tips	\$	60.00	その他
10/15SJ municipal Stadium(Boooking)	\$	2,850.00	会場費
10/18kagamikai	\$	500.00	その他
10/18drink 追加	\$	110.07	飲み物(126.30-16.23)
10/18ヨーヨー+メダル+チケット	\$	147.74	子供のゲーム
10/18キャンディー	\$	16.98	幼稚部ゲーム
10/18関根さん・お礼	\$	22.92	その他
10/18Hand SNTR	\$	11.70	備品
10/18お弁当用ナプキン	\$	9.90	お弁当
10/18チップス(50個入り x4箱)	\$	43.96	スナック・その他
10/18買い物袋(2000枚)	\$	29.48	スナック・その他
10/18大カルタ取り	\$	533.18	小学部ゲーム
10/18人文字	\$	329.47	人文字
10/2910人11脚	\$	8.28	中高・大人ゲーム
10/30Tape etc	\$	17.43	オークション
10/30石灰 など	\$	42.61	雑費
10/30お弁当代金	\$	2,032.12	お弁当
10/31弁当容器	\$	140.00	お弁当
11/22大カルタ	\$	32.01	小学部ゲーム
11/22大カルタ	\$	52.34	小学部ゲーム
2/18宣伝費用	\$	136.70	その他

6.3 シンポジウム

シンポジウム会場借用料	\$1,500.00	\$ 1,400.00	\$100.00
シンポジウム実施雑費	\$1,500.00	\$ 2,148.43	-\$648.43
シンポジウム夕食 (70人・ビュッフェスタイル)	\$2,100.00	\$ 2,671.33	-\$571.33
	\$ 5,100.00	\$ 6,219.76	\$ (1,119.76)

支出	会場費	\$ 1,450.00	1650-200
	昼食費	\$ 1,000.00	donation
	夕食費	\$ 2,671.33	
	ケーキ	\$ 135.70	
	お土産 40周年スウェット	\$ 503.40	
	名札・紙袋など	\$ 177.75	
	リフレッシュメント (食べ物)	\$ 132.60	
	リフレッシュメント (飲み物)	\$ 198.98	
		\$ 6,269.76	

支出詳細

6/14DavidBrowerCenter(booking)	\$ 725.00	
7/140周年スウェット(シンポジウム用)	\$ 503.40	
7/12DavidBrowerCenter(booking+)	\$ 725.00	925-200
8/1Back to earth	\$ 1,066.78	
8/19Badge	\$ 65.84	donation
8/22Back to earth	\$ 1,604.55	
8/22Bagle	\$ 28.40	donation
8/22Paperbag など	\$ 51.63	
8/22Costco 食べ物	\$ 104.20	
8/22Cake	\$ 135.70	
8/22SoftDrink	\$ 21.56	donation
8/22Beer	\$ 25.98	
8/22Beer	\$ 23.51	
8/22G Water	\$ 16.45	
8/22Bottle water	\$ 26.70	
8/22Bottle water	\$ 33.70	
8/22G Water	\$ 25.00	donation
8/22Wine	\$ 13.04	donation
8/22Wine	\$ 13.04	
8/22Lunch(Bento)	\$ 1,000.00	donation
8/22Photo etc	\$ 60.28	

		\$ 6,269.76	
		\$ 1,153.84	total donation
支出実際	会場費	\$ 1,450.00	
	夕食費	\$ 2,671.33	
	実際にかかった雑費	\$ 994.59	
		\$ 5,115.92	
	ドネーション	\$ 1,153.84	
		\$ 6,269.76	

6.4 寄付者一覧（敬称略）

3000 ドル以上：

- サンフランシスコ日本語補習校保護者会（2008年度繰越金の一部を寄付いただきました。）
- 岸本正次（全校児童／生徒，教職員，ボランティアにTシャツをご寄贈いただきました。）
- 40周年記念行事実行委員会／委員一同（毎回の会合の交通費／経費をプールして寄付しました）

2700 ドル

- Oakland Athletics（300枚の野球観戦チケットを頂きました。）

1500 ドル

- Ringer Hut Nagasaki Chanpon Japanese Restaurant

1200 ドル

- IACE Travel
- Air Accord（人文字航空写真撮影にご協力いただきました。）
- Masa Sushi

1000 ドル

- 桜まつり実行委員会
- 北加日本商工会議所
- 山ちゃんラーメン Nippon Trends Food Service, Inc.
- 三船 うどん・そば専門店
- Kubota Restaurant & Bar
- 海太 Kaita Restaurant
- ほし Japanese Restaurant☆HOSHI

500 ドル～999 ドル

- North American Food Distributing Co., Inc.
- Lexus A Penske Company Stevens Creek
- 久保田一清
- 豊味寿司 TOMISUSHI
- 平野孝榮・田山由美

- SUSHI MARU Japanese Cuisine, San Jose
- Mitsuwa Market Place ミツワマーケットプレイス
- 岩崎陽一
- Sheldon of Los Altos, Photography
- University of East-West Medicine

200 ドル～499 ドル

- 三遊亭圓橘
- Sushi Maru Restaurant, Milpitas
- Silicon Valley Piano
- JFC International, Inc.
- 安俊弘・正恵
- 小西光洋
- DeviceNet
- PFU Systems, Inc., A Fujitsu Company
- 植木進策
- Eagle Vines Vineyards and Golf Club, Napa Valley
- Nishimoto Trading Co., Ltd.
- Junko F. Moderly
- 賀川正人
- Yoshie' s Golf Clinic
- 浅尾一郎
- YOSHINOYA
- Yuma Tsuchiya

100 ドル～199 ドル

- PIER 39, Celebrating 30 years
- Leila Baroudi, D.D.S.
- Seitai Yoga, Aya Kinoshita
- SantekShop.com
- Golfland, Family Fan Center
- 青柳伸之
- Starbucks Coffee
- Saigo Day Care, 西郷リベカ
- Clover Cake Shop
- Cosmedog
- Dai Itasaka
- 岩田哲弥
- カーク有子
- 近藤真知子
- ポート オブ サクラメント日本語補習校
- 森田昌代
- 田上智子
- 塚本三枝子
- Mountain View Center for the Performance
- 寿司国
- 米国紀伊國屋書店
- Tanto, Sunnyvale
- Izaka-Ya Seafood Restaurant
- Gran Rosa

- Teruyo Wilson
- 柏法光、Silicon Valley Piano

50 ドル～99 ドル

- Kids Klub
- Ted Liu, Sales and Representative Master Certified, Lexus
- Lawrence Hall of Science
- Gochi, Japanese Fusion Tapas
- Classic Car Wash
- 松波千春
- VIDEO EYE
- 保護者有志
- Hair Salon Theory
- Ken Newberry
- デイシー洋子
- Toshiaki Sakai
- グリフィン裕子
- 匿名
- TRITON Museum of Art
- Fairway Golf
- Yuki Sushi, Japanese Cuisine
- 独古あつ子
- Chiemi Masumoto
- 長岡綾乃

その他、多数の方のご協力、ご援助を頂きました。ここに改めて感謝の意を表します。

7 編集後記・50周年へのメッセージ

植木先生の「巻頭言」にもあるように、2000年代に入って、本校の運営を担う理事会の構成は大きく変わり、「官」の定めた補習校というシステムを草の根の「民」が担う、という形が定着し、良い形で歯車がかみ合っていて回っている。途中、いろいろ困難な局面もあったがその時その時の関係者が真摯な議論を重ねて、自らの創意工夫の中から解決策を模索していった。そのような変化の時期を迎えたこの40周年記念行事は、自ずとそれまでの周年とはかなり趣を異にしたものとなった。この形が10年後の50周年にそのままつづいているかもしれないし、そうでないかもしれない。世界情勢、日本の、そしてカリフォルニアの環境、それらがものすごい速さで変化している時代にあって、同じであると考えての方が不自然だろう。しかし、この40周年記念行事でこの補習校コミュニティが示した熱意、誠意、謙虚、パワーがあれば、きっと今後もより良い方向に進んでいくと信じている。40周年記念行事はそれを確信させるに十分な成果であった。この報告書がその「熱い思い」の一端を伝えてくれたら、望外の喜びである。(安)

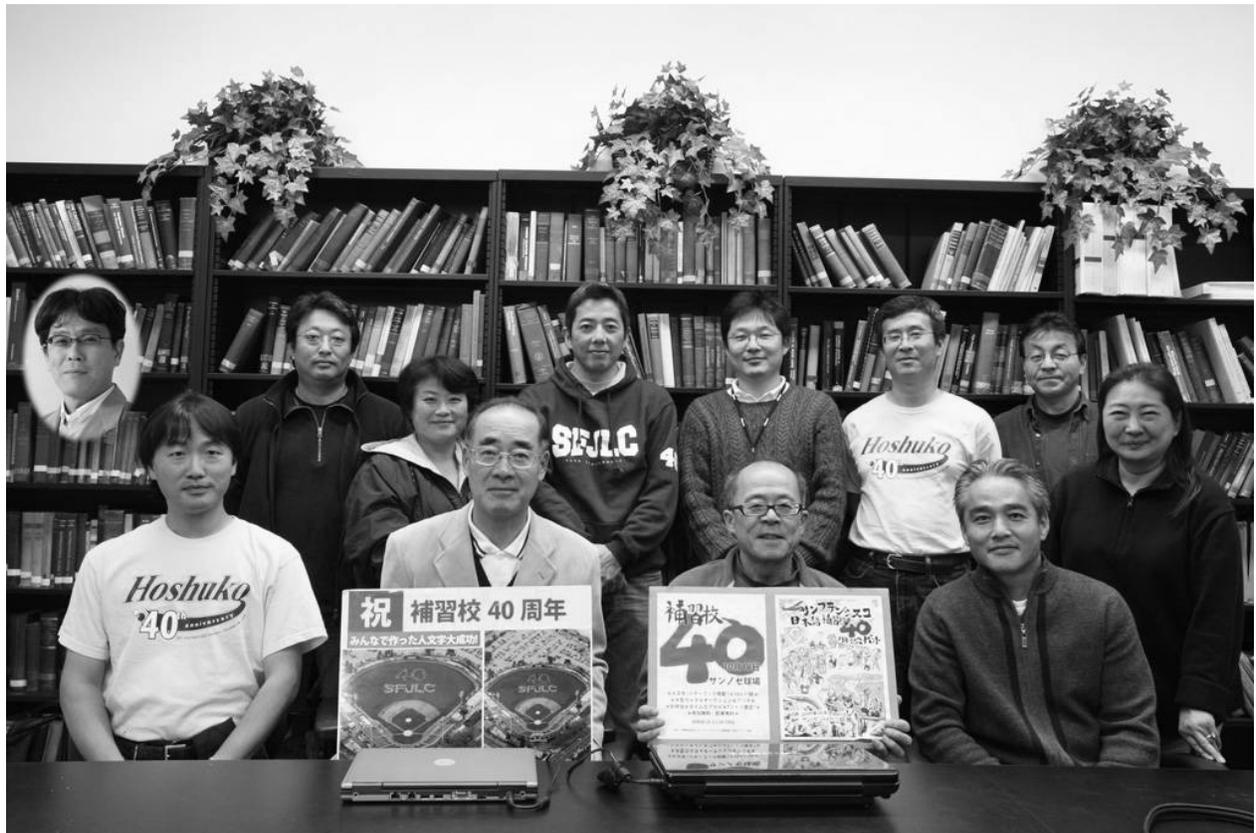
40周年記念行事のまとめを起こすにあたって、当時のメールアーカイブなどを見直したりしたのだけれど、一年を通じて本当に多くの人たちに支えられて行事を完遂できたのだなあと思えます。補習校の意義とか期待とかはおそらくひとそれぞれなのでしょうが、補習校への思いとか補習校を大切にしたい気持ちは同じで、それが結集した結果これだけの大きな事業を成し遂げることができたのでしょう。今私は補習校の一員であることに誇りを感じるとともに、日本語補習校40周年という時間を、40周年記念行事実行委員のみなさんや補習校の仲間、SF校の皆さんと共有できたことにとても感謝しています。50周年の時には子供たちは既に卒業し補習校の外の人になってしまっていますが、残られた方々や新たに加わる方々が補習校をもっと盛り上げ、より盛大な行事になることを祈念しています。その際にこの40周年の行事が礎となるならば幸いです。(池田)

今回、SF日本語補習校40周年記念行事実行委員会に参加し、素晴らしいメンバーと、素晴らしい時間を過ごすことができました。このメンバーと約2年間ご一緒できたことを、とてもうれしく思っています。また、今回もこの学校の保護者の力をまざまざと見せ付けられた思いです。保護者の意欲と行動力は、この学校の財産であると確信しました。すべてが、不可能に思えた初期の段階をすぎ、「40周年に補習校にいたことを子供たちに覚えておいてもらえるような記念行事を行う」という目標を立てた後は、皆の力で不可能を可能にしてきたように思います。この1年が、子供たちの記憶に残ってくれば、目標達成です。目標が達成できたことを祈りつつ。(松波)

保護者会役員、理事、そして40周年記念実行委員の掛け持ちで大変忙しい一年間でした。但し、40周年には2009年度しか携わっておらず、2008年の実行委員会発足時から準備をされていた先輩委員の皆さんと比較すると、自分の忙しさは、まだましであったと推察します。この一年、特に夏から秋にかけては、無我夢中でしたが、振り返ってみると非常に中身の濃い時間を過ごすことが出来ました。このような記念すべき大イベントの運営に携わることが出来たことは大変幸運であり、かけがえのない経験をさせていただいたと思います。また、途中から助っ人としてご協力いただいたサブリーダー、保護者会役員、ボランティア、理事会、事務局の皆さん、先生方は勿論、一緒になって40周年をお祝いしていただいた多くの児童、生徒、保護者、その他大勢の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。サンフランシスコ日本語補習校がどうして40年間存続しただけではなく、成長し続けてきたか分かったような気がします。一年間有り難うございました。(三宅)

40周年は補習校の歴史の通過地点である。これから50周年、60周年と日本語文化を継承して行くのに未来永劫、続いて行かねばならない。その歴史の中で経済や政治、その時々々の環境に振り回される事のないように自立している必要がある。国の援助もいつまでもあると思っはならないだろう。補習校を運営してゆくにの学校と保護者が共通の理念をもち、協力してそれぞれのなすべき部分を遂行してゆかねばならない。記念事業は予め計画のできることである。今回は予算が無い中でスタートして経済の悪化が厳しく立ち足はだかかったが、その反面、お金をかけずに中身の濃い手作りのイベントを催す事ができた。しかし将来もこのままで良いとは言えない。会社や家庭の経営を行なうのと同様に将来、やってくるその日の

ために用意しておくべきである。例えば現在 1200 人の生徒が在籍しているが、毎月\$1 でも積み立てておけば年利 3%で 10 年後には\$167,750 になる。これは記念事業に限らず、他にまとまった事に利用できるであろう。今、40 周年を通過して将来、サンフランシスコ補習校を支える人に提言としたい。(山口)



2009 年 11 月 22 日 (日)、第 16 回委員会会合 (UC パークレー-Etcheverry Hall 4101 号室) において。
(前列左から、保刈、植木校長、浅尾委員長、小西理事長； 後列左から、坂井 (梓内)、柴田、松波、三宅、安、池田、山口、脇田)。

40 周年記念行事実行委員会 (2008 年 8 月から 2010 年 3 月まで)

浅尾一郎 (委員長)、安俊弘 (副委員長)、池田貴志、喜多俊幸 (2009 年 3 月まで)、小島眞志 (2009 年 3 月まで)、西郷和義 (2009 年 3 月まで)、坂井利彰、柴田英希、保刈正行、松波千春、三宅孝明、村山齊、山口高弘、脇田いづみ

8 付録

8.1 40周年記念行事実行委員会議事録

8.1.1 第1回

日時：2008年9月6日（土）午前9時半～午後1時半

場所：小学部サンフランシスコ校 110 番教室

出席者：浅尾、西郷、小島、松波、脇田、山口、喜多、安

冒頭に、脇田理事からこれまでの経緯に関する概略の説明があり、理事会より小島理事も参加することになった旨伝達された。

引き続き、互選により浅尾さんを委員長に選任し、浅尾委員長から安を副委員長に指名することが提案され、合意した。以後、浅尾委員長議事進行の下、議論が進められた。

まず、以下の事実を確認した。

○20周年時には30万ドル、30周年時には6万ドルの寄付があり、基本財源に組み入れられた。

○それぞれのときに記念文集（イヤブックのようなもの）を作成している。

記念行事の基本方針を決めるべく、多方面からの議論を行い、基本方針として、以下の点で合意した：

○補習校予算に依存する部分に対してはより高いレベルの説明責任が生じることを考慮し、補習校財政に対し、最低でも中立、できればプラスになるように事業を計画・実行する。

○近年の補習校経営が日本から地元に進出している日系企業依存型から現地在住の個人により強く依存する形にシフトしていることを考慮し、草の根的な幅広い参加による行事を目指す。

○卒業生ネットワークの基盤となるよう配慮する。

○2009年11月下旬から12月初旬に山場が来るようにスケジュールを検討する。

○通常の教育活動に過度の負担をかけず、かつ記念の年であることを児童・生徒にも印象付けられるような行事とする。

これらの点を考慮しつつ、諸案を検討した結果、以下の素案で合意した：

組織委員会の設置

広く関係者の協力が必要であることにかんがみ、実行委員会の上に組織委員会を設置し、関係機関の代表、地元有識者、教育関係者などをメンバーとして、適宜活動状況を諮問することが適当である。本委員会としては、組織委員会委員長を長嶺総領事にお願ひし、そのほか、JCCNC、地元教育区の関係者、借用校校長、補習校校長、理事長、文科省関係者などが適任と考える。依頼は理事長から行われるのが適当であろう。

〔補習校40周年祭り〕（仮称）

○日曜日など通常の授業日ではない日に4校の児童生徒およびその保護者・家族、友人などが一堂に会する機会を設定する。

○その場において、40周年を記念する人文字を作り、航空写真を撮影する。

○同時に、ピクニック、BBQ、スポーツ対抗、そのほか催しを開催し、普段顔を合わせる機会のない4校の児童生徒の交流の場とする。

○ベイエリアの日本語・日本人コミュニティーに広く宣伝し参加をお願いする。

○記念のTシャツを作成し、寄付分、当日の経費（食費など）を上乗せした価格であらかじめ販売する。当日はそのTシャツ着用を入場料領収済みの印とし、航空写真参加、飲食の権利を与える。また、当日もTシャツの販売を行う。

○脇田理事に航空写真の詳細について調査をお願いする。

○ベイエリアのマスコミにも協力を依頼する。

○Tシャツの原価5ドル、上乗せした価格を20ドルとし、寄付分が10ドル程度、参加者数が2000人と仮定すると、約2万ドルの収益が期待できる。また、企業、個人等からの現物、現金による寄付も期待できる。収益により、そのほかの記念行事の経費をまかない、もし剰余分があれば補習校に寄付し、その用途を理事会の判断にゆだねる。

○大枠の仕様を本委員会でも固め、個別のアイデアについては広く関係者から集める。また実際の企画運営についても参加を奨励する。

- 卒業生にも企画・運営などの段階から参加を促す。
- 次回委員会会合までに、適当な会場候補地を調べ、情報を持ち寄る。

記念文集作成

- 20周年、30周年のときと同様の記念文集を作成する。
- 教員の関与が必要となるので、相談が必要。

記念式典

- 限られた関係者を招待し、11月下旬をめどに開催する。

バナー作成

- 40周年を記念したバナーを各校に作成し、毎授業日に掲揚することにより個々の認識を促す事を提案する。

その他の催し物

- 上記40周年祭り、記念式典以外に通常行われている行事に関しても、40周年を記念して普段とは赴きの違った形にできれば良いのではないかと。

やまなみを通した広報

- 委員会で検討された内容は、やまなみを通し随時会員に報告していく。

次回の委員会会合を9月27日（土）、サンノゼ校で開催する。詳細は迫って連絡をする。連絡、意見交換のためのYahooGroupを早急に設置する。

8.1.2 第2回

日時：2008年9月27日（土）午前9時半～午後2時

場所：中高部サンノゼ校C教室

出席者：浅尾、西郷、松波、脇田、山口、喜多、安、池田

欠席者：村山、小島

役割、担当者を以下のごとく決定した。

会計：松波 — 5千ドルを理事会に用立ててもらい、ユニオンバンクに専用口座を開設する。5千ドルは、後日返済する。
卒業生ネットワーク、情報、広報：池田 — 40周年記念のホームページを立ち上げる。長岡さんにも協力していただき、卒業生ネットワークを構築する。

パンケット：喜多 — 場所、ケータリングを選ぶ。

財務：山口 — ベイエリヤ各企業から寄付を募る。

T-シャツ作成、配布：脇田 — デザインを決定し、色は白、赤、青の三色、スタッフ用はグリーンとする。1枚\$25でチケットとして販売し、参加費、飲食込みとする。配布方法も決定する。

航空撮影：浅尾、伴、脇田(ご主人) — 無線、携帯を使って人文字作成のタイミングを決定する。航空撮影は2人で行い、可能ならば2回撮影し、1回の撮影で60枚は撮影する。

イベント：西郷 — イベントの内容を決定する。人文字は児童、生徒だけの参加とし、人文字のデザインを決める。

バス送迎：喜多 — 利用人数の確認、バスの確保、ピックアップのための場所を決定する。バス費用の半分は個人負担とし、paypalで支払えるようにする。

予算の大枠

諸経費の大枠は\$50,000とする。

イベント — \$15,000 T-シャツ — \$10,000 パンケット — \$10,000 — \$15,000、バス、その他雑費 \$10,000

これからの予定

* 10月13日月曜日午後9時にスカイプを使って会議を行い、開催場所を決定する。

開催候補地:SAN JOSE GIANTS STADIUM, FLOOD PARK, MENLO PARK, OPEN SPACE BY SAND HILL & 280

*10月14日、浅尾委員長が事務局に出向き、植木校長、木下、井上両教頭先生等に記念行事の内容を報告し、意見交換する。

- * 10月16日の理事会で40周年記念行事の大まかな内容を報告し、承認を得る。承認を得た後は、記念行事の内容については、委員会に一任するものとする。

記念行事の内容

- 1、イベントを行う
- 2、40周年記念文集を作成する
- 3、卒業生ネットワークを構築する
- 4、授業のIT化に貢献する（スマートボードの寄付など）
- 5、学校関係者のためにパンケットを開く
- 6、組織委員会の結成
- 7、記念式典は学校行事とし、校長先生をはじめとする教育担当者に一任するものとする

実行委員会が企画し実施する行事は、全て実行委員会の責任において行います。学校関係者、すなわち先生、日本からの派遣の先生、事務局の皆様は、生徒、保護者と同じ、一参加者として記念行事にかかわってください。もちろんボランティアとしてご協力いただくことは大歓迎です。

8.1.3 第3回

日時：2008年10月26日（日）午前10時半～午後2時

場所：UCパークレーEtcheverry Hall 4101号室

出席者：浅尾、松波、脇田、山口、喜多、池田、安

配布資料：

- 1：『40周年記念行事(案)』（浅尾）（理事会への提示資料）
- 2：『企業寄付について』（山口）
- 3：『補習校40周年記念広報活動』（池田）

脇田理事から前回理事会における議論の様子が報告された。（配布資料1）

- 銀行口座は開設準備完了。理事会に月次報告を提出すること。
- 学校の教育の中で40周年式典をする予定はないので、記念行事の中でやってほしい。（学校からの要望）
- 総領事は組織委員会委員長になれない。総領事を迎えるのであれば、名誉顧問。組織委員会は理事会で否認。別途方法を考える。
- 理事会では法人会員の整理を検討中。
- そのほかの基本的方針については了承された。

理事会と委員会の基本的考え方の違い

- これからの進め方について。理事会の承認をとりつつ進めるとスピードが鈍る。委員会の考え方は草の根的盛り上がり；理事会はトップダウン的アプローチ？なるべく早いうちに理事長を委員会の会合に招いて議論する。
- 会計の月次報告について（委員会了承）
- イベントに式典の部分を加えること
- 組織委員会の是非。集金方法に関係する。

募金の方法について（山口）（配布資料2参照）

- 企業内部での説明のためにも、強力な理由・見返り（会場でのバナー広告、Tシャツに社名掲載、ホームページ上で社名掲載時間を長くする、など）が必要。
- 理事会との連携強化。配布資料2を理事会役員会にも回覧。
- 一口の額を小さくする（500ドル？）
- 個人寄付のしやすい複数のオプションを設ける。
- インターネット送金を可能にする。
- 物品による寄付。オークションによる換金。（サンノゼ保護者会の寄付企業リスト）
- 税金控除。
- ワーキンググループ
- JCCNCにも説明の機会を設ける。（理事会を通じて。次回理事会は12月。）

Website（池田）（配布資料3参照）

- 11月号のやまなみにWeb開設の予告を掲示する。
- 理事と委員会メンバーで同じアクセス権限にして、内容を閲覧できるようにする。
- 寄付集めについては山口さんと連携。
- シンボルマークについてワーキンググループ。
- そのほか、配布資料3に示された概要で了承。

バンケット（喜多）

- 焼肉ハウス十番メンローパーク。120人程度の規模ならOK。
- 式次第など喜多さんが検討。

イベント（喜多）

- Canada College は早めの申し込みと入金を要求。
- 日程：JCCNC のゴルフ大会を避ける。2009年10月18日または25日。9時～3時。
- 野球場では飲食不可。
- パーキング1台2ドル。契約に組み込んで一括支払いも可。詳しい見積もりは未着。
- 野球場とサッカー場を両方借り切る。
- 大まかに見積もって＜\$3,000
- 一人10ドル。寄付分は含まない。（Tシャツ5ドル、会場費2～3ドル）参加者2000人として収益約6000ドル。
- 寄付目標額を40000ドルに設定。
 - Website に現在の寄付額を表示。企業からの寄付、個人の寄付を表示。競う。
- 食事をどうするか？
 - 弁当持参もOK
 - 協賛企業に1食分5ドルをめぐりに販売。収益金の寄付をお願いする。会場費を負担していただく意味で最小限の上納金はいただく。
- 参加申し込みの際に免責事項の承認チェックをさせる。（小島さんが確認）
- トイレ？
- 人文字
 - 子供だけ？大人も参加するか？
 - 文字の内容：「SFJLC 40」、「日の丸」、「日本40」、「かけはし40」
- サンノゼ、サンフランシスコのどちらかをそれぞれの企画担当とする。
- 盛りだくさんの企画。
- 時間割、場所割り、人数割り、同時並行でできるか？
- Website の投票機能を用いて人気投票をする。また、新規のアイデアの募集をする。
 - オークション
 - 紙飛行機コンテスト
 - フリーマーケット
 - 中高部スポーツ大会決勝戦（SF 対 SJ）
 - フットボール、サッカー、野球（ホームラン競争）（藪選手？）
 - 保護者スポーツ大会
 - 風船つり、ヨーヨーつり、輪投げ、ダーツ、下駄飛ばし
 - ジャンパー（遊具）
 - 玉入れ、綱引き、大人数の縄跳び
 - ギネス記録に挑戦
 - 太鼓、鏡会、おどり、お茶
 - 音楽（琴、ジャズ、雅楽、クラシック、ロック）—特設ステージ
 - タレントショー、カラオケ大会
 - 日本語弁論大会
 - チアリーディング
 - 補習校トリビア・ウルトラクイズ
- 参加者資格については次回検討。
- 次回までに西郷さんが具体案を検討。

IT化

- 主担当は安。

次回の日程

- 11月16日（日）または23日（日）サンノゼ方面で。
- アルドリッチ理事長の出席をお願いする。

配布資料1

40周年記念行事(案)

10/14/08

40周年記念行事実行委員会が企画立案し、実施する行事について、以下のものを提案する。

基本的な考え方

- * 設立40周年を迎え、サンフランシスコ校、サンノゼ校の児童生徒が一堂に会し、楽しく過ごせるイベントを行う。
- * 次の50周年に向け、シリコンバレーに位置している利点を生かして、ITを有効に取り入れた授業の構築に寄与する。
- * いかにして本補習校卒業生のネットワークを構築していくかを検討し、できればそれに着手する。
- * 行事遂行に必要な経費は、イベント参加者全員から徴収する参加費と、企業の寄付金でまかなう。
- * 諸行事は、全てボランティアの手で行い、学校関係者の皆さんにできるだけ負担をかけないようにする。
- * 実行委員会の活動内容及び財務状況は、適時理事会に報告しアドバイスをいただくとともに、開かれた活動、全員参加を目的として、専用ウェブを開設し、タイムリーに進行状況をお知らせするとともに、広く皆さんの意見をお聞きする。

記念行事の内容

- 1) 全員参加のイベントを行う。
日時 : 2009年10月18日または25日(日曜日)
場所 : Canada College (サンマテオのコミュニティーカレッジで、I-280 沿いにある)内にある野球場をメイン会場とする。
内容 : 今後ワーキンググループを設置し、内容の検討を行うが、メインイベントとして、児童生徒全員により人文字を描き、航空撮影を行う。当日は参加者全員所定のTシャツを着用する。
- 2) 学校関係者に感謝を表すもようとして、バンケットを行う。
- 3) 授業のIT化について、具体的な取り組み方法を検討し、それを基に初年度の具体案を作成し、実施する。
- 4) 卒業生ネットワークの構築手法を検討し、できれば着手する。

予算の大枠

あくまでも今時点の概算であって、記念事業の内容が明確になるにつれ、修正、詳細検討が必要である。

総経費 : \$ 50,000

内訳 : イベント \$ 15,000、Tシャツ \$ 10,000、バンケット \$ 10,000 ~ 15,000

その他 \$ 10,000

理事会へお願い

- * 組織委員会の結成 (案 : サンフランシスコ総領事を委員長として、JCCNC 等からの委員で構成)
- * 企業等からの寄付金徴収活動への支援
- * 銀行に専用講座を開設して、今後の会計処理を行うが、スタートに当たって理事会より、\$ 5,000 用立てていただきたい。用立てていただいたお金は、後日返済する。

以上

配布資料2

企業寄付について

目的:40周年記念行事を行なうにあたりその活動費用として企業に寄付を募る。

対象:ベイエリアに在籍する企業。日本商工会議所会員(JCCNC)を中心とした日系、米系企業など

趣旨:

1. 補習校40周年を記念し、祝うと共に当地で活動する日系企業、学ぶ補習校の児童、生徒達の互いの共存、共栄を発展させる。
2. 企業に対して広く補習校のサポートをお願いすると共に将来、企業の担い手になる生徒、児童たちに企業の存在を知ってもらう。
3. 企業が求める補習校の児童、生徒のありかた。(どのような子供達を将来、企業は求めるのか) 補習校の生徒、児童が企業に協力できることはないのか?

寄付目標額 ; \$ 30,000 企業あたりの寄付額を 1 p \$ 1,000 として口数単位で寄付をいただく。目標 30口

※ 物品での寄付の受け付けも可能とし、どのような内容にするか検討する。

具体的方法：

1. 対象企業の選定：JCCNC 会員企業、その他。理事会の意見も聞き選定を行なう。
2. 時期：作業予定表を作り計画に沿って実行
3. アプローチの方法

誰が行なうか（効果的な寄付の収集のために）

どのように行なうか：単に寄付を募るだけでなく企業にとってメリットの出る方法を考える。

例えば：補習校生徒に企業製品のモニターになってもらう。企業の広告に参カロ
地理的特質を生かしたアプローチ方法はないか？

（キーワード：| J・のメッカ、アメリカ文化、ジェネレーション）

企業にアンケートを出してニーズを探ってはどうか？

スポンサー登録制度（単年で済まらず継続的なサポート）は可能か？

4. Follow up

寄付企業に対するお礼

記念行事は企業の望む形で行なわれたか？（アンケートの送付）

今後も継続して行なう事ができるか？

改善点、今後の要望は？

これを機会に企業と補習校の関係の絆を深められる方法を模索する。

配布資料3

補習校 40 周年記念広報活動

ー Web サイト構築

サイトマップ作成 ——> 第1版、11月1週目まで、その後拡張

Top

What's New

実行委員会ページ

協賛企業

分科会活動

アクセス管理設定 ——> 11月3週目まで、その後拡張

実行委員会プロジェクト管理

分科会プロジェクト管理

サイト公開規則、手順書作成 ——> 11月1週目まで

サイト構築

XOOPS 実装、ページ構築 ——> 11月2週目公開

メールアドレス設定 ——> 12月中

ボランティア募集

ご意見

ー シンボルマーク募集 ——> 最終決定 3月中旬まで

ー Paypal サイト連携 ——> 3月中旬まで

ー 卒業生ネットワーク ——> 理事会が別途計画を進めているので様子見

8.1.4 第4回

日時： 2008年11月16日 1:00PMから5:00PM

場所： Reid Hillview Airport terminal building、Amelia Reid Conference Room

出席者： 浅尾、安、西郷、松波、山口、小島、脇田、池田

1. 寄付について

1) 寄付をつくる対象としては、a. 補習校保護者を中心とした卒業生を含む個人、b. JCCNC 会員を中心とした法人企業、のほか c. その他（JCCNC 会員以外の日系企業、現地企業、個人営業店など）を追加する。

2) 理事会の募金活動の支援については支援内容を実行委員会で検討し、理事会に具体的な内容で要請する。

3) 募金の集め方について、Web サイト（Paypal）の利用を積極的に考えるが、一口をいくりにするかが検討課題である。

4) JCCNC 会員への募金活動については、JCCNC とまずコンタクトを取る必要があると考える。これについては小島委員から補習校理事として JCCNC 代表として参加されている下田理事に話をさせていただく。

- 5) 募金活動の開始時期としては企業の年間予算が決まる 4 月をターゲットにして、その予算作成前にアプローチし、年間予算枠に組み込んでもらえるように準備する。12 月中には活動が開始できるように検討する。
 - 6) 募金の名目など具体化したものを募金依頼先に提示できるようにし、予算化がしやすいようにする。
 - 7) 寄付に対するインセンティブについても担当委員で検討する。Web への掲示はインセンティブのひとつだが、募金額に応じて「ゴールドメンバ」「シルバメンバ」など分けて表示するのも一つのやり方と考える。
 - 8) 寄付活動のボランティアとして、SJ, SF それぞれ 6～7 名の作業グループを編成するが、特に SJ 側は企業とつながりのある方を実行委員により山口担当委員に推薦する方向で検討する。
- のような活動が Web ページのページビューの向上や、記念行事への関心の増進につながるように検討する。

2. イベントについて

1) イベントの日時は 2009 年 10 月 18 日か 25 日、午前 10 時に開始して午後 2 時には解散、また場所については CAÑADA COLLEGE のサッカー場と野球場ということで、その確保を進める。

2) 内容として以下を考える。

- * 短い式典を行う 植木校長先生、長嶺総領事、松浦会頭に挨拶をお願いする
- * 児童、生徒、保護者も参加して人文字を作成する。 人文字の例 SFJLC40
- * 航空写真撮影 セスナ・パイロット 脇田さんご主人。カメラマンは当初浅尾委員と考えていたが、委員長が現場を離れているというのも問題なので、別のどなたかに依頼する。これは後日決定する。
- * 食事は外部に依頼し、入場料とは別料金とする。
- * 医療班は岡井先生、伴先生を候補に後日依頼する。
- * 当日は駐車場案内係りが必要
- * 記録班を用意する。カメラでの写真撮影とビデオ撮りを考える。
- * 費用は一人 \$10 とする

3) これからの準備：

1. 会場契約
2. ステージ、座る場所、オーディオ機材、昼食、トイレなどについて大学と交渉する
3. 12 月末までにプログラムを決定する 例：運動会、球技大会、ギネスに挑戦、オークションなど
4. 実行グループを作る

3. 広報について

- 1) Web サイトのアクセスを増やす工夫として、ベイスポや TTV の告知板などを利用する。
- 2) ボランティアについては、担当委員のリクルートと Web による一般公募の 2 本立てで進める。一般公募については、具体的な職務を提示するのではなく、どのようなことをして欲しいのかのリストを提示し、応募内容を見て担当委員が選出する。
- 3) ペイパルでの寄付については、寄付してくださった方への TAX ID の通知や、お礼状の送付など、可能なのか、どのように通知できるのかを事前チェックする。
- 4) バナー、シンボルマークについては、一般公募したものを実行委員会にて選出する
- 5) 「補習校 40 年のあゆみ」について、補習校の歴史を知る人に寄稿文を依頼する。古い写真など利用できるものがないか、補習校事務局に問い合わせる。また、このような趣旨を Web でも掲示し、一般募集も行う。
- 6) Web の「協賛企業、団体」のトップに日本の外務省、文科省を持ってこれないか、理事会に調整を依頼する。
- 7) イベントの参加申し込みでは、写真の撮影と使用を承認してもらうようにする。

4. 会計について

1) 実行委員会用口座ができたので、経費の申告をすること。

5. 全体の進め方について (委員長より)

1) 活動方針が決まったら、サブグループを作るなどして具体的な検討に入るが、時間的制約もあるので、個々にどんどん進めてもらいたい。

次回は 12 月 14 日 1:00 から US Berkeley の Etcheverry Hall にて

8.15 第 5 回

日時：2008 年 12 月 14 日 (日) 午後 1 時～5 時：

場所：UC バークレー Etcheverry Hall 14101 号室

議事録なし

8.1.6 第6回

日時： 2008年1月16日 1:00PMから6:00PM

場所： Reid Hillview Airport terminal building、melia Reid Conference Room

出席者： 浅尾、安、山口、小島、脇田、池田、松波

1. イベントについて

1) 会場の確保

・ San mateoの高校は駐車場が小さい。一般に高校は駐車場が小さく、両校が一同に介する場としては適当ではないと考えられる。高校を除外した場合、現在の候補としてはFoothill CollageかOhlone Collageとなる。

・ **Foothill Colledge**に関しては、広さ・駐車場・トイレなど問題ないが、借用に関しての規定が、ウェブサイトにないので至急に確認する必要がある。

Ohlone Colledgeに関しては、借用に関しては問題ないが、Fremontという場所と、高速道路を降りてから少し走らなくては行けない。

・ 早急に、可能性について検討し、1~2週間のうちに決定し、イベントの具体的な内容について、来年の保護者会役員との連携を図る。

・ 会場が見つからない場合には、運動会などを利用して各校で人文字を作ることも検討する。

2) 内容として以下を考える。

❖ 当日までの盛り上げイベント

落語会 2月15日(日)にSJで行われる落語会に40周年記念の文字を入れさせていただく。
(松波)

よさこいソーラン 夏に来るらしいので、要検討。(脇田さん)

室伏選手の講演会 (脇田さん?)

桜祭りの参加 バーナーの作成 (西郷さん)

ネットオークションの実施 (池田さん)

❖ 当日の食事確保

食事を提供してくださるレストランを募集。

ドネーションまたは安価での提供をお願いし、参加者には購入してもらう。

❖ 当日のイベント

10:00~11:00 人が集まるイベント or ゲーム

11:00~12:00 式典&人文字撮影

12:00~12:30 食事

12:30~14:00 SF/SJ 対抗イベント

全員で楽しめるゲーム

イベント内容に関しては、ウェブサイトでも募集する

❖ ボランティアの確保

内容が決まり次第、ウェブで募集をする。

イベントの担当

ゲーム 式典 人文字 フリーマーケット オークション

会場の設営

ステージ 食事提供場所

会場の管理

入退場 本部席(来賓・救護班) 放送 記録 駐車場 トイレ

・ 保護者会役員との連携を図るためにも、SF側の役員と連携をとっていただく役員が必要。その候補を早急に絞る。

・ イベントの立案や実行について、現在の高校2年生(来年度の卒業生)を巻き込む案も考えられる。ボランティア時間をクレジットすれば、かなりの協力を得られるのではないか。

・ イベントについてはボランティアの募集が重要と考える。Webサイトなどを通じ、イベントのアイデアを募り、それをひとつのきっかけにしてボランティアの輪を広げていく。

2. 会計について

・ Webサイト募っている寄付について、何の目的なのかという疑問を呈されることがあった。この寄付は今後の補習校の教育活動に利用するという事を明確にする上でも、記念イベントの必要経費を再度明確化する必要がある。

● 支出見積もりについては以下のとおり：

イベント(会場費、会場設営費など)合計 \$5000

イベント用Tシャツ 合計 \$10000

バンケット

会場費 \$2000

食費 \$30/人 として \$9000 (300人)、\$6000 (200人)

その他 \$500

合計 \$12000 (300人の場合)、\$9000 (200人の場合)

- ・ \$5000については、昨年のサイレントオークションなどの実績から、同じようにサイレントオークションやフリーマーケットなどを実施することでまかなえるのではないかと考えている。→ その方針で進めることで合意した。
- ・ バンケットについてはイベントの参加費でまかなうことを考えていたが、功労表彰の場と考えるとそれは適切ではない。→ 理事会に予算を確保していただき、確保された予算のもとで、その規模のバンケットを実行委員会がアレンジすることで合意した。
- ・ 会計管理はオンラインバンキングの利用を考えていたが、それには月に\$20の利用料がかかるため、オンラインバンキングの利用を停止すると会計担当より報告があった。

3. 企業寄付について

- 寄付の依頼レターは発行した。状況については確認すると寄付担当より報告があった。

4. 広報活動について

- TTV、ベイスポ、SportsJに広告依頼を出したと広報担当より報告があった。

5. 次回

次回は2月22日 1:00から Union Bank of California San Jose にて

8.1.7 第7回

日時： 2009年1月24日 11:00AMから2:00PM

場所： 中高部サンノゼ校 C教室 (KennedyMiddleSchool)

出席者： 植木校長、青柳事務総長、アルドリッチ理事長、浅尾、安、山口、小島、池田、西郷、松波

1. 企業からの寄付について

1) 今までの40周年委員会の寄付に対する考え方

- 40周年記念行事に関して、学校のお金は使わず、独立採算とする。経費は、参加費と企業からの寄付で賄う
- 今回の40周年記念の寄付は、理事会での法人会員の整理と、将来定期的に寄付をいただける状況にするための足がかりとする。
- 企業からの寄付を、イベントの飲食で使うのは趣旨から外れるので、将来の補習校の充実を念頭に置いた事業に使いたい。
- 企業から集めた寄付については、すべて40周年委員会で使用可能である。
- ❖ 40周年から50周年への更なる充実が必要。
- ❖ 理事会・先生方・40周年委員会が目標を共有することが大切である。
- ❖ 寄付を募るためにその目的を具体的に決める必要はないかもしれない。現地校でも、あまりそういう状況は見られない。それよりも、50周年に向けてこれからの10年補習校はどうあるべきか？ということを考えていく必要がある。
- ❖ 寄付を募るために、使用目的を詳細に訴えるとかえって、その言葉に束縛されてしまう可能性がある。現状認識をした上で、長期的ビジョンが必要になる。

2) JCCNCさんから

- 現在、定期的に寄付をもらっているが、運転資金にして欲しくないと言われている。
- 補習校としては、人件費が一番必要であるが、上記理由によりそこに使えない状況である。
- 毎年の寄付以外に、寄付を募るのであれば、自分たち自身が努力しているところを見せて欲しい。といわれた。
- ❖ 大学では、寄付をしてくれた相手の名前を冠にした役職が設けられる事がある。Jccnc主幹とか・・・。

3) 補習校の財源

- 今までの20周年・30周年などは、目的を掲げていなくても寄付があった。
- 補習校は、授業料・政府からの補助・寄付金で賄われている。
- 緊急時のために基本財源にキープしておきたい。20周年・30周年も同じようにしてきた経緯があ

- る。
 - 今から、理事会が基本財源に対する将来のビジョンをだすことは難しいので、この件と40周年は切り離して考えたい。
 - 現在の基本財源は、1.5ミリオンとなっており、利子も自動的に入っている。ただし、問題などが起これば、これでは足りないくらいである。
 - 不安定さという意味では、今後、幼稚部・高等部の学校借料や先生の派遣・教科書代金など、日本からは援助が出ない方向になってきている。日本政府からの援助は、将来減っていくと考えられる。
 - ❖ 以上のことから考えれば・・・
今後も寄付をお願いし、利子分で何かできるくらい大きくなれば安定して行くのではないかと。
 - ❖ これらのことに関しては、補習校運営に関わる重要事項なので、やはり、理事会で議論して頂くのが適切と思われる。
2. イベントについて
- 1) イベント内容
- 学校の存在意義を含め、生徒への意識向上の契機としたい。
 - 植木校長から、今までの記念行事内容と、40周年案が出された。
 - 現在、現地校にはクリスマスのおきのみ、寄付をしている。また、使用しているクラスの先生方には、ギフトカードをプレゼントしている。
 - 植木校長から 現在4校のつながりは無く、お互いを意識することも無い。
 - 役員会の方針 バンケットに代わり、昼にお弁当を出す程度が良い。
4校集まるとの行事にはこだわらない。
- ❖ イベントとしての40周年記念寄付。目に見える形で現地校に寄付をするのも一案。
 - ❖ 4校一緒に集まるのは、難しいのではないかと。
 - ❖ それぞれの学校で人文字を作ってあわせれば、一体感も出てくるか？
 - ❖ また、弁論大会などを行い、代表者が集まるのもいいか？
 - ❖ いつもと違うことをして、自分たちが補習校の一員であるという意識を子供たちに持ってもらうことが大切ではないか？
 - ❖ 子供たちの記憶の中には、運動会・球技大会の記憶が鮮明に残っている。初めて4校が集まって、スポーツなどをすることは、彼らの楽しかった記憶となって残るのではないかと。
 - ❖ イベントにこだわらず、愛称の制定なども意義があると思う。
- 2) イベント場所
- 学校がはじまってから、予約を受け付けるところが多い。
 - 学内での飲食禁止・学外へのレンタルをしないところが多い。
 - サンノゼジャイアンツの球場が、最有力候補か？
3. 企業からの寄付について（その2－午後）
- 1) 寄付をお願いする理由について
- ❖ 補習校の経営資金に関しては、差し迫った状況ではない
 - ❖ 日本からの援助に関しては減らされていく事が考えられる。
 - ❖ 「スポンサー」という考えと「純粋な寄付」とは区別して考えるべき。
 - ❖ 「将来像検討委員会」のようなものを立ち上げて検討すべき議題であるが、寄付をお願いする活動は、現在一刻も待てない状況である。
 - ❖ 結論としては、寄付の目的は純粋に「40周年を祝って頂く」と為のものとする。使用目的は、「教育資本拡充の為の基金」、「補習校の基盤強化の為の現地校への寄付基金」とする。
4. イベントについて（その2－午後）
- 1) イベント内容、計画について
- ❖ 会場は飲食可否、駐車場などの観点から、サンノゼジャイアンツの球場が現時点では最適と思われる。
 - ❖ 経費はサイレントオークション、保護者からの寄付などで賄えると考えられる。
 - ❖ 2,000人集まることを想定し計画しているが、500人程度しか集まらなくても十分成り立つように考える。
 - ❖ 航空写真による人文字撮影はイベントの一内容であり、それがすべての目的ではない。
 - ❖ 4校集める為に何をやるのかではなく、4校集めたら何が出来るのかを考えるべき。
 - ❖ 人文字撮影以外には、オークション、綱引き、簡単なスポーツのチャンピオンシップ大会などが考えられる。
 - ❖ 一度イベントを行うと決定したら、覚悟を決めて行う。人が集まらなくても出来る行事を行えば、充分遂行可能と考えられる。
 - ❖ イベント会場の最終決定は次回委員会で行いたい。

8.1.8 第8回

日時： 2009年2月22日 1:00PMから6:00PM

場所： Union Bank of California 3階会議室

出席者： 浅尾、安、山口、脇田、松波、伊藤（来年度保護者会役員予定）、

1. イベントについて
 - ・10月18日、San Jose Giants Stadium で決定
 - ・その他、詳細について浅尾委員長より報告があった
 - ・式典についてはWirelessマイクを会場より借りることができるが、マイクスタンドは必要なら持ち込みをする必要がある
 - ・航空写真係りについて、航空写真になれている方を浅尾委員長より推薦することとなった。
 - ・会場の借用契約書について、責任者名はとりあえず浅尾委員長とし、後日来年度の理事長名に差し替えることで進めることとなった。
 - ・イベントの進行について、サブグループを起こす。についてはSF側から4名ほどの推薦をいただくよう、松波委員から安副委員長、山口委員に依頼があった。
 - ・中高部のスポーツ大会のSF, SJ 決勝大会をイベントの場で行いたい。については共通のスポーツ競技としてラグフットボールができないかどうか、各校の先生方に問い合わせることになった。
 - ・会場にてバレーボールのポールが立てられるかどうかを調査することとなった（松波委員）。
 - ・会場にて、テーブル類の借用は可能か、調理をすることで水や火の利用はどのようになるのかを調査することとなった（松波委員）
2. 寄付活動について
 - ・サクラ祭り INC へのドネーション依頼を行うことにした
3. バナー募集について
 - ・締め切りを3月14日に延長することとし、最終決定を21日に前倒し、入学式に間に合うようにスケジュール調整することにした。
 - ・延長については保護者会連絡網でまわすとともに、校門に案内を張るなど、より広報に務めることとなった。
 - ・すでに応募いただいている作品をWebに掲載し、周知を図ることとなった。
4. バンケットについて
 - ・表彰については学校側もあまり積極的ではない
 - ・補習校の将来についてなどのテーマでシンポジウムをやってはどうかという意見が出され、その方向で進めることとなった。内容については安副委員長より提案することになった。
 - ・実施時期については、日本からの招待者をおよびし易い時期を勘案し、8月22日（土）を第一候補として検討することとなった。
5. 来年度保護者会との連携について
 - ・ボランティア募集の際に、40周年イベントスタッフとして各クラス1ないし2名を募っていただくこととした。
 - ・応募いただいたスタッフには、可能な限り40周年実行委員会会合に参加いただけるよう案内することとなった。
 - ・28日の理事会総会に40周年記念行事についてご連絡することとなった。
 - ・28日の保護者会総会後の新旧保護者会役員顔合わせの際に、40周年行事についてのご協力をお願いすることとなった。特にSF側役員から委員会への参加を依頼することとなった。（脇田委員）また、正式なルートとして、理事会のほうからも保護者会役員へ行事への協力をお願いしていただくこととなった（浅尾委員長）
 - ・イベントではTシャツを配布することを考えているが、これは保護者会役員が考えている運動会用のものとは別で考えることとなった。
 - ・イベント費用の調達のためのオークション品のドネーションについて、運動会用のものについては40周年実行委員会としてはタッチしない、バザー用のものについては、40周年実行委員会も協力し、イベント費用捻出用のオークション品を分配することとなった。具体的には別途検討する。
6. 次回
 - 3月28日 1:00から、UC バークレーにて

8.1.9 第9回

日時： 2009年3月21日 9:00PMから10:20PM

場所： SKYPE

出席者： 浅尾、安、松波、脇田、池田、柴田、保刈、三宅、坂井

1. 新年度保護者会役員会からの委員会メンバーの紹介

2009年度保護者会役員会から、SF校、SJ校それぞれの正副会長が委員会メンバーとして加わるようになった。

2. メインイベント実施案について

松波委員から、添付資料1を基に、実施案の概要について説明があり、審議の結果、次の点で合意した。

○メインイベント内で実施するそれぞれの出し物につき、詳細の検討と運営・実施の責任者を早急に選定する。基本的に、本委員会メンバーの中から選定する。

○オークション担当：脇田

○式典担当：山口

○人文字担当：保刈（実施前段階まで担当。当日は写真撮影に回るため、実施段階の担当を脇田とする。）

○放送：

○生徒、卒業生の可能性を検討する。音楽選定、案内放送のそれぞれに1名ずつ？

○中高部生徒会に声をかける。両校生徒会が話し合う機会を設ける。

○いずれにせよ校長の許可を得てからのこと。どのような形で打診するか、次回会合で案を策定。

○今後、児童・生徒に関する件については、委員会で検討の後、浅尾委員長を窓口として青柳事務総長を通じて校長に決裁を求める手順を踏むこととする。各委員からの個別の打診を控えること。

○その他は次回3月28日の第10回会合で決定する。会合に出席できない場合は、あらかじめ、メールで希望を伝えること。

○メインイベント・プログラムに関し、午前11時ころ式典開始、引き続き人文字撮影、正午に昼食を核として、出し物を配置する。

○今後のスケジュール

○保護者ボランティアを各クラス2名お願いすることになっている。

○SF校 SJ校それぞれの保護者会で新年度のボランティア募集の日程がある。

○それとの整合性を考えると、メインイベントの具体案の策定、それに伴いボランティアをお願いする作業の具体的な内容を遅くとも4月中旬までに策定する必要がある。

○なるべく早く現地の様子を把握するため、次回会合の前に、SJジャイアンツ球場を視察する。

3. プレイメントについて

松浪委員から、添付資料2に基づき、プレイメントに関する概要が説明され、その後、次の点を確認した。

○よさこいソーラン：実施内容につき、次回会合までに確認する。（脇田、池田？）

○荒川氏、室伏氏の件、お願いできる時期、内容につき、さらに検討する。

○凧揚げ大会

○毎年7月にパークレーマリーナで開催される。

○浜松から参加。

○40周年記念の一環として行うか？青柳事務総長から打診あり。

4. シンポジウムについて

安委員から、添付資料3に基づき、概要が説明された。コンセプトや開催主旨に関して合意した。丸1日の実施に関して、懸念が示された。8月22日実施のスケジュールを考えると、あまり時間がないことが指摘された。今後早急に詳細をつめる。

5. 記念グッズ

人文字の効果的な演出のためには、Tシャツよりも、色プレートを持たせるなどの方法がよい？その場合、人文字作成のためのTシャツというこれまで想定していた制約が外れる。人文字担当チームが詳細な検討をする。

6. そのほか

○これまでに開催したプレイメント（落語など）のニュースをタイムリーにWebsiteに掲載する。

○保護者会便りへのニュース記事、お知らせなどの掲載をお願いする。

次回は3月28日（土）、サンノゼ方面で開催。会合に先立ち、SJジャイアンツ球場を視察する。詳細は後日、脇田委員から連絡。

[次回までの宿題]

○欠席者はメインイベントの中の希望する担当を知らせる。

○よさこいソーランに関する情報収集

○凧揚げ大会に関する情報収集

以上

添付資料1

目的

- 子供たちの心に残るイベントにする
- 初めて4校が集まることを楽しむ
- 補習校40周年を感じる

案

- 参加型のイベントにする
- 4校が集まることを生かす

内容

- 記念式典
- SF/SJ 対抗ゲーム(小学部・中高部・保護者)
- 人文字作成&撮影
- 全員で行うゲーム?

作業グループ(予定)

- SF___ SJ長岡 対抗ゲーム(小学部生徒)
- SF___ SJ榎本 対抗ゲーム(中高部生徒)
- SF___ SJ___ 対抗ゲーム(保護者)
- SJ ルース 小さなゲーム
- SF 藤井 SJ 土井 人文字作成
- SF___ SJ___ 全員で行うゲーム
- SJ 西郷 式典
- SJ 吉田かがり 食べ物
- SJ 脇田いづみ オークション
- SF___ SJ___ フリーマーケット
- SF___ SJ___ 放送担当
- SJ 松波千春 会場担当(入場者の管理・来賓対応・救護班の準備)

今後の予定

- 3月 作業グループのキーマン選定
- 4月
- 5月 作業グループ案決定・提出
- 6月 準備開始
- 7月
- 8月
- 9月 最終確認
- 10月18日(日)当日

添付資料2

40周年記念行事 プレイメント予定

日程	内容	担当
2月15日	落語の会	松波
3月	SF 桜祭り参加	脇田
4月18日・25日	「ハッピーフライト」上映会	脇田
2009年 夏	よさこいソーラン	
?	室伏選手 講演会	脇田
?	荒川選手 講演会	松波
	ネットオークションの実施	池田
	40周年記念 エコバック作成	松波

添付資料3

サンフランシスコ日本語補習校創立40周年記念
シンポジウム

「補習校の将来をみんなで考えよう」

主旨

提案：40周年記念行事実行委員会

サンフランシスコ日本語補習校は、今年40周年を迎えます。この40年の道のりは決して平坦なものではなく、むしろ関係者のたゆまぬ努力、関係方面の支援、児童・生徒たちの真摯な学習、そして保護者の切なる願いが結集した、奇跡にも近い偉業であると自負していいと考えます。

この節目にあたり、これまでの道のりを振り返り、今、われわれの置かれている状況を関係者全員で共有して、さらに将来のことを語り合う機会を設けることは、まことに意義深いことと考えます。

普段は、多忙な日常業務に忙殺され、また、それぞれの立場上のおもんばかりもあり、近くにいってもお互いがどのような考え方、アイデアがあるのか、じっくり耳を傾ける機会は意外と少ないものです。

夏休みの最後、週末の一日、補習校のいっそうの発展を願って、皆様がともに考える時間を持つことはまことに意義深いとかがえ、下記のような要領でシンポジウムを開催することを提案いたします。

記

日時（予定）：2009年8月22日（土）

場所：未定

参加人数：100名程度を想定

（文科省、外務省、在サンフランシスコ日本国総領事館、地元財界関係者、現・元派遣教員、現役教員、保護者、生徒・卒業生、他の補習校関係者、借用校・学校区関係者）

プログラム（案）

午前9：00～9：30：開会（司会：青柳事務総長）

○理事長挨拶（5分）

○（総）領事祝辞・ご挨拶（10分）

○校長挨拶（5分）

○40周年実行委員長による今日の主旨・目的・セッション構成の説明（10分）

午前9：30～10：30：補習校制度の歴史と基礎知識（座長：理事長）

○補習校制度の概要と主旨（文科省コーディネータ）

○サンフランシスコ日本語補習校の歴史（青柳事務総長）

午前10：30～11：00：コーヒープレイク

11：00～12：00：補習校の現状と課題（座長：校長）

○サンフランシスコ日本語補習校での経験と提言（岩崎先生）

○補習校での経験（生徒・卒業生）

12：00～1：00：昼食

1：00～3：00：各方面からの視点と提言（座長：青柳事務総長）

○財界からの提言（JCCNC教育委員長）

○総領事館からの提言（領事）

○保護者からの提言（保護者会代表会長？）

○現役教員・現場からの提言（主幹？）

3：00～3：30：コーヒープレイク（この間に舞台上でパネルディスカッション用のセットをする）

3：30～5：00：パネルディスカッション「これからの補習校に望むこと」

モデレータ：浅尾40周年委員長

パネリスト：JCCNC教育委員長、保護者会代表会長、主幹、生徒・卒業生、理事経験者、総領事館、事務総長

5：00～5：30：まとめ

○総括（全体の会合を通してノートテイクし、サマリーを用意する。10分程度でそれを述べ、さらに補足・修正がないか、問いかける。）

○閉会の挨拶（浅尾40周年委員長）

5：30～6：00：レセプション

6：00～7：00：夕食

7：00～7：30：After-Dinner 特別講演

○村山斉 UCB/東大教授? 『補習校と国際社会』 (仮題)

経費 (100名参加として) :

コーヒープレイク : \$ 200×2=400

昼食 : ボックスランチ \$ 8×100=800

夕食 : Buffet スタイル、テーブルにて着席 \$ 2500

レセプション : バー \$ 500

合計 \$ 4200

(それぞれの部分で個別に寄付をお願いすることも検討。)

8.1.10 第10回

日時 : 2009年3月28日 3:00PMから6:00PM

場所 : UBOC@SJ 3階会議室 990 North First Street San Jose, CA. 95112

出席者 : 浅尾、安、脇田、柴田、保刈、山口、松波

1. 球場見学報告

脇田・柴田・保刈・松波で 担当者 (関根さん) とともに、見学

本日、SJSUの試合が実施されていた

駐車場 : 普通のゲームでは、1台\$8で駐車場を利用している。当日は、駐車場までまとめてレンタルするた
め無料。ただし、駐車場のボランティアは必要。

球場の外 : 幅5mくらいの通路がある。ここで子供たちのゲームをすることが可能である。

奥に、食事をするBBQコーナー (ピクニックテーブルが15個くらい?) がある。シーズン中は、
大きなテントで日陰になる。

VIPデッキがあり、キャノピーを置いて、VIP席を作ることが可能。

身障者コーナーもある。

ブルペンの使用は多分可能。確認する。

ピッチングマシンも使用可能か?

球場の中 : 球場内に幅4.5mくらいの通路がある。ここでフリーマーケットを実施できる。

会議机5~6個・椅子20個くらいは貸し出し可能。

男女トイレ完備 (女子個室13個・男子小10個+個室3個)

ATMが使用できるか? 確認予定。

観客席3000+ブリーチアーズ1000

球場奥行き90Yard

放送設備 : 音楽はipodで可能。

スコアボード上に設置されている画面にPCから画像を映し出すことは可能

操作に大人3人くらい必要か?

機材の操作を覚えるため、事前に練習が必要。

球場内で使用できるワイヤレスマイク2本あり

小さなエリアでのマイク使用は、学校の備品を使う方が良い

グラウンド : 穴を掘るなどしない限り、ほとんど制限なし

グラウンド内の飲食も可能。(しかし、飲食の場所は限った方が良いかも?)

マウンドはカバーがかかっているが、ベースランニングは可能。

食事関係 : 場所は、BBQエリアを利用。100食ミニマムで、何食でもオーダーできる。(ホットドック+ソ
フトドリンク+チップス)

持ち込み販売は、可能。ただし、球場内での調理が可能かどうかは確認する。

ビールの販売は可能であるが、学校行事なので販売はしない。

氷の提供は可能。また、冷蔵庫の使用も可能。

氷を入れて、飲み物を冷やす道具は貸し出し可能。

その他 : 掃除などは必要なし。

ただし、きれいに使いたいものです。

❖ 本日の質問事項は、後日、関根さんよりメールで返信をいただく予定。

2. 担当の決定

SF 三宅 対抗ゲーム (小学部生徒)

SJ 浅尾	対抗ゲーム（中高部生徒）
SJ 柴田	対抗ゲーム（保護者）
SJ 松波	小さな子供用ゲーム
SF 坂井 SJ 保刈（脇田）	人文字作成
SF 安	全員で行うゲーム
SF 山口	式典
SJ 脇田	食べ物
SJ 脇田	オークション
SF 安	フリーマーケット
SJ 柴田	放送担当
SJ 池田	会場担当

（駐車場・入場者の管理・来賓対応・救護班の準備 など）

- ❖ 各担当者は、4月10日までに
 - 必要なボランティアの数
 - そのボランティアの働く時間
 - できれば、ボランティア内容を松波までお知らせください。
- 3. 40周年のロゴなどについて

バーナーが決定されたので、ロゴおよびレターヘッドの作成を行う。
 バーナーは、2種類だが、ロゴ・レターヘッドは1種類とする。
 担当は、池田さんとし、できるだけ早急にバーナー作成者へ製作を依頼する。
 今後、40周年関連のお知らせには、すべてロゴを入れることとする。
 ロゴが完成し次第、ロゴ入りエコバックの作成に取り掛かる。
 1個\$3.50 かかるので、ドネーションを含め\$8.50 で販売。
 SF150 SJ350 合計500 販売目標
- 4. 40周年ウェブの活用
 - ❖ イベントのまとめ

今までのプレイベントなどを、まとめて掲載してはどうか？
 フライヤーなども含めて、実施内容などを掲載するとともに、写真などもアップして、我々の足跡を残そう！
 各イベント担当者が、フライヤー・記事・写真の提供を行う。
 - ❖ ボランティア

保護者会として、各クラス2名のボランティア募集をさせていただけるので、委員会としてウェブで募集することはやめる。保護者会から募集があるので協力していただけるようお願いする。
- 5. プレイベントについて
 - ❖ **4月19日 SF 桜祭り**（担当：SF坂井さん SJ脇田さん）

新年度に入ったら、担ぎ手の募集を開始する。
 申し込み要領および、募集専用メールアドレスを作成する。
 脇田さんが作成したものを坂井さんに送り、坂井さんがSF方面の募集を行う。
 当日の待ち時間に、SF/SJ両校の生徒会の顔合わせなど行いたい。安さんが意識付けを行う。
 40周年バーナーを持ち、パレードを行う。
 - ❖ **4月18日（SF）・25日（SJ）ハッピーフライト上映会** 放課後3：10～

子供優先で、先着300名募集する。
 担当：両校保護者会会長一司会もつとめる
 ANAより、森さんまたは宮川さんが挨拶に来られる。
 挨拶時、感謝の花束をお渡しする。（準備お願いします）
 SF安副委員長 SJ浅尾委員長より、40周年PR挨拶を行う
 40周年ウェブサイト、ハッピーフライト/ANAのリンクを貼る。
 お知らせ用に、今後の予定などを入れたものを追加する。
 - ❖ **7月25日・26日 パークレイカイトフェスティバル「浜松風揚げ」**

担当：三宅さん（サポーター 安さん）
 5帖の凧の作成を依頼する。
 費用は、学校が負担する。
 担当者は、学校・主催者と連絡をとり、40周年としてどのようなサポートができるか検討する。

3月~11月 会場で凧揚げの練習をしている
4月25・26日 Cupertino 桜祭りへ参加するそうです

- ❖ **8月15日 よさこいソーラン** (担当: 脇田さん・池田さん)
委員会としてどのようなサポートができるか検討する。
- ❖ **8月22日 シンポジウム** (担当: 安さん)
場所はSF方面とする、未定。
次回委員会のメイン検討となるので、9回議事録にある添付内容をよく読んでおく。
参加者枠の検討
料理の検討 など。
次回委員会で詳細を決定し、実施に移ることとする。

6. 学校との連携

早い時期に、浅尾さんが学校を訪問する。
桜祭り(特に中高生)の参加を学校から促していただく
桜祭りを起点として、SF/SJ 中高生徒会の交流を深めていく
ロゴ・レターヘッドなど作成後は、使用をお願いしたい
中高部のスポーツ大会と40周年について
当日の救護班として校医への依頼
委員会で来賓を検討した後、依頼をお願いしたい
卒業生のサポートをいただきたいので、主幹より連絡をしていただけるか?

7. ドネーション依頼について

保護者会との連携を保つ。
ドネーション依頼先の情報交換
お互いの依頼状を持ってお願いに行く

8.1.11 第11回

会議日時 2009年4月26日(日曜日) 10:00 am ~ 7:30 pm
会議場所 Etcheverry Hall 4階 4101号室 UC Berkeley 2511-2521 Hearst Ave., Berkeley, CA 94709
会議参加者: 安、池田、坂井、柴田、松波、三宅、保刈、山口、脇田、小西理事長

1. 行事報告: 桜祭り

報告者 脇田委員

行事日時 2009年4月19日(日曜日)

行事場所 San Francisco Japan Town

- 児童・生徒・保護者すべて含めて約200名が補習校から参加した。(San Francisco + San Jose)
- 補習校40周年記念バナーを持って行進した。
- 桜祭りに参加した40周年委員: 浅尾、安、池田、坂井、脇田、保刈
- BaySpo 新聞と北米毎日新聞にみこし写真が掲載された
- 公式放送で補習校と40周年のことをアナウンスをしてもらった。
- 当日沿道で観ている補習校の先生方もいた。

2. 行事報告: ハッピーフライト映画上映

報告者 脇田委員

行事日時 San Francisco 校: 2009年4月18日(土曜日)、San Jose 校: 2009年4月25日(土曜日)

行事場所 小学部 San Francisco 校、中高部 San Jose 校

San Francisco

三宅 SF校保護者会会長が司会を務めた。三宅 保護者会会長さんがバナーを作成してくださった(夜通しの作業で作成した!!!)。90名ほどが参加。ANA(森 サンフランシスコ支店長)様から航空券の割引券をいただいた。

San Jose

三宅保護者会会長/委員作成のバナーを使用。バナーは森様に差し上げた。上映場所が急遽、中高部に変更になった。申し込みは166名、実際には約200名以上の出席。段取りは三宅委員のSan Franciscoでの経験によるアドバイスを取り入れ、スムーズだった。記念品(ワイン)をANA森様に持ち帰っていただいた。

森様から、補習校に無料航空券の申し出があった。

[Action Item] 山口委員がその後の処理を担当する。

3. 委嘱状

小西理事長から40周年委員全員に委嘱状を渡された。

4. 寄付受付の進展報告

報告者：山口委員

JCCNC：今のところ特に進展なし。トップダウンで進展を図るのは難しいか。

[Action Item] 知人経由でのJCCNC会員企業へダイレクトにコンタクトを取ってみるなど方法を検討する（山口委員）

5. 学校への説明報告 および ディスカッション

報告者 浅尾委員

行事場所 (SF 学校事務局)

校長、教頭、主幹に経過報告をした。桜祭り、ハッピーフライト、シンポジウムなど

学校（校長）：シンポジウム1日は長いかもしれない。

学校：村山先生特別講演は、全員一番集まっている時間にできないか？

学校（主幹）：教頭先生をどこかのコマにあてはめられないか？

安委員：夕食後何か開めとなるイベントがあったほうがよいかと考え村山先生の講演をここにおいてみた

浅尾委員：学校に先生たちの協力をお願いした。

[許可事項]：学校（主幹）：ok. 気楽に主幹とアポをとってゲームの企画や進行についてのアドバイス、協力を仰ぐ

学校（主幹）：SF/SJ 対抗は難しい。

学校（主幹）：10時-11時競技、1時間は短い。もっと長くできないか？

浅尾：総合的に時間配分の計画を考える。

ロゴ、レターヘッド作成の確認

池田委員：未検討

浅尾委員：学校にロゴを使ってもらう。

浅尾委員：救護班を学校をお願いした。（校長・青柳事務総長）

浅尾委員：来賓も決めないといけない。

浅尾委員：中高生の元生徒会長と接触した。まだ生徒会役員は決まっていない。

[Action Item] 生徒会役員が正式に決定次第、接触する。（浅尾委員）

[許可事項]：学校から補習校の時間内で話をするのはOKだし、生徒会の活動として行うこともOKとの許可を得た。先生方の参加の要請

[許可事項]：保護者にボランティア募集をするが、先生方にもボランティアとして参加をお願いした。学校としてもOKとの許可を得た。

- 先生方にボランティアのお願いをしたい。
- クラス委員を通して先生方をお願いするには、根回しが完全に伝わっている必要がある。ただし懇談会のときに持ち出すのは無理だろう。懇談会では保護者のボランティアのみ募集しよう。
- 「先生と保護者ボランティアは内容が異なる。先生方はおそらく担当のクラス以外の面倒もみななければいけないだろう。」という意見もあったが、それでは職務の延長のようにとらえられて先生方も協力しづらいのではという反対意見があった。結果先生方にはただボランティアとしての役割を期待することになった。
- **[決定事項]**：先生方を特別扱いはしない。40周年委員会の方から、担当のクラスをアサインするなどはしない。保護者と同じ立場で参加していただく。本人がやりたかったら、それはそれでよい。40周年委員会から十分先生方にこちらの期待を伝える。
- 先生方参加については浅尾から学校当局にはすでに通達済み。

浅尾委員：先生方に学校から説明する約束をした。学校で職員会議などで40周年の時間を持つ。浅尾など我々が説明を直接先生方にできるかもしれない。

小西理事長：なるべく、コンタクトはわれわれからダイレクトなほうがよい。

浅尾委員：40周年委員会の会議予定をオープンにし、先生、卒業生、生徒会役員など、参加希望の人は誰でも参加できるオープンな会議であることを強調する。

安委員：参加はボランティアであることを職員に明確にしないといけない。これは理事会が職員に明示すべきこと。先生方の10/18のシンポジウム参加も要請しないといけない

[Action Item] 理事会・学校で後日40周年記念やシンポジウム参加が人事上や給与の面でどのような評価をするのか、理事会としての意思を決定し先生方に伝えていただく。（小西理事長）

- 課題：イベントの参加資格を決めないといけない。在校生 ok, 教職員 ok, 卒業生? 基準さえ決めれば、入場制限はできる。
- ID TAGはどうか。理由：食品販売にも使える。不特定多数に食品を販売できないから。

Q: 補習校関係者とはいったい誰なのか？

A: 補習校の生徒・児童と一緒に入場するひと。在校生の父母が身元を保障できればだれでもよい。家族、祖父母、おじ、おばなど、友人。

- 入場の証しにスタンプ? → スタンプでは無理がある。Tシャツ?
- 制限は必要だ。学校内の関係者のみする必要がある。
- 血縁関係のみ? 招待券? 今後補習校に入るかもしれない子はいい?
- Donation をいただいた企業の関係者にはぜひ参加いただきたい。
- イベント前に参加可能な者・参加者になんらかの目印をつける → ゲームなどに人数があらかじめ決まっていると遂行しやすい。
- 寄付と関連付けては?
- 保安要員: 入場制限で保安をするほうが、会場で保安をするより効率的

【決定事項】 イベントの参加者の分類および参加方法

潜在的参加者の分類

- 主催者: 理事会、(40周年委員会 = 実務を理事会から委嘱されている)
- 参加有資格者/他者を招待可能: 補習校在校生の保護者、法人会員、理事、40周年委員、補習校職員
- 有資格者の招待により参加可能/他者を招待不可: (2) が招待した者 (被招待者は家族、在校生、卒業生、中退者、過去の職員に限る) (フィルターワークは事務局に行ってもらおう。)
- 寄付して下さった企業の関係者は40周年委員会より招待する。
- 参加不可: まったく関係ない者 (現地校の友達、その辺りを歩いているひと、など) → 招待しない。
- 参加証・招待状については、(2) の署名もしくは裏書が必要とし、当日入場時に提示してもらう。
- (3) に該当する参加者について、参加証・招待状には(2) の署名または裏書が書かれているが、あわせてその人の責任で入場を許可する旨を明確に示す。
- 卒業生や過去の在校生については、事前申し込みを基本とする。40周年委員ないしは事務局の裏書の招待状を送付する。
- 当日は招待状を持参を基本とする。ない場合は自己申告の方向で検討する。

【Action Item】: 招待状・参加証の内容とその配布方法について、詳細を検討する。(池田委員)

6. シンポジウム

シンポジウムの計画文書を参照。安委員よりいままでの経緯の説明があった。予定日 8/22 土曜日、場所: 未定、参加人数: 100名程度を想定、

メモ:

浅尾委員: 文科省の人は日本からは無理でしょう。Coordinator については交通費をだす。

安委員: 村山先生はたぶん交通費はなしでいいと思う。

ベイエリアには日本語学校連合会があるようだ。小SFはJPBBPの場所を借りて夏期集中学習をしている

対象は?

興味のある人ならだれでも。補習校関係者だけではなくてもよい。あさひ学園 in LA など

岩崎先生: 歴代の先生方はこちらから正式に招待状をだせば、出張扱いできるかもしれない。(こちらが経費をもたなくてもよい)

現状と課題は理事会から話さなくてはいけないのでは?

村山先生にコンタクトをする。(安委員)

変更: 夕食を最後のイベントにする。講演を前の方にもってくる。

全体をビデオに収める

全体を通して日本語のみとする (借用校関係者はなしにする)。

補習校の現状と課題

あり方・運営と教育の二本立て

校長: 現状と課題、理事長: 運営

補習校での経験 (在校生と卒業生したての者)

各方面からの提言: 山口委員がJCCNCの中川事務局長に座長をできないか聞いてみる

パネルディスカッション: 「ベイエリアでの日本語補習校のありかた」という方針

三育学園の校長もしくは理事に参加を打診する。(柴田委員)

理事会でどのような人を招くか承認をとる。

小西理事長: シンポジウム開催について、理事に付議を出す。必要なら緊急理事会の開催も検討する

小西理事長: もし寄付が十分集まらなかった場合は理事会から出すことも可能。

浅尾委員: 当初の予定通りとりあえず独立採算を目指し、学校関係者をなるべく煩わせない。

松波委員: オークションの前倒しが必要かもしれない。

場所: UC Berkeley campus が第一候補。

パネラーには招待状を学校からだしてもうらようをお願いしたい。

7. 凧揚げ行事への参加中止について

理事会からの報告:学校予算を凧揚げにつかうよりも(約3000ドル)、将来のほかのものに使うほうがよい、ということによって中止になった。

8. ボランティア募集について

保護者会からは各クラス2名で募集をかけている。

競技内容:40周年委員内の担当それぞれで検討中。小学部競技内容:SFデイナー主幹に協力を依頼する。

球場で場所を3セクションに分けたらどうだろうか?

放送はあらかじめ装置操作の練習に行く必要がある。これは委員または保護者をお願いし、当日は放送委員の生徒を手伝う。

高校生はボランティア認定をするとクレジットになる。

[Action Item] ボランティア認定を出すように考える。(松波委員)

補習校の卒業生や過去在籍していた生徒のボランティアについては、学校側の方針で、放課後クラブは補習校中学卒業以上、運動会・スポーツ大会は補習校高校卒業という基準がある。40周年イベントではどうするか?

資格については特に問わないが、ボランティアで働いていただくのは高校生以上とするのがよいのでは?

脇田委員:もし補習校高校卒業以上と限定しないのであれば、未成年のボランティア募集の担当になってもよい。

9. 当日のスケジュール

ばらばらきてもよい競技にするか、事前に申し込んだひとだけが参加できる競技にするか。

参加人数の予測は難しい。

競技・行事がきまっていないと参加者を募りにくい。

松波委員:オークションは朝10:00時くらいから2:00まで実施する予定。午前の部、午後の部、終日の部と分けることも考えている

中高部主幹:スポーツ大会などの競技は対抗意識があるから盛り上がる。

数人ずつチームを登録するようにしたらどうか。練習もするようになるだろう。

アイデア:インセンティブ:なにか景品があれば参加が増える。小学生のゲームは登録必要なし、中学生のゲームは登録必要というのがゲームとしては考えやすい。

保護者のゲーム:3人で一組くらい、登録、登録なし両方。スプーン生卵/ゴルフボール競争または3人4脚。

どうやって保護者に連絡をするか?理事会からか?保護者会からか?

一斉メールを40周年委員会から出せないか?(保護者会役員、クラス委員、学校ではなく)

三宅委員:保護者会会長からの一斉送信は緊急用にとっておきたい。役員から学年毎に出すことは可能

安委員:各人の申し込みステータスによってtailor madeのメッセージをだせないか?きめ細かくトラックしても参加者を確保することは、経験上難しい。トラックしない場合にはなおさらと考える。

あまりたくさん受信者の同報通信はプロバイダがブロックしてしまうし、永久にブロックされる可能性もある。

eviteのようなところは工夫がされている。

[Action Item] 理事会にメールアドレスをつかわせてもらえないか願います。お願いの内容は池田委員が検討する。

どのような形で利用できるか、あるいは利用できないかも検討する(池田委員)。

[決定事項]:送信するとしてもsfjlc40.orgなど正式なアドレスから送信する。hotmailなどにはしない。

[決定事項]:一斉メールを使う場合は、保護者会からあらかじめ40周年委員会からメッセージが行くことを伝える。スケジュール

[Action Item] 今月中にタイムテーブルドラフトを作成する。(松波委員)

[Action Item] 球場側との契約を交わす。(浅尾委員)

[Action Item] 球場窓口の関根様と質問事項について確認する。(松波委員)

10. 寄付

[決定事項]:個別のチャネルを使うことを検討する。(山口委員)

寄付を募る団体の分類・アプローチ

JCCNC傘下の企業

保護者会の情報を使えないか?JCCNCから個別企業のリストはもらえない。会社名は貰えるが担当者情報はもらえない。

JCCNCの会員企業(200~300社、個人会員も含む)にはすでにお願いをだしたが、反応はあまりない。

[Action Item] 決定:理事会が持っている企業会員にまずコンタクトする。(山口委員)

【決定事項】：40周年、保護者会（秋祭り）で統一して寄付をお願いする。何度も個別にお願いしても混乱するので寄付先に応じてコンタクト元は固定するようにする。

【決定事項】：お願いのレターを（A）保護者会用、（B）40周年用（C）両用をつくり、会社により臨機応変に使用する。

【決定事項】：バナー作成者にロゴ作成を頼まない。ブルーのレターヘッドを使う。

【Action Item】 寄付お願いの手紙を作成する。（山口委員）

家庭

現在ではまだ40周年は知られていないので、各家庭からの寄付はいまは無理がある。

【決定事項】：各家庭からの現金の寄付はなるべく特定の行事に対するお金ではないほうがよい。長期に渡る将来のためであるべきだ。

学校の経営主体、つまり保護者に寄付を募るのが筋ではないか。理事会を通してなかば強制的に集めるべきではないか。

【Action Item】 やまなみに理事長名義で寄付を（将来をつくるベースのため）募集をお願いする。（脇田委員から付議として理事会に提出する）。40周年委員会がドネーションレターのドラフトを作成。理事長が配布。事務局が寄付を回収。

Fund raiseが必要か？ Tote bag（Eco-bagではなく）40周年のロゴをいれたり、なにか便利な機能をつける。ご祝儀としてfund raisingしやすい。

【Action Item】 次回までに各自アイデアを考えてくる）

理事会ルートでの半強制的な寄付と物の販売の両ルートを使う。

三宅委員：SFではT-Shirt販売価格うち1ドルは40周年に寄付されるとの宣伝をすることにしている。

シンポジウムのお金がまだ足りない。

会員企業や保護者からのマイルージの寄付は可能か？ それで遠方からの招待者を招けないか。

第12回会議予定

会議日時 5月24日（日曜日）午前10時から

会議場所 Union Bank of California 会議室（予定）

議事記録予定者 TBD

8.1.12 第12回

日時：2009年5月24日 10:00～15:00

場所：浅尾委員長宅

出席者：浅尾、安、山口、柴田、松波、三宅、池田、小山、榎本夫妻（中高生ゲーム担当）

1. シンポジウムについて

安委員からの報告：

- － 会場は現在建設中だが、ほぼ柿落としのように開催できる
- － Zero Emission（太陽電池など）
- － パート駅から近い

議論：

- － ほかの補習校のパネルや協賛企業のパネルを掲示してもらうのもよいかも知れない
- － パネル掲示のスペースについては確保する（安委員）
- － SJ校設立に尽くされた方がSJにいらっしゃる。シンポジウムに参加できないかコンタクトを取ってみる（浅尾委員長）
- － 外部公演者へのおみやげとしてSF校保護者会が作成したTシャツとする。
- － 当日は寄付の箱を用意しておく（安委員）
- － 理事会からの出費を要請、金額は検討 コアとしての出費を考えてもらう。またこうしたシンポジウムを持ち回りで開催してもらうことも提案したい。発起人としての補習校の立場を明確にするためにも、出費をしてもらう。提案内容について安委員が作成する。
- － お昼については三船レストランがドネーションしてもらえそうだ（100食）
- － 招待者について、いろいろな方にとりあえず声をかけてみる
- － 保護者会、理事会の出欠を取る→脇田委員、小西理事長、柴田委員
- － 先生方については、浅尾理事の事務局報告で出欠の確認について要請する

2. イベントについて

小学部ゲーム：

- － 三宅委員よりゲーム内容についての説明があった
- － 表彰は式典内でやってもよいのではないか
- － 規模的には、1チーム2、3分、40チーム、合計120人規模
- － 10時に集まって欲しいので、早くくれば何らかのインセンティブがある等の検討をする。

中高部ゲーム：

浅尾委員長より増本ちえみさん（リーダー）、増本さん、小山さんの中高部ゲーム担当として依頼した旨の紹介があった

- － 中高部ゲームについて増本担当より説明があった。
- － 生徒会を巻き込むイベントが何かできないかと考えており、SJ校については桜井先生を通じて奥山先生に生徒会へ打診中（増本）
- － ゲームのアイデアとして、TV朝日で30人31脚をやっている。練習から本番までのまとまりを期待している。もう少し小規模にして、チームを募集し、チーム予選→準決勝→決勝といった流れのものを検討している（小山担当）
- － ゴールにクッションを用意する必要がある（小山担当）
- － 足を結ぶところは工夫が必要で幅のあるもので太ももあたりを縛る必要がある。→予算についての見積もりする（中高部ゲーム担当）
- － 練習は学校の時間内にするのは難しいと考えられる。また、練習で怪我をした場合の学校の責任についても事前に検討しておく必要がある。
- － 保険について、イベント中の保険は学校でカバーすることを考えると、練習中の扱いも同じなのでは？
- － イベントについて、SF校の保護者の核を作る（三宅委員）
- － 会場は朝早くから開くこともOK（小山担当が確認）早めに来て練習時間を設けることも可能
- － プロモーションDVDを作成して、興味関心を高めたい（小山担当）

式典：

- － 式典の内容について松波委員より説明があった。
- － バナーの表彰を5と6の間に入れる
- － バナー表彰と来賓記念品はSF校のTシャツとし、合計20枚を追加注文する
- － 沖縄三味線 ボランティアでやらしてくれないかという話がある（柴田委員）音響設備や時間のことを考慮して、今回は遠慮させていただくこととする。
- － プログラムに君が代斉唱、校歌斉唱を入れる。君が代は増本氏に歌っていただく。校歌は賀川さんを通じて保護者合唱団にお願いできないかどうかを問い合わせる。
- － 歌の伴奏はCDとする

全体でのゲーム：

- － 13:00から14:00のものはウルトラクイズにする
- － 当日の賞品としてフリーマーケットの金券などを考える

細かいゲーム：

- － ジャンパーはひとつ→場所があればもう少し増やす
- － ボランティアはSJ校のお話会で調整してもらっている

オークション：

- － ランチとオークションの場所について検討する
- － オークションはBBQの場所にし、入場から通る途中でオークションの品物やルールが見やすいように工夫する
- － フリーマーケットの場所をどこにするのがよいのかを検討する

その他：

- － ボランティアの募集は苦戦中
- － 放送に生徒を2人ぐらい募る→学校に打診する
- － 集中学習中に案内を出せるように準備を進める。イベントの内容とタイムスケジュールをフライヤーとして集中学習中に出す。

ー フライヤの作成について、全体構成が空間的に一目でわかるようなイメージ図を描いてもらう。これについて脇田委員より、心当たりがあるので運動会に声をかけてみる、とのことであった。

寄付について：

- ー 3000ドルの40周年への保護者会寄付の説明について、保護者会が集めたお金の当初の目的と異なる運用についての懸念が示された。
- ー 保護者会活動での余剰金について、毎年扱いに苦慮している。
- ー 学校がファンドレイジングをせず、保護者会から学校への寄付をするパスがない
- ー 50周年基金を設け、保護者会活動費の一部をそれに回す。
- ー 会計状況は常に報告する（松波委員）

8.1.13 第13回

日時： 2009年6月7日 10:00 ~ 16:00

場所： UC Berkeley Etcheverry Hall 4階 4101号室

出席者： 浅尾、安、山口、松波、脇田、池田、保刈、柴田、小西理事長（お昼まで）

1. 会計報告

- * 学校から借入金として\$5000が明記されているが、本来ならば3月31日に返金する予定だった。この借入金に関していろいろ議論されたが、最終的に、6月11日の理事会で返金することに決定。
- * 万が一この\$5000が浮くことになるのであれば、余剰金として将来の補習校のために、管理してはどうか。それには、余剰金管理委員会のような機関を理事会で立ち上げ管理をしたほうが良い。
- * 借入金を返金した段階で、補習校・理事会と40周年記念実行委員会が同じスタート地点（ニュートラル）に立つことになる。それを理解したうえで、もっと補習校に積極的にこのイベントへの参加の意志を示してもらい、このイベントは補習校の為のイベントとすることを再認識して頂く。

2. シンポジウム

- このシンポジウムの主催を、実行委員会でもなく理事会でもなく、補習校主催にしては、どうか？そもそもシンポジウムは、補習校の将来を皆で考えると言う主旨なので、その方が自然ではないか。
- パネルディスカッションでは、植木校長に、聞き役に回ってほしい。
- 卒業生参加に付いては、今主幹が検討中との事。補習校側で色々な考慮を踏まえ、慎重に参加者を選出する予定。
- 夕食は、やはりつけた方がよい。あらかじめ買うか、ファンドレイジングという形で出すか。形式はバッフェスタイル。飲み物は、最初一杯目はただで、あとは有料にしてはどうか。名札を用意して色分けし、誰がただで誰がそうでないかの、確認をとってはどうか？アルコールもあり。バーテンダーのチップも忘れてはいけない。
- シンポジウムの前に事前根回しミーティングを開催予定。8月？
- 会場に40周年記念のバナーと一緒にシンポジウム用のバナーを用意したほうがよい。
- 招待したい人がいるのであれば、早めに安さんに連絡。名前、肩書き、メールアドレスを連絡。
- 会場のオーディオ・ビジュアルサービスに関してはTBD。

決定事項

- シンポジウム主催は、40周年記念実行委員会に決定
- 補習校の現状と課題のスピーチを小西さんから松波さんに変更
- JCCNCの富樫さんの出席確認できたとの事。
-

3. サンノゼジャイアンツイベント

- 10人11脚のベルトの予算は、1個300円する。それで計算すると、約\$800ぐらいになる。スポーツ大会が終わるまで担当の方（小山さん、増本夫妻：中高生ゲーム担当）が忙しいので、その後、本格的に行動を開始する。
- 式典で、君が代を増本さんが斉唱、校歌を保護者有志合唱団（Team Lead: 賀川さん）で合唱。
- 中高部のチームは生徒会経由で集める予定。保護者チームをどう集めるか。保護者会からお知らせを送り、参加者を集めてはどうか。
- 各ゲーム・イベントにかかる総予算は、大体\$2500。
- 参加者人数を把握するために、バーコードを使って会場受付をしてはどうか。大体の参加者人数がわからないと、一文字の予定を立てるのが困難である。それは食事ドネーションも同様。（要検討）

- Japan Town 三船から弁当100食ドネーションを頂ける予定。(脇田さん経由で) 他にも冷やし中華、牛丼、サンドイッチなど寄付して頂ける予定。しかし、これらも大体の参加者人数が分からないと、100食なのか、500食なのか寄付してくれる団体に連絡出来ない。
- 放送担当は生徒会からSF校2人SJ校2人を選出。これは浅尾さん経由で保護者に話をしてもらい、選出してもらおう。BGMに関してCDを使うとなると著作権の問題が出てくる。よって、保護者や生徒のバンドを集め、生でオリジナルの曲の演奏をして貰えば、著作権の問題はクリアーである。(要検討)

【タイムカプセル】

- 青柳事務総長からの申し出で、補習校で準備をする予定だが、青柳さんからどのように進めるかは、まだ連絡なし。
- 使用する紙は酸性ではないものを使う。
- コピーは年月が経つと紙同士が引っ付いてしまうので不可。

【40周年記念イベントのご案内】

- 学校一斉同報メールで出すよう理事会で検討してもらおう。送信者は補習校だが、それについての問い合わせは40周年記念実行委員会にする。

【ビデオボード】

- ビデオボードの技術者は、ひょっとすると機材を外部の者に触られたくない傾向にあるかもしれない。(松波さんが関根さんから仕入れた情報) その場合、此方で支持を出して操作してもらうしかなさそう。
- 航空写真の映像をリアルタイムで、飛行機からビデオボードに送信し、映像を映し出す。技術的には可能である。

4. 最後に

- 浅尾さんから理事会、補習校に40周年記念イベントに対して、もっと積極的に対応、参加を意識してもらう様に事前をお願い。
- スタッフT-Shirtsを作ったほうが良いと思う。ボランティアにT-shirtsをあてがう事により、40周年記念委員会ボランティアスタッフとしての意識・責任の向上を図る。脇田家からT-shirtsの費用を寄付出来るかも、と言うお話がでる。脇田さんありがとうございます。

8.2 40周年ニュース

40周年記念行事の周知・広報のため、随時ニュースを発行し、全家庭に配布した。作成は池田委員を中心に行われた。

- 第1号：2009年7月7日
- 第2号：2009年8月8日
- 第3号：2009年9月1日
- 第4号：2009年9月12日
- 第5号：2009年10月10日
- 第6号：2009年10月31日



40周年記念行事ニュース

2009年6月20日号

発行者: 40周年記念行事実行委員会
webmaster@sfjlc40.org

「40周年記念行事ニュース」発行のご案内

補習校は夏季集中学習期間に入りましたね。40周年記念行事も、4校合同イベントまでいよいよ4ヶ月となりました。これから日本語補習校の40周年記念行事の各種ご案内を、メールで差し上げることになりました。みなさま、よろしくお願いします。



シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」を開催します。

来る8月22日(土)、補習校40周年記念行事の一環として、「補習校の将来をみんなで考えよう」と題するシンポジウムを開催いたします。場所は Berkley の David Brower Center です。



各方面よりさまざまな方をお招きし、サンフランシスコ日本語補習校のこれまでの道のり、これからの進むべき道筋を語り合う、有意義な一日になることと思います。

会場の都合により、ご参加には事前に登録をしていただく必要があります。参加申し込みは symposium@sfjlc40.org まで、お名前を明記されたメールを送付ください。

シンポジウムに関する詳しい情報は <http://www.sfjlc40.org/docs/sfjlc40-symposium.pdf> をアクセスしてください。

10月18日は、4校合同40周年記念イベントの日です

10月18日(日)の合同イベントは、ちくちくと準備が進められています。10人11脚や大型カルタとりといったゲームや、ウルトラクイズ、オークション、フリーマーケットなど思い出に残る楽しい一日になること間違いなし。人文字航空写真など、アメリカではちょっと経験できないイベントも。入場受付は8月下旬に開始予定です。乞うご期待!

SF日本語補習校 創立40周年記念イベント

10月18日(日)朝10:00から サンノビジャイアンツ球場にて 入場料無料

オークション
取り出し物いっぱい! 日本住居用品等など 200点超

フリーマーケット
秋の最大集客

23年ぶりにSF・SJ大集合!

10:00~ 小学生対象「大型カルタ取り」
中高・保護者対象「10人11脚」

11:00~ 40周年式典

11:30~ 人文字作成

13:00~ 補習校ウルトラクイズ

お食事販売
ランチ
軽食 など

小学生のゲーム
パウンスハウス
ヨーヨー釣り
等
いろいろ

40周年記念行事実行委員会
www.sfjlc40.org

40周年記念行事委員会ではご寄付を常時受け付けています。

40周年記念行事はみなさまからのご寄付で催されています。ご寄付はウェブサイト <http://www.sfjlc40.org/> の donate ボタンから Paypal を通じて受け付けております。Oakland Athletics 様より9月5日の vs. Mariners 戦のチケットを300枚ほどいただきました。Paypal でドネーションいただいた方に先着順で2枚づつお配りします。詳しいことは account@sfjlc40.org まで



40周年記念行事ニュースへのお問い合わせは webmaster@sfjlc40.org へどうぞ

シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」 一般参加募集と写真展のご案内

8月22日(土)にBerkeleyのDavid Brower Centerで行うシンポジウムでは、みなさまの参加を募集しています。補習校外から、実にさまざまな発表者のご参加をいただけることが決まっており、サンフランシスコ日本語補習校だけでなく、海外における日本の教育のあり方や位置づけについて、充実した討論が期待できます。場所はBARTのBerkeley駅のすぐです。みなさまのご参加をよろしくお願ひします。参加ご希望の方は symposium@sfjlc40.org まで。



シンポジウムでは補習校写真展も

また、会場では補習校写真展を開催します。シンポジウム参加者による人気投票での表彰もあります。写真展の詳細は <http://www.sfjlc40.org/docs/SFJLCSymposiumPhotoExhibition.v2.pdf> をご覧ください。



補習校合同イベントニュース



「10人11脚」参加者募集中

10人11脚は既に多くの中高生から参加の応募をいただいています。まだまだ募集中です。特に保護者チーム、この機会に'大人の団結力'を見せ付けませんか? 10人11脚の詳細は下記まで。



<http://sjwww.sfjlc-hogoshakai.org/info/2009/06/10-11-rule2.ppt>

「タイムカプセル」を知っていますか?

10年後の僕たちにメッセージを送りませんか?
10年後の私たちに今の気持ちを伝えませんか?
合同イベントでは10年後の補習校50周年で開封するタイムカプセルの封印を閉じます。皆さんの思いを10年後に伝えます。

「大かるた取り」は準備進行中

幼稚部、小学部向けの「大かるた取り」は本イベントオリジナルの、エキサイティングなゲームとして着々と準備を進めています。チーム募集の案内も準備を進めていますので、注目しててください。

イベントではほかにもいろいろ

団体ゲームの他にも、楽しいゲームをいろいろと用意しています。フリーマーケットやオークションも開催予定です。10月18日はカレンダーにチェック!



合同イベントの参加募集は8月下旬より開始します

ゲームへの参加募集は既に始めさせていただいているものもありますが、会場への入場申し込みの受付は8月下旬より開始させていただきます。詳細は40周年記念 Web サイト、および「40周年記念行事ニュース」でご案内させていただきます。

40周年記念行事委員会ではご寄付を常時受け付けています。

日本語補習校、および40周年記念行事に様々な方よりご寄付をいただきました。ありがとうございました。40周年記念行事はみなさまからのご寄付で催されています。40周年記念行事へのご寄付は、引き続きウェブサイト <http://www.sfjlc40.org/> の donate ボタンから Paypal を通じて受け付けております。Oakland Athletics 様より9月5日の vs. Mariners 戦のチケットを300枚ほどいただきました。Paypal でドネーションいただいた方に先着順で2枚づつお配りします。詳しいことは account@sfjlc40.org まで

Donate



40周年記念行事ニュースへのお問い合わせは webmaster@sfjlc40.org へどうぞ



40周年記念行事ニュース

2009年8月8日号

発行者: 40周年記念行事実行委員会
webmaster@sfjlc40.org

シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」写真展

8月22日(土)の「補習校の将来をみんなで考えよう」シンポジウムでは、補習校写真展を開催します。これに、みなさまの参加を募集しています。写真展の詳細は以下をご覧ください。
<http://www.sfjlc40.org/docs/SFJLCSymposiumPhotoExhibition.v2.pdf>
募集要綱では参加募集は締め切っておりますが、追加募集をいたします。ご希望の方は symposium@sfjlc40.org までご連絡ください。



あなたは A's 派、それとも Mariner's 派

40周年記念行事にご寄付頂いた方々に、オークランド A's 対シアトルマリナーズ戦の野球観戦チケットを1口につき2枚ずつ差し上げていますが、残り50口分となりました。試合は9月5日(土曜日)午後6時05分開始です。イチローのプレイを間近で見るチャンス! 詳しいことは account@sfjlc40.org まで。

サンノゼジャイアンツも見逃せません

サンノゼジャイアンツでは、8月28日(金)の試合を「Japanese Night」として、日本をテーマとした様々なイベントが企画されているそうです。また、Martinelli's Apple Juice さん提供の無料チケットも用意されているとのこと。この機会に、合同イベント会場に足を運ばれてはいかがですか? 詳しいことは 40周年記念行事サイト <http://www.sfjlc40.org/> をご覧ください。



補習校合同イベントニュース



小さなお子さんから大人まで

「合同イベントって大きい人だけ楽しめるの?」
いいえ、ジャンパーやスピードピッチなど、小さい子供たちも楽しめるゲームもいろいろ。お買い物フリークのお母さんには、フリーマーケットやオークションなど目が離せません!

人文字に想いを描く

大空から、みんなが書いた文字を写真に撮ります。ひとりひとりが集まって書いた文字が、ひとりひとりの想いを未来に託します。



野球場を思いっきり楽しむ

サンノゼジャイアンツ球場はマイナーリーグですがプロの野球場です。整備された芝生の上、思いっきり走り回るのもいいですよ。オーロラビジョンを使った臨場感たっぷりの中継も企画!

絆(きずな)を深める

補習校の絆、サンフランシスコとサンノゼの絆、そして日本との絆。10月18日のイベントがいろんな絆を深めることにつながりますように。



合同イベントの参加募集は8月下旬より開始します

ゲームへの参加募集は既に始めさせていただいているものもありますが、会場への入場申し込みの受付は8月下旬より開始させていただきます。詳細は40周年記念 Web サイト、および「40周年記念行事ニュース」でご案内させていただきます。

40周年記念行事ニュースへのお問い合わせは webmaster@sfjlc40.org へどうぞ



40周年記念行事ニュース

2009年9月1日号

発行者:40周年記念行事実行委員会

webmaster@sfjlc40.org

シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」は意義深い一日でした

8月22日(土)の「補習校の将来をみんなで考えよう」シンポジウムでは、朝9時から午後5時まで、約80名の参加者が13の講演とパネルディスカッションを熱心に聴き議論に参加しました。午前中は、補習校制度の基本とその歴史、現状を整理する講演が続き、公立校でも私立校でもない(しかしその両面を備えた)補習校の独特な位置づけ、これまでの難しい経営環境、ベイエリアの多様な教育の選択肢が指摘されました。友人との突然の別れに触れながら補習校がかけがえのない「居場所」、人間成長の場となっていることを発表されたサンノゼ校高2年の榎本才四郎さん、自らの体験を紹介しつつ補習校の原点を浮き彫りにした長嶺文子総領事夫人の特別講演に、聴衆一同大いに感銘を受けました。午後は、将来の方向性についての講演とパネルディスカッションがあり、先生方の研修の重要性、学校における関係者間の信頼の醸成、ベイエリアにおける補習校ネットワーク、同窓会の組織化、広報の重要性などが指摘されました。午後の特別講演では、村山 UC バークレー教授・東大教授が、帰国子女として、補習校に通う子供の保護者として、また東大で最先端の仕事の指導者として、「国際性」「多文化」の中での補習校の持つ大切さを自らの体験をユーモアたっぷりに話してください、みな時間の経つのも忘れるほどでした。

長嶺安政 在サンフランシスコ日本国総領事より表彰状授与

シンポジウムの冒頭、ご祝辞をいただいた長嶺安政 在サンフランシスコ日本国総領事より、日本語補習校の長年の業績に対して表彰状をいただきました。

シンポジウムの運営は皆様からの寄付で行われました

シンポジウムは、会場費、夕食など合計\$6385.48を支出しました。これらは全て様々な方からの寄付によってまかなわれました。ご協力いただいた方には、改めて感謝を申し上げます。

シンポジウムについての詳しいことは

ご寄付いただいた方々のお名前を含め、Web サイトにご報告させていただいています。アドレスはこちらです

<http://www.sfjlc40.org/symposium/index.html>

補習校合同イベントニュース

合同イベントの参加募集を開始しました

10月18日の合同イベントは事前参加申し込みを開始しました。申し込まれた方には予約完了のメールをお送りしますが、これを当日受付にて提示していただくと、もれなく何かが当たる抽選券をさしあげます。

イベント受付は40周年記念サイト、<http://www.sfjlc40.org/> から。お早めどうぞ！

フリーマーケットの出店者も募集

合同イベントではフリーマーケットも開催します。こちらへの出店者の募集も開始しています。

応募条件など詳しいことは40周年記念サイト内の応募要項 <http://www.sfjlc40.org/docs/fleamarket.pdf> をご覧ください。出店は無料ですが、登録制で先着順です。

8月8日号ではメール配信エラーのアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

40周年ニュースは補習校のメール配信システムを利用しています。皆様からいただいた情報を元に、補習校と40周年記念実行委員会は、メール配信システムの安定化に努めております。また、ニュースが受信できていない方の中には会員管理データベースへのアドレス登録ミスがあるようです。お近くにメールを受け取っていないという方がいらっしゃる場合、データベースの登録情報を確認していただけるよう、お声をかけてください。よろしく申し上げます。

40周年記念行事ニュースへのお問い合わせは webmaster@sfjlc40.org へどうぞ

サンフランシスコ 日本語補習校 40 周年記念イベント

10:00～11:00 10人11脚(中高生、保護者、教職員)
10:00～11:00 フラグおにごっこ(幼稚部)
10:00～11:00 大カルタとび(小学部)
11:00～11:30 記念式典
11:30～12:30 鏡開き、餅つき
10:00～14:00 各種ゲーム
フリーマーケット、サイレントオークション
12:30～13:15 ウルトラクイズ
13:15～14:00 人文学航空撮影

日時 2009年10月18日(日)10:00
場所 サンゼジャムツ球場

申し込みは10月3日までに補習校各校に設置された申し込み箱へご投函ください。
申し込み箱についての詳しいことは保護者会役員までお問い合わせください。
参加申し込みは www.sfjlc40.org でも受け付けています。
予約申し込みをされた方全員に、もれなく当たる抽選券贈呈

合同イベント参加申し込み用紙

お名前 _____

メールアドレス _____

参加人数 _____

人

参加区分
(該当するものに○)

SF 校在校

SJ 校在校

教職員

ご署名 _____

こちらで申し込まれた場合、イベント当日の写真、ビデオによる撮影と撮影したものの使用について補習校に一任していただくことに承諾していただいたものといたします。



40周年記念行事ニュース

2009年10月10日号

発行者:40周年記念行事実行委員会

webmaster@sfjlc40.org

合同イベントは、いよいよ来週日曜日です

合同イベントは来週の日曜日、10月18日10:00からです。開催場所はSanJose市のSan Jose Giants Stadium(San Jose Municipal Stadium)です。2Aとはいえプロの美しいフィールドを是非体験してください。

参加事前申し込みも順次受け付けています

参加事前申し込みも40周年記念Webサイト(<http://www.sfjlc40.org/>)にて受け付けております。事前申し込みをいただいた方には、はずれなしのラッフルチケットを会場受付にてさしあげます。受付完了のメールを印刷して会場にお持ちください。メールの確認には多少時間がかかります。お早めの登録をお願いします。また、受付完了メールを受け取られていない方は、webmaster@sfjlc40.orgまでお問い合わせください。

予約参加者数も1000人を超えました

当日はまさに、SF校SJ校両校交えた、日本語補習校始まって以来の歴史的な大イベントとなりそうです。この歴史的1ページに、みなさんと時を分かち合い、素晴らしい一日をすごせることを楽しみにしております。

お弁当も1400食を用意します

合同イベントはいろいろな方々のご寄付、ご協力をもって成り立っております。この度、ベイエリア近郊のさまざまな有名レストランから、昼食のお弁当のご協力をいただけることになりました。1個\$5で販売させていただき、売り上げを補習校に寄付させていただきます。

小学生対象の新ゲームも登場

大カルタとりは、好評のうちに申し込み受付を締め切りました。ゲームを楽しみにしていた方、新たに、「じゃんけん列車ゲーム」が追加されました。みんなでじゃんけんをして、負けた人が勝った人の後ろにつくゲーム。単純だけど意外に燃える！会場で自由参加です。みんな集まれ！

FAQもチェック！

40周年記念Webサイトでは、あなたの知りたいイベントの疑問を「合同イベントFAQ」で公開中！

40周年記念行事ニュースへのお問い合わせは webmaster@sfjlc40.org へどうぞ

合同イベントは、大盛況のうちに無事に終了しました



サンフランシスコ地区、サンノゼ地区の生徒、保護者が一堂に会し、サンフランシスコ日本語補習校創立40周年を記念したイベントが、サンノゼジャイアンツ球場を会場として盛大に開催されました。天候にも恵まれ、午前10時から午後2時まで、1600人を越える参加者を迎え、色々な催し物を通じて交流を深めるとともに、50周年に向けて力強いスタートを切ることが出来ました。保護者の皆様をはじめ、地域の日本人コミュニティーの多大なご協力があればこそ、このようなイベントが開催できたのだと思います。ありがとうございました。

白熱した大カルタ競技

「大カルタ」競技は、事前登録のSF校、SJ校それぞれ40名、計80名の児童により、内野ダイヤモンドをいっぱいに使って行われました。当初1ヒート3分の予定を急遽変更し、カルタ1枚を取ったところで終了となるスプリント・ルールで実施されました。ダイヤモンドに散りばめられた90cm四方の白い大カルタを目隠して取るルールのもと、各ヒート4チームで白熱した競技が展開されました。後半は正にスプリントレースとなり、最終第10ヒートで13秒を記録したSF校6年生チームの優勝となりました。



チームワークの10人11脚

外野ライト側で行われた10人11脚では、中高部在校生、保護者、教職員など22組が、この日の為にチームを結成し、2回のタイムトライアルに挑戦してくれました。早朝の霧の立ち昇るフィールドでの練習の様は正に真剣そのものでしたが、本番では全ての競技者が童心に戻ったような満面の笑顔で40メートルを駆け抜けてくれました。中には個性溢れるコスチュームやパフォーマンスで多くの人を楽しませてくれたチームもありました。途中失格や、転倒などハプニング続出でしたが、怪我もなく、みんなが大きな掛け声とともに、心を一つにしていたのが印象的でした。優勝は、SJ校のチーム「Piink」でした。近所のプレイデート仲間ということで、記録タイムもチームワークも見事なものでした。



子供たちに完敗 フラグ鬼ごっこ

「フラグ鬼ごっこ」は1人の鬼の腰に着いているフラグを4人の参加者が競いあって取るゲームで、幼稚園から小学3年生位を対象に行いました。自由参加で、フラグを取ると小さなお菓子が貰えます。子供達はとても元気があり、濡れた芝生の上で滑ったり転んだりしながらも汗を一杯かいて追い掛けてくれました。3人の大人の鬼は30分程で力が尽き、足を吊ってリタイアする鬼もいたため、周りの大人や中高生に代わりに鬼になって助けてもらいました。子供達は元気いっぱい、転んでもすぐ立ち上がり精一杯走って楽しむ子供の姿はとても懐かしい気がしました。



みんなで楽しんだじゃんけん列車

「じゃんけん列車」競技コーナーは、幼稚園から高等部、保護者まで含めた飛び入り参加型コーナーとして、外野フィールドを使って行われました。見学の保護者も含め、約100名程度の参加者が、「キャッチ」「汽車汽車シュツポシュツポ」「ナンバーコール」「鳥かご」など、皆で手をつないだり、輪になったりといった身体を使った遊びを芝生の上で楽しみました。最後は、じゃんけんを行い、負けた人が勝った人の後ろにどんどん繋がっていく「じゃんけん列車」というゲームを行いました。1回戦、2回戦と進むにつれ、長〜い列車が出来上がりました。小学部SJ校の2年生女子、3年生男子が、それぞれお父さん、お母さん、高学年の児童といった強豪を破って、見事じゃんけんチャンピオンの栄冠に輝きました。

合同イベントトリビア: 「フラグ鬼ごっこ」と「じゃんけん列車」はたくさんの子供たちにイベントを楽しんでもらいたいと委員外の保護者と理事の方が提案、企画、実行して下さったゲームでした。

花よりだんご？フリーマーケット

1 塁側外野では、7つのグループの方々が、フリーマーケットを開いてくださいました。外野へは、なかなか人の流れがでず、「いいのを見落とされた方も多いのではないのでしょうか？また、食べ物コーナーの横では、2種類のデザートが並びました。こちらは、すぐに完売。朝からデザートを食べていたあなた！あの時買って正解でした。保護者の方々のご協力により、たくさんの方々に参加していただきました。ありがとうございました。

大人気 子供のゲーム

3 塁側外野では、子供のゲームが並びました。缶投げ・ピーンバック投げ・輪投げ・ヨーヨーつり・ジャンピングハウス・スピードピッチ……。予想外に長い列ができてしまい…後ろ髪を引かれながら式典に参加した子供たちには、本当に申し訳ありませんでした。でも、子供たちには、楽しんでいただけたんじゃないでしょうか？

補習校創立40周年記念式典

補習校創立40周年記念式典は、牛島 SF 中高部主幹の司会進行の元、バナーコンテストと午前中のゲームの優勝者の表彰に引き続き執り行われました。まず、榎本博之さんの君が代独唱、森裕美子さんの米国歌独唱と、すばらしい歌声がスタンド



に響き渡りました。ご来賓として日本国領事館総領事 長嶺安政様、ご令室 文子様、小川康弘領事、JCCNC 事務局長 中川淳子様、当日の医療も担当下さった岡井健様のご参列をいただき、長嶺様と中川様からはご祝辞も頂戴いたしました。小西理事長からは 40 周年を迎え更に今後に引き継いでいこうと、また植木校長より本校の歩みのお話がありました。タイムカプセルには 10 年後にあげるための手紙が納められ、ご参列の方々による鏡開きで40周年をお祝いしました。最後に植木校長の指揮によるサンノセ保護者合唱団の補習校校歌の演奏があり、会場にいるみんなも共に歌いました。お昼休みには鏡会による太鼓の伴奏で元気よくお餅つきが行われ、つきあがったお餅は皆さんに振舞われました。



お弁当は楽しんでいただけましたか

お弁当は、ベイエリアのレストランのご協力により、約1600食が用意出来ました。キッズメニュー、お寿司、ホットドックやお楽しみ弁当を全て\$5で販売し、飲物やお菓子の一部は、日系業者や保護者のご寄付でまかされました。短時間で販売にかなりの混雑が懸念されましたが、飛び入りで手伝って下さった保護者の方々や SF・SJ 両校のボランティアが一丸となって販売に努め、用意したお弁当はすべて完売いたしました。両校保護者が1つの補習校としてご協力いただいたお陰と感謝致します。ありがとうございました。なお、この収益金約\$5000は、補習校への寄付とさせていただきます。

オークションのご協力ありがとうございました

サイレントオークションは、企業、団体、レストランや有志のご寄付により実現し、事前にウェブサイトでもご紹介させていただきました。当日は午前10時より3部に分けて入札を開始、12時50分から10分おきに各入札を終了し集計しました。日本往復航空券からレストランのギフトカードまで、中でも ANA の航空教室は1番人気となりました。ご寄付いただいた皆様、ご参加下さいました保護者の皆様、そして、SF・SJのボランティアの皆様にはご協力ありがとうございました。結局\$3260ほどの売り上げがありました。これは補習校への寄付とさせていただきます。

みんなに人気のウルトラクイズ

鏡会のお餅つきの余韻が残る中、グラウンドのダイヤモンドに参加者の大多数が集まり、ウルトラクイズを行いました。問題は、益子教頭、青柳事務局長、安40周年委員会副委員長の3者で、事前に50問ほどを用意しました。出題者は、IQサプリのようないでたちの安副委員長でした。問題は2者択一で回答者は1塁側、3塁側に分かれしました。不正解の方はそのまま人文字作成に回っていただきました。13問の出題で最後にわずか3人まで絞り込むことができました。最後まで勝ち残った3名の方には、補習校事務局より2009年度イヤブックが賞品として提供されます。

結末の証 人文字撮影



イベント最後を飾ったのは人文字です。イベント参加者全員で緑のフィールドに大きく「40SFJLC」と紅白で描きました。文字の大きさは縦40メートル、横50メートルです。ボランティアが参加者に風船を渡し、各文字へと誘導しました。飛行機が球場の上を飛ぶとき、みんなで2,400個の風船を飛行機に向かって振りました。スタッフには誰一人として人文字航空写真撮影の経験はなかったのですが、多少のハプニングはあったものの、皆で企画し、大勢のボランティア、飛び入りのボランティアの皆さん、参加者全員の協力が功を奏して、大変美しい写真に収めることができました。この人文字写真は「結末」の証として、そして日本語補習校40周年の歴史の刻印としても、ふさわしい物となりました。改めて関わって下さったみなさま全員に御礼申し上げます。なお人文字写真は本年度のイヤブックに掲載される予定です。

合同イベントトリビア:ウルトラクイズで安副委員長が羽織っていたのはIQサプリのマスターの衣装ではなくて、カリフォルニア大の学位授与式で使用する正式なガウンでした。

合同イベントは表で活躍している人たちだけで成り立っていたわけではありません。裏で活躍してくださった方々の中から、放送担当のご報告を紹介しましょう。

高いところから下支え 放送担当



イベントの中で放送を担当してくださっていたのは、SF/SJ 合同のウグイス嬢、陳さん(SF)、クラークさん(SF)、梨本さん(SJ)、西郷さん(SJ)、西村さん(SJ)、磯部さん(SJ)、そして、音楽選曲を担当してくださったのは、榎本くん(SJ)、以上の皆様です。ほとんどぶっつけ本番だったにも拘わらず、素晴らしいアナウンスをして下さいました。高田サブリーダーに編集して頂いたアナウンス原稿を元に、柴田実行委員と高田サブリーダーの指示に従い、ボランティアとは思えぬほどのウグイス嬢ぶりを発揮して頂きました。そして榎本くんには、沢山の曲を選んで頂きました。BGMの中にいくつか知っている曲があって、ちょっと嬉しかったです。時々突発的なアナウンス依頼がありましたが、それらもそつなくこなして頂きました。オーラビジョンでは、高田サブリーダーが、会場のイベントに合わせて、用意した映像を流したり、現地スタッフに指示を出して、ライブ映像との切り替えなど手掛けて頂きました。そして人文字航空撮影班と人文字スタッフを、空と地上での交信を通して、コーディネートして頂きました。イベント開始から終了まで長い時間お疲れ様でした。

合同イベントトリビア:人文字撮影では、放送室と飛行機クルーは、補習校の先生方が使用しているウォークトーカーを使って、撮影状況や飛行機の位置などを確認していました。

合同イベントトリビア:人文字撮影の飛行機は SJ 校保護者の脇田祐三様の操縦によるもの、写真撮影は伴秀祐様によるものです。連絡係りの独古哲様の3名が搭乗しています。脇田様には4日のリハーサルでも飛ばしていただき、SJ校保護者の八木宏様にために撮らせていただいています。美しい写真も入念な準備のもとで撮れた一枚でした。

おそろいのTシャツ



イベントに先立って40周年記念のTシャツをお配りしました。みなさん着ていただけましたか？

これは、SJ校在校生 脇田さんのおじい様である岸本正次様が、補習校のみなさんへ40周年の記念になるものごと、全校生徒のみなさん、教職員の方、そしてイベントのスタッフとボランティアの方へ寄付してくださったものなのです。野球のユニフォームのようなカッコいいデザインは SJ 校保護者の保刈輝美様によるものです。岸本様、保刈様、ありがとうございました。

他にも、40周年記念合同イベントは本当にさまざまな方のご協力のもと実施することができました。

宴のあと...忘れ物も届いています

イベントのお忘れ物がいくつか届いています。写真に撮って40周年記念サイトで公開していますので、心当たりのある方は確認してくださいね。

そして 最後に

イベントでは本当に多くの方々にご参加いただき、ありがとうございました。一般参加者数 1590 名を数え、そのほかにご来賓の方やボランティアスタッフなど、1600 名を超えるご入場者をいただきました。これだけ多くのご参加をいただきながら、滞りなくイベントを終了することができたのも、ご参加いただいたすべての皆様のおかげと、心より感謝申し上げます。

また、補習校創立40周年記念事業は、本紙面には書ききれない多くの団体、個人の方々のご寄付によって運営されてまいりました。ここに改めて感謝の気持ちを述べさせていただきます。なおご芳名は40周年記念サイトに掲示させていただいておりますので、みなさまにもご覧いただけるようお願いいたします。

さて、6月より皆様へメールでお届けしてきた40周年記念ニュースも今号で最終号となります。今後の40周年記念事業についてのご連絡は40周年記念サイトをご覧ください。

ありがとうございました。

40周年記念行事ニュースへのお問い合わせは webmaster@sfjlc40.org へどうぞ

8.3 学校総会報告資料

2010年2月27日(土)、小学部サンノゼ校において、2009年度の通常総会が開催され、委員会を代表して池田委員が約2年にわたった委員会の活動の概要を報告した。以下にその資料を添付する。

日本語補習校 40周年記念行事 報告

40周年記念行事実行委員会

1

40周年記念行事 実行委員のご紹介

2

40周年記念行事実行委員会委員(2009年4月)

浅尾一郎(委員長)
安俊弘(副委員長)
山口高弘
松波千春
村山斉
脇田いつみ
三宅孝明
坂井利彰
柴田英希
保刈正行
池田貞志

(順不同)

2009年3月まで

小島眞志 喜多俊幸 西郷和義

本年度は
浅尾委員長以下
11名のメンバーで
運営させて
いただきました

3

実施した年間行事

4

補習校40周年記念行事活動 09年3月まで

2008年8月21日 日本語補習校40周年記念行事実行委員会発足

2008年11月16日 40周年記念サイトオープン

2008年12月19日 Paypalを通じてのドネーション募集開始

2008年12月29日 記念バナーの募集開始

2009年3月23日 記念バナー一般投票の結果、最優秀賞
堂代卓利さん、優秀賞 中村睦恵さんの作品が選出

2009年4月6日 補習校4校で記念バナーの貼り出し

2009年2月15日 第6回シリコンパレー寄席に協賛、圓橋師匠
よりご寄付をいただく

2009年3月15日 平野孝榮さん、田山由美さんコンサート
で補習校40周年を宣伝、ご寄付をいただく

5

記念バナーにご応募いただいた作品



堂代卓利さん



中村睦恵さん

ゆみロバーツさん



りん真希子さん

6

<p>補習校40周年記念行事活動 09年8月まで</p> <p>2009年4月9日 SF桜祭りの御神輿パレードに参加、記念バナーとともに行進し補習校40周年を宣伝</p> <p>2009年4月18日、25日 全日空様のご協力により、SF校、SJ校それぞれで映画「ハッピーフライト」の上映会を開催</p> <p>2009年6月19日 40周年記念ニュースの配信開始、10月30日まで合計6号を発行</p> <p>2009年8月22日 創立40周年記念シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」を開催</p> <p>シンポジウムの場にて、在サンフランシスコ日本国総領事長嶺安政様より 日本語補習校の長年の功績に対し表彰状をいただいた</p> <p style="text-align: right;">7</p>	<p>補習校40周年記念行事活動 09年10月まで</p> <p>2009年8月31日 合同イベント事前参加申し込み開始前日までに合計509組、1680名の事前予約をいただく</p> <p>2009年9月5日 記念行事へ寄付をいただいた方々をご招待してオークランドA's vs. シアトルマリナーズの野球観戦会開催</p> <p>2009年10月4日 SJジャイアンツスタジアムにて合同イベントリハーサル</p> <p>2009年10月18日 合同イベント</p> <p style="text-align: right;">8</p>
<p>40周年記念行事を企画するにあたっての委員会の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 40年という節目の年をお祝いする ・ 補習校の10年後、またその先を見据えた活動を行う ・ SF/SJ両校が一堂に会してお祝いができるような場を設ける <p style="text-align: right;">9</p>	<p>メインイベント 1</p> <p>シンポジウム 「補習校の将来をみんなで考えよう」</p> <p style="text-align: right;">10</p>
<p>シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」</p> <p>この40周年の節目は、これまでの道のりを振り返り、今、われわれの置かれている状況を関係者全員で共有して、さらに将来のことを語り合うまことによい機会であると考えます。 (シンポジウムの主旨説明より)</p> <p>補習校の過去、現在、未来を語り合おうという主旨で開催</p> <p style="text-align: right;">11</p>	<p>シンポジウム「補習校の将来をみんなで考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月22日(土)午前9時から午後5時 ・ 約80名の参加者 ・ 13の講演とパネルディスカッション <p>密度の濃い内容で意義深い一日でした</p> <p>シンポジウムの詳細は http://www.sfjlc40.org/symposium/にて一部、ご講演の内容をお聞きいただくこともできます</p> <p style="text-align: right;">12</p>

メインイベント2 合同イベント



13

合同イベントでは
ご来賓を含め
およそ1800人という
多数のご参加をいただきました
ありがとうございました

14

合同イベントの企画方針

- 設立40周年を迎え、サンフランシスコ校、サンノゼ校の児童生徒が一堂に会し、楽しく過ごせるイベントを行う。
(第三回実行委員会議事録
40周年記念行事(案)より)

これまで両校が集って何かを行うということは
なかった

一方、合同運動会の開催を望む声は常に
あった

15

合同イベント

大カルタとり、10人11脚、式典、
ウルトラクイズ、人文字撮影と
盛りだくさんの一日でした

みなさん楽しんでいただけました
でしょうか

16

合同イベントの詳細についても

<http://www.sfjlc40.org/>
をご参照ください。

また、詳細な報告書は現在実行委員
会で纏めている最中です。

完成後は何らかの形で公開させて
いただきます。

17

合同イベントでは実に多くの方の
ボランティアをいただきました。

各部署のサブリーダー 約20名
理事の方々

SF/SJ校保護者会役員のみなさん

先生方

補習校事務局のみなさん

在校生、中高生

卒業生

保護者ボランティア 約120名

総勢約200名?!

18

総括

19

40周年記念イベントは、多くの個人・団体のご寄付により実現することができました

ご寄付いただいた方のリストは
<http://www.sfjlc40.org/docs/contribution/>
でご覧いただけます。

20

会計中間報告(10年1月20日)

支出 \$24027.51

シンポジウム \$5065.92

合同イベント \$10343.66

収入 \$39263.60

収入はすべてご寄付によるもの

21

40周年という
節目の年を
終えるにあたって

22

- 補習校の40周年を強く印象づける一年になった
- 補習校にはこれだけのことができるという実績と自信をもつことができた

23

多くみなさまのご協力
で40周年のイベントを成功
に導くことができました。

ありがとうございました。

24

ところで
今回いくつか40周年記念サイトへのリンクを
ご紹介させていただきましたが

40周年記念サイトは3月末
をもって閉鎖いたします。

これまでのご愛顧、
どうもありがとうございました。

25

以上でご報告を終了させて
いただきます

26

8.4 会場等契約書

以下に、シンポジウムの会場借用契約書、夕食ケータリングの見積もり内訳、合同イベント会場借用契約書を示す。

BTE CATERING COST SHEET

EVENT: Symposium

EVENT DATE: August 22, 2009

Food & Beverage Costs	
Item Description	# Servings
Cannelloni of beef	22
Cannelloni of roasted chicken	22
Cannelloni of portabella mushroom	22
Farmer's market greens	66
Freshly-baked artisan breads	66
Bar Ice	1
Subtotal - Food Costs \$ 1,384.00	
Equipment Costs	
Item Description	Number
Linens	
Tablecloth - 120 " Round	10
Tablecloth - 6' Table Drape (90 x 132)	4
Compostables	
Large Plate - Compostable	75
Fork - Compostable	75
Knife - Compostable	75
Cold Cups - Compostable	100
Napkin - Compostable	300
Miscellaneous & Kitchen Equipment	
Equipment Delivery Charge	1
Subtotal - Equipment Costs \$ 292.35	
Subtotal Food & Equipment \$ 1,676.35	
Additional Costs	
Staffing Costs	# of Staff
Bartender/Server - Short Shift	1
Event Manager - Short Shift	1
Kitchen Manager - Short Shift	1
Subtotal - Additional Fees \$ 560.00	
Subtotal Food, Equipment & Additional Fees \$ 2,236.35	
Production Fee	Total
10% Production Fee	\$ 223.64
Subtotal Production Fee \$ 223.64	
SUBTOTAL COST \$ 2,459.99	
Sales Tax	Total
California Sales Tax (Alameda County)	\$ 211.34
TOTAL COST \$ 2,671.33	



Back to Earth^{inc.}

510.652.2000
PO Box 10104
Berkeley, CA 94709

BackToEarth.com

Delicious foods that feed the soul.

Invoice # 2009-08-22 jahn

Catering Invoice

Thank you for choosing Back to Earth Organic Catering for your event. We take great pride in using local, organic foods, preparing your meal with love, and serving it artfully. Your guests will absolutely taste the difference! In order to book your event, please sign and return this contract via fax to 510-217-9707, or email to molly@backtoearth.com, and remit the deposit or full payment. Please review our terms and conditions on the second page of this quote. Back to Earth inc. agrees to provide catering services for the number of people on the date and time below, per the agreed upon menu. Full payment is expected at, or before, the time of service on the date of the event. If you have any questions, please contact us via email at info@backtoearth.com or telephone at 510-652-2000.

General Information

Invoice Date	August 14, 2009		
Event Name	Symposium		
Client Name	Joonhong Ahn		
Client Phone Number		Email	joonhong.ahn@gmail.com
Billing Address			
Event Date	Saturday, August 22, 009		
BTE Arrival Time	4:00 p.m.	Event Start Time	5:00 p.m.
Event End Time	7:00 p.m.	BTE Departure Time	8:00 p.m.
Number of People	66		
Service Method	Drop & Set Buffet-Dinner; Bussing & Break-Down		
Back to Earth Contact	Molly King	510-652-2000	molly@backtoearth.com
Payment Address	PO Box 10104, Berkeley, CA 94709		

Equipment

See Separate Document – Cost Breakdown	
--	--

Staffing

Buffet Set-Up, Maintenance, Break-Down	Bartending
--	------------

Cost

Food	1,384.00
Equipment	292.35
Staff	560.00
Production Fee	223.64
Subtotal	2,459.99
Tax	211.34
Total	2,671.33
<i>Deposit Paid</i>	<i>1,066.78</i>
Balance Due	1,604.55

*Gratuities are pleasantly welcomed and greatly appreciated.

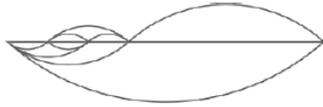


Back to Earth^{inc}

510.652.2000
PO Box 10104
Berkeley, CA 94709

BackToEarth.com

Delicious foods that feed the soul.



DAVID BROWER CENTER

2150 Allston Way, Berkeley, CA 94704
 Phone 510.809.0900
 Fax 510.809.0909

Summary of Terms

DATE OF ESTIMATE: JUNE 9, 2009

This Summary of Terms is based on information furnished by the prospective licensee as of the date listed above and is subject to change. The terms listed below are not binding on the David Brower Center until the Booking Deposit is received and a License & Use Agreement incorporating this Summary of Terms is signed by both parties.

LICENSEE:

Bay Area Assoc of Japanese Language Schools
 Koyo Kinishi & Joonhong Ahn

EVENT DESCRIPTION:

Japanese Language Schools Symposium

Email koyokonishi@hotmail.com
 joonhong.ahn@gmail.com

ROOM:

Tamalpais Room
 2nd Floor Terrace
 2nd Floor Lobby

EVENT DATE(S):

August 22, 2009

EVENT TIMES:

8:30am-6pm

Item	Rate	Units	Cost (\$)
License & Use Fees			
Tamalpais Room, Nonprofit Day Rate	\$700.00	1	\$700.00
2 nd Floor Terrace - Additional Room Rate	\$200.00	1	\$200.00
2 nd Floor Lobby - Additional Room Rate	\$200.00	1	\$200.00
Service Fees			
Audio/Visual Service - Day Rate	\$150.00	1	\$150.00
Security - Day Rate	\$200.00	1	\$200.00
Equipment			
A/V Equip [Projectors, screens, microphones, cabling, podium, etc.]	No Charge		---
Furniture [Tables, chairs, presenter podium, etc.]	No Charge		---
Subtotal			\$1450.00
Total			\$1450.00

Deposit and Payment Schedule	Due	Amount (\$)
Booking Deposit (50% of License & Use Fees and Service Fees)	[At signing]	\$725.00
Balance of License & Use Fees and Service Fees	July 22, 2009	\$725.00
** Security Deposit	July 22, 2009	\$200.00

NOTES:

Approximate Attendance: 75-100

Audio/Visual Tech fee to be determined with Brower Center Events Coordinator will be based upon the particular event's needs.



DAVID BROWER CENTER

LICENSE AND USE AGREEMENT

This License and Use Agreement ("Agreement"), together with Exhibit A, the Event Rental Summary of Terms ("Summary of Terms"), sets forth the terms and conditions of the agreement by and between The David Brower Center (the "Center") and the person(s) or entity(ies) set forth in the Summary of Terms (collectively, the "Licensee"), for the use of the premises as described in the Summary of Terms (the "Premises").

1. License

1.01 License. The Center, subject to all terms, provisions and conditions set forth in this Agreement, hereby grants to Licensee a temporary revocable license authorizing Licensee to use the Premises for the purpose, in the manner and during the times described in this Agreement and in the Summary of Terms (the "Permitted Use"). The license contained in this Agreement does not constitute an interest or estate in land or real property and the Center may terminate this Agreement immediately and refuse Licensee access to the Premises if Licensee fails to comply fully with all of the terms, provisions and conditions set forth in this Agreement, including, without limitation, all provisions regarding the payment of the License & Use Fees, the Service Fees, the Booking Deposit and the Security Deposit and other fees and payments as set forth in the Summary of Terms. This Agreement shall become effective upon the Center's execution hereof and timely receipt of the Booking Deposit specified in the Summary of Terms.

1.02 Nonexclusive Use. The Center may grant additional licenses for use of the Premises at different times within the same twenty-four (24) hour period as use by the Licensee, and may grant licenses for use of separate portions of the Premises simultaneously by different licensees, provided that any such uses are not in conflict with the Permitted Use as described in the Summary of Terms or in violation of any law.

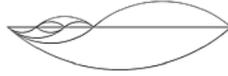
2. Fees and Deposits

2.01 License & Use Fees. In consideration of the license granted by this Agreement, Licensee shall pay to the Center a License & Use Fees on the date(s) and in the amount(s) as described in the Summary of Terms. Licensee acknowledges that the License & Use Fees shall be earned by the Center as of the date it is paid. The License & Use Fees shall be nonrefundable to Licensee, except as otherwise expressly set forth in this Agreement.

2.02 Service Fees. In consideration of additional services agreed to by the parties to this Agreement Licensee shall pay to the Center a Service Fees on the date(s) and in the amount(s) as described in the Summary of Terms. Licensee acknowledges that the Additional Services Fees shall be earned by the Center as of the date it is paid. The Additional Services Fees shall be nonrefundable to Licensee, except as otherwise expressly set forth in this Agreement.

2.03 Booking Deposit. As a condition to the Center's agreement to reserve the date and time of the Permitted Use, Licensee shall pay to the Center a Booking Deposit equal to fifty percent (50%) of the sum of the License & Use Fees and the Service Fees on the date as described in the Summary of Terms. Licensee acknowledges that the Booking Deposit shall be earned by the Center as of the date paid by Licensee. Licensee acknowledges that the Center has reserved the Premises for use by Licensee for the period of time set forth in the Summary of Terms upon execution of this Agreement and receipt of the Booking Deposit. Licensee further acknowledges that the Center may have forgone opportunities to license the Premises to other licensees as a result of executing this Agreement. The Booking Deposit shall be non-refundable to Licensee, except as otherwise expressly set forth in this Agreement.

2.04 Security Deposit. In addition to the Booking Deposit, if the Center has determined that a Security Deposit is required for Licensee's event, Licensee shall pay to the Center the Security Deposit on the date and in the amount as described in the Summary of Terms. The Center may, in its sole discretion, use, apply or retain all or any portion of the Security Deposit, for the payment of any sums remaining due with respect to the License & Use Fees, the Service Fees, the Booking Deposit, or for reimbursement or damages sustained by the Center related to or arising out of Licensee's use of the Premises, physical damage to the Premises, late cancellation, or any breach of the terms of this Agreement. Upon the relinquishment of the Premises by Licensee the Center shall, within thirty (30) days, refund to Licensee the Security Deposit, less any sums used, applied or retained by the Center in accordance with this Agreement. At such time, the Center shall provide Licensee with a written accounting of any funds used, applied or retained by the Center.



DAVID BROWER CENTER

2.05 Cancellation and Default. If Licensee cancels or defaults under this Agreement prior to Licensee's use of the Premises, Licensee acknowledges and agrees that the Center shall be entitled to retain any and all sums paid to the Center prior to such cancellation as described in the Summary of Terms and in this Agreement. For purposes of this provision, cancellation shall include changing the date or dates of Licensee's use of the Premises.

- a) If Licensee cancels or defaults under this Agreement more than ninety (90) days before the first scheduled date for Licensee's use of the Premises, then the Center shall refund 100% of the Booking Deposit, less reasonable expenses incurred by the Center in anticipation of Licensee's use of the Premises.
- b) If Licensee cancels or defaults under this Agreement less than thirty (30) days before the first scheduled date for Licensee's use of the Premises, then the Center shall retain as liquidated damages the entire Booking Deposit together with the entire amount of the License & Use Fees and the Service Fees that have been paid by Licensee. Licensee acknowledges that all such fees shall be earned by the Center when paid. In addition, upon cancellation, Licensee shall pay to the Center immediately upon demand all reasonable expenses incurred by the Center in anticipation of Licensee's use of the Premises.

THE PARTIES ACKNOWLEDGE THAT BASED UPON THE CIRCUMSTANCES NOW EXISTING, KNOWN AND UNKNOWN, IT WOULD BE IMPRACTICAL OR EXTREMELY DIFFICULT TO ESTABLISH THE CENTER'S DAMAGES BY REASON OF LICENSEE'S CANCELLATION OR DEFAULT UNDER THIS AGREEMENT. ACCORDINGLY, THE PARTIES AGREE THAT IT IS REASONABLE AT SUCH TIME TO AWARD THE CENTER THE SUMS SET FORTH IN THIS AGREEMENT AS "LIQUIDATED DAMAGES." LICENSEE ACKNOWLEDGES THAT IT HAS READ AND UNDERSTANDS THE PROVISIONS OF THIS AGREEMENT CONCERNING CANCELLATION AND DEFAULT AND BY ITS INITIALS IMMEDIATELY BELOW AGREES TO BE BOUND BY ITS TERMS.

Licensee _____

Center _____

3. Restrictions on Use

3.01 Use of Premises. Licensee may use the Premises solely for the Permitted Use. The Center makes no representation or warranty with respect to the fitness of the Premises for the Permitted Use and the Center expressly disclaims any implied warranty of habitability or fitness for a particular use or purpose.

3.02 Time of Use. Licensee may not enter the Premises before the beginning the Permitted Use and must completely vacate the Premises at or before the end of the Permitted Use. Licensee may not alter the Permitted Use without the express written consent of the Center, which consent must be sought at least twenty-four (24) hours prior to the beginning of the period of Permitted Use, and which consent may be withheld in the Center's sole and absolute discretion.

3.03 Access. Licensee is permitted access to the Premises only during the Permitted Use period set forth in the Summary of Terms. Licensee, its employees, agents, contractors, vendors and guests shall not have access to facility outside of these times without prior approval. Additional charges will be assessed on an hourly basis for any approved access outside Permitted Use period set out in the Summary of Terms. In the case of any unauthorized holdover by the Licensee, its employees, agents, contractors, vendors or guests that interferes with the preparation or occupation of the Premises for another scheduled event, the Licensee will incur a penalty for the holdover time calculated on an hourly basis at 250% of the original rate for the Premises.

3.04 Event Plans; Equipment. No later than fourteen (14) days before the first scheduled date for Licensee's use of the Premises, Licensee shall submit to the Center staff for approval full plans for the placement of furniture and equipment, arrangements for electric power distribution on the Premises, and any other design components of the event that require the attention of Center staff. At the same time, Licensee shall furnish in writing a complete list of equipment being provided by outside vendors or suppliers as well as the dates and times for delivery and removal of such equipment.



DAVID BROWER CENTER

3.05 Reproduction. No later than fourteen (14) days before the first scheduled date for Licensee's use of the Premises, Licensee shall submit to the Center staff for approval any plans for intended reproduction of the event, such as video or audio recording, motion picture filming, photography, and radio, television, or internet broadcasts.

3.06 Temporary Unavailability of Premises; Replacement. Licensee acknowledges that the Premises may become unusable due to damage or other unforeseen circumstances. Under such circumstances, Center may determine that it is necessary for the Center to relocate Licensee to different premises. If the Center determines such relocation is necessary, the Center will use reasonable efforts and its best judgment to find comparable replacement premises within the Center's facilities. Licensee may accept such replacement premises if offered by the Center. If the Center is able to relocate Licensee to comparable replacement premises as contemplated by this Agreement, Licensee shall be responsible for lower of the applicable License & Use Fees for the originally booked premises or the applicable License & Use Fees for the replacement premises; if the Center is unable to find comparable replacement premises within the Center's facilities, or if the Licensee does not accept the replacement premises offered, the Center shall return to Licensee any amount of the License & Use Fees and the Security Deposit that the Center has received and the Center shall have no further obligation or liability to Licensee, including any consequential or incidental damages due to the temporary unavailability of space.

3.07 Permits and Laws. The Center makes no representation or warranty regarding the compliance of the Permitted Use with applicable laws. Licensee shall be responsible for obtaining all applicable local, state and federal permits that may be required for Licensee to engage in the Permitted Use on the Premises. Throughout the period of the Permitted Use Licensee must comply with all applicable local, state and federal laws, including ordinances and regulations of the City of Berkeley and the County of Alameda concerning health, fire and life safety. The Center reserves the right to suspend or cancel any Permitted Use for noncompliance with applicable laws.

3.08 Capacity. In no case shall event attendance exceed the designated capacity of the Premises. If capacity is exceeded, the Center reserves the right to suspend any Permitted Use until occupancy has been reduced to appropriate numbers, and to cancel any Permitted Use if appropriate actions are not taken to reduce capacities.

3.09 Open Flame. Open flame is prohibited inside any of the Center's facilities.

3.10 Smoking. Smoking is not permitted anywhere inside any of the Center's facilities or within twenty (20) feet of any outside doorway. Licensee shall incur a penalty of \$200 for each violation of this policy.

4. Services and Equipment to Be Supplied By the Center.

4.01 In General. The Center shall provide the following services and equipment in connection with Licensee's use of the Premises, as requested by Licensee or if the Center determines in its discretion that such services and/or equipment are necessary. All equipment is subject to availability and must be reserved in advance. Unless otherwise specifically stated in this Agreement, the cost for such services and equipment is included in the License & Use Fees.

4.02 Furniture and Equipment. The Center shall provide such furniture, teleconferencing equipment, audio/visual equipment and other equipment as described in the Summary of Terms.

4.03 Setup and Removal of Equipment. The Center shall, prior to the start time of Licensee's Permitted Use, arrange all furniture and equipment provided by the Center according to Licensee's preferences as set forth in Licensee's event plan. At the conclusion of Licensee's Permitted Use, the Center shall remove the furniture and equipment provided by the Center from the Premises.

4.04 Audio/Visual Service. At the Center's discretion the services of an audio/visual technician will be supplied to operate audio/visual equipment. The cost for these services will be in addition to the License & Use Fees, as set forth in the Summary of Terms under the Service Fees.

4.05 Security. At the Center's discretion the services of one or more security guards will be supplied for the duration of Licensee's Permitted Use. The cost for these services will be in addition to the License & Use Fees, as set forth in the Summary of Terms under the Service Fees.



DAVID BROWER CENTER

5. Services and Equipment to Be Supplied By Licensee.

5.01 In General. The Center shall not be responsible for supplying any of the following services or equipment. Licensee shall be responsible for any and all of the following services or equipment, as desired, and for obtaining any necessary approvals from the Center.

5.02 Food and Beverage Service. Licensee must make separate arrangements for any and all food and beverage service. In return for the License & Use Fees, the Center hereby grants to Licensee the right to operate or control food, catering and nonalcoholic beverage concessions on the Premises during and in conjunction with Licensee's use of the Premises; provided, however, that Licensee's choice of concessionaire or caterer is subject to the Center's approval. Except for the Center's grant of the license described above, Licensee acknowledges that the Center has reserved all rights to grant, operate, or control food, catering and beverage concessions at the Center's facilities. Licensee agrees that its operation or control of the food or beverage service as described above shall conform to all local, state and federal health laws and regulations.

5.03 Service of Alcohol. Any service of alcohol on the Premises must be authorized by the Center. The Center reserves the right to grant or withhold this authorization in its sole and absolute discretion. If authorization is granted, all alcoholic beverages must be served by a licensed alcoholic beverage service provider under a separate agreement with Licensee. Licensee assumes complete liability associated with its service of alcohol on the Premises. The Center reserves, in its sole discretion, the right to terminate Licensee's right to serve alcohol at any time and for any reason.

5.04 First Aid. Licensee shall arrange and pay for any medical or first aid services Licensee deems appropriate given the nature of its use of the Premises and the number of persons in attendance or expected to be in attendance. The Center is not obligated to provide any additional medical or first aid services during Licensee's use of the Premises.

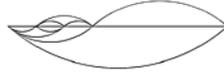
5.05 Parking. The Center does not supply any parking service or facilities and encourages the use of public transportation services, such as BART and AC Transit. Licensee is responsible for arranging any private valet, van or shuttle service, or any other parking or transportation services in connection with its event.

5.06 Deliveries. Licensee is responsible for arranging appropriate personnel and equipment for loading, unloading, transportation and delivery of all items to the Premises, other than furniture and equipment provided by the Center as described in the Summary of Terms. Deliveries must be scheduled in advance and approved by the Center. All deliveries must be made within the period of the Permitted Use as described in the Summary of Terms. Center staff will not unload, count, check-in or take custody of delivered items.

5.07 Removal; Storage. All equipment and supplies supplied by Licensee must be removed from the Center's facilities at or before the conclusion of Licensee's Permitted Use; provided that, in the case of evening and weekend events, the Center may in its sole discretion allow removal of such items before nine o'clock (9:00) the next business morning. Licensee in that event is responsible for moving all items from the Premises to a suitable storage location approved by the Center events manager. Except when specifically allowed as contemplated in the preceding sentence, the Center does not agree to provide storage for any such items. Any such items left at the Center's facilities in violation of this provision shall incur a penalty equal to \$150 per day until removed. After seven days, the Center reserves the right to discard or otherwise dispose of unclaimed items. Licensee hereby releases the Center from any and all responsibility for such items.

5.08 Cleanup. Licensee agrees to place all trash, recycling, and compost items into the designated receptacles before the conclusion of Licensee's Permitted Use.

5.09 Publicity and Advertising. Licensee shall be solely responsible for all publicity and advertising for Licensee's use of the Premises for all uses open to the public. Licensee assumes any and all liability associated with its publicity and advertising activities. Licensee shall not be permitted to use the Center's "David Brower Center" logo without permission. Upon the approval of the Center, Licensee agrees to display the logo in appropriate size on all publicity related to this event. The Center agrees to provide a high resolution image for this purpose. Licensee and the Center agree to attempt in good faith to resolve any of the Center's concerns regarding the content or presentation of publicity and advertisement.



DAVID BROWER CENTER

6. Protection of the Premises

6.01 Maintenance of Premises; Cleaning and Repair. Licensee shall keep the Premises and fixtures in good condition and repair, and shall, at the conclusion of the Permitted Use or other termination of this Agreement, surrender and deliver up the Premises in like good condition and repair, excepting ordinary wear and tear and such damages by the elements, fire, and other causalities as are not caused in whole or in part by the negligence or willful misconduct of Licensee, its employees, agents or guests. At the conclusion of Licensee's Permitted Use, Licensee shall leave the Premises in at least as good a condition, state of repair and cleanliness as existed at the beginning of Licensee's use of the Premises. Licensee shall promptly pay to the Center any expenses that the Center may incur in its discretion to clean or repair the Premises as a result of Licensee's use.

6.02 Property Damage. If any property of the Center is damaged or destroyed by Licensee or others as a result of Licensee's use and occupancy of the Premises, the Center may require Licensee to pay the Center or the Center's contractor to repair or replace such damage or destruction. If so required by the Center, Licensee shall promptly compensate the Center an amount sufficient to cover all losses sustained by reason of such damage to or destruction of property.

6.03 Alterations. No alterations, repairs, renovations, demolition or improvements whatsoever may be made by Licensee, its employees, contractors or agents without the prior express written approval of the Center, which approval may be withheld in the Center's sole and absolute discretion.

6.04 Insurance. Licensee shall, at its own expense, obtain and keep in full force and effect for so long as Licensee is entitled to use the Premises, comprehensive liability, personal injury and property damage insurance covering Licensee against all claims arising out of or related to Licensee's use or occupancy of the Premises and Licensee's conduct related to the scheduled event. Such insurance must carry a minimum combined single limit of liability on not less than \$1,000,000 per occurrence and \$2,000,000 in the aggregate. Each of the policies of insurance shall name The David Brower Center and its executive director, officers, agents and employees as additional insureds. Each policy shall further provide that such policy is subject to cancellation only upon thirty (30) days prior written notice delivered to the executive director of the Center. Licensee shall furnish to the Center no later than thirty (30) days before the first scheduled date for Licensee's use of the Premises, a certificate evidencing that the required insurance has been procured and is in full force and effect, together with a copy of an endorsement confirming coverage of the above named additional insureds. If Licensee fails to provide such certificate or if the Center receives a notice of cancellation prior to Licensee's use of the Premises, the Center may, in its sole discretion, terminate this Agreement.

7. Indemnification and Waiver

7.01 Indemnification. Licensee shall indemnify, defend, and hold the Center and its executive director, officers, directors, agents and employees harmless from and against any and all losses, costs, damages, expenses, claims, liabilities or judgments (collectively, "Claims") arising out of or related to Licensee's and Licensee's agents', employees' or contractors' use or occupancy of, or activities in and around, the Premises, including, without limitation, fire or other peril, bodily injury, death or property damage, or claims for bodily injury, death or property damage of any nature whatsoever, and by whomsoever made, except to the extent such Claims arise from the gross negligence or intentional misconduct of the Center, its employees or agents.

7.02 Limitation of Liability; Waiver. Licensee acknowledges and agrees that the Center assumes no liability whatsoever for any death, injury, or loss to persons or property arising out of, or in connection with, the activities of Licensee, except for such loss, injury or death resulting from the gross negligence or intentional misconduct of the Center, its officers, employees, or agents. Licensee assumes responsibility for supervising the conduct of all people visiting the Premises or attending or participating in its activities at the Premises. The Center shall not be liable to Licensee or in any way responsible for the loss or theft of, or damage to, any of Licensee's property located on the Premises. Licensee hereby expressly releases the Center from any and all liability for loss or damage to Licensee or any property belonging to Licensee or to others caused by theft, vandalism, or any other cause whatsoever. Although the Center in its sole discretion may require as a condition of this Agreement that Licensee hire a minimum number of security personnel for the period of use of the Premises, Licensee acknowledges that it is responsible for arranging such additional private security, if any, as it deems necessary for the protection of the Premises and of Licensee's guests and property.



DAVID BROWER CENTER

8. Further Provisions

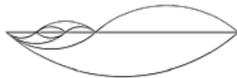
8.01 Policies and Status of the Center. Licensee acknowledges that the Center is a non-profit organization. It is the policy of the Center to provide access to its facilities to the public on a non-discriminatory basis and in compliance with all applicable laws. Licensee shall not establish or permit any practice of discrimination against or segregation of any person or group of persons on account of race, color, religion or creed, national origin or ancestry, sex, gender identity or sexual orientation, age, marital or domestic partner status, political affiliation or disability (including HIV or AIDS status) in the use of the Premises or any other part of the Center facilities, or with reference to the selection of its guests or vendors. The Center may in its discretion require proof of a Licensee's 501(c)(3) tax exempt status.

8.02 Breach of Agreement. If Licensee breaches any of its obligations under this Agreement, including without limitation, a failure to timely pay any amount due to the Center under this Agreement, the Center may, at its option, and in addition to all other rights set forth in this Agreement or any rights available at law or in equity, terminate this Agreement and take possession of the Premises and any property, material or equipment located thereon using all necessary and reasonable force for that purpose. In such event, the Center shall have the right to sell and dispose of such property in order to reimburse the Center for any and all damages sustained by reason of Licensee's breach of this Agreement. In addition, the Center shall have the right to recover all costs, expenses, losses, damages and other claims due to Licensee's breach, including, without limitation, the Center's administrative costs in pursuing such claims. All rights and remedies granted or reserved to the Center by this Agreement are cumulative. The exercise of any such rights by the Center shall not relieve Licensee of its obligations under this Agreement.

8.03 Penalties; Compensation for Damages. Additional penalties incurred by the Lessee under any provision of this Agreement, together with compensation for any expense or loss suffered by the Center for which Licensee is responsible under this Agreement, shall appear on a final billing statement at the termination of this Agreement. Licensee agrees to pay the balance shown within ten (10) days, and agrees to pay interest thereafter at a rate of ten percent (10%) per annum on any remaining balance until the total amount has been paid.

8.04 Assignment. The rights granted under this Agreement are personal to Licensee and may not be assigned by Licensee without the express written consent of the Center, which consent may be withheld in the Center's sole and absolute discretion.

8.05 Governing Law. This Agreement shall be governed by and construed in accordance with the laws of the State of California and the laws of the United States.



DAVID BROWER CENTER

8.06 Entire Agreement. This Agreement and the provisions of the Summary of Terms constitute the entire agreement of the parties. No representation is made or relied upon by either party other than those expressly set forth in the Agreement. This Agreement may not be amended, altered or otherwise modified unless in a writing signed by both parties hereto. This Agreement shall be construed without regard to any presumption or rule requiring construction against the party causing such instrument or portion thereof to be drafted, or in favor of the party receiving a particular benefit under the agreement. No rule of strict construction will be applied against any party. The parties hereto expressly waive the provisions of California Civil Code Section 1654 and California Code of Civil Procedure Section 1864.

THIS AGREEMENT IS A LEGAL DOCUMENT THAT AFFECTS THE LEGAL RIGHTS AND RESPONSIBILITIES OF LICENSEE. LICENSEE IS ADVISED TO CONSULT AN ATTORNEY WITH RESPECT TO ITS RESPONSIBILITIES AND OBLIGATIONS UNDER THIS AGREEMENT.

Licensee (Organization)

Dated: _____

Signature: _____

Print: _____

Title: _____

The David Brower Center

Dated: _____

Signature: _____

Print: _____

Title: _____

**SAN JOSE MUNICIPAL STADIUM
RENTAL AGREEMENT**

ORGANIZATION (Lessee)
Japanese School Day
ADDRESS
760 Market St. #816
CITY, STATE, ZIP
San Francisco CA 94102

REPRESENTATIVE
Koyo Konishi
FAX
415-989-2542
CONTACT PHONE
415-989-4535

1. EVENT DESCRIPTION

Municipal Stadium to serve as host for 40 Year Anniversary event. Use of stadium includes use of playing surface for non-baseball activities and games. Use of stadium includes video board, PA System, visiting team locker room, and stadium concourse and BBQ area. All activities occurring at Municipal Stadium, including stadium layout, must be approved by Zachary Walter a minimum of two weeks prior to the event.

DATE/TIME OF EVENT
October 18, 2009
ESTIMATED ATTENDANCE
1000

OF PERFORMANCES
1 Date
EVENT HOURS
9:00 AM-3:00 PM

2. PAYMENT TERMS

In consideration for the use of the stadium, Lessee agrees to pay Baseball Acquisition Company the following:

FEE COMPUTATION	
RENT	\$1700
SUPERVISOR	
CLEAN-UP/MAINTENANCE	\$500
LIGHTS	
SECURITY	\$600
Video board	\$250
Food	\$800
TOTAL DUE	\$3850

PAYMENT SCHEDULE
PAYMENT #1-
All payment to be made in the form of cashier's check or via credit card.

3. EXTRA BENEFIT PRICING

- **INFLATABLES-** \$200 Usage fee per day per inflatable
(Staffing provided by lessee)
 - **OPTIONS-** Bounce House, Speed Pitch, Throwing Game
- **BATTING CAGE-** \$75 Usage fee per hour (staffing provided by stadium)
- **Video board-** \$250 Usage fee per day
- **FOOD- Sandwich Meal Package-** \$8 per person. 100 order minimum
Package includes 1 sandwich, 1 chips, and 1 20 oz. soda/water
Lessee to pick 3 sandwich options for stadium to serve.
 - **OPTIONS-** Hot Dog, Hamburger, Hot Link, Italian Sausage,
Polish Sausage, Chicken Sandwich

4. INSURANCE

The Lessee shall, at its own expense and cost, maintain comprehensive general liability insurance including bodily injury and property damage in the amount of One Million Dollars (\$1,000,000), to cover any damages to any persons attending the stadium by use thereof by the Lessee, or any other liability which may arise out of the event sponsored by the Lessee.

The policy shall name Baseball Acquisition Company, San Jose Giants, Progress Sports Management, & The City of San Jose, its officers and employees, as additional insured.

5. CROWD CONTROL

Baseball Acquisition Company builds in security costs to your event in the payment terms. Baseball Acquisition Company uses San Jose Police Department officers for crowd control, and will determine the amount of security needed for Lessee's event.

6. PROPERTY LOSS

Baseball Acquisition Company shall not be liable for any damage to any property of the Lessee caused by water, rain, snow, steam, gas, or electricity which may leak into the Stadium or issue from the pipes or plumbing work or wires, or from any part of the building, or from any other place or quarter; nor shall Baseball Acquisition Company be liable to respond for any loss of property from or on said premises however occurring, or for any damage done to furniture, fixtures, or other effects of Lessee.

7. UNAVAILABILITY OF STADIUM FACILITY

Should the premises herein demised, or any part of the Stadium, be destroyed by fire, or the elements, mob, riot, war, or civil commotion, or any part of the premises be interfered with by strikes or other causes, prior to or during the time for which the use of said premises is granted, Baseball Acquisition Company may, in the exercise of its discretion, terminate this Agreement, in which event Baseball Acquisition Company

will return any payments that have been made for the period the permit is prevented or interrupted, and the Lessee hereby expressly waives any claim for liable for any personal property, or other damage, inconvenience, or annoyance from strikes, lock-outs, or other labor difficulties.

8. ASSIGNMENT

The Lessee agrees not to assign, transfer, convey sublet, or otherwise dispose of this Agreement, or its right, title, or interest herein, or its power to execute the same to any other person, company, or corporation, without receiving previous consent in writing from Baseball Acquisition Company.

9. INDEMNIFICATION

- (a) The Lessee agrees to indemnify and hold harmless Baseball Acquisition Company, San Jose Giants, Progress Sports Management, and the City of San Jose for any and all damage or liabilities, costs and attorneys fees arising out of any act of the Lessee, its agents or employees, or by any person attending the Stadium by reason of the use thereof by the party of the second part. Such indemnification shall include but not be limited to any and all liability for property damage, personal injury, or wrongful death.
- (b) Neither Baseball Acquisition Company, San Jose Giants, Progress Sports Management, nor the City of San Jose shall be liable for any claims or causes of action arising from acts of ushers, doorkeepers, or any other employee of the Lessee, or for any claim arising from damage to the person or property of agents of employees of the Lessee, or persons attending the stadium by reason of the use thereof by the property of the second part
- (c) The Lessee agrees to indemnify Baseball Acquisition Company, San Jose Giants, Progress Sports Management, and the City of San Jose for any moneys paid in satisfaction of claims or judgments against the above mentioned as a result of such losses, causes of action or claims aforesaid, and the Lessee agrees to defend the above against prosecution of such claims or causes of action on Lessee.

THIS DOCUMENT IS TO SERVE AS A BASE DOCUMENT FOR FUTURE
EVENT THIS IS NOT A CONTRACT

Zachary Walter
Baseball Acquisition Company

Date Koyo Konishi Date
. .

発行人：小西光洋

編集人：サンフランシスコ日本語補習校・理事会、40周年記念行事実行委員会

San Francisco Japanese Language Class, 760 Market Street, #816, San Francisco, CA 94102

電子メール：理事会・事務局office@sfjlc.com、学校 sfjlc@msn.com ホームページ：<http://sfjls.org>

本報告書の内容に関する電話でのお問い合わせは一切受け付けておりません。ご質問等は、上記メールアドレス宛にお送りください。内容によってはお答えできないものや返答に時間がかかる場合もあることを予めご了承ください。

無断複製・転載を禁ずる。© San Francisco Japanese Language Class, 2010 All rights reserved.